

---

---

## <第3章 調査の集計結果>

---

---

---

---

---

---

## 第3章 調査の集計結果

### 1. 防災・減災対策について

#### (1) 津波による浸水の想定について

問1 ご自宅は、お住まいの市町が公開している津波ハザードマップなどで津波による浸水が想定されていますか。次の中から1つだけ選んでください。

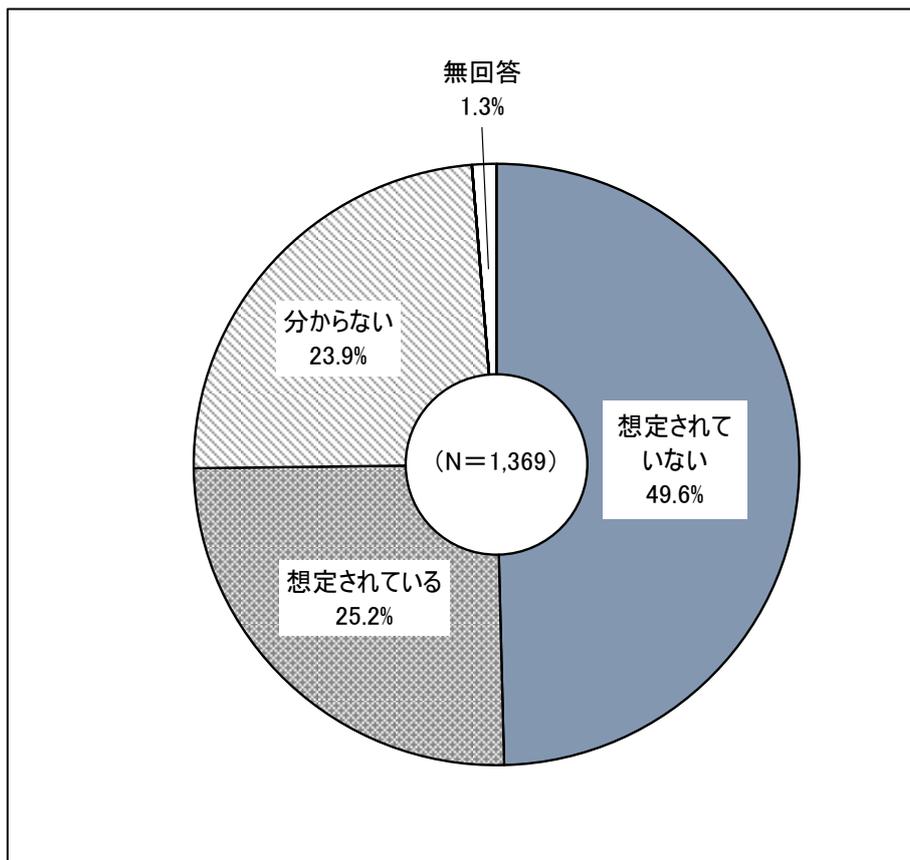
※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 想定されていない	49.6%(48.6%)
2 想定されている	25.2%(24.8%)
3 分からない	23.9%(25.4%)
(無回答)	1.3%( 1.2%)

津波による浸水の想定について、「想定されていない」49.6%、「想定されている」25.2%、「分からない」23.9%となっている。

図表 1-(1)-1 津波による浸水の想定について



津波による浸水の想定について、性別にみると、男女とも「想定されていない」が最も高く、『男性』51.9%、『女性』47.7%で、これに男女とも「想定されている」が『男性』26.9%、『女性』23.7%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「想定されていない」が4～5割台と最も高く、『60～69歳』で54.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「想定されていない」が4～6割台と最も高く、『農林漁業』で67.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「想定されていない」が3～5割台と最も高く、『中讃圏域』で51.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「想定されていない」が4～5割台と最も高く、『20年以上』で51.3%と最も高くなっている。

図表 1-(1)-2 【津波による浸水の想定について】

		(1) い 想定 ない されて	(2) い 想定 る されて	(3) 分 から ない	無 回 答	回答数
凡 例						
全 体		49.6	25.2	23.9	1.3	1,369 人
性別	男性	51.9	26.9	20.4	0.8	594 人
	女性	47.7	23.7	27.0	1.6	734 人
年齢別	18～19歳	44.4	33.3	22.2		9 人
	20～29歳	41.8	15.2	43.0		79 人
	30～39歳	46.6	21.4	31.1	1.0	103 人
	40～49歳	44.2	26.2	29.7		172 人
	50～59歳	49.8	25.1	22.6	2.5	239 人
	60～69歳	54.7	25.2	19.4	0.6	309 人
	70歳以上	50.4	26.8	21.2	1.6	425 人
職業別	農林漁業	67.3	14.5	18.2		55 人
	商工業、サービス業、自由業など	48.6	22.9	26.4	2.1	144 人
	会社、商店、官公庁などに勤務	47.9	25.9	25.4	0.8	591 人
	主婦・主夫	49.8	28.2	20.4	1.6	255 人
	無職	50.2	23.5	24.9	1.4	289 人
圏域別	高松圏域	50.7	23.3	24.4	1.6	677 人
	東讃圏域	44.5	31.9	21.8	1.7	119 人
	小豆圏域	37.0	28.3	32.6	2.2	46 人
	中讃圏域	51.8	24.1	23.3	0.8	382 人
	西讃圏域	47.6	30.1	21.7	0.7	143 人
居住年数別	3年未満	47.6	20.6	30.2	1.6	63 人
	3年以上～10年未満	47.3	24.3	27.8	0.6	169 人
	10年以上～20年未満	45.3	23.2	31.0	0.5	203 人
	20年以上	51.3	25.9	21.5	1.3	899 人

グラフ単位：(%)

(2) 避難のタイミングについて

【問1で「2」または「3」と答えた方にお聞きます】

付問1 あなたが自宅にいるとき、突然今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが1分以上続き、大津波警報が発令されたとします。揺れが収まった後どのタイミングで避難しますか。昼間に地震が発生したという想定で、次の中から1つだけ選んでください。

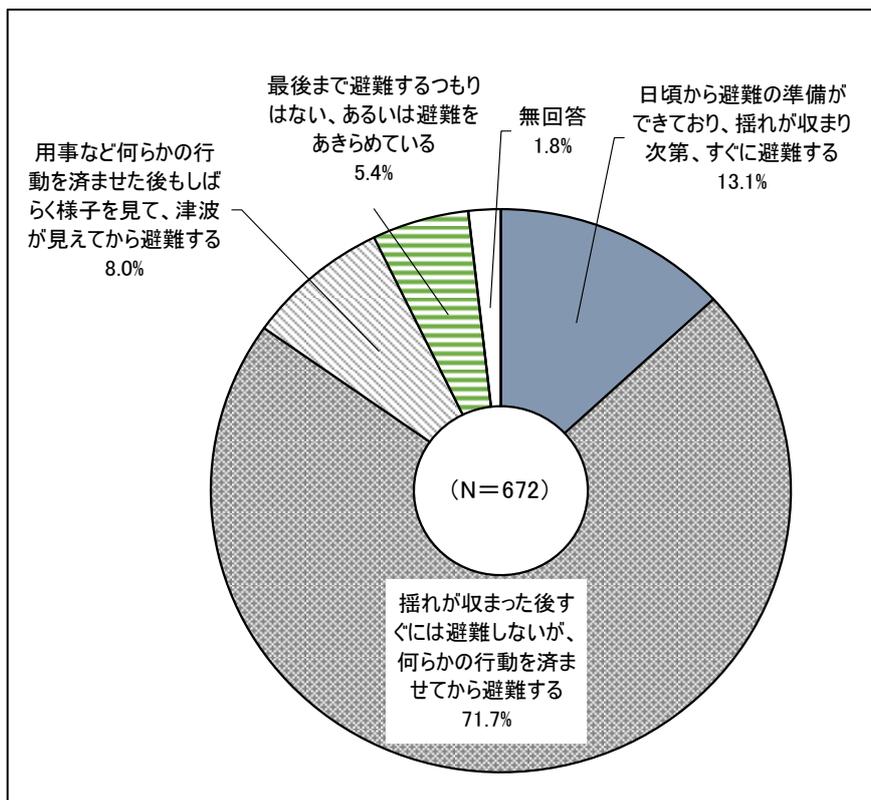
※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=672】

1	日頃から避難の準備ができており、揺れが収まり次第、すぐに避難する（地震後およそ5分以内に避難を開始）	13.1%(12.9%)
2	揺れが収まった後すぐには避難しないが、何らかの行動を済ませてから避難する（例えば非常持ち出し品・身の回り品の準備や、ペット・動物の世話・避難準備といった用事など（地震後およそ5～15分後に避難を開始））	71.7%(72.8%)
3	用事など何らかの行動を済ませた後もしばらく様子を見て、津波が見えてから避難する	8.0%(7.7%)
4	最後まで避難するつもりはない、あるいは避難をあきらめている	5.4%(5.1%)
	(無回答)	1.8%(1.6%)

避難のタイミングについて、「揺れが収まった後すぐには避難しないが、何らかの行動を済ませてから避難する」71.7%が最も高く、次いで「日頃から避難の準備ができており、揺れが収まり次第、すぐに避難する」13.1%、「用事など何らかの行動を済ませた後もしばらく様子を見て、津波が見えてから避難する」8.0%、「最後まで避難するつもりはない、あるいは避難をあきらめている」5.4%となっている。

図表 1-(2)-1 避難のタイミングについて



避難のタイミングについて、性別にみると、男女とも「揺れが収まった後すぐには避難しないが、何らかの行動を済ませてから避難する」が最も高く、『男性』71.9%、『女性』72.0%で、これに男女とも「日頃から避難の準備ができており、揺れが収まり次第、すぐに避難する」が『男性』12.1%、『女性』13.7%と続いている。

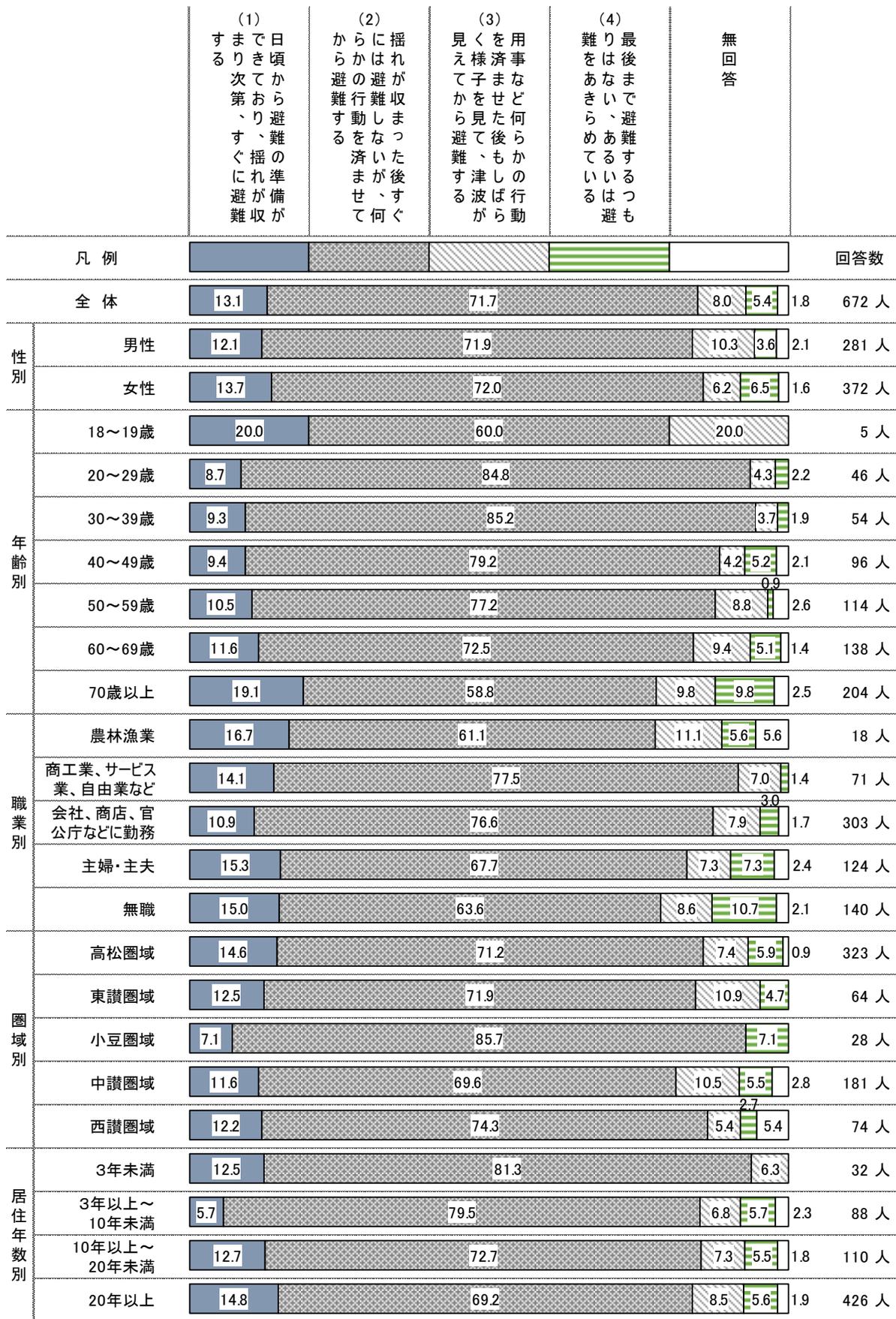
年齢別にみると、いずれも「揺れが収まった後すぐには避難しないが、何らかの行動を済ませてから避難する」が最も高く、『30～39歳』で85.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「揺れが収まった後すぐには避難しないが、何らかの行動を済ませてから避難する」が最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』で77.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「揺れが収まった後すぐには避難しないが、何らかの行動を済ませてから避難する」が最も高く、『小豆圏域』で85.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「揺れが収まった後すぐには避難しないが、何らかの行動を済ませてから避難する」が最も高く、『3年未満』で81.3%と最も高くなっている。

図表 1-(2)-2 【避難のタイミングについて】



グラフ単位：(%)

### (3) 防災・減災対策の重要度について

問2 あなたは、防災・減災対策が重要だと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

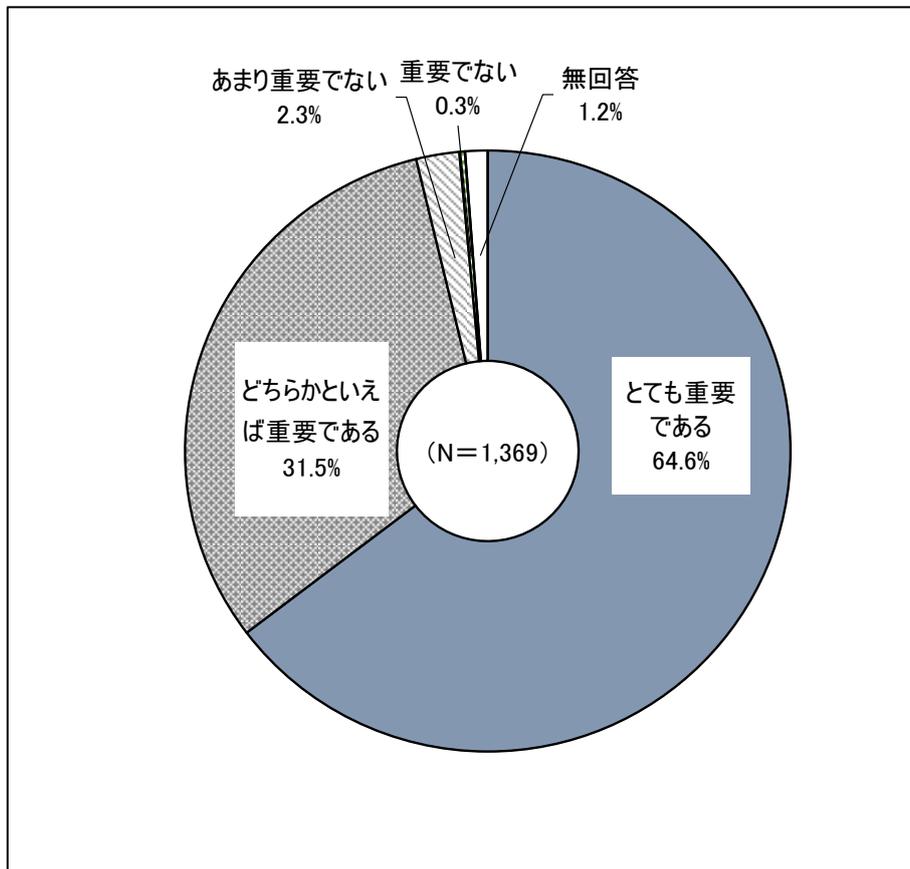
※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 とても重要である	64.6% (65.6%)	⇒ 3ページ 問3にお進みください
2 どちらかといえば重要である	31.5% (30.9%)	
3 あまり重要でない	2.3% ( 2.1%)	⇒ 3ページ 付問2にお進みください
4 重要でない	0.3% ( 0.3%)	
(無回答)	1.2% ( 1.1%)	

防災・減災対策の重要度について、「とても重要である」64.6%が最も高く、次いで「どちらかといえば重要である」31.5%、「あまり重要でない」2.3%、「重要でない」0.3%などとなっている。

図表 1-(3)-1 防災・減災対策の重要度について



防災・減災対策の重要度について、性別にみると、「とても重要である」と「どちらかといえば重要である」を合わせた【重要である】の割合は『男性』95.4%、『女性』96.4%で、「あまり重要でない」と「重要でない」を合わせた【重要でない】の割合は『男性』3.9%、『女性』1.7%となっており、男女とも【重要である】の割合が【重要でない】の割合を上回っている。

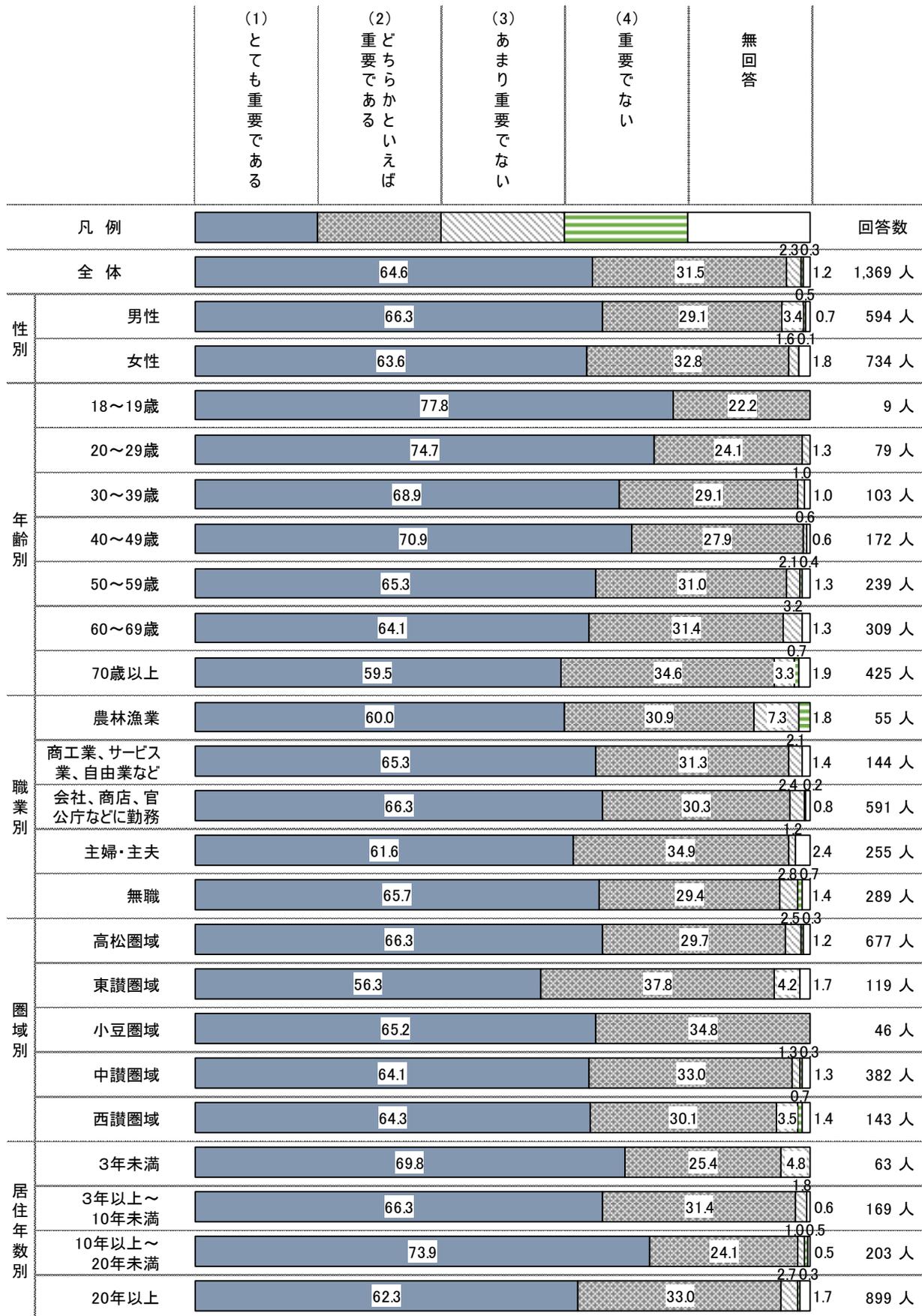
年齢別にみると、【重要である】の割合はいずれも【重要でない】の割合を上回っており、『18～19歳』で100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合はいずれも【重要でない】の割合を上回っており、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』で同率の96.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合はいずれも【重要でない】の割合を上回っており、『小豆圏域』で100.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合はいずれも【重要でない】の割合を上回っており、『10年以上～20年未満』で98.0%と最も高くなっている。

図表 1-(3)-2 【防災・減災対策の重要度について】



グラフ単位：(%)

(4) 防災・減災対策が重要でないと思う理由について

【問2で「3」または「4」と答えた方にお聞きします】

付問2 防災・減災対策が重要でないと思う理由は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=36】 ※回答数の多い順に並べ替え

1 災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う	44.4%(46.5%)
2 香川県では大規模災害が起こることはないと思う	41.7%(38.0%)
3 防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある	13.9%(13.1%)
4 自分や家族は、災害の危険箇所に住んだり、行ったりしない	8.3%(9.5%)
5 事前の備えをしていなくても、自分や家族は大丈夫という自信がある	5.6%(6.0%)
6 自分の職業との関わりがあまりない	2.8%(3.0%)
7 その他	8.3%(8.5%)
(無回答)	16.7%(15.8%)

防災・減災対策が重要でないと思う理由について、「災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う」44.4%が最も高く、次いで「香川県では大規模災害が起こることはないと思う」41.7%、「防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある」13.9%などとなっている。

図表 1-(4)-1 防災・減災対策が重要でないと思う理由について

		回答数
全体	100.0	36人
(1) 災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う	44.4	16人
(2) 香川県では大規模災害が起こることはないと思う	41.7	15人
(3) 防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある	13.9	5人
(4) 自分や家族は、災害の危険箇所に住んだり、行ったりしない	8.3	3人
(5) 事前の備えをしていなくても、自分や家族は大丈夫という自信がある	5.6	2人
(6) 自分の職業との関わりがあまりない	2.8	1人
(7) その他	8.3	3人
(8) 無回答	16.7	6人

グラフ単位：(%)

防災・減災対策が重要でないと思う理由について、性別にみると、『男性』では「香川県では大規模災害が起こることはないと思う」43.5%が最も高く、『女性』では「災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う」69.2%が最も高くなっている。

年齢別にみると、『50～59歳』、『70歳以上』では「災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う」が最も高く、『60～69歳』では「香川県では大規模災害が起こることはないと思う」70.0%が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』を除くすべての職業では「災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う」が4～6割と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う」「香川県では大規模災害が起こることはないと思う」が同率の40.0%で最も高くなっている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『西讃圏域』では「災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う」が最も高く、『高松圏域』、『中讃圏域』では「香川県では大規模災害が起こることはないと思う」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』、『10年以上～20年未満』では「災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う」が最も高く、『3年未満』、『20年以上』では「香川県では大規模災害が起こることはないと思う」が最も高くなっている。

図表 1-(4)-2 【防災・減災対策が重要でないと思う理由について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)		
【表の見方】 単位=比率(%)		全体 (人)	で災害はいつどこで発生するか分からないの 対策は不可能だと思う	香川県では大規模災害が起こることはないと思	防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他 にある	自分や家族は、災害の危険箇所に住んだり、 行ったりしない	事前の備えをしていなくても、自分や家族は 大丈夫という自信がある	自分の職業との関わりがあまりない	その他	無回答
全体		36	44.4	41.7	13.9	8.3	5.6	2.8	8.3	16.7
性別	男性	23	30.4	43.5	13.0	8.7	8.7	4.3	8.7	17.4
	女性	13	69.2	38.5	15.4	7.7	-	-	7.7	15.4
年齢別	18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20～29歳	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	30～39歳	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-
	40～49歳	1	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-
	50～59歳	6	66.7	16.7	33.3	-	-	-	33.3	-
	60～69歳	10	30.0	70.0	20.0	10.0	-	-	-	20.0
	70歳以上	17	41.2	35.3	-	5.9	11.8	5.9	5.9	23.5
職業別	農林漁業	5	20.0	40.0	-	20.0	20.0	20.0	-	-
	商工業、サービス業、自由業など	3	33.3	100.0	-	-	-	-	-	-
	会社、商店、官公庁などに勤務	15	40.0	40.0	26.7	6.7	-	-	6.7	20.0
	主婦・主夫	3	66.7	-	-	-	-	-	33.3	-
	無職	10	60.0	40.0	10.0	10.0	10.0	-	10.0	30.0
圏域別	高松圏域	19	47.4	52.6	15.8	10.5	10.5	-	10.5	10.5
	東讃圏域	5	60.0	40.0	-	-	-	-	-	20.0
	小豆圏域	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中讃圏域	6	-	33.3	16.7	16.7	-	16.7	-	33.3
	西讃圏域	6	66.7	16.7	16.7	-	-	-	16.7	16.7
居住年数別	3年未満	3	33.3	66.7	33.3	33.3	-	-	-	-
	3年以上～10年未満	3	100.0	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-
	10年以上～20年未満	3	66.7	33.3	-	-	-	-	-	33.3
	20年以上	27	37.0	40.7	11.1	3.7	7.4	3.7	11.1	18.5

(5) 防災・減災対策の満足度について

問3 あなたは、防災・減災対策について満足されていますか。次の中から1つだけ選んでください。

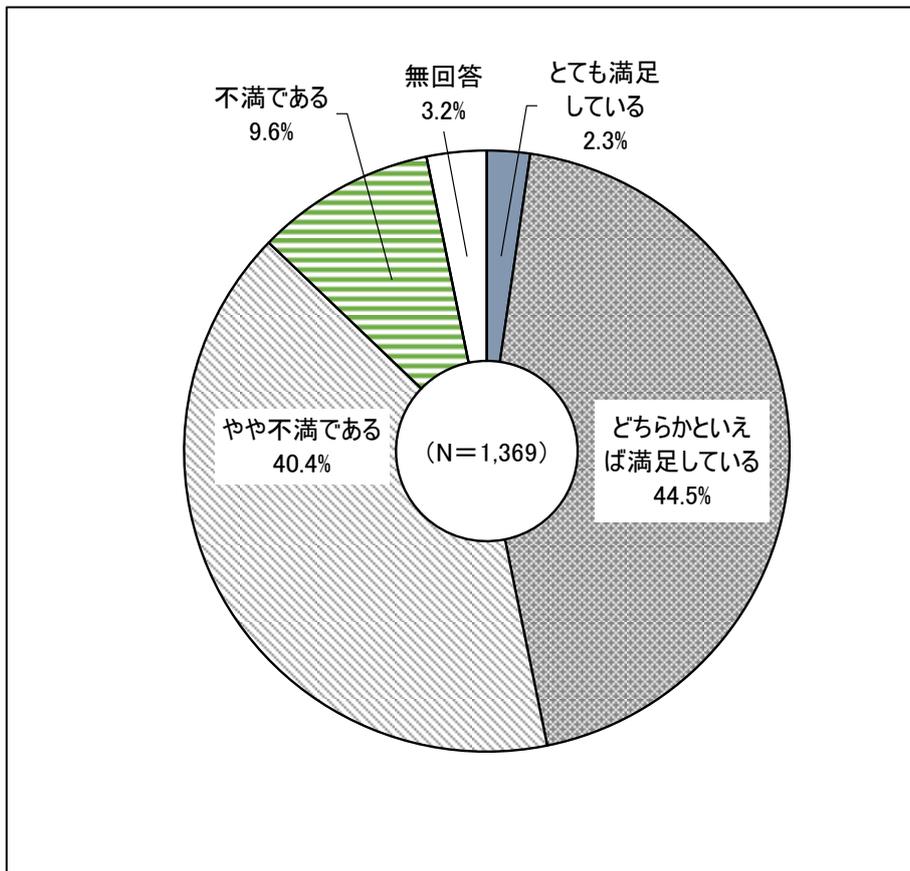
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 とても満足している	2.3% ( 2.8%)
2 どちらかといえば満足している	44.5% (45.0%)
3 やや不満である	40.4% (40.0%)
4 不満である	9.6% ( 9.3%)
(無回答)	3.2% ( 2.9%)

防災・減災対策の満足度について、「どちらかといえば満足している」44.5%、「やや不満である」40.4%、「不満である」9.6%、「とても満足している」2.3%となっている。

図表 1-(5)-1 防災・減災対策の満足度について



防災・減災対策の満足度について、性別にみると、「とても満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた【満足している】の割合は『男性』49.7%、『女性』44.4%で、「やや不満である」と「不満である」を合わせた【不満である】の割合は『男性』48.1%、『女性』51.8%となっており、『男性』では【満足している】の割合49.7%が【不満である】を上回っており、『女性』では【不満である】の割合51.8%が【満足している】の割合を上回っている。

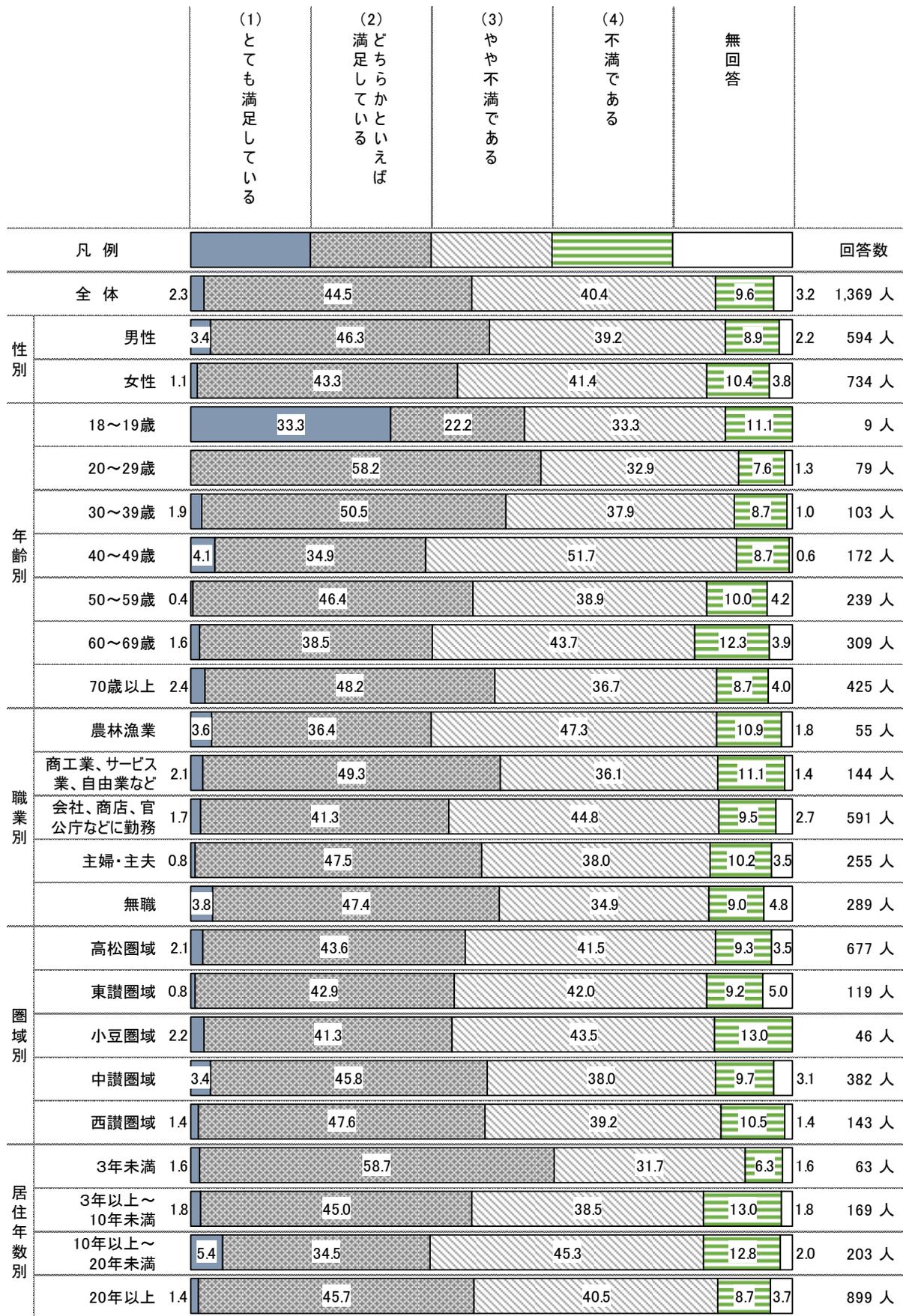
年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』、『30～39歳』、『70歳以上』では【満足している】の割合はいずれも【不満である】の割合を上回っており、『40～49歳』、『50～59歳』、『60～69歳』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』、『会社、商店、官公庁などに勤務』を除くすべての職業で【満足している】の割合はいずれも【不満である】の割合を上回っており、『農林漁業』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『中讃圏域』を除くすべての圏域で【不満である】の割合はいずれも【満足している】の割合を上回っており、『中讃圏域』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』を除くすべての居住年数で【不満である】の割合はいずれも【満足している】の割合を上回っており、『3年未満』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 1-(5)-2 【防災・減災対策の満足度について】



グラフ単位：(%)

**(6) 不満に思っている防災・減災対策について**

**【問3で「3」または「4」と答えた方にお聞きます】**

付問3 あなたが不満に思っているのは、防災・減災対策のうち、どのような取り組みでしょうか。次の中からあてはまるものをすべて選び、それに伴う付問4、5、6についても、ご回答ください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=685】 ※回答数の多い順に並べ替え

1 自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）	57.4%(60.0%)
2 地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）	48.3%(47.3%)
3 県や市町で取り組んでいる防災・減災対策	44.8%(43.2%)
4 その他（無回答）	6.0%( 5.5%) 2.8%( 2.8%)

**⇒ 選択肢2・3のいずれも該当がない方は、5ページ 問4にお進みください**

不満に思っている防災・減災対策について、「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」57.4%が最も高く、次いで「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」48.3%、「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」44.8%となっている。

**図表 1-(6)-1 不満に思っている防災・減災対策について**

		回答数
全体	100.0	685 人
(1) 自分や家族で取り組む対策(自分の生命・財産を自分で守るための取り組み)	57.4	393 人
(2) 地域や会社などで取り組む対策(近所や職域で共に助け合うための取り組み)	48.3	331 人
(3) 県や市町で取り組んでいる防災・減災対策	44.8	307 人
(4) その他	6.0	41 人
(5) 無回答	2.8	19 人

グラフ単位:(%)

不満に思っている防災・減災対策について、性別にみると、男女とも「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」が最も高く、『男性』53.1%、『女性』61.1%で、これに『男性』は「県や市で取り組んでいる防災・減災対策」47.6%、『女性』は「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」50.0%が続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」、「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」が同率の75.0%と最も高く、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」が最も高く、『60～69歳』、『70歳以上』では「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」が最も高くなっている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業』、『会社、商社、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」が5～6割台と最も高く、『無職』では「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」53.5%と最も高く、『農林漁業』では、「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」、「県や市で取り組んでいる防災・減災対策」が同率の50.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『中讃圏域』を除く圏域では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」が5～6割台と最も高く、『中讃圏域』では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」、「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」が同率の54.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」が5～7割台と最も高くなっている。

図表 1-(6)-2 【不満に思っている防災・減災対策について】

		(1)	(2)	(3)	(4)		
		全体 (人)	自分や家族で 取組むための 取組(自分の 生命・財	地域や会社 などで取組 む取組(近 所や職	県や市町 で取組んで いる防災・ 減災対策	その他	
						無回答	
【表の見方】 単位=比率(%)							
全体		685	57.4	48.3	44.8	6.0	2.8
性別	男性	286	53.1	46.2	47.6	8.0	2.1
	女性	380	61.1	50.0	42.6	4.5	3.2
年齢別	18～19歳	4	75.0	75.0	25.0	-	-
	20～29歳	32	78.1	28.1	28.1	6.3	3.1
	30～39歳	48	79.2	39.6	33.3	4.2	-
	40～49歳	104	72.1	45.2	42.3	3.8	2.9
	50～59歳	117	66.7	50.4	54.7	5.1	0.9
	60～69歳	173	50.9	51.4	46.8	9.2	1.7
	70歳以上	193	41.5	51.3	44.6	5.7	5.2
職業別	農林漁業	32	46.9	50.0	50.0	9.4	-
	商工業、サービス業、自由業など	68	57.4	42.6	39.7	4.4	8.8
	会社、商店、官公庁等に勤務	321	62.6	48.9	45.2	6.5	0.9
	主婦・主夫	123	59.3	44.7	46.3	3.3	4.9
	無職	127	46.5	53.5	44.1	7.9	2.4
圏域別	高松圏域	344	58.1	48.3	43.6	5.2	2.3
	東讃圏域	61	59.0	36.1	50.8	3.3	3.3
	小豆圏域	26	53.8	42.3	34.6	3.8	11.5
	中讃圏域	182	54.4	54.4	43.4	7.1	1.6
	西讃圏域	71	60.6	45.1	52.1	9.9	4.2
居住年数別	3年未満	24	75.0	33.3	41.7	-	-
	3年以上～10年未満	87	70.1	51.7	39.1	11.5	1.1
	10年以上～20年未満	118	66.1	47.5	48.3	2.5	2.5
	20年以上	442	52.0	48.9	45.2	6.3	3.2

(7) 地域や会社などで取り組んでいる防災・減災対策について

【付問3で「2」と答えた方にお聞きします】

付問4 あなたは、地域や会社などで、防災・減災に関してどのような取り組みをされていますか。  
次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=331】 ※回答数の多い順に並べ替え

1 特に何もしていない	46.8%(47.7%)
2 勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている	22.4%(23.1%)
3 隣近所で、高齢者や身体が不自由な方など災害時に配慮が必要な人を把握している	16.6%(14.8%)
4 勤めている会社などで被災した場合に備え、職場などに食品や飲料水を備蓄している	12.4%(13.6%)
5 消防団や自主防災組織の活動に参加している	10.6%( 9.8%)
6 新聞やニュースなどで防災に関する情報を収集し、隣近所や職場などで共有している	6.0%( 5.9%)
7 自分の居住する地域やマンションなどで、災害時に備えた取り決めや会議などを行っている	3.3%( 3.2%)
8 防災士の資格を取得している	1.2%( 1.1%)
9 その他	6.0%( 5.5%)
(無回答)	7.3%( 7.3%)

地域や会社などで取り組んでいる防災・減災対策について、「特に何もしていない」46.8%が最も高く、次いで「勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている」22.4%、「隣近所で、高齢者や身体が不自由な方など災害時に配慮が必要な人を把握している」16.6%、「勤めている会社などで被災した場合に備え、職場などに食品や飲料水を備蓄している」12.4%となっている。

図表 1-(7)-1 地域や会社などで取り組んでいる防災・減災対策について

		回答数
全体	100.0	331 人
(1) 特に何もしていない	46.8	155 人
(2) 勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている	22.4	74 人
(3) 隣近所で、高齢者や身体が不自由な方など災害時に配慮が必要な人を把握している	16.6	55 人
(4) 勤めている会社などで被災した場合に備え、職場などに食品や飲料水を備蓄している	12.4	41 人
(5) 消防団や自主防災組織の活動に参加している	10.6	35 人
(6) 新聞やニュースなどで防災に関する情報を収集し、隣近所や職場などで共有している	6.0	20 人
(7) 自分の居住する地域やマンションなどで、災害時に備えた取り決めや会議などを行っている	3.3	11 人
(8) 防災士の資格を取得している	1.2	4 人
(9) その他	6.0	20 人
無回答	7.3	24 人

グラフ単位：(%)

地域や会社などで取り組んでいる防災・減災対策について、性別にみると、男女とも「特に何もしていない」が最も高く、『男性』40.2%、『女性』51.6%で、これに男女とも「勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている」が『男性』25.0%、『女性』19.5%と続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』を除くすべての年齢で「特に何もしていない」が4～6割台と最も高く、『20～29歳』では「勤めている会社などで被災した場合に備え、職場などに食品や飲料水を備蓄している」44.4%と最も高く、『30～39歳』では「勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている」、「特に何もしていない」が同率の42.1%となっている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で「特に何もしていない」が4～6割台と最も高く、『農林漁業』では「消防団や自主防災組織の活動に参加している」37.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「特に何もしていない」が3～6割台と最も高く、『東讃圏域』で68.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』を除くすべての居住年数で「特に何もしていない」が4～5割台と最も高く、『3年未満』では「勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている」、「特に何もしていない」が同率の37.5%と最も高くなっている。

図表 1-(7)-2 【地域や会社などで取り組んでいる防災・減災対策について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)		
		全体（人）	特に何もしていない	勤めのための訓練を行っている	隣近所で、高齢者や身体が不自由な方など災害時に配慮が必要な人を把握している	勤めている会社などで被災した場合に備え、職場などに食品や飲料水を備蓄している	消防団や自主防災組織の活動に参加している	新聞やニュースなどで防災に関する情報を収集し、隣近所や職場などで共有している	自分の居住する地域やマンションなどで、災害時に備えた取り決めや会議などを行っている	防災士の資格を取得している	その他	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)												
全体		331	46.8	22.4	16.6	12.4	10.6	6.0	3.3	1.2	6.0	7.3
性別	男性	132	40.2	25.0	19.7	10.6	18.9	8.3	4.5	2.3	7.6	6.8
	女性	190	51.6	19.5	14.2	13.7	5.3	4.7	2.6	0.5	4.2	7.4
年齢別	18～19歳	3	66.7	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-
	20～29歳	9	33.3	22.2	-	44.4	-	11.1	-	-	-	11.1
	30～39歳	19	42.1	42.1	5.3	26.3	-	-	-	-	5.3	10.5
	40～49歳	47	53.2	29.8	6.4	17.0	6.4	6.4	4.3	-	-	8.5
	50～59歳	59	42.4	37.3	5.1	30.5	3.4	5.1	1.7	1.7	8.5	1.7
	60～69歳	89	41.6	23.6	22.5	6.7	10.1	5.6	2.2	1.1	6.7	7.9
	70歳以上	99	51.5	5.1	26.3	-	21.2	8.1	6.1	2.0	7.1	9.1
職業別	農林漁業	16	31.3	6.3	31.3	6.3	37.5	-	6.3	-	6.3	6.3
	商工業、サービス業、自由業など	29	41.4	17.2	20.7	10.3	10.3	3.4	-	6.9	10.3	10.3
	会社、商店、官公庁などに勤務	157	40.1	36.9	7.0	23.6	5.7	6.4	2.5	0.6	3.2	6.4
	主婦・主夫	55	60.0	7.3	23.6	-	10.9	5.5	3.6	-	9.1	9.1
	無職	68	57.4	5.9	26.5	-	16.2	8.8	5.9	1.5	7.4	7.4
圏域別	高松圏域	166	47.0	22.9	17.5	10.2	11.4	3.6	3.6	0.6	6.6	7.8
	東讃圏域	22	68.2	13.6	13.6	9.1	4.5	4.5	4.5	-	4.5	4.5
	小豆圏域	11	54.5	9.1	9.1	9.1	27.3	9.1	-	-	-	-
	中讃圏域	99	39.4	27.3	17.2	17.2	11.1	11.1	3.0	2.0	7.1	7.1
	西讃圏域	32	53.1	12.5	12.5	12.5	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	9.4
居住年数別	3年未満	8	37.5	37.5	-	-	-	-	-	-	-	25.0
	3年以上～10年未満	45	48.9	37.8	2.2	22.2	4.4	4.4	-	-	8.9	2.2
	10年以上～20年未満	56	53.6	26.8	7.1	14.3	3.6	5.4	1.8	-	3.6	10.7
	20年以上	216	44.9	17.1	22.2	10.6	14.4	6.9	4.6	1.9	6.0	6.9

(8) 不満に思っている県や市町の防災・減災対策について

【付問3で「3」と答えた方にお聞きします】

付問5 あなたは、現在、県や市町で取り組んでいる防災・減災対策のうち、どのような点について不満に思っていますか。次の中から3つまで選んでください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=307】 ※回答数の多い順に並べ替え

1	県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない	38.8%(38.5%)
2	命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない	27.7%(28.2%)
3	避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない	26.4%(26.4%)
4	災害時の住民に対する情報の伝達手段が十分でない	26.4%(26.3%)
5	保存食や防災グッズなどの住民に対する配布が十分でない	25.1%(26.7%)
6	住宅の耐震化や家具の転倒防止の呼びかけなどの普及啓発や支援が十分でない	20.2%(20.8%)
7	避難所における食料、飲料水、医薬品などの備蓄が十分でない	18.9%(19.2%)
8	堤防のかさ上げなどのハード整備が十分でない	16.6%(15.7%)
9	県や市町がいくら防災・減災対策に取り組んでも、絶対に安全であるとは言いきれない	16.6%(16.6%)
10	避難所の指定や、ハザードマップの作成など、事前の準備が十分でない	13.7%(14.3%)
11	地域の自主防災組織や消防団の活動に対する支援が十分でない	11.4%(11.0%)
12	その他	9.1%( 8.9%)
	(無回答)	3.6%( 3.1%)

不満に思っている県や市町の防災・減災対策について、「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」38.8%が最も高く、次いで「命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない」27.7%、「避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない」、「災害時の住民に対する情報の伝達手段が十分でない」が同率の26.4%となっている。

図表 1-(8)-1 不満に思っている県や市町の防災・減災対策について

		回答数
全体	100.0	307 人
(1) 県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない	38.8	119 人
(2) 命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない	27.7	85 人
(3) 避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない	26.4	81 人
(4) 災害時の住民に対する情報の伝達手段が十分でない	26.4	81 人
(5) 保存食や防災グッズなどの住民に対する配布が十分でない	25.1	77 人
(6) 住宅の耐震化や家具の転倒防止の呼びかけなどの普及啓発や支援が十分でない	20.2	62 人
(7) 避難所における食料、飲料水、医薬品などの備蓄が十分でない	18.9	58 人
(8) 堤防のかさ上げなどのハード整備が十分でない	16.6	51 人
(9) 県や市町がいくら防災・減災対策に取り組んでも、絶対に安全であるとは言いきれない	16.6	51 人
(10) 避難所の指定や、ハザードマップの作成など、事前の準備が十分でない	13.7	42 人
(11) 地域の自主防災組織や消防団の活動に対する支援が十分でない	11.4	35 人
(12) その他	9.1	28 人
無回答	3.6	11 人

グラフ単位：(%)

不満に思っている県や市町の防災・減災対策について、性別にみると、男女とも「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」が最も高く、『男性』34.6%、『女性』40.1%で、これに『男性』では「災害の住民に対する情報の伝達手段が十分でない」28.7%、『女性』では「命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない」31.5%と続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』では「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」、「命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない」が同率の55.6%と最も高く、『30～39歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」が最も高く、『40～49歳』で「避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない」36.4%と最も高く、『50～59歳』で「命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない」、「保存食や防災グッズなどの住民に対する配布が十分でない」が同率の32.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」、「命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない」、「避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない」が同率の31.3%と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』では「保存食や防災グッズなどの住民に対する配布が十分でない」33.3%が最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』、『無職』では「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」が3～4割台と最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『東讃圏域』では「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」が3～4割台と最も高く、『小豆圏域』では「避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない」が44.4%と最も高く、『中讃圏域』では「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」、「災害時の住民に対する情報の伝達手段が十分でない」が同率の29.1%と最も高く、『西讃圏域』では「命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない」35.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない」50.0%と最も高く、『3年以上～10年未満』では「避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない」、「保存食や防災グッズなどの住民に対する配布が十分でない」が同率の38.2%と最も高く、『10年以上～20年未満』、『20年以上』で「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」が3～4割台と最も高くなっている。

図表 1-(8)-2 【不満に思っている県や市町の防災・減災対策について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)			
	全体（人）	で いる のか を 知 ら な い	県 や 市 町 が ど ん な 防 災 ・ 減 災 対 策 に 取 り 組 ん で い る の か	命 を 守 る た め の ス キ ル や ノ ウ ハ ウ が 身 に 付 く よ う な 実 践 的 な 防 災 教 育 が 十 分 で な い	避 難 所 の 開 設 状 況 や 避 難 勧 告 の 発 令 な ど、 災 害 時 の 情 報 提 供 が 十 分 で な い	災 害 時 の 住 民 に 対 す る 情 報 の 伝 達 手 段 が 十 分 で な い	保 存 食 や 防 災 グ ツ ズ な ど の 住 民 に 対 す る 配 布 が 十 分 で な い	住 宅 の 耐 震 化 や 家 具 の 転 倒 防 止 の 呼 び か け な ど の 普 及 啓 発 や 支 援 が 十 分 で な い	備 蓄 所 に お け る 食 料、 飲 料 水、 医 薬 品 な ど の 備 蓄 が 十 分 で な い	堤 防 の かさ 上 げ な ど の ハ ー ド 整 備 が 十 分 で な い	県 や 市 町 が い くら 防 災 ・ 減 災 対 策 に 取 り 組 ん で も、 絶 対 に 安 全 と は 言 い き れ な い	避 難 所 の 指 定 や、 ハ ザ ー ド マ ッ プ の 作 成 な ど、 事 前 の 準 備 が 十 分 で な い	地 域 の 自 主 防 災 組 織 や 消 防 団 の 活 動 に 対 す る 支 援 が 十 分 で な い	そ の 他	無 回 答	
【表の見方】 単位=比率(%)																
全体	307	38.8	27.7	26.4	26.4	25.1	20.2	18.9	16.6	16.6	13.7	11.4	9.1	3.6		
性別																
男性	136	34.6	23.5	26.5	28.7	25.7	19.9	20.6	19.9	18.4	11.8	12.5	9.6	2.9		
女性	162	40.1	31.5	27.8	24.1	24.7	21.0	16.7	13.6	15.4	14.8	10.5	9.3	4.3		
年齢別																
18～19歳	1	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-		
20～29歳	9	55.6	55.6	11.1	33.3	33.3	33.3	11.1	22.2	-	11.1	11.1	-	-		
30～39歳	16	50.0	31.3	37.5	12.5	25.0	12.5	25.0	-	18.8	25.0	-	12.5	-		
40～49歳	44	34.1	18.2	36.4	20.5	31.8	27.3	25.0	20.5	25.0	6.8	9.1	9.1	-		
50～59歳	64	28.1	32.8	20.3	21.9	32.8	18.8	17.2	10.9	6.3	10.9	6.3	17.2	6.3		
60～69歳	81	45.7	22.2	28.4	29.6	17.3	16.0	17.3	23.5	17.3	14.8	11.1	8.6	4.9		
70歳以上	86	37.2	30.2	25.6	29.1	22.1	22.1	17.4	14.0	20.9	14.0	19.8	4.7	3.5		
職業別																
農林漁業	16	31.3	31.3	31.3	18.8	25.0	6.3	25.0	12.5	25.0	6.3	12.5	18.8	6.3		
商工業、サービス業、自由業など	27	29.6	22.2	29.6	25.9	33.3	22.2	29.6	11.1	7.4	11.1	-	7.4	-		
会社、商店、官公庁などに勤務	145	39.3	27.6	26.9	26.2	22.8	14.5	20.7	18.6	13.8	13.8	12.4	10.3	4.1		
主婦・主夫	57	40.4	33.3	19.3	24.6	28.1	35.1	12.3	17.5	17.5	10.5	7.0	10.5	3.5		
無職	56	39.3	23.2	32.1	28.6	25.0	23.2	12.5	12.5	25.0	17.9	19.6	3.6	3.6		
圏域別																
高松圏域	150	47.3	26.7	28.0	30.7	26.7	15.3	16.0	14.7	12.0	11.3	9.3	6.7	4.7		
東讃圏域	31	32.3	22.6	12.9	19.4	25.8	25.8	29.0	19.4	16.1	16.1	16.1	6.5	6.5		
小豆圏域	9	33.3	33.3	44.4	-	22.2	11.1	33.3	22.2	33.3	33.3	22.2	11.1	-		
中讃圏域	79	29.1	27.8	27.8	29.1	19.0	24.1	20.3	20.3	19.0	13.9	12.7	11.4	2.5		
西讃圏域	37	32.4	35.1	24.3	16.2	32.4	29.7	13.5	13.5	24.3	13.5	10.8	16.2	-		
居住年数別																
3年未満	10	40.0	50.0	20.0	20.0	10.0	-	10.0	10.0	-	10.0	10.0	20.0	10.0		
3年以上～10年未満	34	35.3	11.8	38.2	26.5	38.2	26.5	11.8	26.5	8.8	14.7	8.8	8.8	2.9		
10年以上～20年未満	57	42.1	29.8	21.1	26.3	35.1	21.1	17.5	15.8	12.3	14.0	10.5	7.0	1.8		
20年以上	200	37.5	28.5	27.0	26.0	21.0	20.0	20.5	15.0	20.0	13.0	12.5	9.5	4.0		

(9) 不満に思っている県や市町の防災・減災対策への具体的な意見について

【付問5を答えた方にお聞きします】

付問6 付問5で回答された選択肢について、具体的な意見があれば選択肢番号と具体的な意見内容をそれぞれ記入してください。

※157件中5件の意見を抜粋

選択肢	件数
1 避難所の指定や、ハザードマップの作成など、事前の準備が十分でない	1 1
2 避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない	1 6
3 堤防のかさ上げなどのハード整備が十分でない	1 7
4 避難所における食料、飲料水、医薬品などの備蓄が十分でない	9
5 住宅の耐震化や家具の転倒防止の呼びかけなどの普及啓発や支援が十分でない	1 6
6 地域の自主防災組織や消防団の活動に対する支援が十分でない	7
7 命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない	1 2
8 保存食や防災グッズなどの住民に対する配布が十分でない	1 2
9 災害時の住民に対する情報の伝達手段が十分でない	1 9
10 県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない	1 8
11 県や市町がいくら防災・減災対策に取り組んでも、絶対に安全であるとは言いきれない	7
12 その他	1 3

- ・学校やコミュニティセンターなどで、災害になった際に実践できるように、救護の仕方や実際に災害に遭われた方などから話を聞く機会を設けてほしい。
- ・広告やLINEなど簡単なものでよいので、「〇〇の時はこのような行動を心掛ける」といった、災害が起こった時の事を少しでも考えられるような場を作り、どうしたらよいか教えてほしい。
- ・9/1の防災の日などに自治会で訓練をしたり、県または市町村に情報の伝達の仕方や防災・減災の取り組みについて話を聞きたい。
- ・災害が起きれば自助・共助・公助どれが欠けても復興はできないと思う。段階に応じて、それぞれができることを示していただければ、落ち着いて対応できると思う。
- ・ペットを同伴できる避難所を作ってほしい。一時的に預かってくれる所もあればありがたい。事前に住民に対する周知も必要だと思う。

(10) 南海トラフ地震に備えた対策について

問4 今後30年以内の発生確率が70～80%と高まっている南海トラフ地震に備えて、どのような対策を取っていますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ ()内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答数の多い順に並べ替え

1	携帯ラジオや懐中電灯を準備している	63.4%(61.0%)
2	食料や飲料水を準備している	46.7%(45.7%)
3	近くの学校や公園など避難場所を決めている	43.7%(43.3%)
4	貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている	24.4%(25.3%)
5	特に何もしていない	19.4%(19.4%)
6	家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止している	17.9%(17.8%)
7	風呂などに水をためおきするようになっている	16.6%(15.4%)
8	家族や親類などと非常時の連絡方法を決めている	16.4%(16.5%)
9	防災アプリのダウンロードや防災情報メールの登録をしている	16.4%(16.2%)
10	自分の家の耐震性を高くしている	15.2%(15.5%)
11	消火器や消火用のバケツを準備している	14.8%(13.6%)
12	防災訓練に積極的に参加している	9.8%(9.3%)
13	自宅に「感震ブレーカー」(地震を検知し、自動的にブレーカーを切って、送電の再開による火災を防止する効果がある機器)を設置している	2.8%(2.9%)
14	その他 (無回答)	2.2%(2.3%) 0.8%(0.7%)

南海トラフ地震に備えた対策について、「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」63.4%が最も高く、次いで「食料や飲料水を準備している」46.7%、「近くの学校や公園など避難場所を決めている」43.7%、「貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている」24.4%となっている。

図表 1-(10)-1 南海トラフ地震に備えた対策について

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,369 人
(1) 携帯ラジオや懐中電灯を準備している	63.4	868 人
(2) 食料や飲料水を準備している	46.7	639 人
(3) 近くの学校や公園など避難場所を決めている	43.7	598 人
(4) 貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている	24.4	334 人
(5) 特に何もしていない	19.4	266 人
(6) 家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止している	17.9	245 人
(7) 風呂などに水をためおきするようになっている	16.6	227 人
(8) 家族や親類などと非常時の連絡方法を決めている	16.4	224 人
(9) 防災アプリのダウンロードや防災情報メールの登録をしている	16.4	225 人
(10) 自分の家の耐震性を高くしている	15.2	208 人
(11) 消火器や消火用のバケツを準備している	14.8	203 人
(12) 防災訓練に積極的に参加している	9.8	134 人
(13) 自宅に「感震ブレーカー」(地震を検知し、自動的にブレーカーを切って、送電の再開による火災を防止する効果がある機器)を設置している	2.8	38 人
(14) その他	2.2	30 人
無回答	0.8	11 人

グラフ単位：(%)

南海トラフ地震に備えた対策について、性別にみると、男女とも「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が最も高く、『男性』58.8%、『女性』66.8%で、これに『男性』は「近くの学校や公園など避難場所を決めている」43.6%、『女性』は「食料や飲料水を準備している」51.5%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』では「貴重品などをすぐに持ち出せるようにしている」66.7%が最も高く、『20～29歳』では「近くの学校や公園など避難場所を決めている」38.0%が最も高く、『30～39歳』では「食料や飲料水を準備している」47.6%が最も高く、『40～49歳』、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が5～7割台と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が5～8割台と最も高く、『主婦・主夫』で82.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が6～7割台と最も高く、『小豆圏域』で76.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が4～6割台と最も高く、『20年以上』で67.5%と最も高くなっている。

図表 1-(10)-2 【南海トラフ地震に備えた対策について】

		全体（人）	(1) 携帯ラジオや懐中電灯を準備している	(2) 食料や飲料水を準備している	(3) 近くの学校や公園など避難場所を決めている	(4) 貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている	(5) 特に何もしていない	(6) 家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防 止している	(7) 風呂などに水をためおきするよう にしている
【表の見方】 単位＝比率(%)									
全体		1,369	63.4	46.7	43.7	24.4	19.4	17.9	16.6
性別	男性	594	58.8	41.1	43.6	23.6	22.2	17.8	13.6
	女性	734	66.8	51.5	44.1	25.5	16.8	18.0	19.5
年齢別	18～19歳	9	55.6	22.2	44.4	66.7	22.2	33.3	-
	20～29歳	79	34.2	34.2	38.0	29.1	16.5	15.2	8.9
	30～39歳	103	45.6	47.6	34.0	29.1	19.4	15.5	13.6
	40～49歳	172	53.5	50.6	50.0	18.0	15.7	16.3	8.7
	50～59歳	239	61.9	49.0	46.0	21.3	18.4	14.2	9.6
	60～69歳	309	66.3	49.5	43.0	23.6	17.8	20.4	20.7
	70歳以上	425	76.2	45.4	44.2	26.8	21.9	19.8	23.8
職業別	農林漁業	55	74.5	38.2	34.5	21.8	29.1	9.1	21.8
	商工業、サービス業、自由業など	144	56.9	49.3	43.1	20.1	26.4	16.0	13.2
	会社、商店、官公庁などに勤務	591	54.5	46.2	43.8	22.0	17.4	15.7	12.4
	主婦・主夫	255	82.7	53.3	47.8	28.6	14.1	22.0	27.8
	無職	289	66.1	43.3	43.3	29.1	21.5	21.5	16.6
圏域別	高松圏域	677	62.9	47.6	43.7	25.4	17.9	19.9	16.4
	東讃圏域	119	67.2	50.4	46.2	27.7	21.0	14.3	17.6
	小豆圏域	46	76.1	43.5	28.3	28.3	21.7	8.7	13.0
	中讃圏域	382	62.3	44.8	42.7	21.5	21.2	17.8	15.7
	西讃圏域	143	61.5	46.2	49.0	23.8	20.3	14.0	20.3
居住年数別	3年未満	63	44.4	41.3	38.1	22.2	17.5	17.5	7.9
	3年以上～10年未満	169	56.8	49.7	39.6	27.8	16.0	16.0	8.9
	10年以上～20年未満	203	57.6	49.8	46.3	25.1	14.8	20.7	11.3
	20年以上	899	67.5	46.3	44.7	24.0	20.7	17.7	20.1

	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)		
	いる 家族や親類などと非常時の連絡方法を決めて	の登録をしている 防災アプリのダウンロードや防災情報メール	自分の家の耐震性を高くしている	消火器や消火用のバケツを準備している	防災訓練に積極的に参加している	自動的 による火災を防止する効果がある機器）を設置している 自宅に「感震ブレーカー」（地震を検知し、送電の再開を切った機器）を切った機器）を設置している	その他	無回答	
【表の見方】 単位＝比率(%)									
全体	16.4	16.4	15.2	14.8	9.8	2.8	2.2	0.8	
性別	男性	13.1	17.5	15.5	13.3	11.8	1.9	2.9	0.8
	女性	18.5	15.8	14.9	16.6	8.2	3.5	1.8	0.5
年齢別	18～19歳	22.2	-	11.1	-	11.1	11.1	11.1	-
	20～29歳	15.2	22.8	8.9	6.3	3.8	3.8	3.8	-
	30～39歳	14.6	17.5	24.3	8.7	3.9	1.9	1.0	-
	40～49歳	15.1	21.5	19.8	12.2	4.1	1.7	2.3	-
	50～59歳	16.3	19.2	16.7	10.9	9.2	1.7	2.9	-
	60～69歳	14.6	20.7	13.6	20.7	8.4	2.6	2.9	1.3
	70歳以上	17.4	9.2	12.5	18.1	16.0	3.8	1.2	1.2
職業別	農林漁業	9.1	14.5	18.2	23.6	16.4	1.8	1.8	-
	商工業、サービス業、自由業など	11.8	14.6	16.7	12.5	6.9	3.5	3.5	0.7
	会社、商店、官公庁などに勤務	14.9	20.3	17.6	14.4	7.6	1.7	2.5	0.3
	主婦・主夫	22.7	14.9	13.3	19.2	14.1	3.1	-	0.8
	無職	15.2	11.8	10.0	12.8	10.7	4.5	3.1	1.4
圏域別	高松圏域	16.1	16.2	16.8	13.4	8.9	2.7	2.5	0.7
	東讃圏域	10.1	16.0	10.9	18.5	15.1	1.7	1.7	-
	小豆圏域	15.2	13.0	13.0	10.9	17.4	4.3	-	-
	中讃圏域	18.3	14.7	13.9	15.2	7.6	3.4	2.1	1.3
	西讃圏域	16.8	23.1	14.0	18.9	13.3	2.1	2.1	0.7
居住年数別	3年未満	15.9	23.8	23.8	12.7	4.8	3.2	1.6	-
	3年以上～10年未満	15.4	20.1	22.5	14.8	5.9	1.8	3.6	1.2
	10年以上～20年未満	18.7	16.7	20.7	10.3	4.9	3.0	1.5	-
	20年以上	15.4	15.4	11.8	16.5	12.0	2.9	2.2	0.8

(11) 県や市町に特に力をいれて取り組んでもらいたい防災・減災対策について

問5 今後、県や市町に特に力をいれて取り組んでもらいたい防災・減災対策は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答数の多い順に並べ替え

1	支援物資が確実に避難所に届く体制づくり	58.9%(59.1%)
2	食料、飲料水、医薬品などの備蓄	55.0%(56.6%)
3	避難所での快適な生活環境づくり	51.9%(52.9%)
4	災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供	35.6%(35.0%)
5	避難所やハザードマップなどの情報提供	14.5%(14.1%)
6	堤防のかさ上げなどのハード整備	11.5%(11.6%)
7	防災に関する広報啓発、防災教育など防災意識の普及・啓発	10.0%( 9.8%)
8	近県との広域応援体制の確立	7.8%( 7.9%)
9	地域の自主防災組織や消防団の活動に対する支援	7.8%( 7.3%)
10	防災訓練の充実	7.2%( 7.1%)
11	災害に関する計画の充実	6.9%( 6.8%)
12	ボランティア活動に対する支援体制づくり	6.5%( 6.1%)
13	その他	3.2%( 3.1%)
14	特にな (無回答)	1.7%( 1.7%) 0.9%( 0.8%)

県や市町に特に力をいれて取り組んでもらいたい防災・減災対策について、「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」58.9%が最も高く、次いで「食料、飲料水、医薬品などの備蓄」55.0%、「避難所での快適な生活環境づくり」51.9%、「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」35.6%となっている。

図表 1-(11)-1 県や市町に特に力をいれて取り組んでもらいたい防災・減災対策について

		回答数
全体	100.0	1,369 人
(1) 支援物資が確実に避難所に届く体制づくり	58.9	806 人
(2) 食料、飲料水、医薬品などの備蓄	55.0	753 人
(3) 避難所での快適な生活環境づくり	51.9	710 人
(4) 災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供	35.6	487 人
(5) 避難所やハザードマップなどの情報提供	14.5	198 人
(6) 堤防のかさ上げなどのハード整備	11.5	158 人
(7) 防災に関する広報啓発、防災教育など防災意識の普及・啓発	10.0	137 人
(8) 近県との広域応援体制の確立	7.8	107 人
(9) 地域の自主防災組織や消防団の活動に対する支援	7.8	107 人
(10) 防災訓練の充実	7.2	99 人
(11) 災害に関する計画の充実	6.9	94 人
(12) ボランティア活動に対する支援体制づくり	6.5	89 人
(13) その他	3.2	44 人
(14) 特にない	1.7	23 人
無回答	0.9	13 人

グラフ単位：(%)

県や市町に特に力をいれて取り組んでもらいたい防災・減災対策について、性別にみると、男女とも「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」が最も高く、『男性』60.1%、『女性』58.0%で、これに男女とも「食料、飲料水、医薬品などの備蓄」が『男性』54.2%、『女性』55.3%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』、『70歳以上』では「食料、飲料水、医薬品などの備蓄」が5～7割台と最も高く、『18～19歳』で77.8%と最も高く、『30～39歳』、『40～49歳』、『60～69歳』では「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」が6割台と最も高く、『50～59歳』では「避難所での快適な生活環境づくり」61.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」が5～6割台と最も高く、『農林漁業』では「食料、飲料水、医薬品などの備蓄」60.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」が5～6割台と最も高く、『小豆圏域』では「食料、飲料水、医薬品などの備蓄」67.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』を除くすべての居住年数で「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」が5～6割台と最も高く、『3年未満』では「食料、飲料水、医薬品などの備蓄」71.4%と最も高くなっている。

図表 1-(11)-2 【県や市町に特に力をいれて取り組んでもらいたい防災・減災対策について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)		
	全体 (人)	支援物資が確実に避難所に届く体制づくり	食料、飲料水、医薬品などの備蓄	避難所での快適な生活環境づくり	災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供	避難所やハザードマップなどの情報提供	堤防のかさ上げなどのハード整備	防災に関する広報啓発、防災教育など防災意識の普及・啓発	近県との広域応援体制の確立	地域の自主防災組織や消防団の活動に対する支援	防災訓練の充実	災害に関する計画の充実	ボランティア活動に対する支援体制づくり	その他	特になし	無回答	
【表の見方】 単位=比率(%)																	
全体	1,369	58.9	55.0	51.9	35.6	14.5	11.5	10.0	7.8	7.8	7.2	6.9	6.5	3.2	1.7	0.9	
性別	男性	594	60.1	54.2	49.5	32.5	14.3	12.1	9.8	7.7	9.3	8.8	6.4	5.4	3.7	2.7	0.5
	女性	734	58.0	55.3	54.1	38.0	14.4	11.0	10.5	7.6	6.8	6.1	7.6	7.5	2.7	1.0	1.2
年齢別	18～19歳	9	44.4	77.8	66.7	44.4	-	11.1	22.2	11.1	-	11.1	11.1	-	-	-	-
	20～29歳	79	59.5	65.8	51.9	29.1	15.2	15.2	5.1	7.6	6.3	5.1	7.6	5.1	1.3	3.8	-
	30～39歳	103	68.9	63.1	65.0	33.0	13.6	7.8	6.8	8.7	2.9	2.9	4.9	4.9	3.9	-	-
	40～49歳	172	67.4	56.4	59.9	27.3	11.6	16.9	8.7	8.1	4.1	5.8	6.4	5.8	4.1	-	-
	50～59歳	239	60.7	56.9	61.1	36.0	13.0	14.2	7.5	8.8	3.3	4.6	5.0	5.4	5.4	0.4	0.4
	60～69歳	309	62.1	47.9	49.2	37.2	14.9	12.3	11.3	8.1	8.7	6.5	8.1	9.1	2.9	1.3	1.0
	70歳以上	425	50.4	53.4	42.4	39.1	16.5	7.8	12.7	6.1	12.7	11.3	8.0	6.1	2.1	3.3	1.9
職業別	農林漁業	55	58.2	60.0	41.8	36.4	14.5	3.6	14.5	3.6	18.2	12.7	5.5	5.5	3.6	1.8	-
	商工業、サービス業、自由業など	144	60.4	50.0	53.5	32.6	14.6	10.4	6.9	10.4	6.9	6.3	7.6	5.6	4.9	3.5	2.1
	会社、商店、官公庁などに勤務	591	61.4	54.7	57.4	33.8	13.5	14.9	9.1	7.4	5.8	5.1	6.3	6.3	3.6	0.7	0.3
	主婦・主夫	255	58.4	56.9	46.3	40.4	11.8	11.4	11.8	7.8	8.2	8.6	8.2	5.9	2.4	1.6	1.6
	無職	289	54.7	54.3	46.7	36.3	18.7	7.3	11.4	6.6	10.0	10.0	7.6	8.3	2.4	2.8	1.0
圏域別	高松圏域	677	59.5	54.5	52.7	37.2	13.1	10.2	9.9	7.8	8.4	5.9	6.5	6.9	3.1	1.9	1.2
	東讃圏域	119	63.9	54.6	51.3	31.1	11.8	11.8	10.9	7.6	10.9	9.2	5.0	6.7	1.7	2.5	-
	小豆圏域	46	54.3	67.4	54.3	37.0	15.2	13.0	6.5	-	6.5	13.0	13.0	4.3	-	-	-
	中讃圏域	382	53.4	53.1	50.5	34.3	17.8	13.9	11.0	7.9	5.8	7.1	8.1	6.3	4.7	1.6	1.3
	西讃圏域	143	67.8	58.0	51.0	35.0	13.3	11.2	8.4	9.8	8.4	10.5	4.9	5.6	2.1	0.7	-
居住年数別	3年未満	63	69.8	71.4	55.6	28.6	15.9	11.1	6.3	6.3	3.2	4.8	9.5	4.8	-	-	-
	3年以上～10年未満	169	61.5	52.7	58.6	33.7	18.3	15.4	7.1	9.5	3.6	6.5	5.9	5.3	4.7	-	-
	10年以上～20年未満	203	58.6	55.7	54.2	34.0	12.3	13.8	13.3	8.4	5.4	5.9	7.9	8.9	4.9	-	-
	20年以上	899	58.0	53.7	49.9	36.8	14.0	10.5	10.2	7.1	9.5	7.9	6.9	6.3	2.8	2.4	1.3

## 2. 環境施策について

### (1)身のまわりの環境(満足度)

問6 あなたの身のまわりの環境 [1] ～ [7]、行政の環境への取り組み [8] ～ [17] に対する、＜満足度＞と＜重要度＞について、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

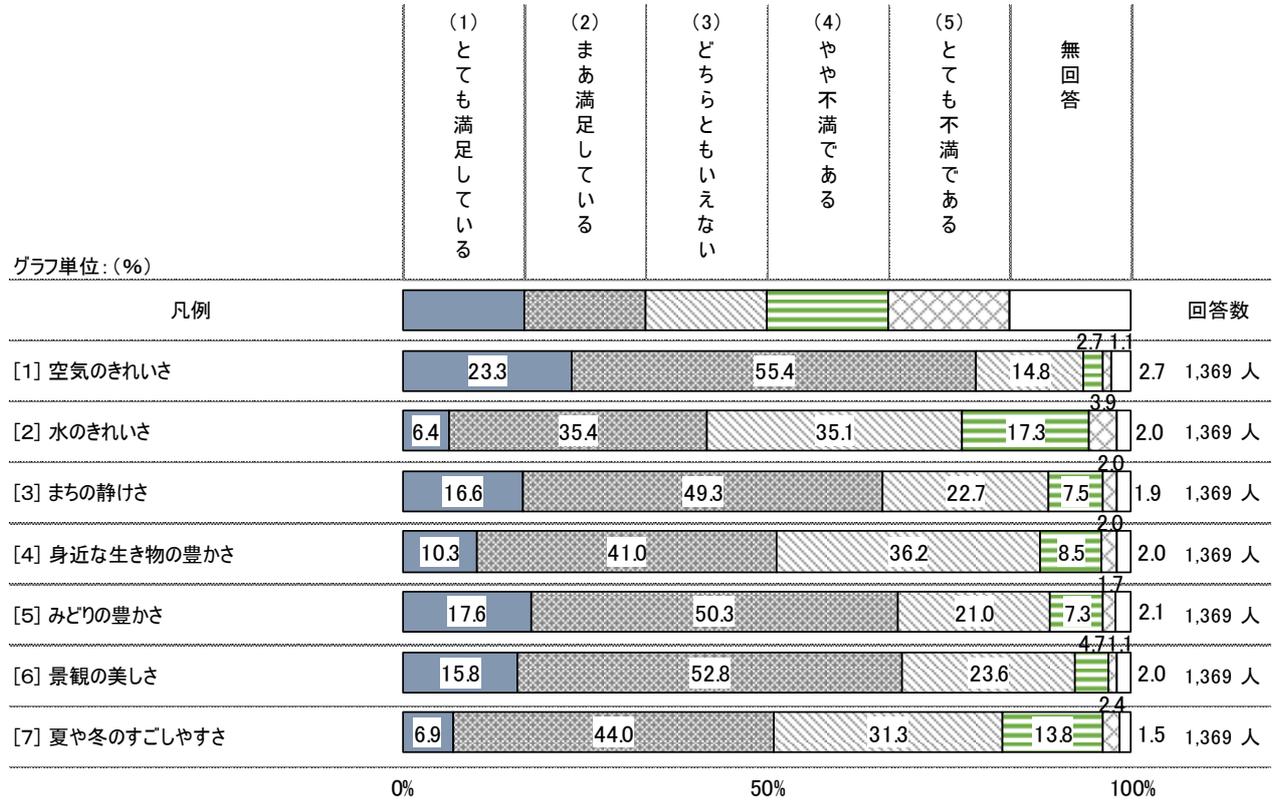
【回答者数=1,369】

(単位：%)

分野	満足度					
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答
[1] 空気のきれいさ	23.3 (22.8)	55.4 (55.0)	14.8 (15.7)	2.7 (2.8)	1.1 (1.1)	2.7 (2.7)
[2] 水のきれいさ (川、ため池、海など)	6.4 (6.4)	35.4 (34.2)	35.1 (35.2)	17.3 (18.3)	3.9 (4.0)	2.0 (1.9)
[3] まちの静けさ	16.6 (16.9)	49.3 (48.7)	22.7 (22.9)	7.5 (7.5)	2.0 (2.1)	1.9 (1.9)
[4] 身近な生き物の豊かさ (野鳥、昆虫、魚など)	10.3 (10.7)	41.0 (40.0)	36.2 (36.7)	8.5 (8.7)	2.0 (1.9)	2.0 (2.0)
[5] みどりの豊かさ (森林、公園など)	17.6 (17.8)	50.3 (49.7)	21.0 (21.1)	7.3 (7.5)	1.7 (1.8)	2.1 (2.1)
[6] 景観の美しさ (まちなみ、田園風景、瀬戸内海など)	15.8 (15.9)	52.8 (52.5)	23.6 (24.1)	4.7 (4.5)	1.1 (1.0)	2.0 (2.0)
[7] 夏や冬の過ごしやすさ	6.9 (7.2)	44.0 (44.1)	31.3 (31.0)	13.8 (13.6)	2.4 (2.5)	1.5 (1.5)

身のまわりの環境の満足度について、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、「空気のきれいさ」78.7%が最も高く、次いで「景観の美しさ (まちなみ、田園風景、瀬戸内海など)」68.6%、「みどりの豊かさ (森林、公園など)」67.9%などとなっている。

図表 2-(1) 身のまわりの環境(満足度)



P319~P325 数表参照

(2)身のまわりの環境(重要度)

問6 あなたの身のまわりの環境 [1] ～ [7]、行政の環境への取り組み [8] ～ [17] に対する、満足度と重要度について、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

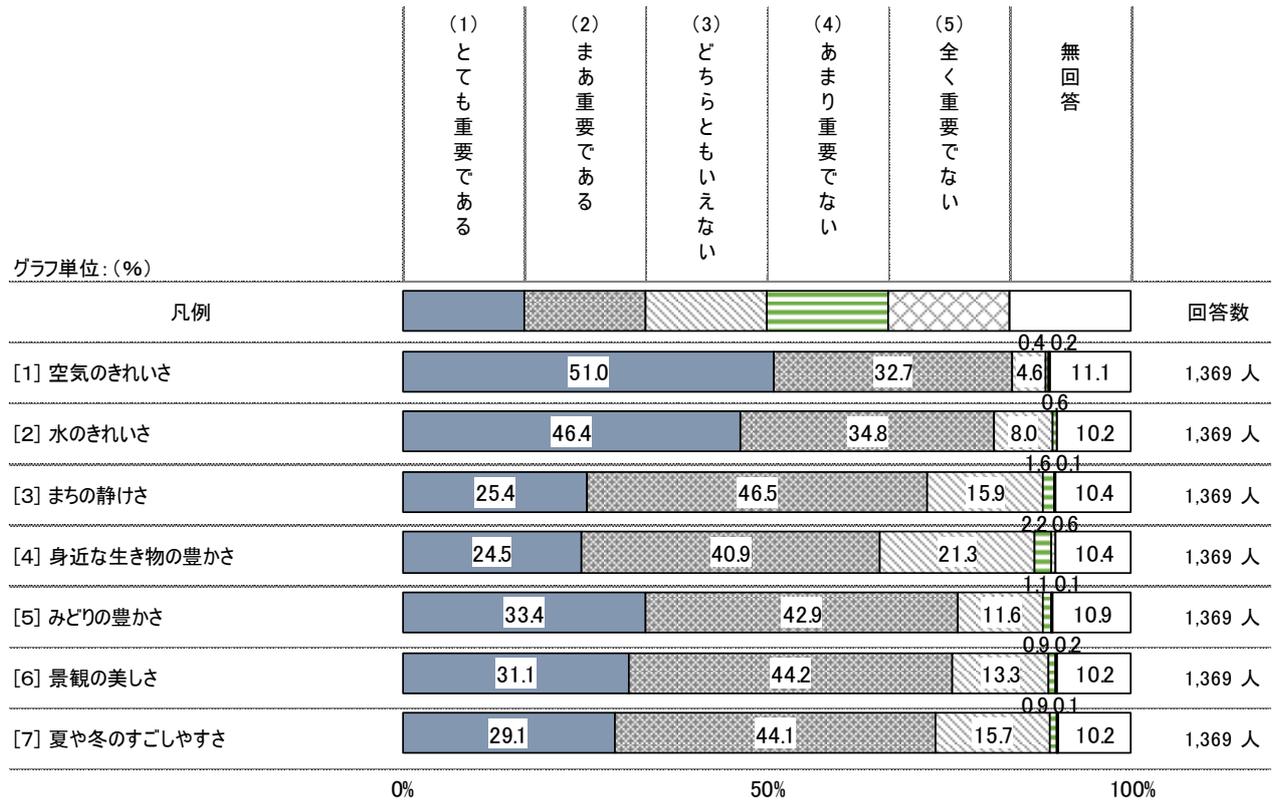
【回答者数=1,369】

(単位：%)

分野	重要度					無回答
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	
[1] 空気のきれいさ	51.0 (50.2)	32.7 (33.7)	4.6 (4.7)	0.4 (0.5)	0.2 (0.3)	11.1 (10.6)
[2] 水のきれいさ (川、ため池、海など)	46.4 (46.3)	34.8 (34.8)	8.0 (8.4)	0.6 (0.7)	0.0 (0.0)	10.2 (9.8)
[3] まちの静けさ	25.4 (26.0)	46.5 (45.9)	15.9 (16.3)	1.6 (1.7)	0.1 (0.2)	10.4 (10.0)
[4] 身近な生き物の豊かさ (野鳥、昆虫、魚など)	24.5 (24.2)	40.9 (40.4)	21.3 (22.4)	2.2 (2.4)	0.6 (0.7)	10.4 (10.0)
[5] みどりの豊かさ (森林、公園など)	33.4 (33.6)	42.9 (43.5)	11.6 (11.5)	1.1 (1.0)	0.1 (0.1)	10.9 (10.4)
[6] 景観の美しさ (まちなみ、田園風景、瀬戸内海など)	31.1 (31.1)	44.2 (44.5)	13.3 (13.4)	0.9 (1.1)	0.2 (0.2)	10.2 (9.7)
[7] 夏や冬の過ごしやすさ	29.1 (30.2)	44.1 (43.6)	15.7 (15.5)	0.9 (0.9)	0.1 (0.1)	10.2 (9.7)

身のまわりの環境の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「空気のきれいさ」83.7%が最も高く、次いで「水のきれいさ (川、ため池、海など)」81.2%、「みどりの豊かさ (森林、公園など)」76.3%などとなっている。

図表 2-(2) 身のまわりの環境(重要度)



P319~P325 数表参照

(3) 行政の環境への取り組み(満足度)

問6 あなたの身のまわりの環境 [1] ～ [7]、行政の環境への取り組み [8] ～ [17] に対する、＜満足度＞と＜重要度＞について、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

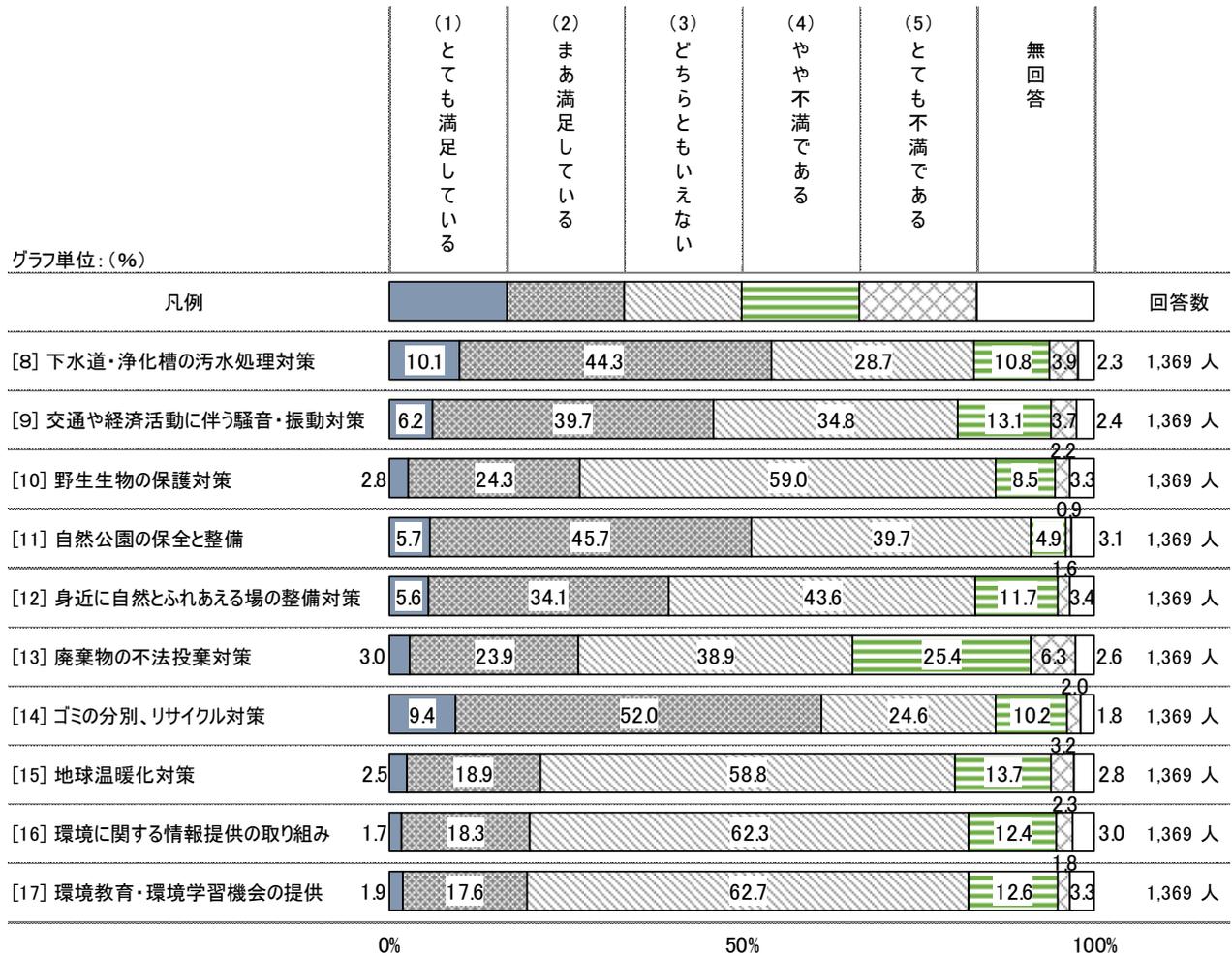
【回答者数=1,369】

(単位：%)

分野	満足度					
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答
[8] 下水道・浄化槽の汚水処理対策	10.1 (11.0)	44.3 (43.4)	28.7 (29.1)	10.8 (10.2)	3.9 (3.9)	2.3 (2.3)
[9] 交通や経済活動に伴う騒音・振動対策	6.2 (6.7)	39.7 (39.7)	34.8 (34.7)	13.1 (13.0)	3.7 (3.6)	2.4 (2.3)
[10] 野生生物の保護対策	2.8 (3.1)	24.3 (24.5)	59.0 (58.7)	8.5 (8.1)	2.2 (2.3)	3.3 (3.2)
[11] 自然公園(瀬戸内海国立公園など)の保全と整備	5.7 (6.2)	45.7 (45.5)	39.7 (39.5)	4.9 (4.9)	0.9 (0.9)	3.1 (3.0)
[12] 身近に自然とふれあえる場の整備対策	5.6 (6.1)	34.1 (34.4)	43.6 (42.9)	11.7 (12.0)	1.6 (1.5)	3.4 (3.2)
[13] 廃棄物の不法投棄対策	3.0 (3.4)	23.9 (24.6)	38.9 (38.8)	25.4 (24.5)	6.3 (6.2)	2.6 (2.5)
[14] ゴみの分別、リサイクル対策	9.4 (9.7)	52.0 (51.5)	24.6 (24.7)	10.2 (10.2)	2.0 (2.1)	1.8 (1.7)
[15] 地球温暖化対策(再生可能エネルギーの導入など)	2.5 (2.6)	18.9 (19.9)	58.8 (58.4)	13.7 (13.3)	3.2 (3.1)	2.8 (2.7)
[16] 環境に関する情報提供の取り組み	1.7 (2.1)	18.3 (18.4)	62.3 (62.1)	12.4 (12.0)	2.3 (2.5)	3.0 (2.9)
[17] 環境教育・環境学習機会の提供	1.9 (2.3)	17.6 (18.9)	62.7 (61.3)	12.6 (12.4)	1.8 (1.9)	3.3 (3.2)

行政の環境への取り組みの満足度について、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、「ゴミの分別、リサイクル対策」61.4%が最も高く、次いで「下水道・浄化槽の汚水処理対策」54.4%、「自然公園(瀬戸内海国立公園など)の保全と整備」51.4%などとなっている。

図表 2-(3) 行政の環境への取り組み(満足度)



P326~P335 数表参照

(4) 行政の環境への取り組み(重要度)

問6 あなたの身のまわりの環境 [1] ～ [7]、行政の環境への取り組み [8] ～ [17] に対する、満足度と重要度について、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

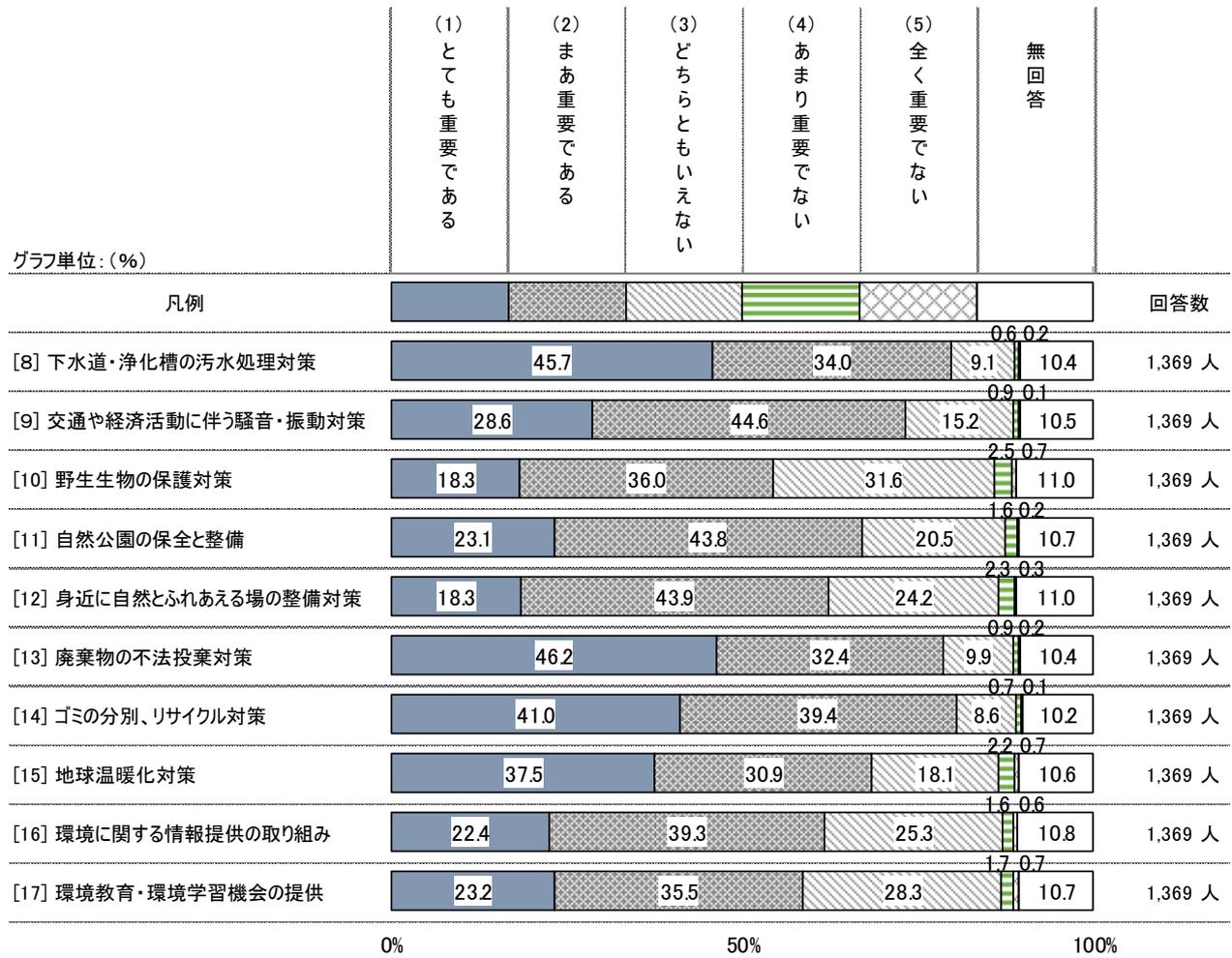
【回答者数=1,369】

(単位：%)

分野	重要度					
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答
[8] 下水道・浄化槽の汚水処理対策	45.7 (46.2)	34.0 (33.6)	9.1 (9.3)	0.6 (0.6)	0.2 (0.2)	10.4 (10.0)
[9] 交通や経済活動に伴う騒音・振動対策	28.6 (29.4)	44.6 (44.2)	15.2 (15.3)	0.9 (0.9)	0.1 (0.1)	10.5 (10.0)
[10] 野生生物の保護対策	18.3 (19.2)	36.0 (35.4)	31.6 (31.9)	2.5 (2.4)	0.7 (0.6)	11.0 (10.5)
[11] 自然公園（瀬戸内海国立公園など）の保全と整備	23.1 (23.4)	43.8 (43.3)	20.5 (21.3)	1.6 (1.5)	0.2 (0.2)	10.7 (10.2)
[12] 身近に自然とふれあえる場の整備対策	18.3 (18.5)	43.9 (44.0)	24.2 (24.4)	2.3 (2.4)	0.3 (0.3)	11.0 (10.4)
[13] 廃棄物の不法投棄対策	46.2 (46.5)	32.4 (32.6)	9.9 (9.9)	0.9 (0.8)	0.2 (0.2)	10.4 (10.0)
[14] ゴみの分別、リサイクル対策	41.0 (41.4)	39.4 (39.2)	8.6 (8.9)	0.7 (0.7)	0.1 (0.0)	10.2 (9.8)
[15] 地球温暖化対策（再生可能エネルギーの導入など）	37.5 (37.4)	30.9 (31.1)	18.1 (18.5)	2.2 (2.1)	0.7 (0.9)	10.6 (10.1)
[16] 環境に関する情報提供の取り組み	22.4 (22.3)	39.3 (39.9)	25.3 (25.1)	1.6 (1.7)	0.6 (0.7)	10.8 (10.3)
[17] 環境教育・環境学習機会の提供	23.2 (23.9)	35.5 (35.5)	28.3 (27.9)	1.7 (1.9)	0.7 (0.7)	10.7 (10.2)

行政の環境への取り組みの重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「ゴミの分別、リサイクル対策」80.4%が最も高く、次いで「下水道・浄化槽の汚水処理対策」79.7%、「廃棄物の不法投棄対策」78.6%などとなっている。

図表 2-(4) 行政の環境への取り組み(重要度)



P326～P335 数表参照

空気のきれいさの【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』、『女性』ともに79.3%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』2.7%、『女性』4.3%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『70歳以上』において、【満足している】の割合が84.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『主婦・主夫』において、【満足している】の割合が83.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『西讃圏域』において、【満足している】の割合が86.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『20年以上』において、【満足している】の割合が81.8%と最も高くなっている。

空気のきれいさの【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』80.0%、『女性』87.0%と、いずれも8割を超えている。

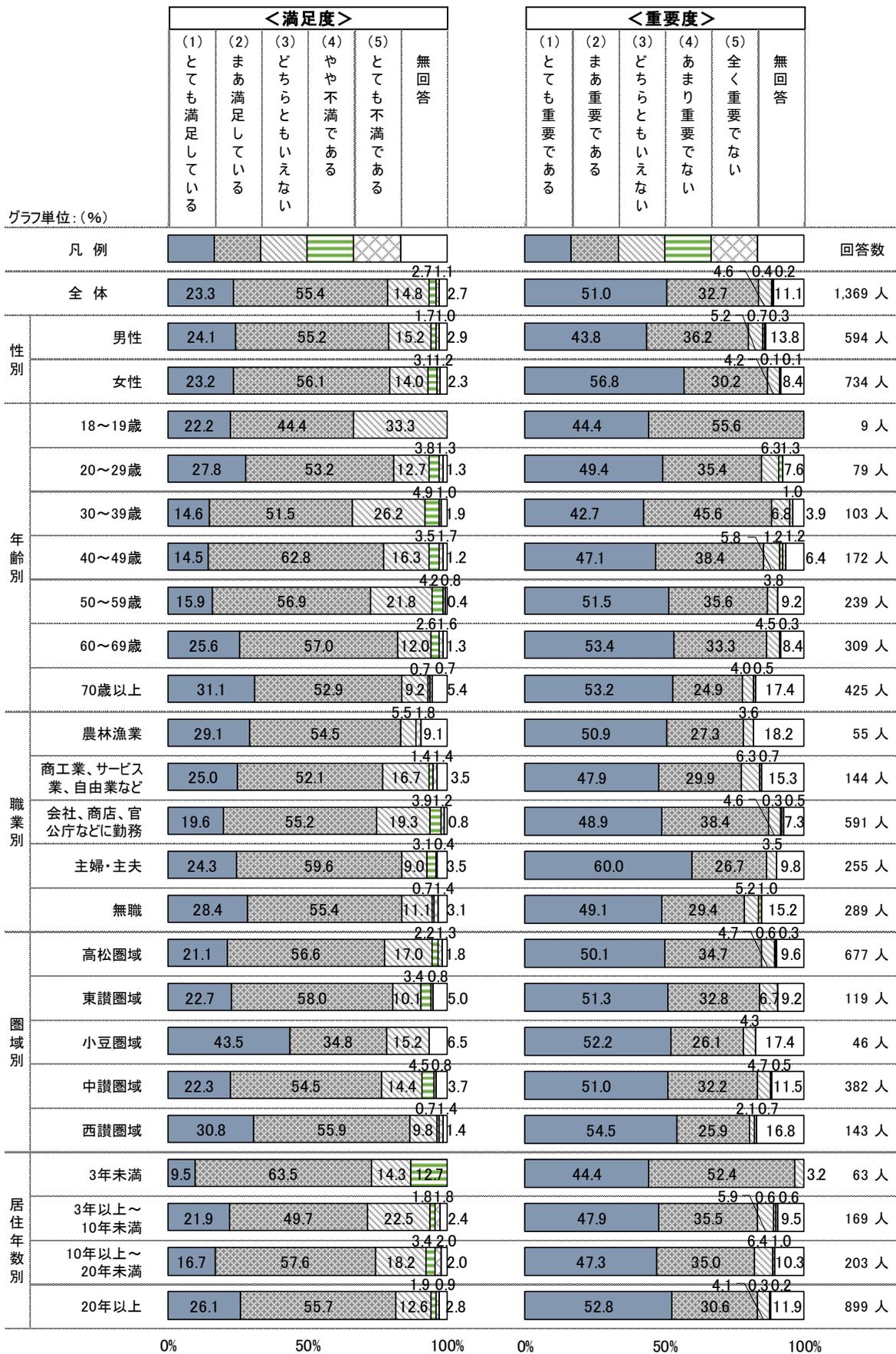
年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において87.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『高松圏域』において84.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年未満』において96.8%と最も高くなっている。

図表 2-(5)【空気のきれいさ】



水のきれいさ（川、ため池、海など）の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』42.6%、『女性』41.0%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』21.6%、『女性』20.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『20～29歳』を除く年代では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『70歳以上』において、【満足している】の割合が48.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『無職』において、【満足している】の割合が47.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『東讃圏域』において、【満足している】の割合が52.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『20年以上』において、【満足している】の割合が44.4%と最も高くなっている。

水のきれいさ（川、ため池、海など）の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』77.3%、『女性』84.4%と、いずれも7割を超えている。

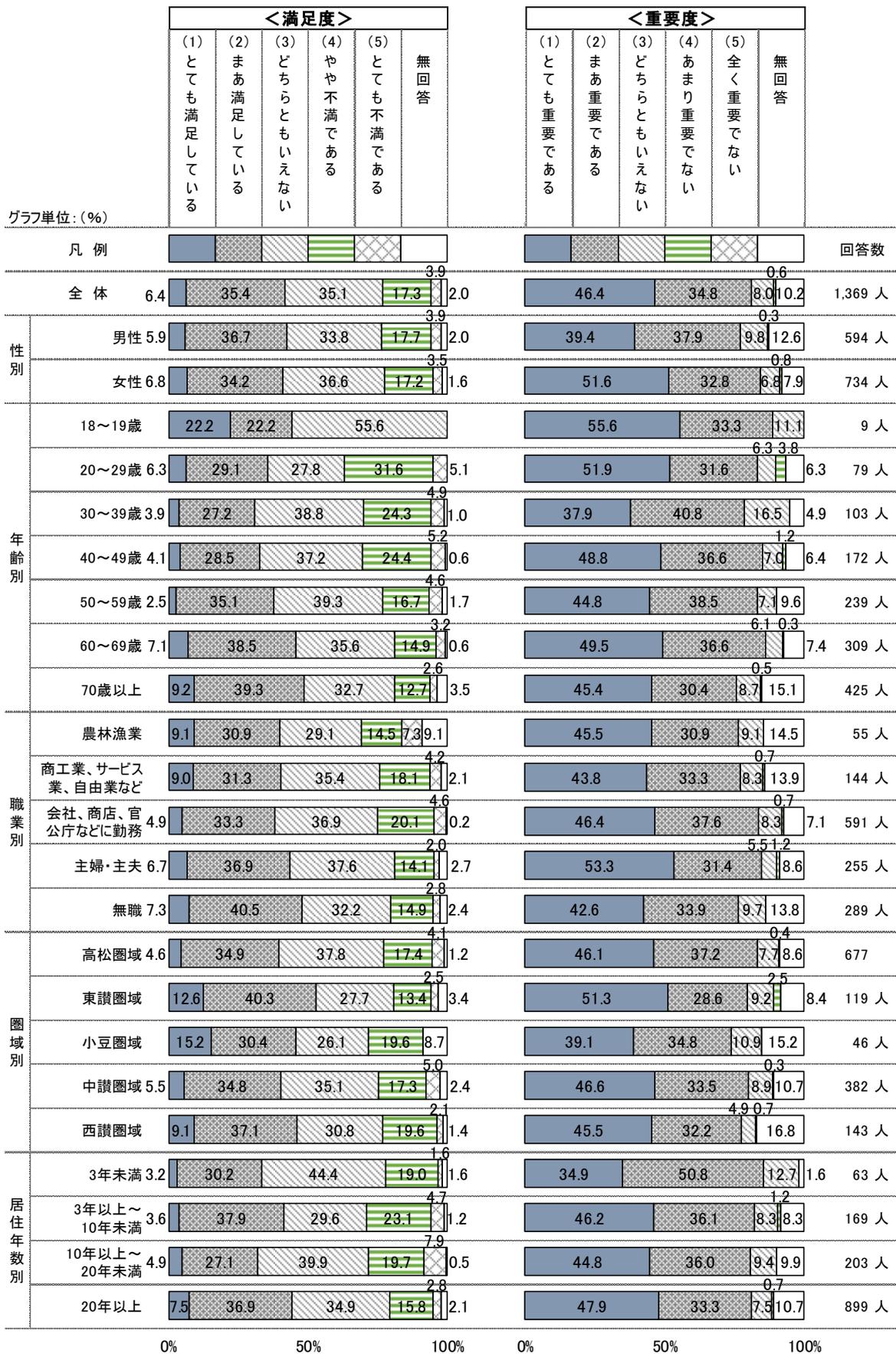
年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において88.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『主婦・主夫』において84.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『高松圏域』において83.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年未満』において85.7%と最も高くなっている。

図表 2-(6)【水のきれいさ】



まちの静けさの【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』66.5%、『女性』66.0%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』8.9%、『女性』9.8%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『70歳以上』において、【満足している】の割合が72.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『農林漁業』において、【満足している】の割合が76.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『小豆圏域』において、【満足している】の割合が80.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『20年以上』において、【満足している】の割合が67.9%と最も高くなっている。

まちの静けさの【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』69.2%、『女性』74.1%と、いずれも6割を超えている。

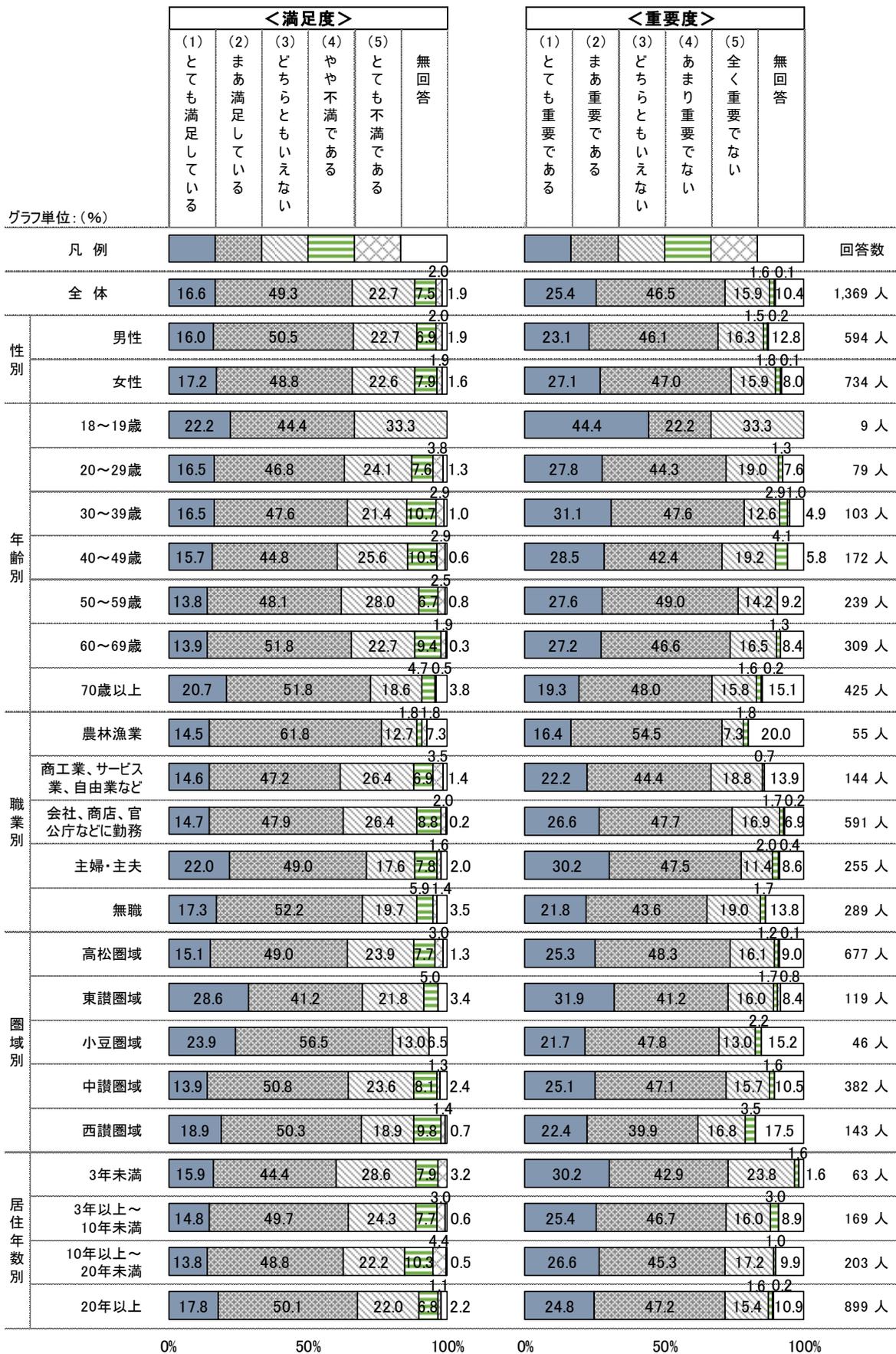
年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『30～39歳』において78.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『主婦・主夫』において77.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『高松圏域』において73.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年未満』において73.1%と最も高くなっている。

図表 2-(7)【まちの静けさ】



身近な生き物の豊かさ（野鳥、昆虫、魚など）の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』49.0%、『女性』53.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』12.2%、『女性』9.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『60～69歳』において、【満足している】の割合が53.4%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『農林漁業』において、【満足している】の割合が67.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『小豆圏域』において、【満足している】の割合が65.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『3年未満』において、【満足している】の割合が53.9%と最も高くなっている。

身近な生き物の豊かさ（野鳥、昆虫、魚など）の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』63.1%、『女性』68.2%と、いずれも6割を超えている。

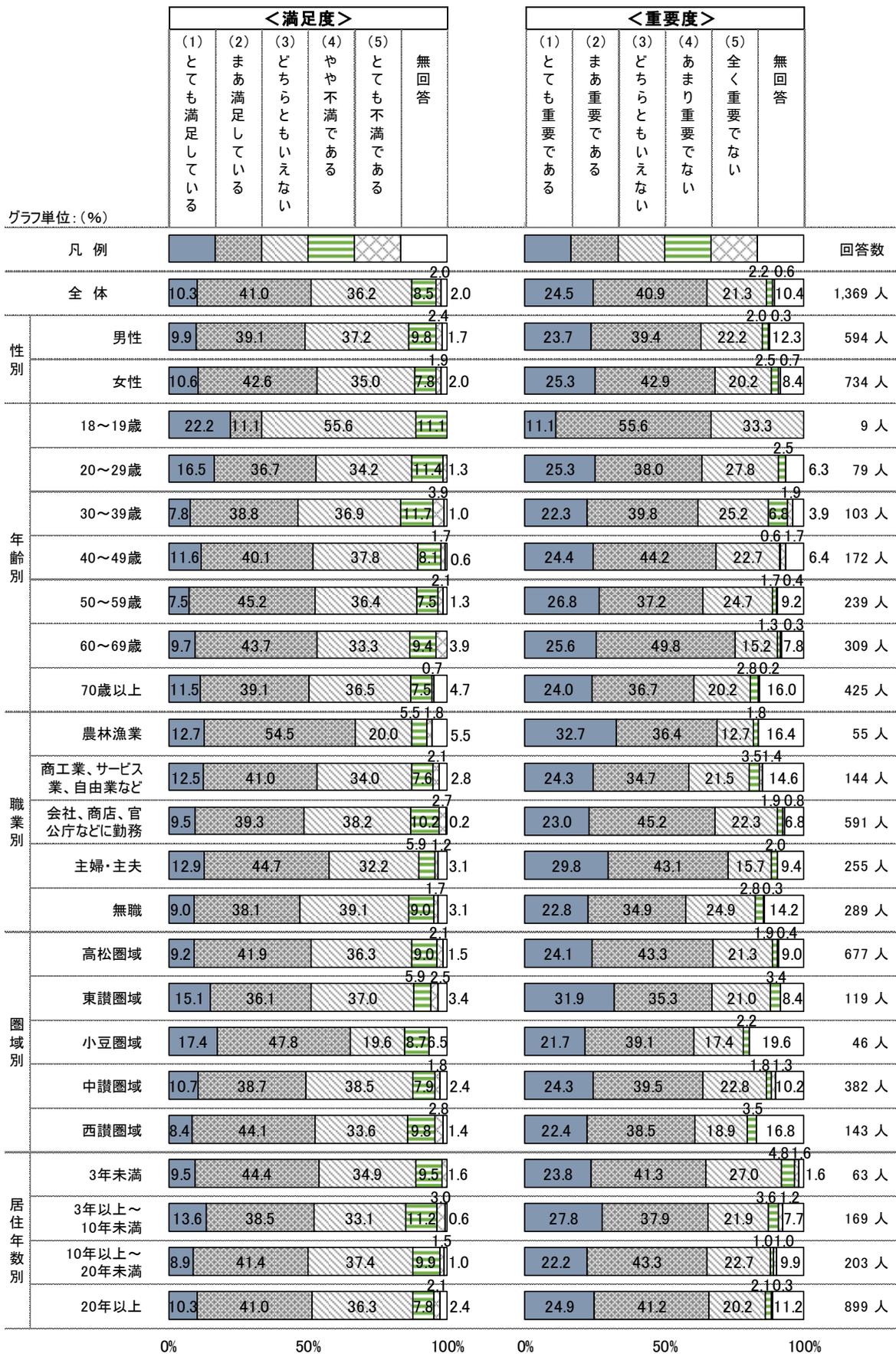
年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『60～69歳』において75.4%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『主婦・主夫』において72.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『高松圏域』において67.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『20年以上』において66.1%と最も高くなっている。

図表 2-(8)【身近な生き物の豊かさ】



みどりの豊かさ（森林、公園など）の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』69.2%、『女性』67.6%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』8.3%、『女性』9.5%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『20～29歳』において、【満足している】の割合が70.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『農林漁業』において、【満足している】の割合が80.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『小豆圏域』において、【満足している】の割合が76.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『20年以上』において、【満足している】の割合が69.6%と最も高くなっている。

みどりの豊かさ（森林、公園など）の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』73.4%、『女性』78.8%と、いずれも7割を超えている。

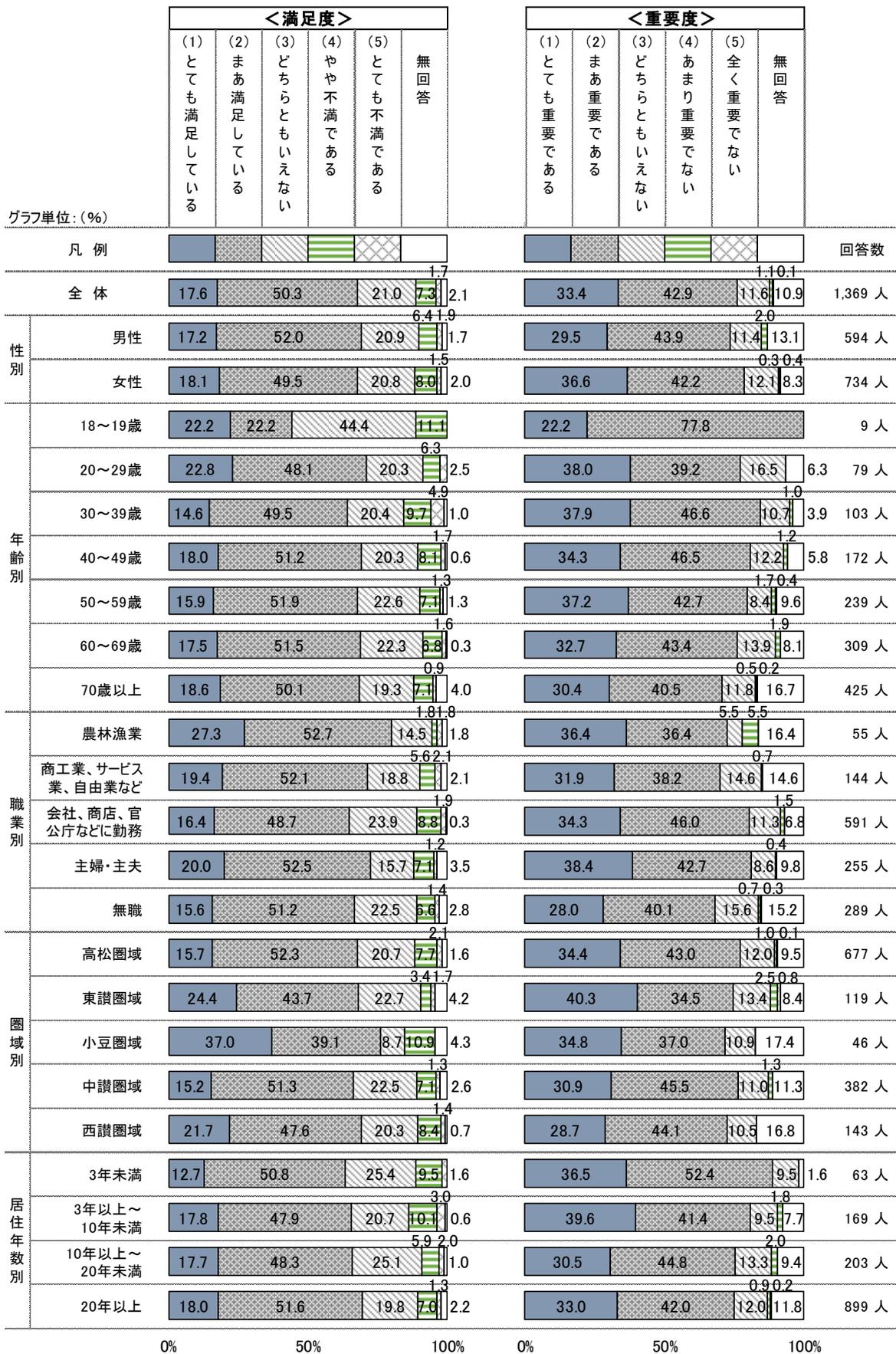
年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『主婦・主夫』において81.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『高松圏域』において77.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年未満』において88.9%と最も高くなっている。

図表 2-(9)【みどりの豊かさ】



景観の美しさ（まちなみ、田園風景、瀬戸内海など）の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』68.0%、『女性』69.9%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』5.9%、『女性』5.8%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『18～19歳』において、【満足している】の割合が77.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『農林漁業』において、【満足している】の割合が83.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『小豆圏域』において、【満足している】の割合が84.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『20年以上』において、【満足している】の割合が69.6%と最も高くなっている。

景観の美しさ（まちなみ、田園風景、瀬戸内海など）の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』71.4%、『女性』78.9%と、いずれも7割を超えている。

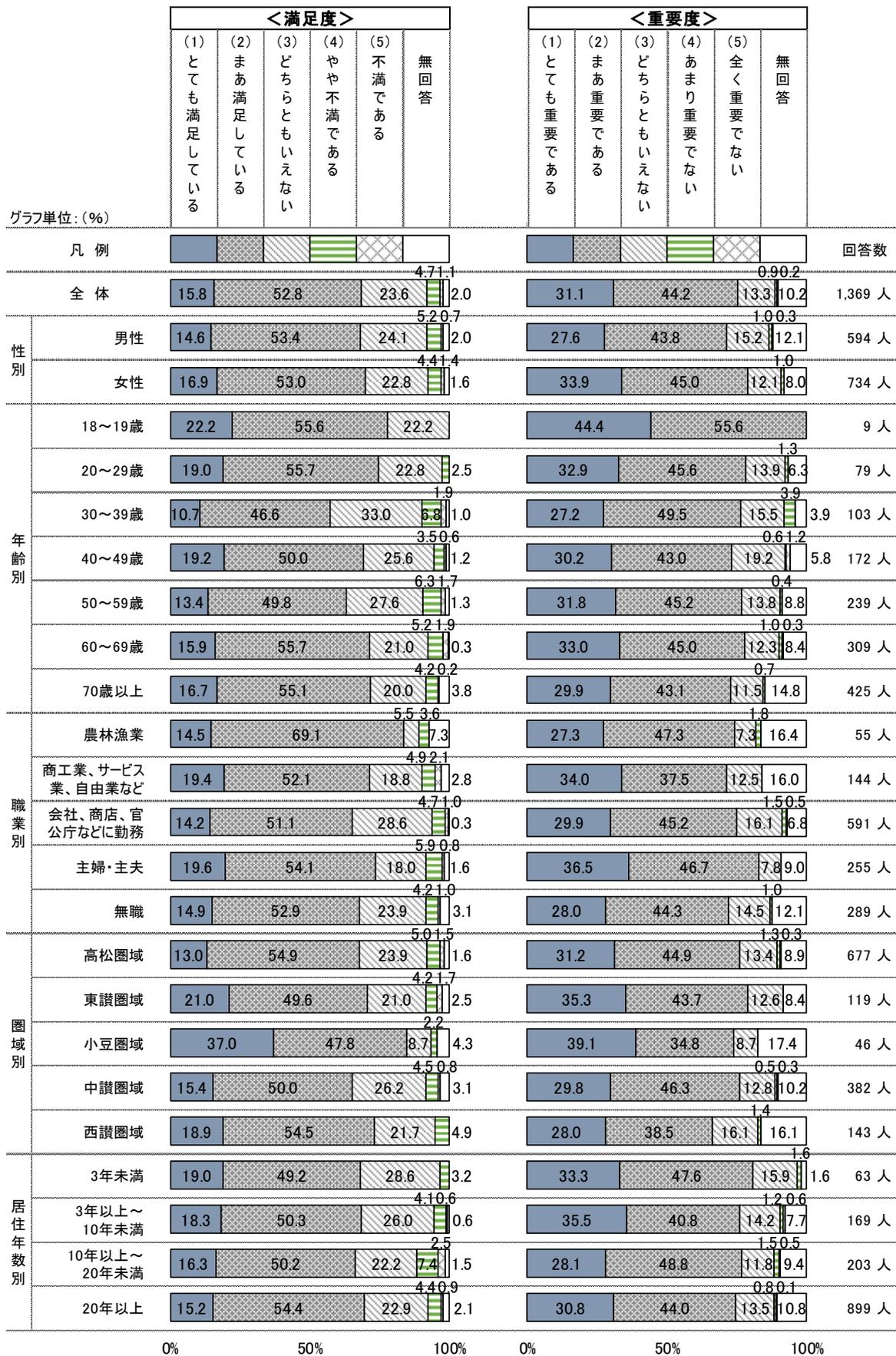
年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『主婦・主夫』において83.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『東讃圏域』において79.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年未満』において80.9%と最も高くなっている。

図表 2-(10)【景観の美しさ】



夏や冬のすごしやすさの【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』54.4%、『女性』48.5%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』14.1%、『女性』18.2%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『18～19歳』において、【満足している】の割合が66.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『農林漁業』において、【満足している】の割合が65.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『小豆圏域』において、【満足している】の割合が63.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『3年以上～10年未満』において、【満足している】の割合が55.0%と最も高くなっている。

夏や冬のすごしやすさの【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』68.5%、『女性』77.5%と、いずれも6割を超えている。

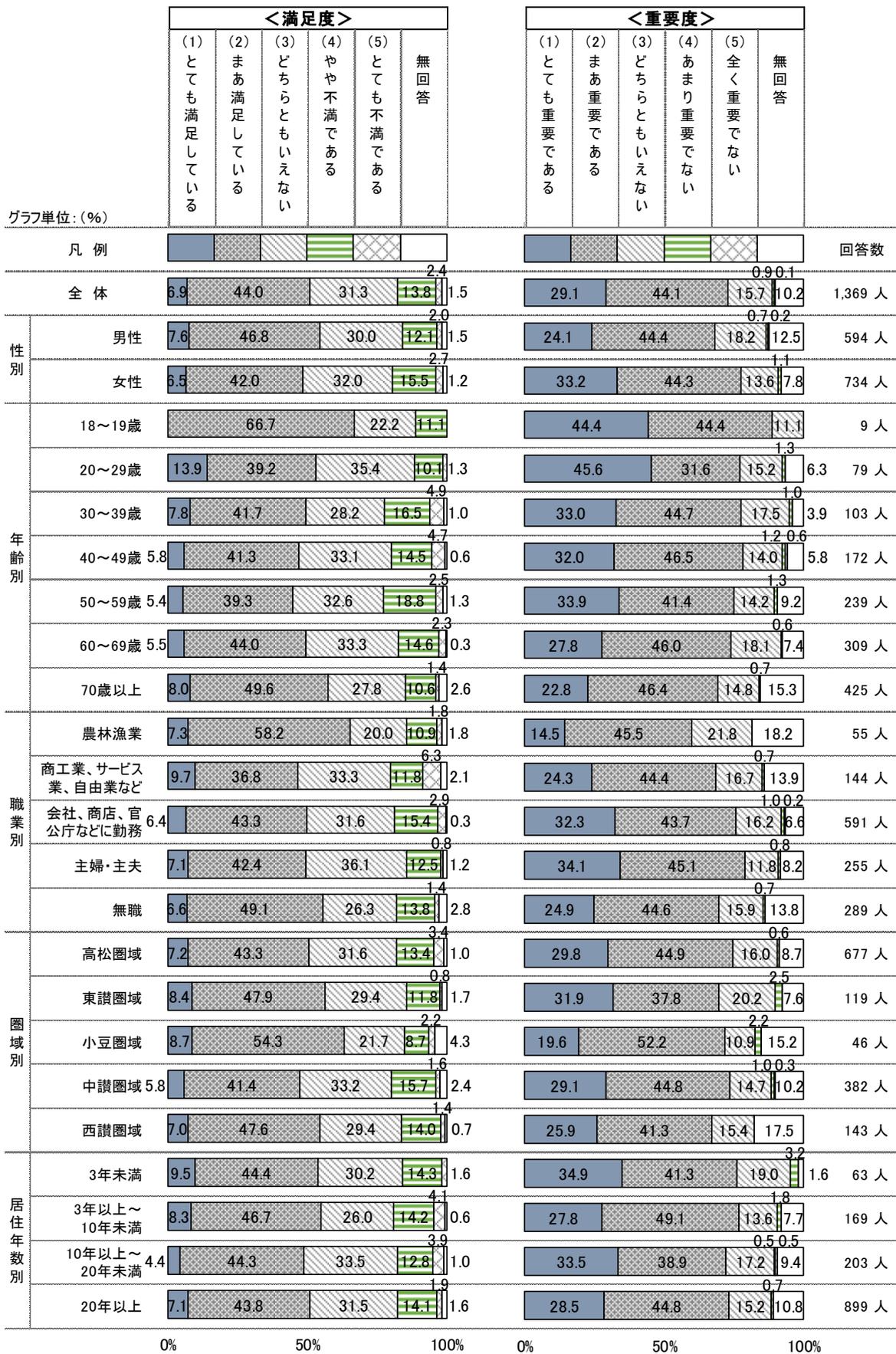
年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『18～19歳』において88.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『主婦・主夫』において79.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『高松圏域』において74.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年以上～10年未満』において76.9%と最も高くなっている。

図表 2-(11)【夏や冬の過ごしやすさ】



下水道・浄化槽の汚水処理対策の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』53.0%、『女性』55.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』15.8%、『女性』13.6%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『20～29歳』において、【満足している】の割合が64.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『主婦・主夫』において、【満足している】の割合が58.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『高松圏域』において、【満足している】の割合が56.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『10年以上～20年未満』において、【満足している】の割合が55.2%と最も高くなっている。

下水道・浄化槽の汚水処理対策の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』76.6%、『女性』82.8%と、いずれも7割を超えている。

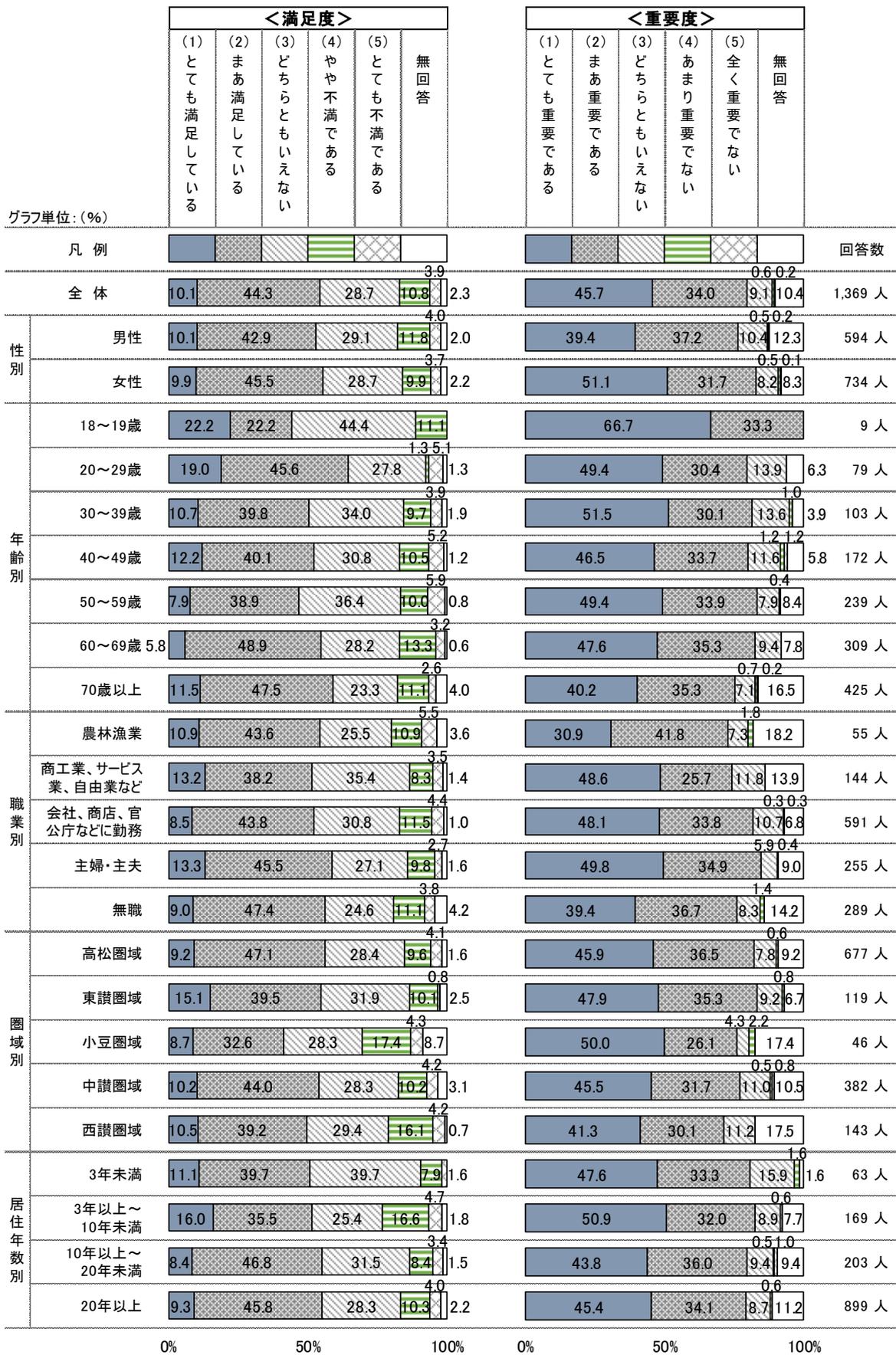
年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『主婦・主夫』において84.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『東讃圏域』において83.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年以上～10年未満』において82.9%と最も高くなっている。

図表 2-(12)【下水道・浄化槽の汚水処理対策】



交通や経済活動に伴う騒音・振動対策の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』44.3%、『女性』48.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』15.0%、『女性』18.1%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『20～29歳』において、【満足している】の割合が53.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『主婦・主夫』において、【満足している】の割合が51.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『中讃圏域』において、【満足している】の割合が49.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『3年未満』において、【満足している】の割合が49.2%と最も高くなっている。

交通や経済活動に伴う騒音・振動対策の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』68.7%、『女性』77.5%と、いずれも6割を超えている。

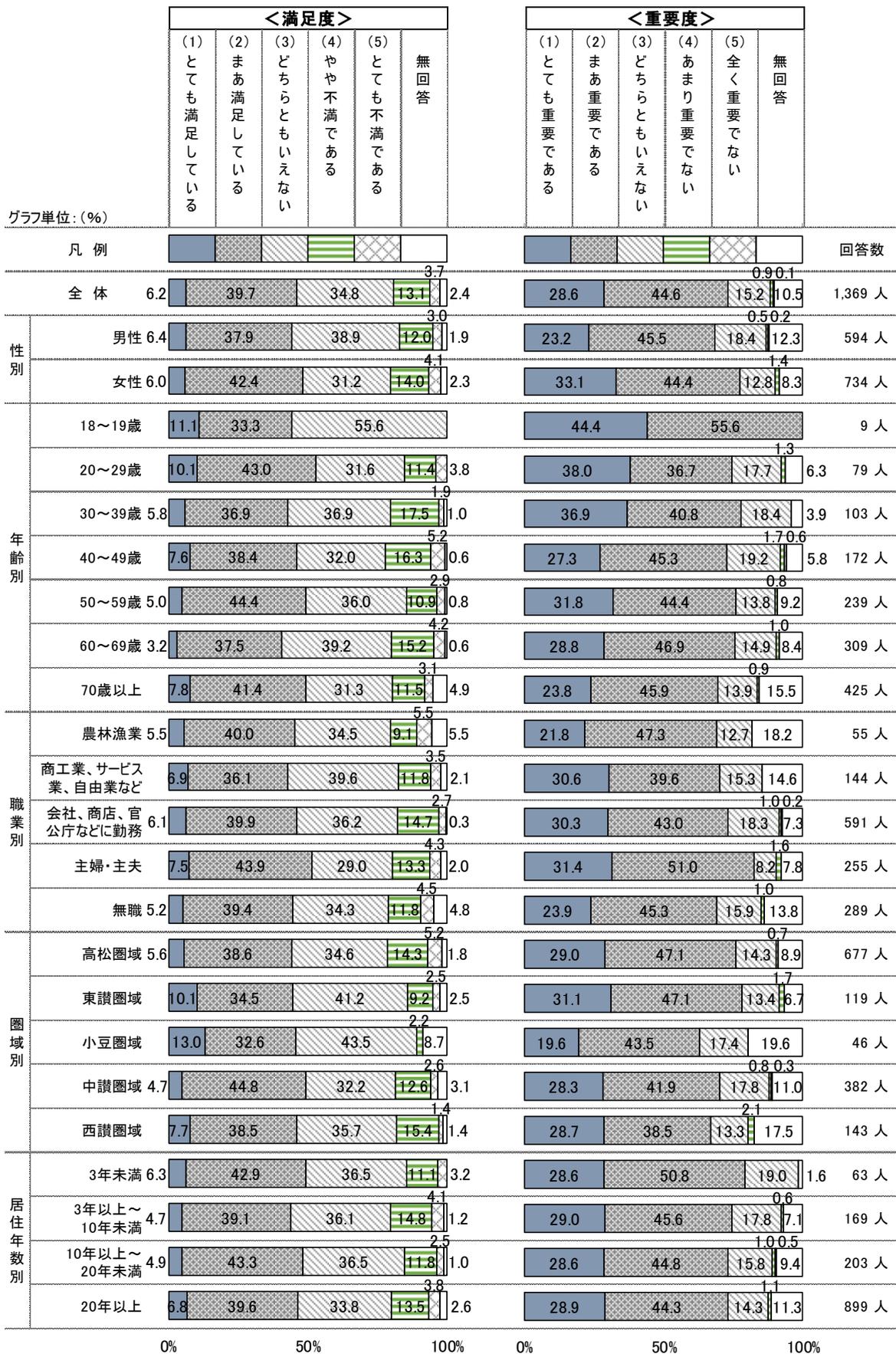
年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『主婦・主夫』において82.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『東讃圏域』において78.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年未満』において79.4%と最も高くなっている。

図表 2-(13)【交通や経済活動に伴う騒音・振動対策】



野生生物の保護対策の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』26.8%、『女性』27.3%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』、『女性』ともに10.8%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『18～19歳』において、【満足している】の割合が33.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『農林漁業』において、【満足している】の割合が34.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『西讃圏域』において、【満足している】の割合が33.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『3年未満』において、【満足している】の割合が39.7%と最も高くなっている。

野生生物の保護対策の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』50.4%、『女性』58.3%と、いずれも5割を超えている。

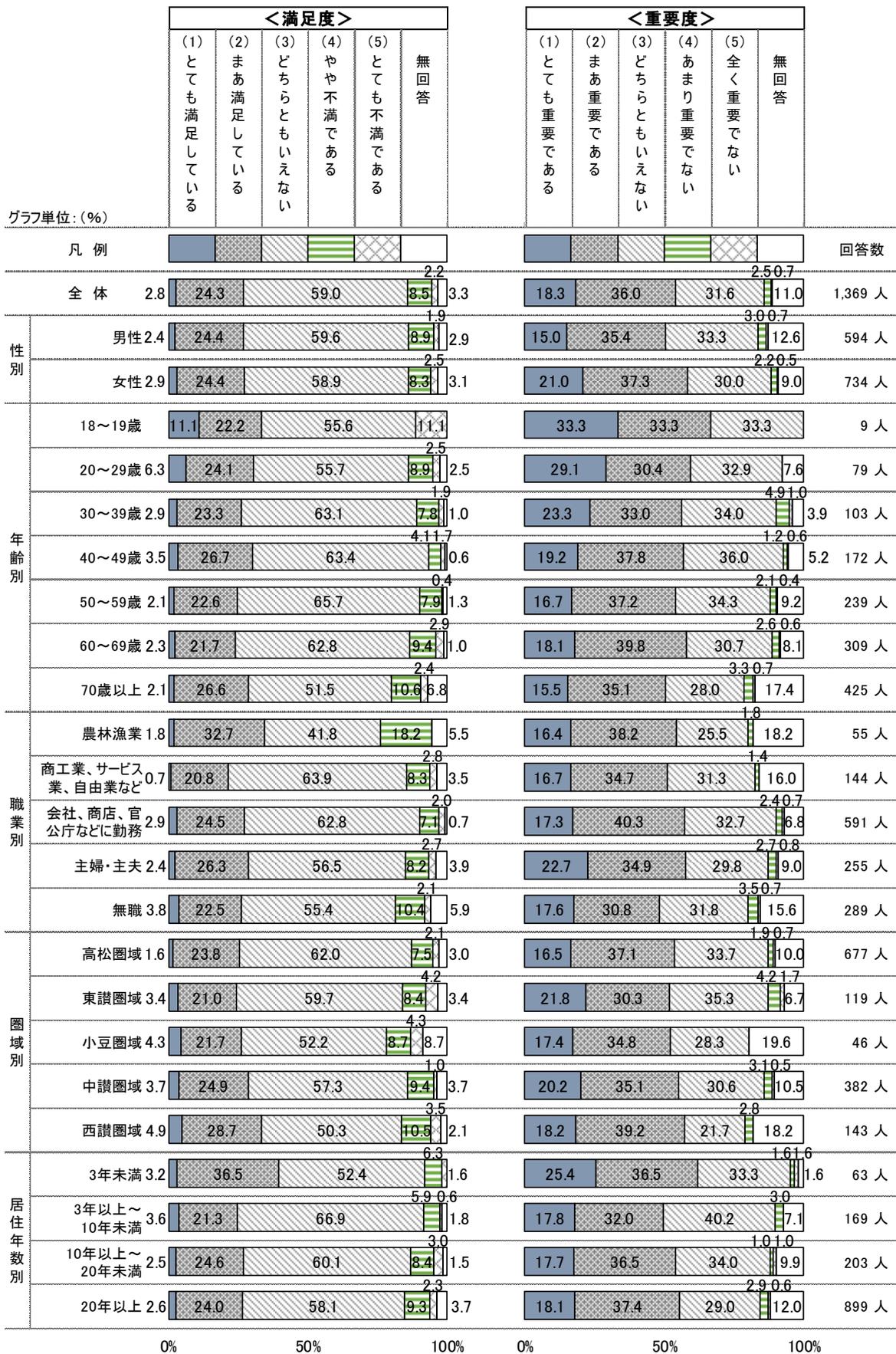
年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『18～19歳』において66.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』において同率の57.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『西讃圏域』において57.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『3年未満』において61.9%と最も高くなっている。

図表 2-(14)【野生動物の保護対策】



自然公園（瀬戸内海国立公園など）の保全と整備の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』48.5%、『女性』54.3%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』7.4%、『女性』4.1%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『20～29歳』において、【満足している】の割合が60.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『主婦・主夫』において、【満足している】の割合が56.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『西讃圏域』において、【満足している】の割合が55.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『10年以上～20年未満』において、【満足している】の割合が52.7%と最も高くなっている。

自然公園（瀬戸内海国立公園など）の保全と整備の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』64.1%、『女性』69.9%と、いずれも6割を超えている。

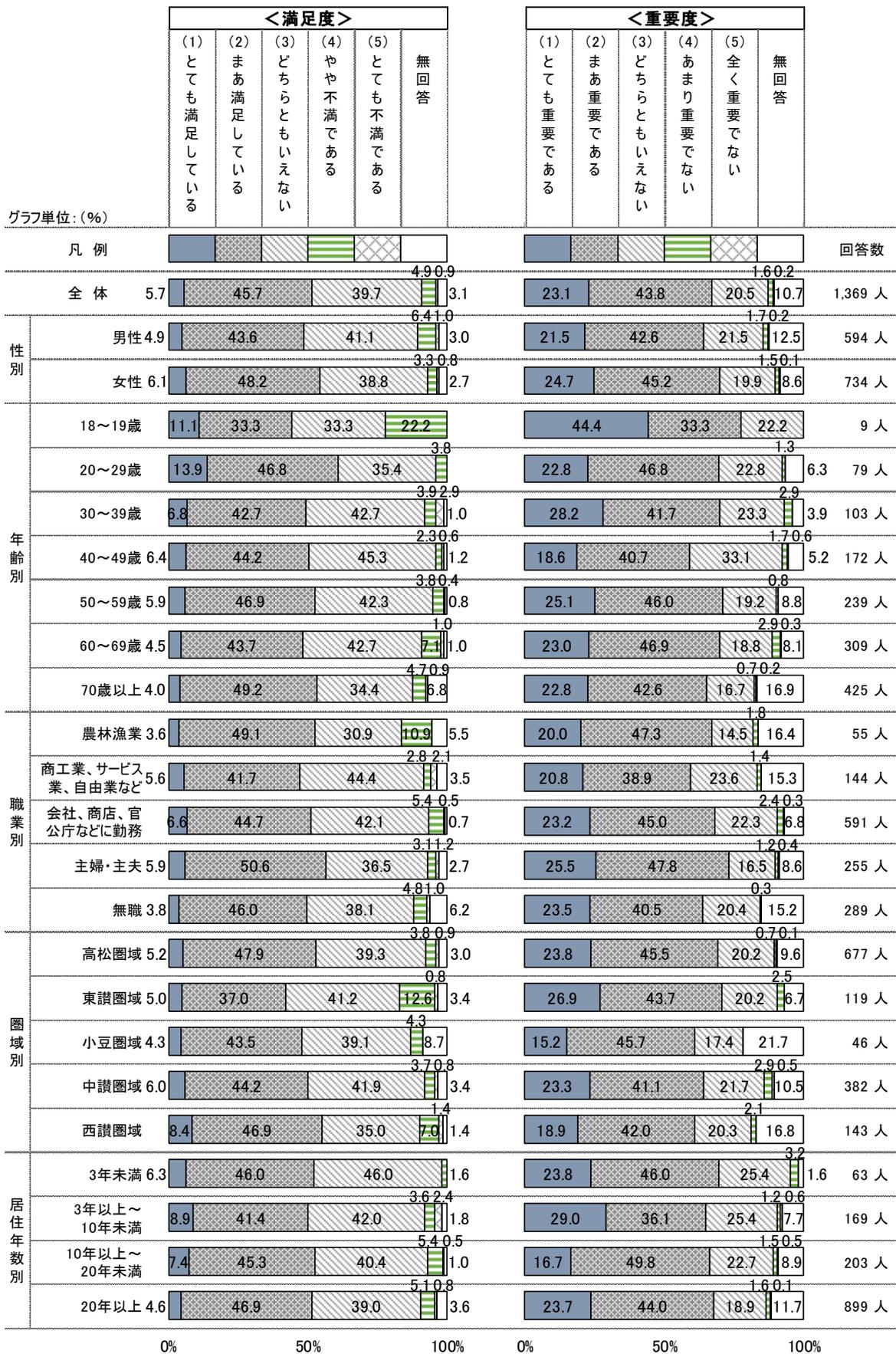
年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『18～19歳』において77.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『主婦・主夫』において73.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『東讃圏域』において70.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年未満』において69.8%と最も高くなっている。

図表 2-(15)【自然公園の保全と整備】



身近に自然とふれあえる場の整備対策の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』38.5%、『女性』41.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』13.0%、『女性』13.3%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『20～29歳』において、【満足している】の割合が49.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『農林漁業』において、【満足している】の割合が43.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『中讃圏域』において、【満足している】の割合が44.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『3年未満』において、【満足している】の割合が42.8%と最も高くなっている。

身近に自然とふれあえる場の整備対策の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』59.1%、『女性』65.5%と、いずれも5割を超えている。

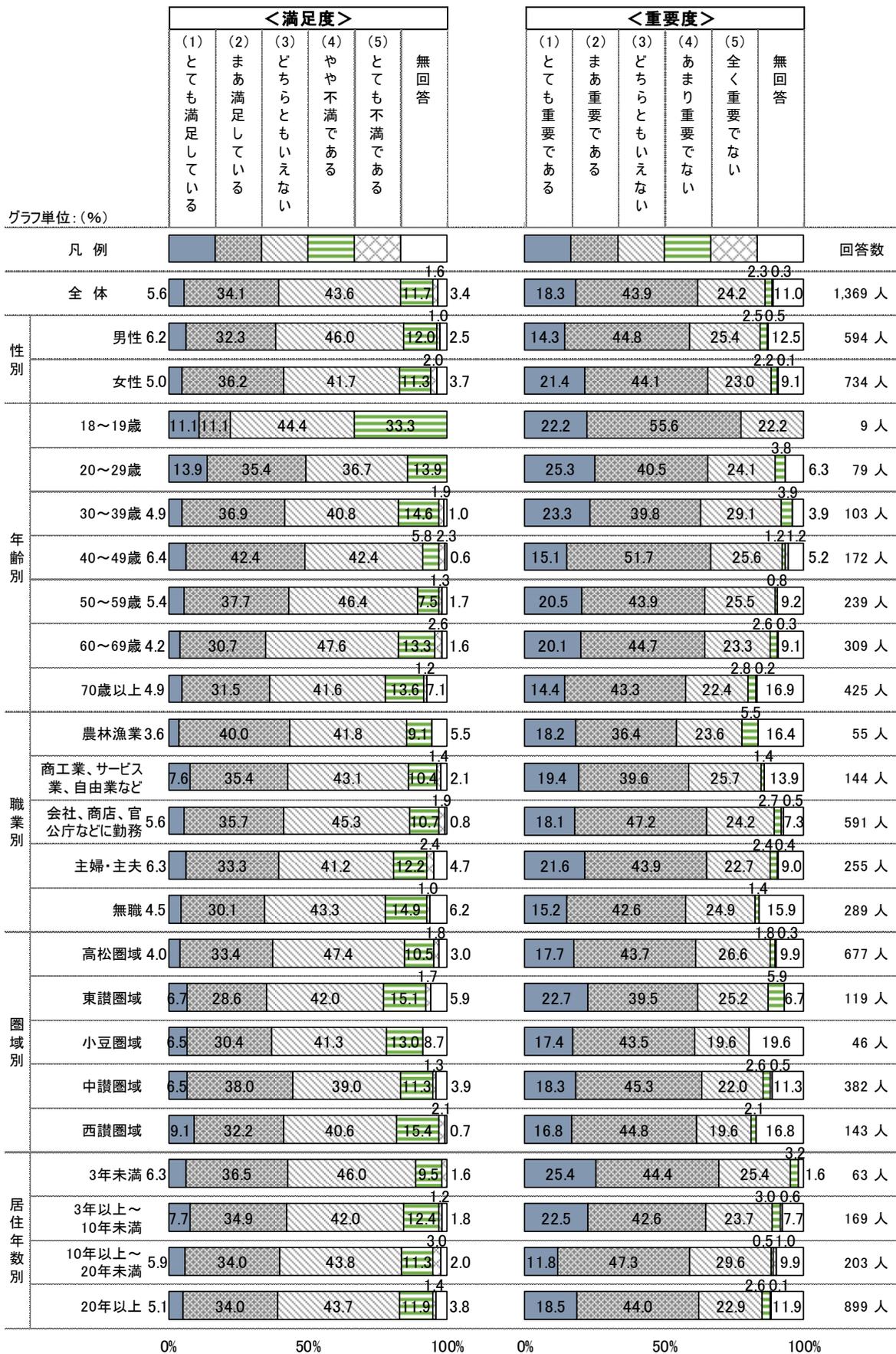
年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『18～19歳』において77.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『主婦・主夫』において65.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『中讃圏域』において63.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『3年未満』において69.8%と最も高くなっている。

図表 2-(16)【身近に自然とふれあえる場の整備対策】



廃棄物の不法投棄対策の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』24.0%、『女性』29.6%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』35.3%、『女性』28.2%となっており、『男性』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、『女性』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『18～19歳』において、【満足している】の割合が44.4%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、『農林漁業』において、【不満である】の割合が54.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『中讃圏域』を除くすべての圏域で【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、『西讃圏域』において、【不満である】の割合が42.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』を除くすべての居住年数で【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、『3年以上～10年未満』において、【不満である】の割合が36.1%と最も高くなっている。

廃棄物の不法投棄対策の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』75.4%、『女性』82.0%と、いずれも7割を超えている。

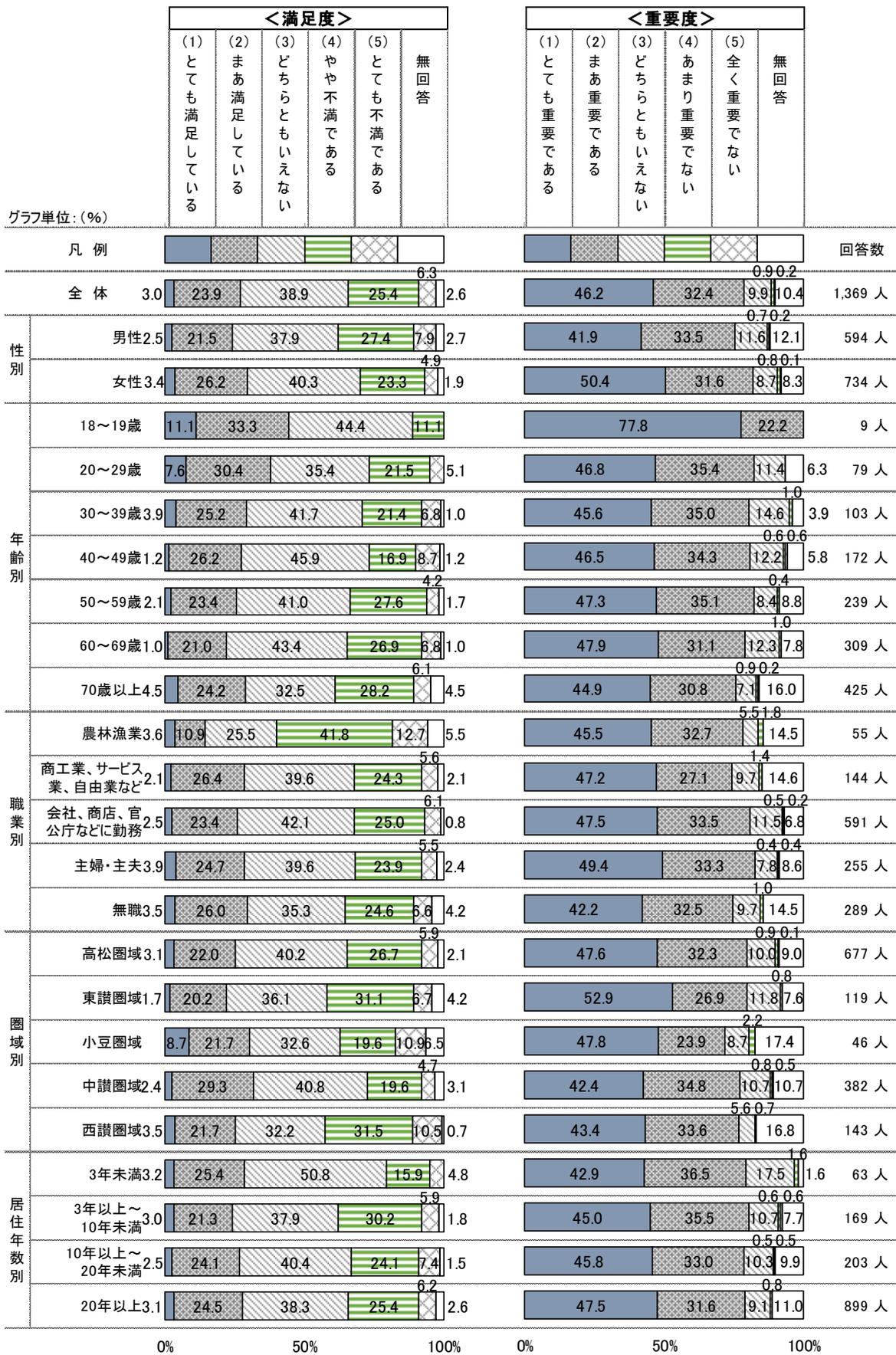
年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『主婦・主夫』において82.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『高松圏域』において79.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年以上～10年未満』において80.5%と最も高くなっている。

図表 2-(17)【廃棄物の不法投棄対策】



ゴミの分別、リサイクル対策の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』59.6%、『女性』63.3%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』12.7%、『女性』11.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『70歳以上』において、【満足している】の割合が68.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『主婦・主夫』において、【満足している】の割合が69.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『中讃圏域』において、【満足している】の割合が66.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『20年以上』において、【満足している】の割合が62.3%と最も高くなっている。

ゴミの分別、リサイクル対策の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』75.9%、『女性』84.4%と、いずれも7割を超えている。

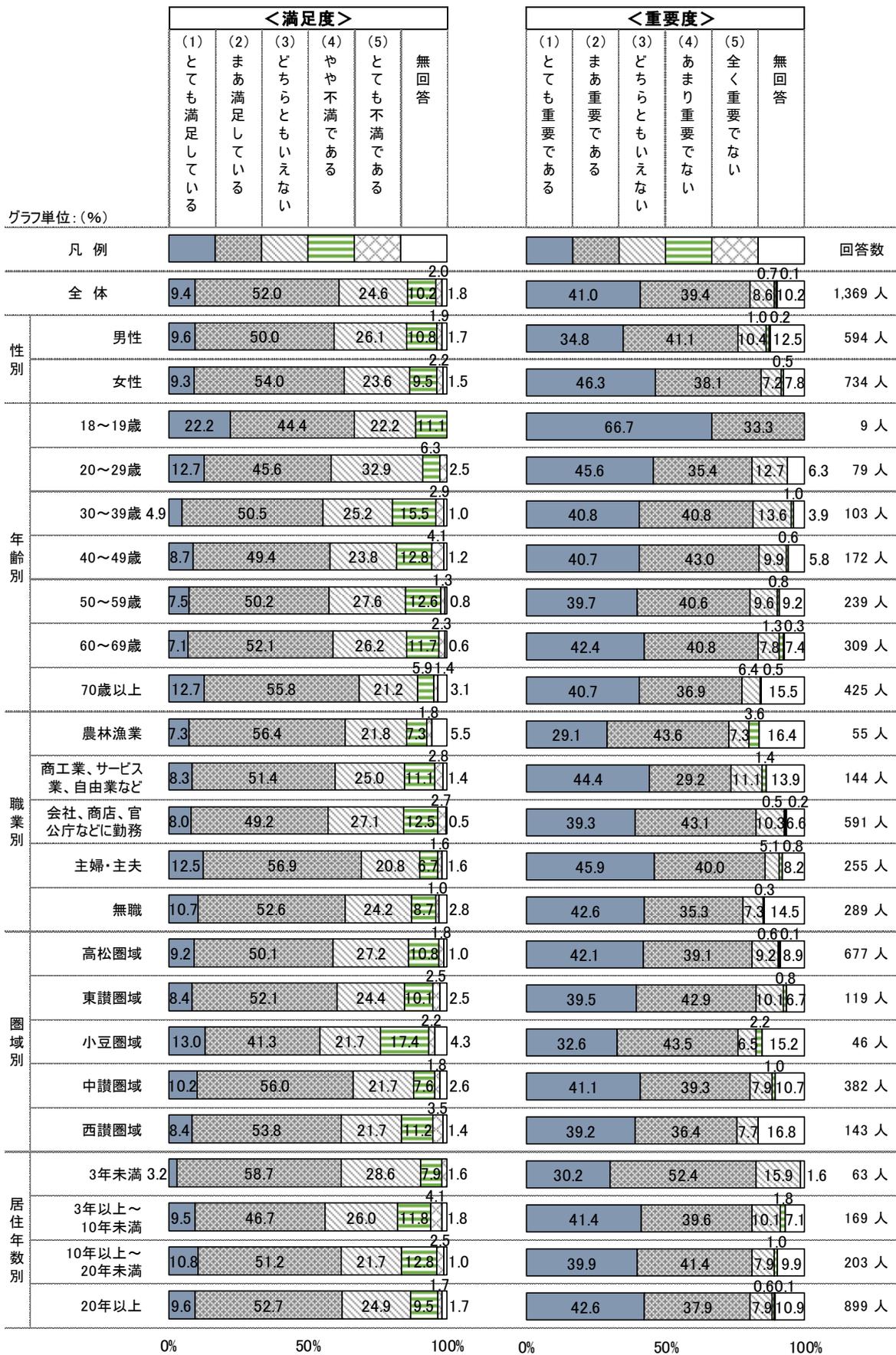
年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『主婦・主夫』において85.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『東讃圏域』において82.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年未満』において82.6%と最も高くなっている。

図表 2-(18)【ゴミの分別、リサイクル対策】



地球温暖化対策（再生可能エネルギーの導入など）の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』22.1%、『女性』21.1%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』19.4%、『女性』15.0%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『60～69歳』を除くすべての年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『18～19歳』において、【満足している】の割合が44.4%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業』を除く職業では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『主婦・主夫』において、【満足している】の割合が21.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】を上回っており、『西讃圏域』において、【満足している】の割合が23.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『3年未満』において、【満足している】の割合が27.0%と最も高くなっている。

地球温暖化対策（再生可能エネルギーの導入など）の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』63.3%、『女性』72.8%と、いずれも6割を超えている。

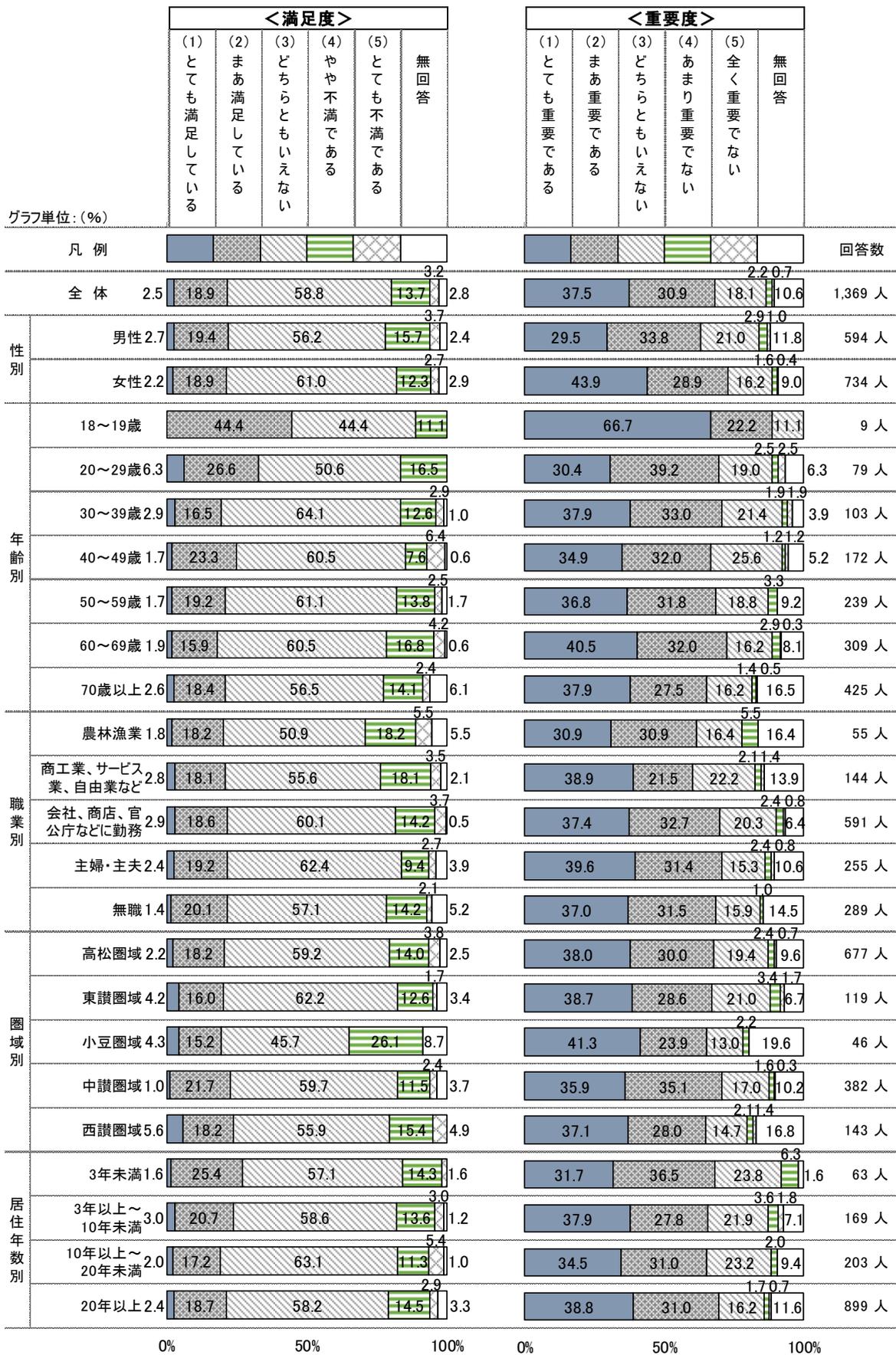
年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『18～19歳』において88.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『主婦・主夫』において71.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『中讃圏域』において71.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『20年以上』において69.8%と最も高くなっている。

図表 2-(19)【地球温暖化対策】



環境に関する情報提供の取り組みの【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』20.0%、『女性』19.8%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』17.7%、『女性』12.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『30～39歳』、『60～69歳』を除くすべての年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『20～29歳』において、【満足している】の割合が34.2%と最も高くなっている

職業別にみると、『農林漁業』を除く職業では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『主婦・主夫』において、【満足している】の割合が21.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『西讃圏域』において、【満足している】と【不満である】の割合が同率の21.0%で、『西讃圏域』を除くすべての圏域では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『中讃圏域』において、【満足している】の割合が22.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』を除く居住年数では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『3年未満』において、【満足している】の割合が22.2%と最も高くなっている。

環境に関する情報提供の取り組みの【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』57.7%、『女性』65.2%と、いずれも5割を超えている。

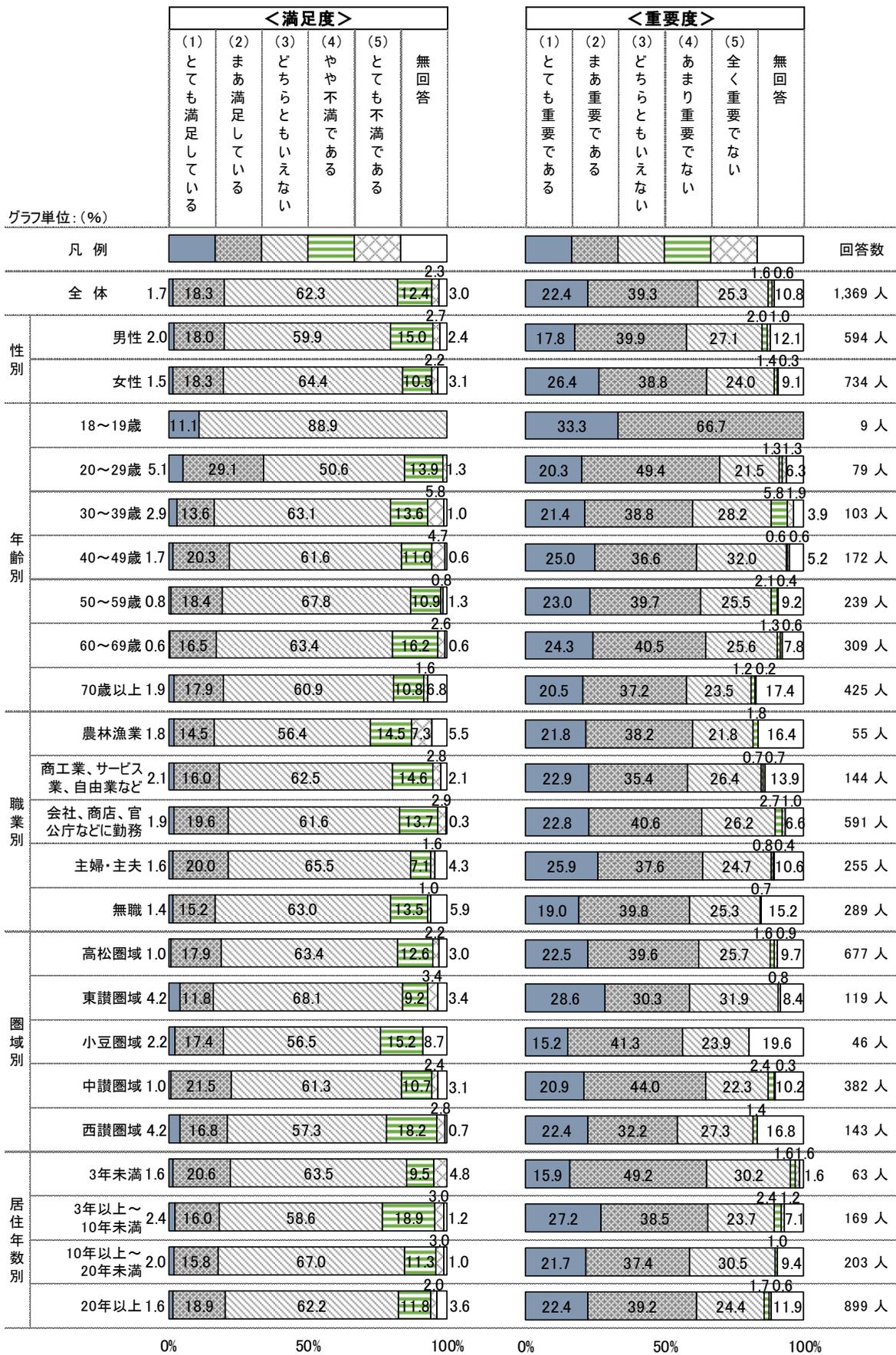
年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『主婦・主夫』において63.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『中讃圏域』において64.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『3年以上～10年未満』において65.7%と最も高くなっている。

図表 2-(20)【環境に関する情報提供の取り組み】



環境教育・環境学習機会の提供の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』18.8%、『女性』20.0%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』16.3%、『女性』13.1%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『30～39歳』において、【満足している】と【不満である】の割合が同率の19.4%で、『60～69歳』を除くすべての年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『18～19歳』において、【満足している】の割合が55.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』を除く職業では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『商工業、サービス業、自由業など』において、【満足している】の割合が20.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『西讃圏域』において、【満足している】の割合が23.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『3年未満』において、【満足している】の割合が23.8%と最も高くなっている。

環境教育・環境学習機会の提供の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』54.8%、『女性』62.0%と、いずれも5割を超えている。

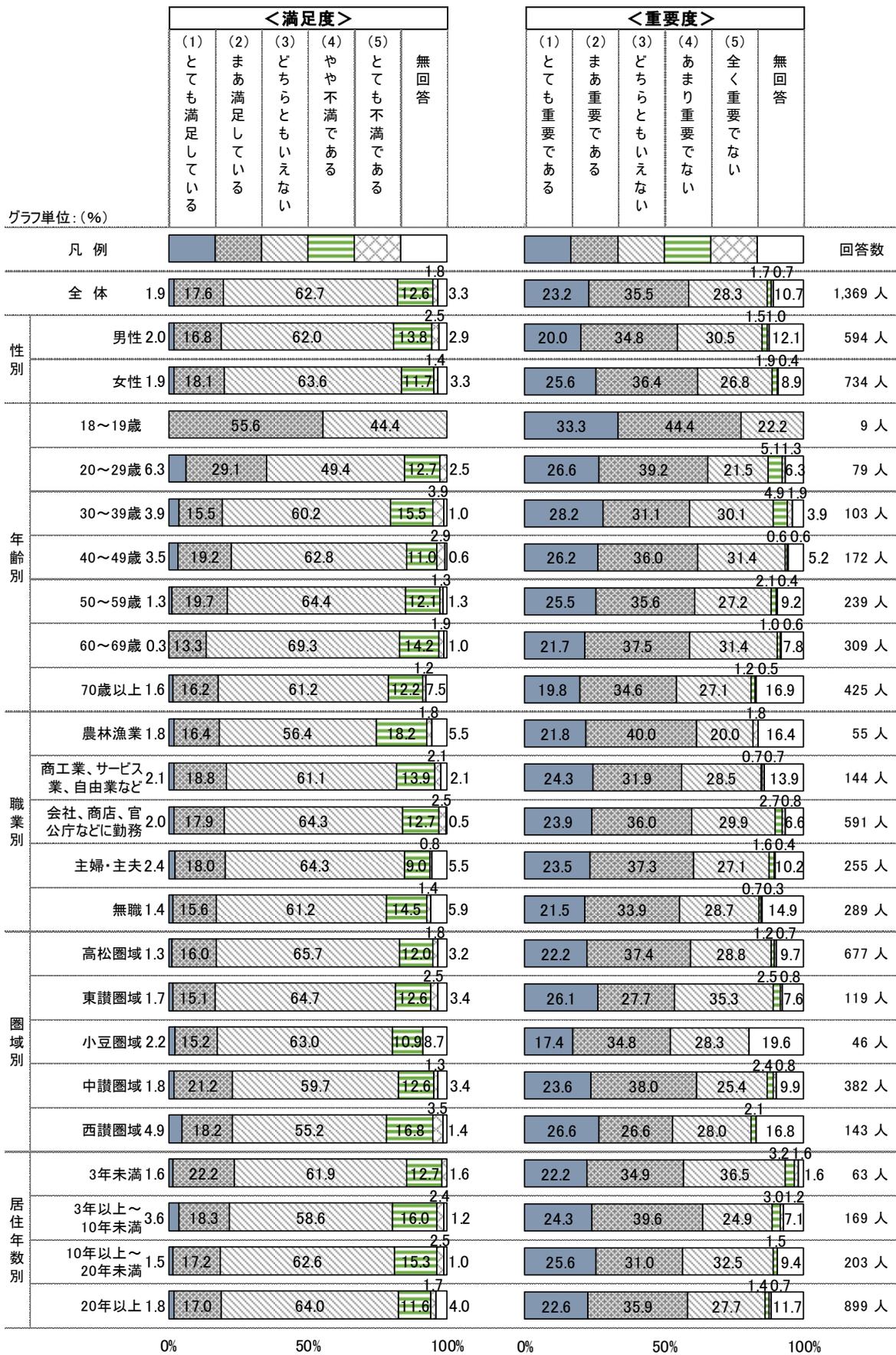
年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『18～19歳』において77.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『農林漁業』において61.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『中讃圏域』において61.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『3年以上～10年未満』において63.9%と最も高くなっている。

図表 2-(21)【環境教育・環境学習機会の提供】



(5) 日常生活における環境に優しい行動について

問7 あなたは日常生活の中で、どの程度、環境に優しい行動をしていますか。次の [1] ~ [13] の行動への取り組み状況について、それぞれ 1~4のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値  
(単位：%)

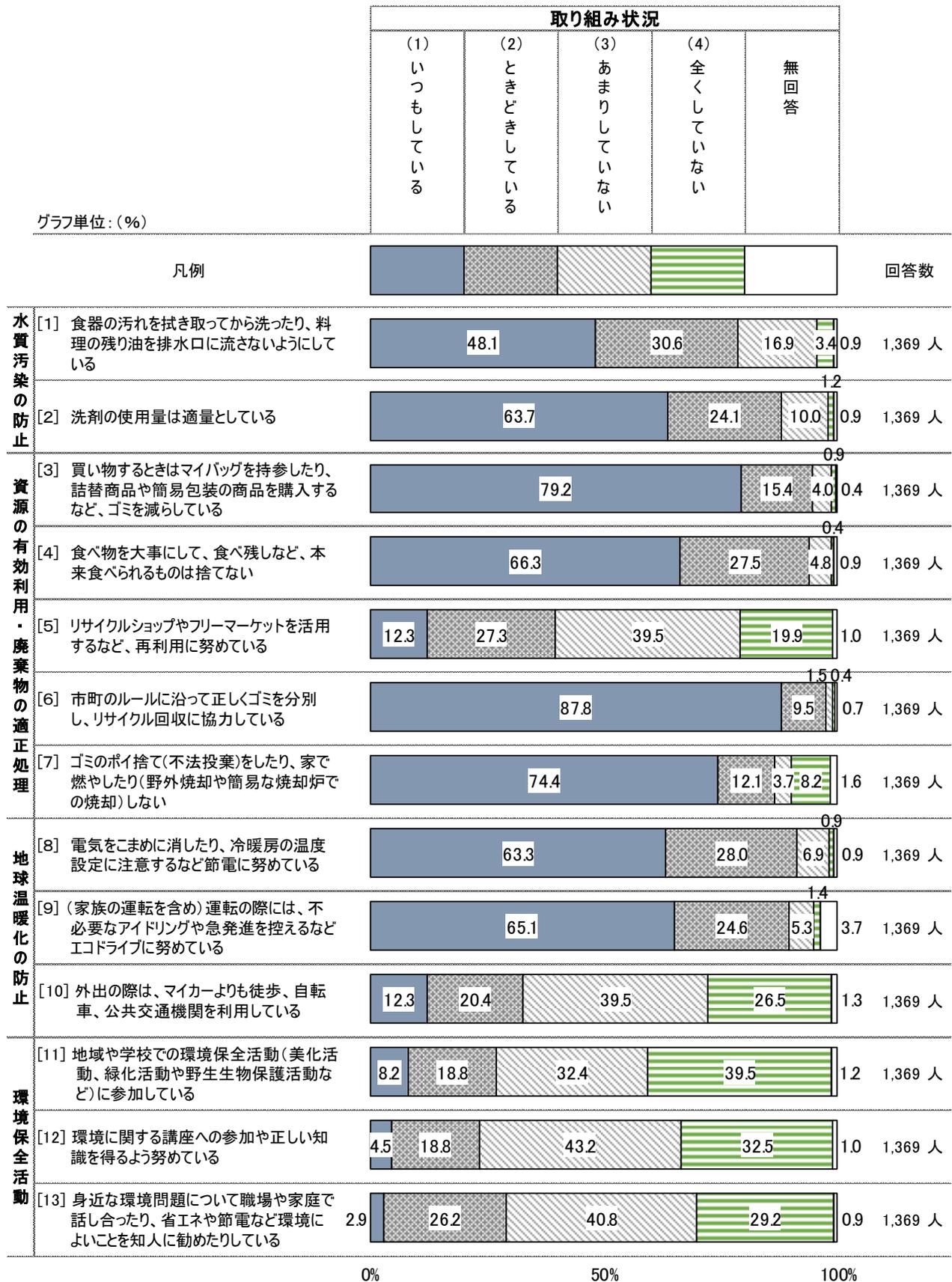
【回答者数=1,369】

項目	取り組み状況					
	(1) いつもしている	(2) ときどきしている	(3) あまりしていない	(4) 全くしていない	無回答	
水質汚染の防止	[1] 食器の汚れを拭き取ってから洗ったり、料理の残り油を排水口に流さないようにしている	48.1 (46.4)	30.6 (31.2)	16.9 (17.7)	3.4 (3.7)	0.9 (0.9)
	[2] 洗剤の使用量は適量としている	63.7 (62.2)	24.1 (25.2)	10.0 (10.3)	1.2 (1.4)	0.9 (0.9)
資源の有効利用・廃棄物の適正処理	[3] 買い物するときはマイバッグを持参したり、詰替商品や簡易包装の商品を購入するなど、ゴミを減らしている	79.2 (78.4)	15.4 (16.2)	4.0 (3.9)	0.9 (1.1)	0.4 (0.4)
	[4] 食べ物を大事にして、食べ残しなど、本来食べられるものは捨てない	66.3 (66.3)	27.5 (27.3)	4.8 (5.0)	0.4 (0.5)	0.9 (0.9)
	[5] リサイクルショップやフリーマーケットを活用するなど、再利用に努めている	12.3 (13.0)	27.3 (27.8)	39.5 (38.6)	19.9 (19.6)	1.0 (1.0)
	[6] 市町のルールに沿って正しくゴミを分別し、リサイクル回収に協力している	87.8 (86.1)	9.5 (11.1)	1.5 (1.6)	0.4 (0.5)	0.7 (0.7)
	[7] ゴミのポイ捨て（不法投棄）をしたり、家で燃やしたり（野外焼却や簡易な焼却炉での焼却）しない	74.4 (75.8)	12.1 (11.6)	3.7 (3.4)	8.2 (7.7)	1.6 (1.5)
地球温暖化の防止	[8] 電気をこまめに消したり、冷暖房の温度設定に注意するなど節電に努めている	63.3 (62.5)	28.0 (28.2)	6.9 (7.4)	0.9 (1.1)	0.9 (0.8)
	[9] (家族の運転を含め) 運転の際には、不必要なアイドリングや急発進を控えるなどエコドライブに努めている	65.1 (64.3)	24.6 (24.8)	5.3 (6.0)	1.4 (1.5)	3.7 (3.3)
	[10] 外出の際は、マイカーよりも徒歩、自転車、公共交通機関を利用している	12.3 (12.9)	20.4 (20.2)	39.5 (38.1)	26.5 (27.6)	1.3 (1.2)
環境保全活動	[11] 地域や学校での環境保全活動（美化活動、緑化活動や野生生物保護活動など）に参加している	8.2 (7.4)	18.8 (18.6)	32.4 (31.9)	39.5 (40.9)	1.2 (1.1)
	[12] 環境に関する講座への参加や正しい知識を得るよう努めている	4.5 (4.5)	18.8 (18.3)	43.2 (43.0)	32.5 (33.2)	1.0 (1.0)
	[13] 身近な環境問題について職場や家庭で話し合ったり、省エネや節電など環境によいことを知人に勧めたりしている	2.9 (3.0)	26.2 (25.4)	40.8 (40.4)	29.2 (30.4)	0.9 (0.9)

日常生活における環境に優しい行動について、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、「市町のルールに沿って正しくゴミを分別し、リサイクル回収に協力している」97.3%が最も高く、ついで「買い物するときはマイバッグを持参したり、詰替商品や簡易包装の商品を購入するなど、ゴミを減らしている」94.6%、「食べ物を大事にして、食べ残しなど、本来食べられるものは捨てない」93.8%、「電気をこまめに消したり、冷暖房の温度設定に注意するなど節電に努めている」91.3%などとなっている。

また、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は、「環境に関する講座への参加や正しい知識を得るよう努めている」75.7%が最も高く、次いで「地域や学校での環境保全活動（美化活動、緑化活動や野生生物保護など）に参加している」71.9%、「身近な環境問題について職場や家庭で話し合ったり、省エネや節電など環境によいことを知人に勧めたりしている」70.0%、「外出の際は、マイカーよりも徒歩、自転車、公共交通機関を利用している」66.0%となっている。

図表 2-(5)-1 日常生活における環境に優しい行動について



【[1] 食器の汚れを拭き取ってから洗ったり、料理の残り油を排水口に流さないようにしている】について、性別にみると、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、『男性』70.9%、『女性』85.4%で、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は、『男性』28.1%、『女性』13.8%となっており、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回っている。

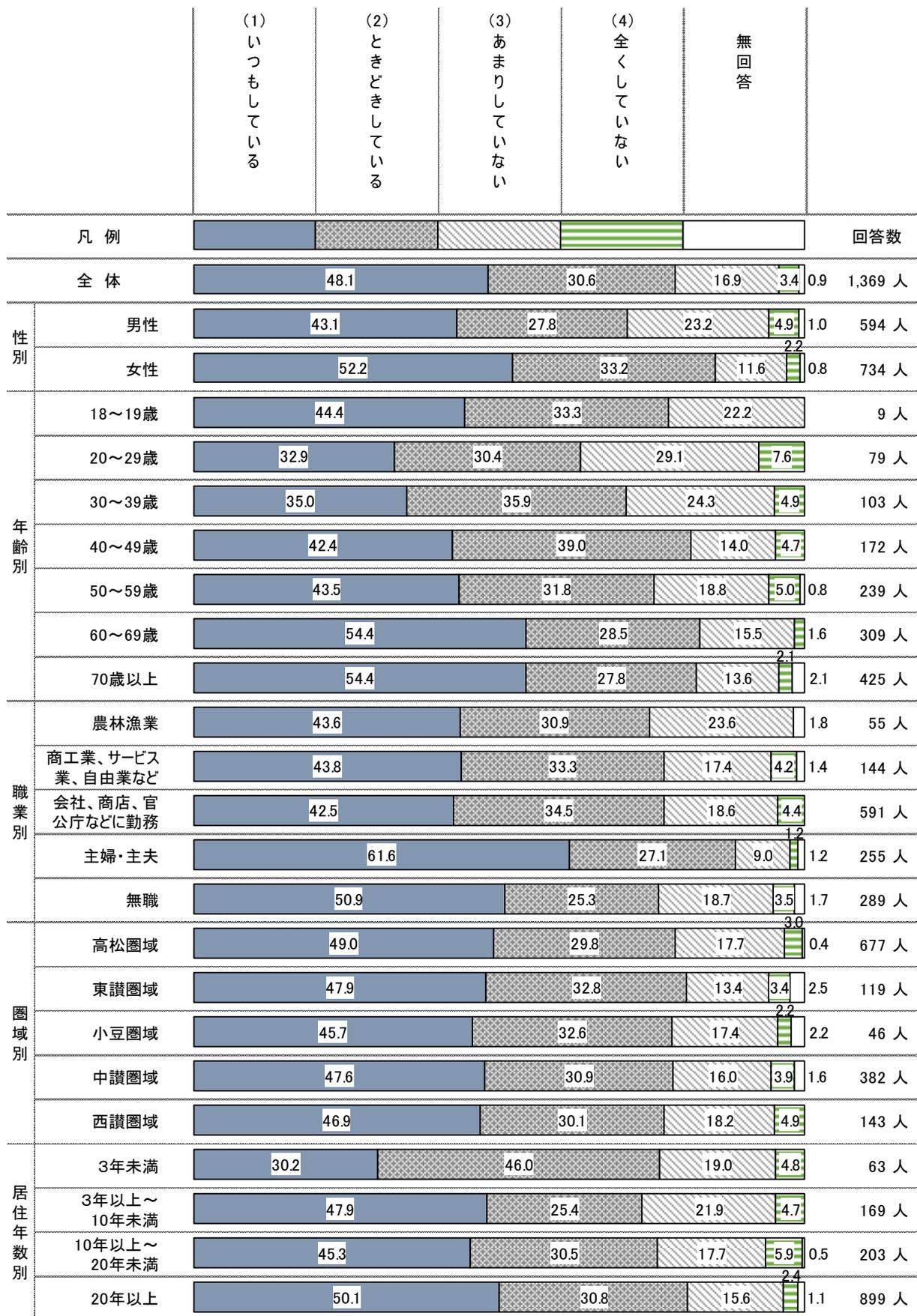
年齢別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『60～69歳』で82.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『主婦・主夫』で88.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『東讃圏域』で80.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『20年以上』で80.9%と最も高くなっている。

図表 2-(5)-2 【[1] 食器の汚れを拭き取ってから洗ったり、料理の残り油を排水口に流さないようにしている】



グラフ単位：(%)

【[2] 洗剤の使用量は適量としている】について、性別にみると、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、『男性』84.2%、『女性』90.8%で、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は『男性』14.8%、『女性』8.3%となっており、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回っている。

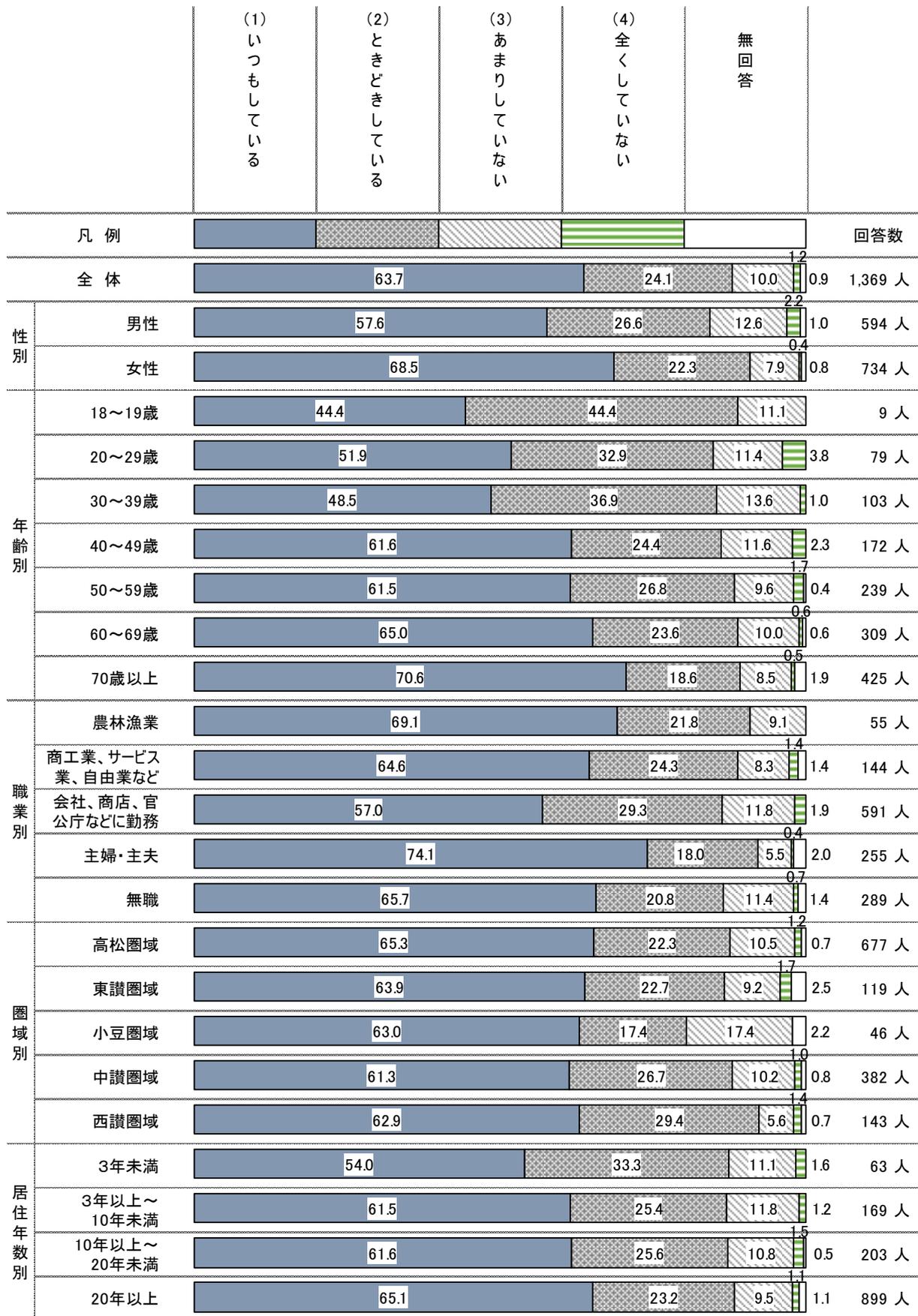
年齢別にみると、【している】の割合がいずれも【していない】の割合を上回っており、『70歳以上』で89.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『主婦・主夫』で92.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『西讃圏域』で92.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『20年以上』で88.3%と最も高くなっている。

図表 2-(5)-3 【[2]洗剤の使用量は適量としている】



グラフ単位：(%)

【[3] 買い物するときはマイバッグを持参したり、詰替商品や簡易包装の商品を購入するなど、ゴミを減らしている】について、性別にみると、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、『男性』90.4%、『女性』98.0%で、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は『男性』9.0%、『女性』1.8%となっており、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回っている。

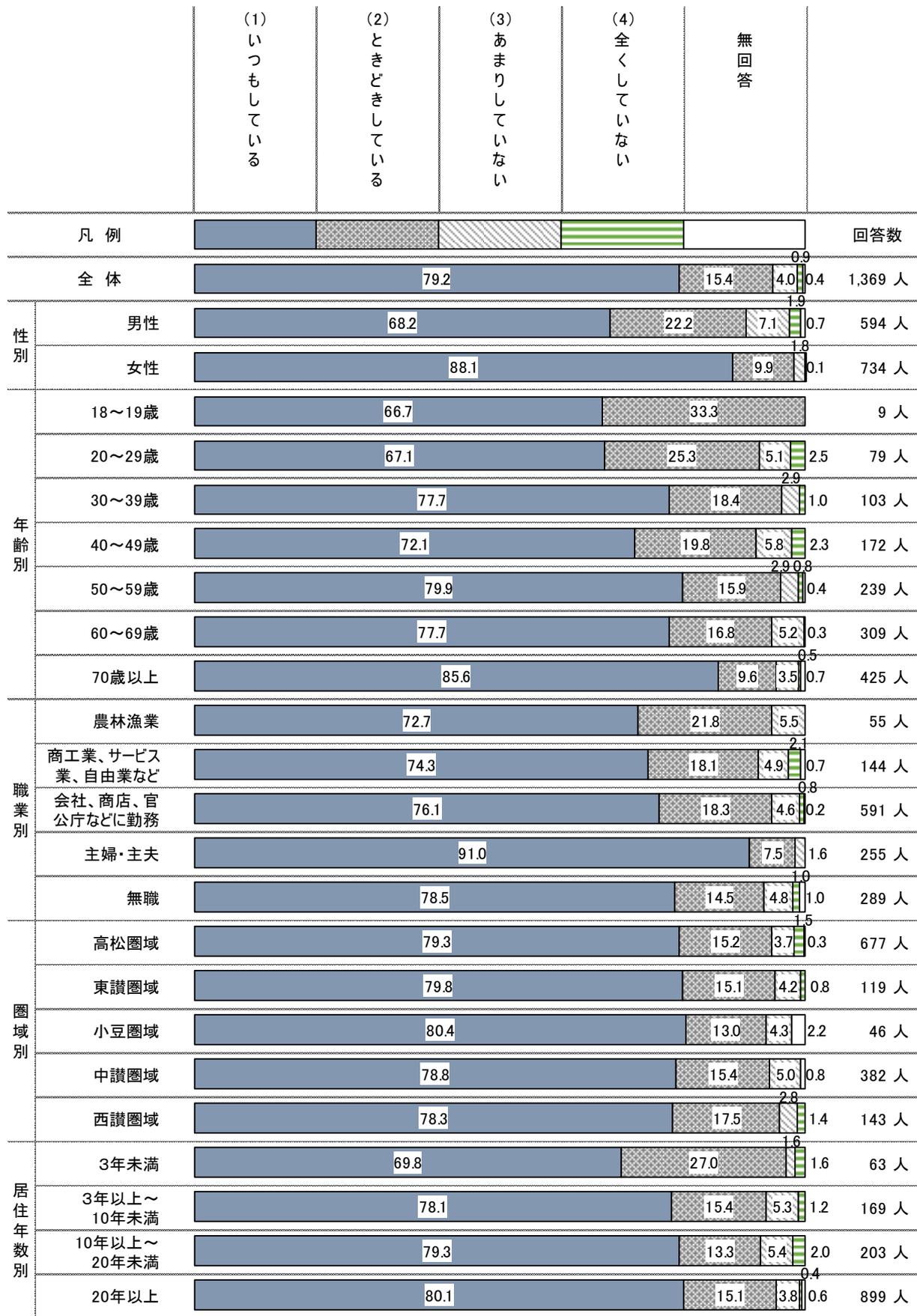
年齢別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『18～19歳』で100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『主婦・主夫』で98.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『西讃圏域』で95.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『3年未満』で96.8%と最も高くなっている。

図表 2-(5)-4 【[3] 買い物するときはマイバッグを持参したり、詰替商品や簡易包装の商品を購入するなど、ゴミを減らしている】



グラフ単位：(%)

【[4] 食べ物を大事にして、食べ残しなど、本来食べられるものは捨てない】について、性別にみると、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、『男性』94.1%、『女性』93.4%で、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は『男性』5.0%、『女性』5.6%となっており、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回っている。

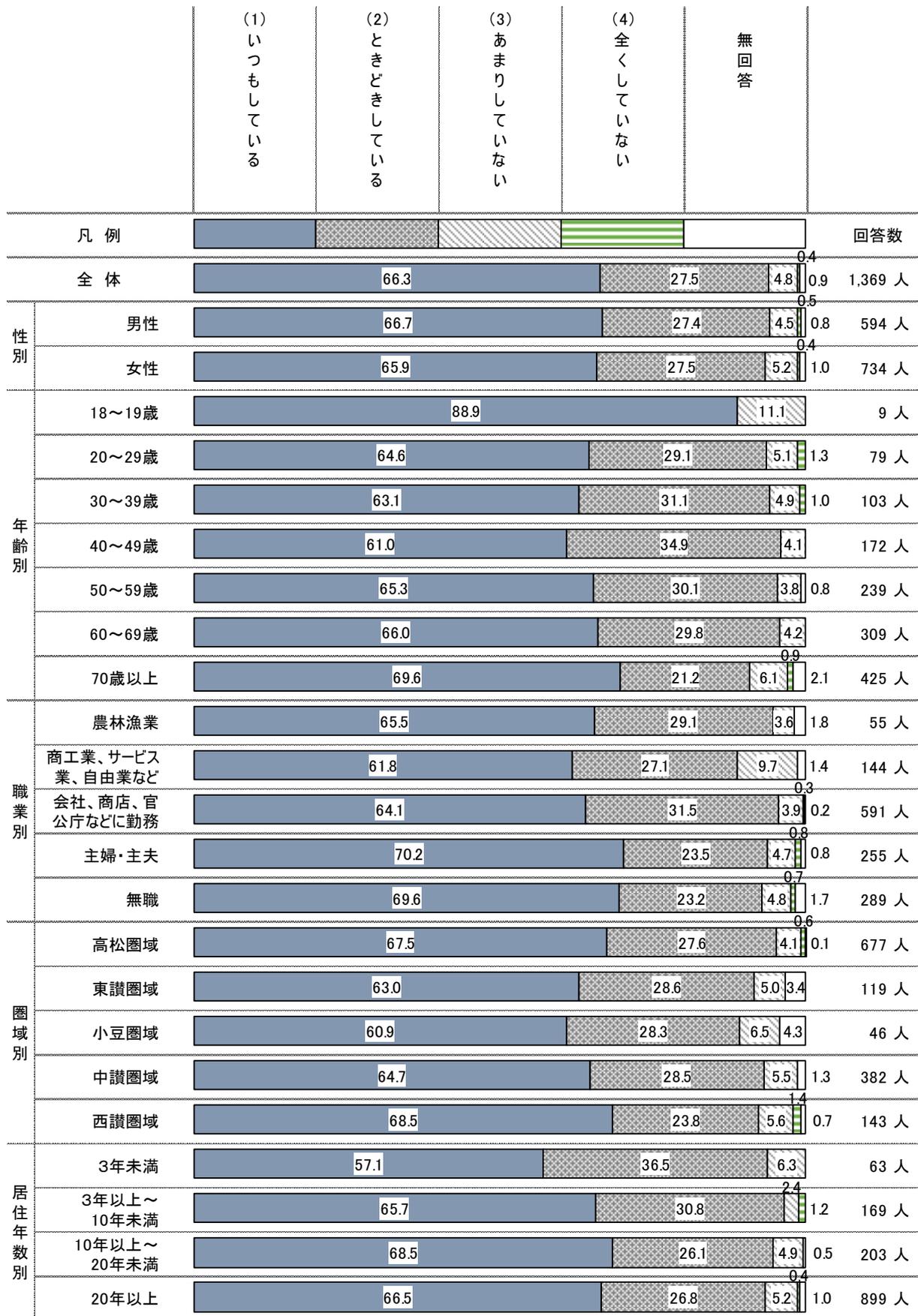
年齢別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『40～49歳』で95.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『会社、商店、官公庁などに勤務』で95.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『高松圏域』で95.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『3年以上～10年未満』で96.5%と最も高くなっている。

図表 2-(5)-5 【[4] 食べ物を大事にして、食べ残しなど、本来食べられるものは捨てない】



グラフ単位：(%)

【[5] リサイクルショップやフリーマーケットを活用するなど、再利用に努めている】について、性別にみると、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は、『男性』58.3%、『女性』59.5%で、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は『男性』40.9%、『女性』39.4%となっており、いずれも【していない】の割合が【している】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で【していない】の割合が上回っており、『70歳以上』において【していない】が65.4%と最も高くなっている。

職業別にみると、【していない】の割合は、いずれも【している】の割合を上回っており、『無職』で64.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【していない】の割合は、いずれも【している】の割合を上回っており、『西讃圏域』で62.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【していない】の割合は、いずれも【している】の割合を上回っており、『20年以上』で62.5%と最も高くなっている。

図表 2-(5)-6 【[5] リサイクルショップやフリーマーケットを活用するなど、再利用に努めている】

		(1) いつもしている	(2) ときどきしている	(3) あまりしていない	(4) 全くしていない	無回答		
凡 例							回答数	
全 体		12.3	27.3	39.5	19.9	1.0	1,369 人	
性別	男性	11.1	29.8	38.9	19.4	0.8	594 人	
	女性	13.8	25.6	39.5	20.0	1.1	734 人	
年齢別	18～19歳	11.1	55.6	33.3			9 人	
	20～29歳	20.3	26.6	36.7	16.5		79 人	
	30～39歳	17.5	28.2	33.0	21.4		103 人	
	40～49歳	15.7	32.6	30.8	20.3	0.6	172 人	
	50～59歳	11.7	31.8	37.7	18.0	0.8	239 人	
	60～69歳	10.4	28.2	42.4	19.1		309 人	
	70歳以上	10.6	21.9	43.8	21.6	2.1	425 人	
職業別	農林漁業	10.9	27.3	40.0	20.0	1.8	55 人	
	商工業、サービス業、自由業など	16.7	24.3	38.2	20.1	0.7	144 人	
	会社、商店、官公庁などに勤務	14.2	29.8	38.6	17.3	0.2	591 人	
	主婦・主夫	12.9	24.7	41.6	20.0	0.8	255 人	
	無職	6.6	27.0	39.8	24.2	2.4	289 人	
圏域別	高松圏域	11.1	30.0	37.5	21.0	0.4	677 人	
	東讃圏域	16.0	25.2	37.0	19.3	2.5	119 人	
	小豆圏域	19.6	19.6	28.3	28.3	4.3	46 人	
	中讃圏域	11.3	26.4	41.1	19.9	1.3	382 人	
	西讃圏域	14.7	21.7	51.0	11.9	0.7	143 人	
居住年数別	3年未満	11.1	38.1	36.5	14.3		63 人	
	3年以上～10年未満	17.8	29.6	34.9	17.8		169 人	
	10年以上～20年未満	15.3	31.0	31.5	21.2	1.0	203 人	
	20年以上	10.9	25.5	42.4	20.1	1.1	899 人	

グラフ単位：(%)

【[6] 市町のルールに沿って正しくゴミを分別し、リサイクル回収に協力している】について、性別にみると、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、『男性』97.2%、『女性』97.9%で、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は、『男性』2.2%、『女性』1.5%となっており、男女とも【している】の割合が【していない】の割合を上回っている。

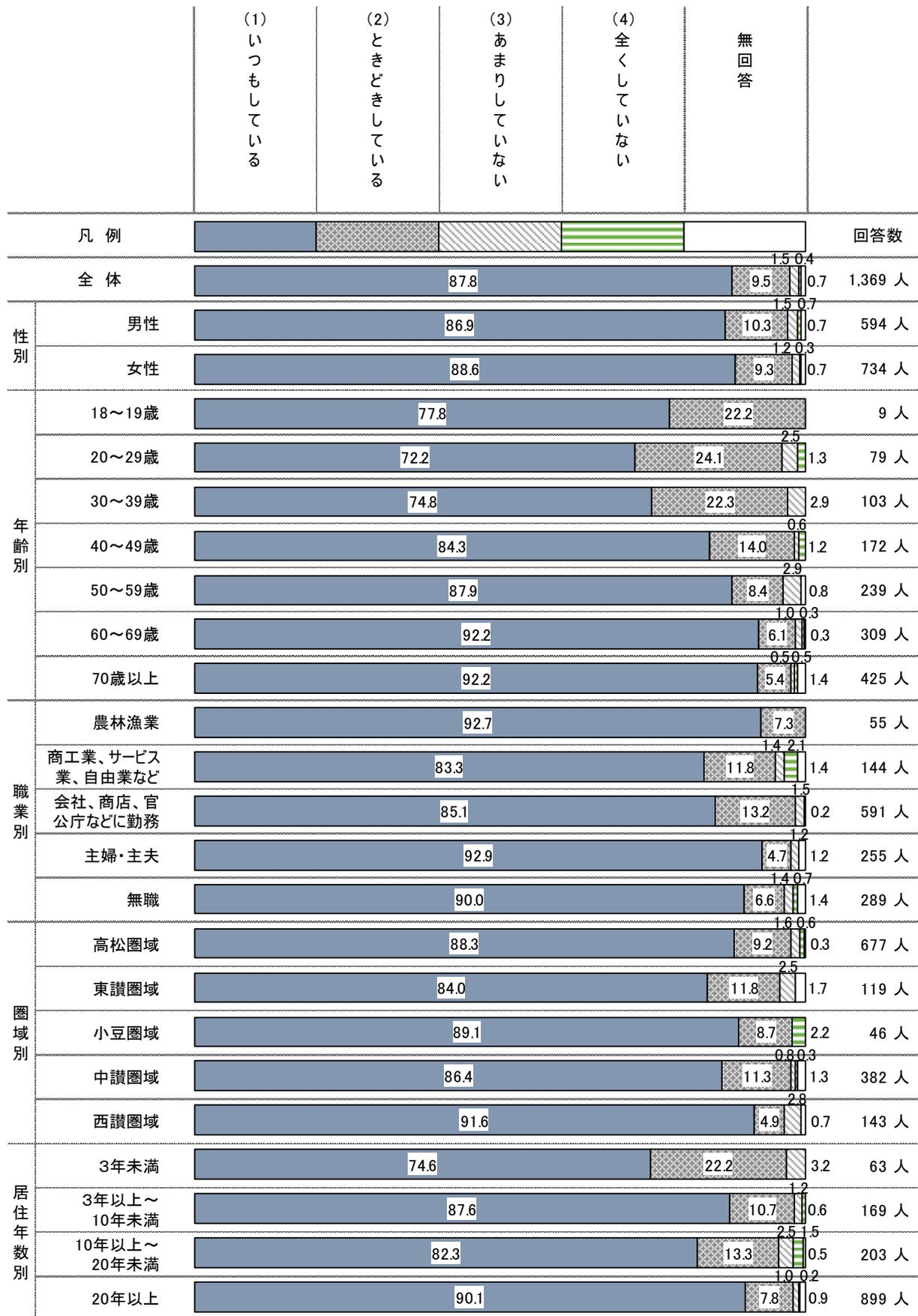
年齢別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『18～19歳』で100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『農林漁業』で100.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『小豆圏域』で97.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『3年以上～10年未満』で98.3%と最も高くなっている。

図表 2-(5)-7 【[6] 市町のルールに沿って正しくゴミを分別し、リサイクル回収に協力している】



グラフ単位: (%)

【[7] ゴミのポイ捨て(不法投棄)をしたり、家で燃やしたり(野外焼却や簡易な焼却炉での焼却しない)について、性別にみると、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、『男性』87.0%、『女性』86.9%で、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は、『男性』11.6%、『女性』11.4%となっており、男女とも【している】の割合が【していない】の割合を上回っている。

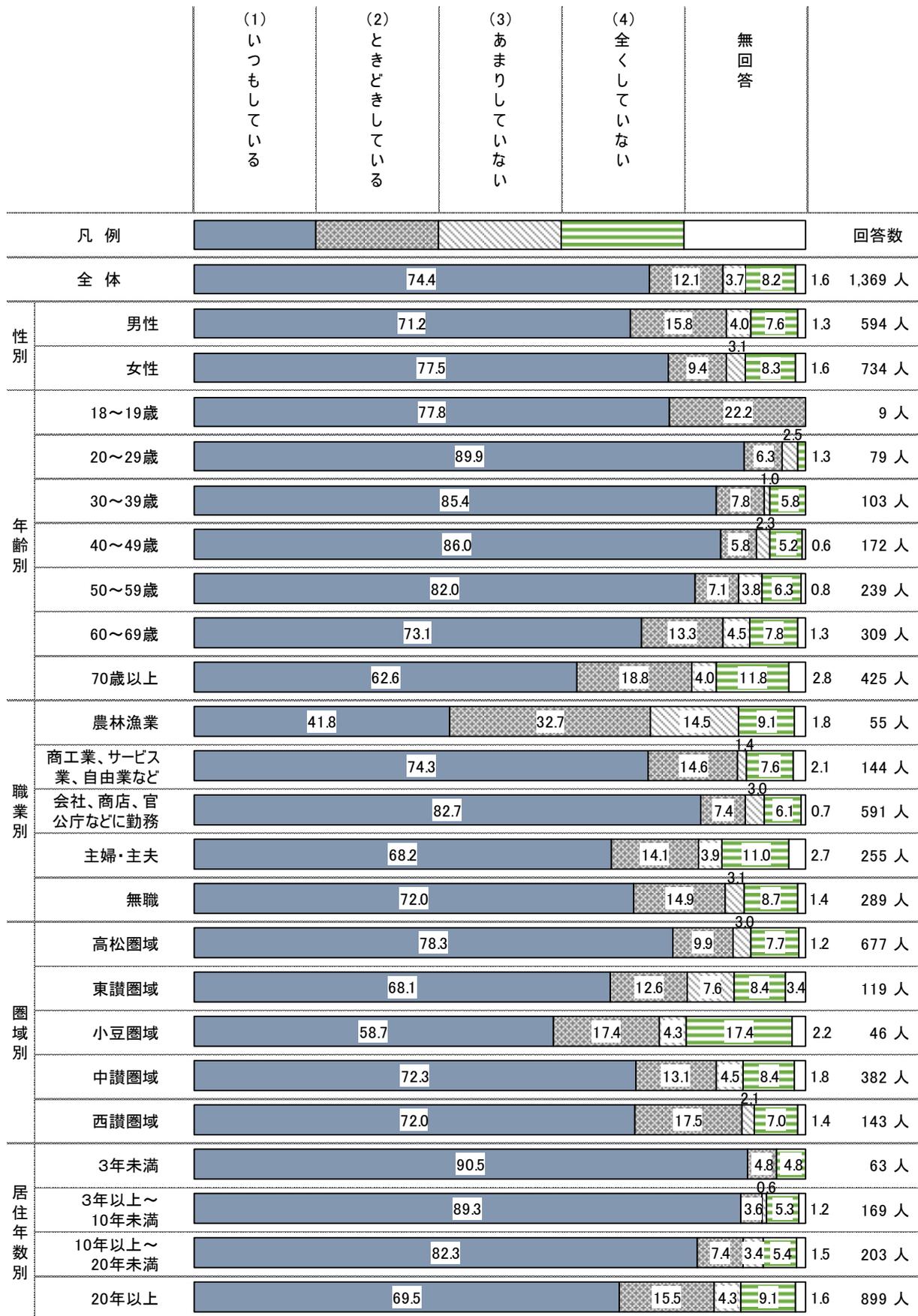
年齢別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『18～19歳』で100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『会社、商店、官公庁などに勤務』で90.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『西讃圏域』で89.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『3年未満』で95.3%と最も高くなっている。

図表 2-(5)-8 【[7] ゴミのポイ捨て(不法投棄)をしたり、家で燃やしたり(野外焼却や簡易な焼却炉での焼却)しない】



グラフ単位：(%)

【[8] 電気をこまめに消したり、冷暖房の温度設定に注意するなど節電に努めている】について、性別にみると、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、『男性』88.6%、『女性』93.5%で、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は、『男性』10.3%、『女性』6.0%となっており、男女とも【している】の割合が【していない】の割合を上回っている。

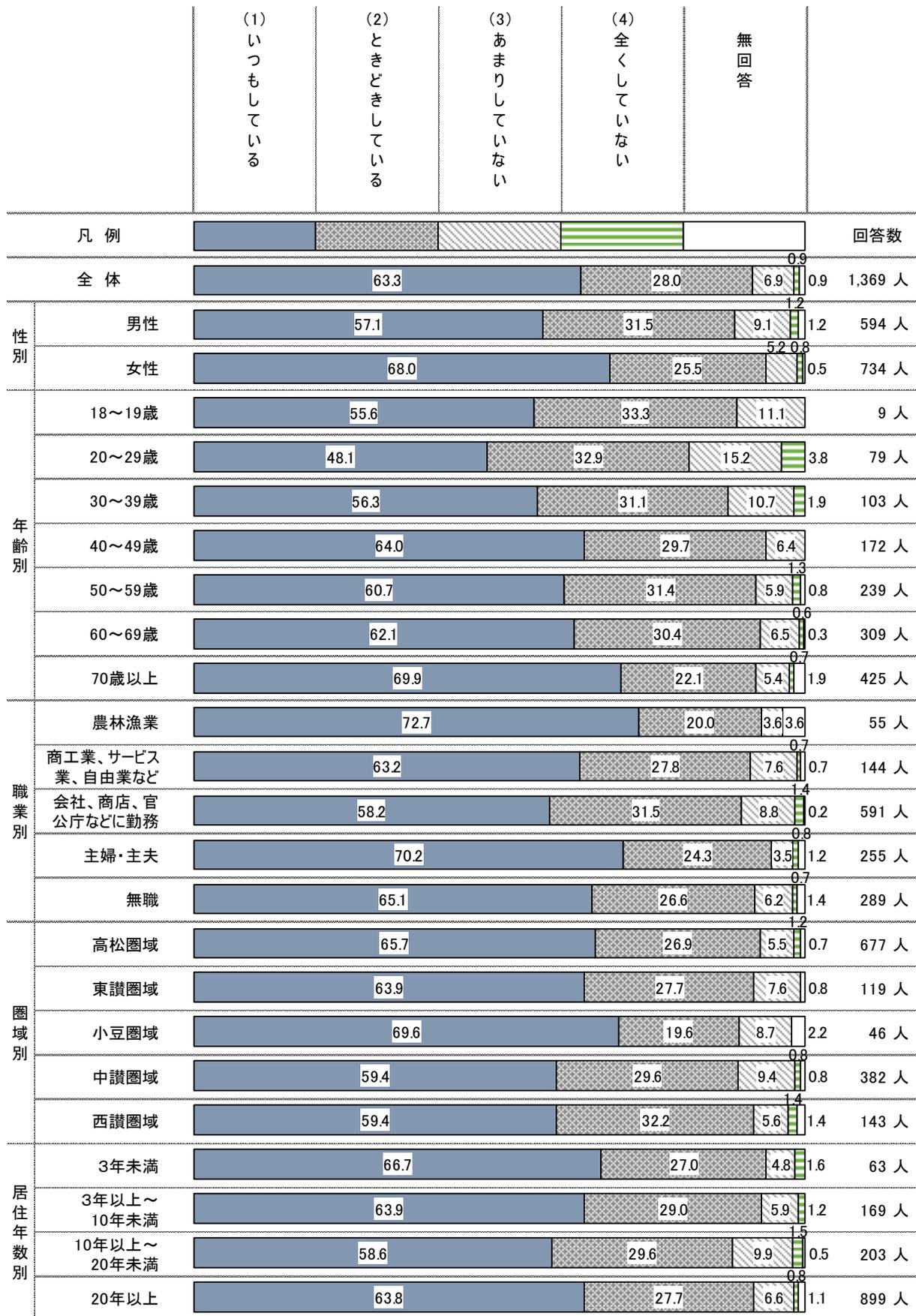
年齢別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『40～49歳』で93.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『主婦・主夫』で94.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『高松圏域』で92.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『3年未満』で93.7%と最も高くなっている。

図表 2-(5)-9 【[8] 電気をこまめに消したり、冷暖房の温度設定に注意するなど節電に努めている】



グラフ単位：(%)

【[9] (家族の運転を含め) 運転の際には、不必要なアイドリングや急発進を控えるなどエコドライブに努めている】について、性別にみると、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は『男性』91.3%、『女性』88.7%で、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は、『男性』6.6%、『女性』6.5%となっており、男女とも【している】の割合が【していない】の割合を上回っている。

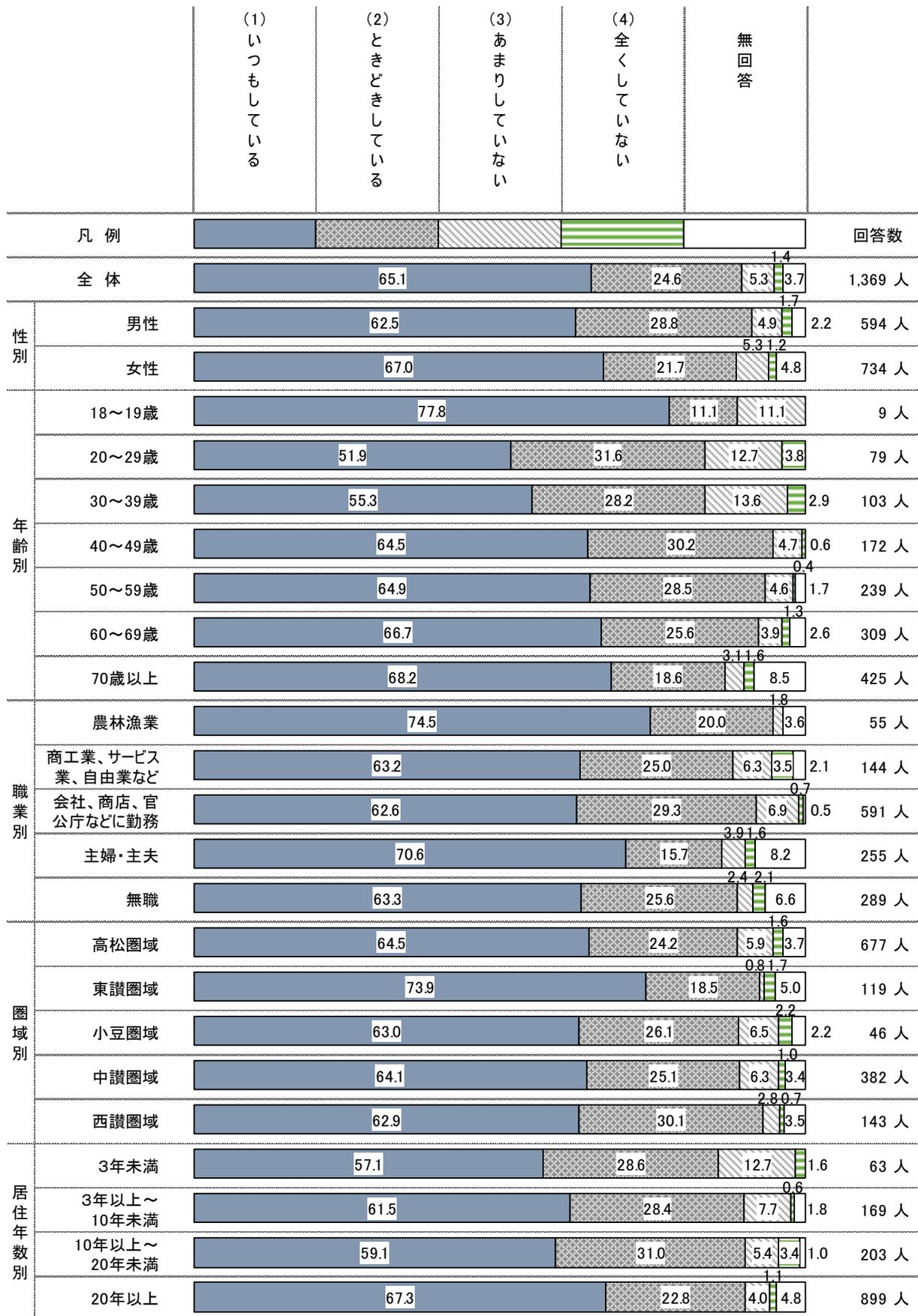
年齢別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『40～49歳』で94.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『農林漁業』で94.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『西讃圏域』で93.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【している】の割合は、いずれも【していない】の割合を上回っており、『10年以上～20年未満』、『20年以上』が同率の90.1%と最も高くなっている。

図表 2-(5)-10 【[9] (家族の運転を含め)運転の際には、不必要なアイドリングや急発進を抑えるなどエコドライブに努めている】



グラフ単位：(%)

【[10] 外出の際は、マイカーよりも徒歩、自転車、公共交通機関を利用している】について、性別にみると、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は『男性』67.5%『女性』65.4%で、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、『男性』31.5%、『女性』33.3%となっており、男女とも【していない】の割合が【している】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で【していない】の割合が【している】の割合を上回っており、『30～39歳』で73.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【していない】の割合は、いずれも【している】の割合を上回っており、『会社、商店、官公庁などに勤務』で73.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【していない】の割合は、いずれも【している】の割合を上回っており、『東讃圏域』で74.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【していない】の割合は、いずれも【している】の割合を上回っており、『3年未満』で68.3%と最も高くなっている。

図表 2-(5)-11 【[10] 外出の際は、マイカーよりも徒歩、自転車、公共交通機関を利用している】

	(1) いつも している	(2) ときどき している	(3) あまり していない	(4) 全く していない	無 回 答	回答数	
凡 例							
全 体	12.3	20.4	39.5	26.5	1.3	1,369 人	
性別	男性	10.6	20.9	41.4	26.1	1.0	594 人
	女性	13.8	19.5	38.4	27.0	1.4	734 人
年齢別	18～19歳	55.6		33.3	11.1		9 人
	20～29歳	16.5	11.4	29.1	43.0		79 人
	30～39歳	6.8	19.4	32.0	41.7		103 人
	40～49歳	9.3	19.8	40.1	30.8		172 人
	50～59歳	8.4	21.3	44.4	25.5	0.4	239 人
	60～69歳	11.3	20.4	43.0	24.9	0.3	309 人
	70歳以上	16.7	21.4	38.6	20.0	3.3	425 人
職業別	農林漁業	9.1	18.2	40.0	30.9	1.8	55 人
	商工業、サービス業、自由業など	8.3	22.2	38.9	29.9	0.7	144 人
	会社、商店、官公庁などに勤務	8.6	17.6	41.8	31.8	0.2	591 人
	主婦・主夫	16.1	22.0	40.0	19.6	2.4	255 人
	無職	19.7	23.5	34.9	19.4	2.4	289 人
圏域別	高松圏域	16.2	21.3	36.9	24.8	0.7	677 人
	東讃圏域	5.0	16.0	50.4	24.4	4.2	119 人
	小豆圏域	6.5	17.4	41.3	32.6	2.2	46 人
	中讃圏域	10.7	20.4	39.5	28.0	1.3	382 人
	西讃圏域	5.6	20.3	42.0	30.8	1.4	143 人
居住年数別	3年未満	6.3	25.4	39.7	28.6		63 人
	3年以上～10年未満	16.6	16.6	36.7	30.2		169 人
	10年以上～20年未満	11.8	21.2	37.4	29.1	0.5	203 人
	20年以上	12.2	20.5	40.5	25.1	1.7	899 人

グラフ単位：(%)

【[11] 地域や学校での環境保全活動（美化活動、緑化活動や野生生物保護活動など）に参加している】について、性別にみると、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】は、『男性』70.9%、『女性』72.4%で、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、『男性』28.0%、『女性』26.5%となっており、男女とも【していない】の割合が【している】の割合を上回っている。

年齢別にみると、【していない】の割合は、いずれも【している】の割合を上回っており、『30～39歳』で82.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【していない】の割合は、いずれも【している】の割合を上回っており、『商工業、サービス業、自由業など』で76.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【していない】の割合は、いずれも【している】の割合を上回っており、『中讃圏域』で73.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【していない】の割合は、いずれも【している】の割合を上回っており、『3年未満』で85.7%と最も高くなっている。

図表 2-(5)-12 【[11] 地域や学校での環境保全活動(美化活動、緑化活動や野生生物保護活動など)に参加している】

		(1) いつもしている	(2) ときどきしている	(3) あまりしていない	(4) 全くしていない	無回答	
凡例							回答数
全体		8.2	18.8	32.4	39.5	1.2	1,369人
性別	男性	7.1	20.9	35.2	35.7	1.2	594人
	女性	9.3	17.2	29.8	42.6	1.1	734人
年齢別	18～19歳		33.3	66.7			9人
	20～29歳	2.5	15.2	20.3	62.0		79人
	30～39歳	2.9	14.6	25.2	57.3		103人
	40～49歳	4.7	18.0	30.2	47.1		172人
	50～59歳	6.7	19.2	33.5	39.7	0.8	239人
	60～69歳	9.7	19.1	34.3	36.6	0.3	309人
	70歳以上	12.0	20.2	34.6	30.6	2.6	425人
職業別	農林漁業	18.2	23.6	38.2	18.2	1.8	55人
	商工業、サービス業、自由業など	6.9	16.0	28.5	47.9	0.7	144人
	会社、商店、官公庁などに勤務	6.8	18.3	33.0	41.8	0.2	591人
	主婦・主夫	11.8	19.2	29.8	37.3	2.0	255人
	無職	6.9	20.4	34.3	36.3	2.1	289人
	圏域別	高松圏域	6.4	19.8	31.6	41.4	0.9
東讃圏域	8.4	17.6	35.3	35.3	3.4	119人	
小豆圏域	6.5	28.3	37.0	23.9	4.3	46人	
中讃圏域	8.6	16.8	31.7	42.1	0.8	382人	
西讃圏域	16.1	17.5	32.9	32.9	0.7	143人	
居住年数別	3年未満	1.6	12.7	36.5	49.2		63人
	3年以上～10年未満	7.7	14.2	26.0	51.5	0.6	169人
	10年以上～20年未満	3.9	19.2	31.5	44.8	0.5	203人
	20年以上	9.8	20.1	33.4	35.4	1.3	899人

グラフ単位：(%)

【[12] 環境に関する講座への参加や正しい知識を得るよう努めている】について、性別にみると、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は、『男性』74.1%、『女性』77.4%で、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、『男性』24.9%、『女性』21.7%となっており、男女とも【していない】の割合が【している】の割合を上回っている。

年齢別にみると、【していない】の割合は、いずれも【している】の割合を上回っており、『30～39歳』で84.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【していない】の割合は、いずれも【している】の割合を上回っており、『商工業、サービス業、自由業など』で80.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【していない】の割合は、いずれも【している】の割合を上回っており、『小豆圏域』で84.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【していない】の割合は、いずれも【している】の割合を上回っており、『3年未満』で88.9%と最も高くなっている。

図表 2-(5)-13 【[12] 環境に関する講座への参加や正しい知識を得よう努めている】

		(1) いつも している	(2) ときどき している	(3) あまり していない	(4) 全く していない	無 回 答		
凡 例							回答数	
全 体		4.5	18.8	43.2	32.5	1.0	1,369 人	
性別	男性	4.0	20.9	44.1	30.0	1.0	594 人	
	女性	4.8	16.9	42.9	34.5	1.0	734 人	
年齢別	18～19歳	11.1	22.2	66.7			9 人	
	20～29歳	6.3	15.2	38.0	40.5		79 人	
	30～39歳	1.0	14.6	40.8	43.7		103 人	
	40～49歳	2.9	16.3	41.9	39.0		172 人	
	50～59歳	4.2	17.6	41.0	36.4	0.8	239 人	
	60～69歳	4.9	21.0	46.0	28.2		309 人	
	70歳以上	5.4	19.8	44.9	27.5	2.4	425 人	
職業別	農林漁業	9.1	20.0	47.3	21.8	1.8	55 人	
	商工業、サービス業、自由業など	4.2	13.9	43.8	36.8	1.4	144 人	
	会社、商店、官公庁などに勤務	3.4	18.3	43.3	35.0		591 人	
	主婦・主夫	7.1	20.0	42.7	28.6	1.6	255 人	
	無職	3.8	19.4	44.3	30.8	1.7	289 人	
圏域別	高松圏域	3.1	18.0	42.2	35.7	0.9	677 人	
	東讃圏域	4.2	21.0	38.7	33.6	2.5	119 人	
	小豆圏域	4.3	8.7	56.5	28.3	2.2	46 人	
	中讃圏域	5.5	19.1	42.9	31.4	1.0	382 人	
	西讃圏域	9.1	21.7	48.3	21.0		143 人	
居住年数別	3年未満	1.6	9.5	36.5	52.4		63 人	
	3年以上～10年未満	3.6	20.7	33.7	41.4	0.6	169 人	
	10年以上～20年未満	3.0	15.3	48.3	33.0	0.5	203 人	
	20年以上	5.2	19.5	44.8	29.4	1.1	899 人	

グラフ単位：(%)

【[13] 身近な環境問題について職場や家庭で話し合ったり、省エネや節電など環境によいことを知人に勧めたりしている】について、性別にみると、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は、『男性』73.6%、『女性』67.4%で、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、『男性』25.6%、『女性』31.6%となっており、男女とも【していない】の割合が【している】の割合を上回っている。

年齢別にみると、【していない】の割合は、いずれも【している】の割合を上回っており、『18～19歳』で77.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【していない】の割合は、いずれも【している】の割合を上回っており、『商工業、サービス業、自由業など』で80.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【していない】の割合は、いずれも【している】の割合を上回っており、『小豆圏域』で80.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【していない】の割合は、いずれも【している】の割合を上回っており、『3年未満』で81.0%と最も高くなっている。

図表 2-(5)-14 【[13] 身近な環境問題について職場や家庭で話し合ったり、省エネや節電など環境によいことを知人に勧めたりしている】

		(1) いつもしている	(2) ときどきしている	(3) あまりしていない	(4) 全くしていない	無回答		
凡 例							回答数	
全 体		2.9	26.2	40.8	29.2	0.9	1,369 人	
性別	男性	2.2	23.4	45.8	27.8	0.8	594 人	
	女性	3.4	28.2	37.2	30.2	1.0	734 人	
年齢別	18～19歳		22.2	66.7	11.1		9 人	
	20～29歳	3.8	20.3	31.6	44.3		79 人	
	30～39歳	3.9	18.4	37.9	39.8		103 人	
	40～49歳	2.9	26.2	37.2	33.7		172 人	
	50～59歳	3.8	25.9	43.1	26.4	0.8	239 人	
	60～69歳	2.6	28.5	43.4	25.6		309 人	
	70歳以上	2.1	27.5	41.4	26.8	2.1	425 人	
職業別	農林漁業	5.5	20.0	52.7	21.8		55 人	
	商工業、サービス業、自由業など	2.8	16.0	40.3	40.3	0.7	144 人	
	会社、商店、官公庁などに勤務	3.0	24.9	41.1	31.0		591 人	
	主婦・主夫	2.7	36.1	36.9	22.7	1.6	255 人	
	無職	2.1	26.6	41.5	27.7	2.1	289 人	
圏域別	高松圏域	1.9	24.7	40.0	32.8	0.6	677 人	
	東讃圏域	1.7	31.1	39.5	25.2	2.5	119 人	
	小豆圏域	2.2	15.2	54.3	26.1	2.2	46 人	
	中讃圏域	4.2	26.7	40.6	27.5	1.0	382 人	
	西讃圏域	5.6	31.5	40.6	21.7	0.7	143 人	
居住年数別	3年未満		19.0	38.1	42.9		63 人	
	3年以上～10年未満	4.1	24.3	36.1	35.5		169 人	
	10年以上～20年未満	3.0	23.6	45.3	27.6	0.5	203 人	
	20年以上	2.8	27.6	40.9	27.6	1.1	899 人	

グラフ単位：(%)

(6) 森林整備と都市緑化のための取り組みについて

問8 森林整備と都市緑化のための取り組みについて、効果が高いと思われるものを次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答数の多い順に並べ替え

1	手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進	64.6%(63.7%)
2	間伐など森林を守り育てる森林整備の推進	57.6%(57.7%)
3	森林整備の担い手の育成・確保	45.1%(44.8%)
4	都市公園や森林公園などの適切な整備・管理	33.5%(34.6%)
5	保安林（水源かん養機能などが指定されている森林）などの適切な管理・保全	19.6%(19.3%)
6	公共施設などにおける県産木材の利用促進	17.2%(18.0%)
7	県産木材で作った製品などの積極的なPRと情報の提供	11.0%(11.2%)
8	ボランティア・企業などの参加による県民総参加の森づくりの推進	11.0%(10.7%)
9	建物の屋上や壁面に植物を植えるなど緑化の推進	10.7%(11.5%)
10	その他 (無回答)	1.8%( 1.6%) 2.8%( 2.7%)

森林整備と都市緑化のための取り組みについて、「手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進」64.6%が最も高く、次いで「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」57.6%、「森林整備の担い手の育成・確保」45.1%となっている。

図表 2-(6)-1 森林整備と都市緑化のための取り組みについて

	割合	回答数
全体	100.0	1,369 人
(1) 手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進	64.6	884 人
(2) 間伐など森林を守り育てる森林整備の推進	57.6	789 人
(3) 森林整備の担い手の育成・確保	45.1	618 人
(4) 都市公園や森林公園などの適切な整備・管理	33.5	458 人
(5) 保安林（水源かん養機能などが指定されている森林）などの適切な管理・保全	19.6	269 人
(6) 公共施設などにおける県産木材の利用促進	17.2	236 人
(7) 県産木材で作った製品などの積極的なPRと情報の提供	11.0	151 人
(8) ボランティア・企業などの参加による県民総参加の森づくりの推進	11.0	150 人
(9) 建物の屋上や壁面に植物を植えるなど緑化の推進	10.7	146 人
(10) その他	1.8	24 人
無回答	2.8	39 人

グラフ単位：(%)

森林整備と都市緑化のための取り組みについて、性別にみると、男女とも「手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進」が最も高く、『男性』64.5%、『女性』65.0%で、これに男女とも「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」が同率の57.9%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『40～49歳』を除くすべての年齢で「手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進」が5～6割台と最も高く、『18～19歳』、『40～49歳』では「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進」が6割台と最も高く、『農林漁業』で69.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進」が6～7割台と最も高く、『小豆圏域』で76.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進」が5～6割台と最も高く、『20年以上』で67.0%と最も高くなっている。

図表 2-(6)-2 【森林整備と都市緑化のための取り組みについて】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)			
		全体 (人)	手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用	間伐など森林を守り育てる森林整備の推進	森林整備の担い手の育成・確保	都市公園や森林公園などの適切な整備・管理	保安林(水源かん養機能などが指定されている森林)などの適切な管理・保全	公共施設などにおける県産木材の利用促進	県産木材で作った製品などの積極的なPRと情報の提供	総参加の森づくりの推進	ボランティア・企業などの参加による県民の推進	建物の屋上や壁面に植物を植えるなど緑化	その他	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)														
全体		1,369	64.6	57.6	45.1	33.5	19.6	17.2	11.0	11.0	10.7	1.8	2.8	
性別	男性	594	64.5	57.9	46.1	33.3	22.9	17.0	9.8	9.8	9.6	2.5	2.5	
	女性	734	65.0	57.9	44.0	33.5	17.2	17.2	12.0	11.9	11.6	1.2	2.9	
年齢別	18～19歳	9	66.7	77.8	11.1	44.4	22.2	44.4	11.1	-	11.1	-	-	
	20～29歳	79	59.5	53.2	35.4	41.8	12.7	21.5	17.7	12.7	22.8	-	-	
	30～39歳	103	61.2	56.3	53.4	46.6	20.4	12.6	5.8	10.7	15.5	1.0	1.0	
	40～49歳	172	53.5	57.0	55.2	33.1	18.6	22.1	13.4	11.0	14.5	1.7	0.6	
	50～59歳	239	68.2	61.5	49.8	29.7	19.2	14.6	7.9	8.4	13.0	2.5	0.8	
	60～69歳	309	66.7	56.6	45.0	31.7	21.0	14.9	10.4	13.3	9.7	1.9	1.9	
	70歳以上	425	67.8	57.6	39.3	32.2	20.7	17.6	12.5	10.6	5.2	1.9	5.9	
職業別	農林漁業	55	69.1	61.8	45.5	18.2	34.5	20.0	9.1	12.7	9.1	3.6	1.8	
	商工業、サービス業、自由業など	144	61.8	56.9	46.5	30.6	21.5	12.5	11.1	11.8	6.9	1.4	3.5	
	会社、商店、官公庁などに勤務	591	62.9	59.7	49.4	34.2	19.5	15.6	9.6	9.1	14.7	1.7	1.5	
	主婦・主夫	255	68.2	54.9	41.2	35.3	16.5	22.4	12.9	11.8	7.5	1.6	3.5	
	無職	289	66.1	56.1	38.8	35.3	20.1	17.0	12.8	13.1	7.3	2.1	3.8	
圏域別	高松圏域	677	63.4	57.9	46.7	35.9	18.5	17.3	11.2	10.3	10.9	1.9	2.4	
	東讃圏域	119	64.7	61.3	42.9	25.2	22.7	16.8	5.9	16.0	10.1	0.8	5.0	
	小豆圏域	46	76.1	54.3	41.3	26.1	15.2	13.0	13.0	8.7	8.7	-	4.3	
	中讃圏域	382	64.7	55.5	43.5	35.3	20.2	17.5	12.0	11.8	10.7	1.6	3.1	
	西讃圏域	143	67.1	60.1	44.8	26.6	23.1	16.8	11.2	8.4	9.8	2.8	2.1	
居住年数別	3年未満	63	66.7	55.6	42.9	38.1	20.6	19.0	17.5	9.5	14.3	1.6	-	
	3年以上～10年未満	169	59.8	57.4	53.8	43.2	17.8	16.0	10.1	5.9	18.3	3.0	-	
	10年以上～20年未満	203	58.6	55.2	45.8	33.0	19.7	17.2	13.3	12.3	15.8	1.5	2.0	
	20年以上	899	67.0	58.6	43.5	31.6	20.2	17.0	10.3	11.7	7.8	1.7	3.4	

(7)ごみの減量化・リサイクルの推進のための取り組みについて

問9 ごみの減量化・リサイクルの推進のための取り組みについて、効果が高いと思われるものを次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答数の多い順に並べ替え

1	ごみの多くを占める食品廃棄物*の削減などに重点化した取り組み	56.8%(57.6%)
2	学校や地域における環境学習の充実	36.6%(37.6%)
3	不法投棄の監視・通報体制の充実	35.2%(35.3%)
4	市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し (可燃ごみから資源ごみへの変更など)	34.6%(33.8%)
5	広報の充実など県民全体への意識啓発や情報提供の強化	30.8%(29.7%)
6	スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化	28.1%(28.9%)
7	デポジット制度*の導入など生産者による積極的資源回収の仕組みづくり	23.8%(23.8%)
8	地域による環境美化(クリーン作戦など)	20.8%(20.7%)
9	その他 (無回答)	2.6%( 2.3%) 1.6%( 1.4%)

※ **食品廃棄物**:いわゆる生ごみ。食品廃棄物のうち35%程度が、食べ残しなどの本来食べられるにもかかわらず捨てられる食品(食品ロス)と推計されており、無駄なく消費することで削減が見込める。

※ **デポジット制度**:飲料などを販売する際に、一定額を預かり金として取り、消費者が容器を返却すると預かり金を払い戻す制度

ごみの減量化・リサイクルの推進のための取り組みについて、「ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み」56.8%が最も高く、次いで「学校や地域における環境学習の充実」36.6%、「不法投棄の監視・通報体制の充実」35.2%、「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し(可燃ごみから資源ごみへの変更など)」34.6%となっている。

図表 2-(7)-1 ごみの減量化・リサイクルの推進のための取り組みについて

		回答数
全 体	100.0	1,369 人
(1) ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み	56.8	778 人
(2) 学校や地域における環境学習の充実	36.6	501 人
(3) 不法投棄の監視・通報体制の充実	35.2	482 人
(4) 市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し(可燃ごみから資源ごみへの変更など)	34.6	473 人
(5) 広報の充実など県民全体への意識啓発や情報提供の強化	30.8	422 人
(6) スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化	28.1	385 人
(7) デポジット制度の導入など生産者による積極的資源回収の仕組みづくり	23.8	326 人
(8) 地域による環境美化(クリーン作戦など)	20.8	285 人
(9) その他	2.6	35 人
無回答	1.6	22 人

グラフ単位：(%)

ごみの減量化・リサイクルの推進のための取り組みについて、性別にみると、男女とも「ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み」が最も高く、『男性』53.0%、『女性』60.5%で、これに『男性』は「学校や地域における環境学習の充実」39.4%、『女性』は「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」37.2%が続いている。

年齢別にみると、いずれも「ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み」が5～7割台と最も高く、『18～19歳』で77.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で「ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み」が最も高く、『主婦・主夫』で64.7%と最も高くなっている。『農林漁業』では「学校や地域における環境学習の充実」47.3%が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み」が5～6割台と最も高く、『小豆圏域』で63.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み」が5割台と最も高く、『20年以上』で57.4%と最も高くなっている。

図表 2-(7)-2 【ごみの減量化・リサイクルの推進のための取り組みについて】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)		
	全体 (人)	ごみの多くを占める 重点化した取り組み	学校や地域における 環境学習の充実	不法投棄の監視・ 通報体制の充実	市町でのごみの分別 方法や処理方法の見直し (可燃ごみから資源ごみへ の変更など)	広報の充実など 県民全体への意識啓発 や情報提供の強化	スーパーでの買い 物袋持参の協力呼びかけ や包装の簡素化	資源回収の仕組みづくり	デポジット制度の導入 など生産者による積極 的資源回収の仕組みづくり	地域による環境美化 (クリーン作戦など)	その他	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)												
全体	1,369	56.8	36.6	35.2	34.6	30.8	28.1	23.8	20.8	2.6	1.6	
性別	男性	594	53.0	39.4	38.6	32.0	34.8	22.7	23.2	23.1	3.0	1.9
	女性	734	60.5	33.8	31.6	37.2	28.3	32.3	24.7	18.9	2.3	1.1
年齢別	18～19歳	9	77.8	66.7	44.4	11.1	11.1	55.6	22.2	-	-	-
	20～29歳	79	50.6	41.8	30.4	39.2	25.3	32.9	17.7	27.8	1.3	-
	30～39歳	103	65.0	37.9	35.0	28.2	27.2	26.2	29.1	17.5	-	1.0
	40～49歳	172	60.5	45.3	34.9	30.2	27.3	20.9	29.1	19.8	2.9	-
	50～59歳	239	53.1	38.9	38.9	31.8	33.5	23.8	28.0	17.2	3.8	0.8
	60～69歳	309	54.7	35.9	32.7	37.9	35.6	23.0	24.6	19.4	3.2	1.9
	70歳以上	425	58.1	30.6	34.6	37.2	30.6	35.8	19.5	24.5	2.4	2.4
職業別	農林漁業	55	45.5	47.3	45.5	43.6	34.5	27.3	18.2	16.4	1.8	-
	商工業、サービス業、自由業など	144	50.7	39.6	34.0	33.3	33.3	25.7	23.6	20.8	2.1	2.1
	会社、商店、官公庁などに勤務	591	57.4	41.3	34.5	32.1	31.0	24.4	27.6	18.4	2.7	1.4
	主婦・主夫	255	64.7	28.6	32.5	40.0	27.1	32.2	20.0	23.1	1.2	1.2
	無職	289	55.0	30.4	36.0	34.6	33.2	32.9	21.8	24.6	4.2	1.7
圏域別	高松圏域	677	60.1	36.6	36.5	31.5	28.1	25.8	26.4	19.9	3.2	1.5
	東讃圏域	119	53.8	27.7	33.6	31.9	33.6	40.3	17.6	27.7	0.8	1.7
	小豆圏域	46	63.0	32.6	19.6	58.7	21.7	34.8	19.6	30.4	-	-
	中讃圏域	382	53.1	39.0	34.6	34.8	33.5	30.4	22.0	20.7	2.1	1.8
	西讃圏域	143	51.7	38.5	37.8	42.7	37.1	20.3	23.1	16.1	2.8	2.1
居住年数別	3年未満	63	57.1	41.3	34.9	42.9	33.3	30.2	25.4	17.5	1.6	-
	3年以上～10年未満	169	55.6	45.0	37.3	26.0	29.0	19.5	32.5	20.7	4.1	0.6
	10年以上～20年未満	203	56.2	44.8	33.5	32.0	25.1	24.1	25.6	22.2	4.4	1.0
	20年以上	899	57.4	32.9	34.8	36.6	32.7	30.1	22.0	20.8	2.0	1.8

(8) 生物多様性の保全の取り組みについて

問10 生物多様性\*の保全の取り組みについて、効果が高いと思われるものを次の中から3つまで選んでください。

※ **生物多様性**：さまざまな生き物が将来にわたって共存できる状態

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答数の多い順に並べ替え

1	身近な自然（里地・里山・里海）の保全	70.8%(70.7%)
2	農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理	67.0%(65.9%)
3	アライグマやヌートリアなど生態系や人間生活に影響を与える外来生物の防除	46.9%(46.0%)
4	絶滅のおそれのある野生動植物の保護	43.2%(45.3%)
5	生物多様性に関する活動を行っている団体などへの支援	19.3%(19.5%)
6	自然観察会など生物多様性について理解を深めるための普及啓発活動	17.0%(17.4%)
7	その他	1.5%( 1.3%)
	(無回答)	2.5%( 2.3%)

生物多様性の保全の取り組みについて、「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」70.8%が最も高く、次いで「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」67.0%、「アライグマやヌートリアなど生態系や人間生活に影響を与える外来生物の防除」46.9%、「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」43.2%となっている。

図表 2-(8)-1 生物多様性の保全の取り組みについて

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,369 人
(1) 身近な自然(里地・里山・里海)の保全	70.8	969 人
(2) 農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理	67.0	917 人
(3) アライグマやヌートリアなど生態系や人間生活に影響を与える外来生物の防除	46.9	642 人
(4) 絶滅のおそれのある野生動植物の保護	43.2	591 人
(5) 生物多様性に関する活動を行っている団体などへの支援	19.3	264 人
(6) 自然観察会など生物多様性について理解を深めるための普及啓発活動	17.0	233 人
(7) その他	1.5	20 人
無回答	2.5	34 人

グラフ単位：(%)

生物多様性の保全の取り組みについて、性別にみると、男女とも「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が最も高く、『男性』72.2%、『女性』70.3%で、これに男女とも「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が『男性』67.7%、『女性』66.8%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』では「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」、「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」が同率の77.8%と最も高く、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』、『60～69歳』では「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が最も高く、『70歳以上』では「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」74.1%が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『無職』では「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』では「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が最も高く、『東讃圏域』、『小豆圏域』では「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が6～7割台と最も高く、『3年未満』で76.2%と最も高くなっている。

図表 2-(8)-2 【生物多様性の保全の取り組みについて】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)			
		全体 (人)	身近な自然 (里地・里山・里海) の保全	鳥獣の 適切な 管理	農業被 害を 発生 させ るイ ノシ シな どの 野生	アライ グマ やヌ ート リア など 生態 系や 人間	絶滅 のお それ のあ る野 生動 植物 の保 護	生物 多様 性 に 関 する 活 動 を 行 っ て い る 団 体	自然 観 察 会 な ど 生 物 多 様 性 に つ い て 理 解 を	そ の 他	無 回 答
【表の見方】 単位=比率(%)											
全体		1,369	70.8	67.0	46.9	43.2	19.3	17.0	1.5	2.5	
性別	男性	594	72.2	67.7	48.3	44.3	15.2	18.9	2.4	2.2	
	女性	734	70.3	66.8	45.1	42.1	22.6	15.7	0.8	2.6	
年齢別	18～19歳	9	77.8	66.7	22.2	77.8	22.2	22.2	-	-	
	20～29歳	79	64.6	54.4	43.0	60.8	21.5	19.0	1.3	-	
	30～39歳	103	78.6	58.3	37.9	55.3	27.2	16.5	1.0	1.0	
	40～49歳	172	68.6	61.6	46.5	50.6	19.2	16.9	0.6	-	
	50～59歳	239	69.9	63.2	50.2	47.3	15.9	16.7	2.1	1.7	
	60～69歳	309	72.8	69.6	46.6	39.2	22.3	13.3	1.9	2.3	
	70歳以上	425	70.8	74.1	48.7	33.9	16.5	20.0	1.4	4.2	
職業別	農林漁業	55	72.7	78.2	60.0	32.7	14.5	14.5	1.8	-	
	商工業、サービス業、自由業など	144	72.2	69.4	46.5	45.1	18.1	9.7	0.7	2.1	
	会社、商店、官公庁などに勤務	591	72.9	63.3	45.0	48.2	19.0	17.9	1.9	1.7	
	主婦・主夫	255	68.2	67.8	46.7	39.2	24.7	16.5	-	3.9	
	無職	289	68.9	71.3	48.4	37.0	16.6	20.1	2.4	2.4	
圏域別	高松圏域	677	71.0	67.2	47.3	43.0	19.1	15.2	1.3	3.0	
	東讃圏域	119	68.9	71.4	45.4	35.3	23.5	16.0	2.5	3.4	
	小豆圏域	46	71.7	82.6	65.2	34.8	13.0	13.0	-	-	
	中讃圏域	382	68.6	63.4	44.8	46.1	20.4	20.9	1.3	2.1	
	西讃圏域	143	76.2	67.1	46.2	45.5	15.4	17.5	2.1	1.4	
居住年数別	3年未満	63	76.2	61.9	44.4	52.4	20.6	12.7	3.2	-	
	3年以上～10年未満	169	73.4	60.4	44.4	49.7	23.1	18.3	0.6	0.6	
	10年以上～20年未満	203	67.5	63.1	51.7	47.8	19.2	17.2	0.5	1.5	
	20年以上	899	71.1	69.7	46.4	40.3	18.5	17.2	1.8	2.9	

(9) 瀬戸内海の環境の保全に関する取り組みについて

問11 瀬戸内海の環境の保全に関する取り組みについて、効果が高いと思われるものを次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答数の多い順に並べ替え

1	水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）	66.9% (67.4%)
2	沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出	50.1% (49.1%)
3	自然景観・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など）	44.9% (45.7%)
4	持続可能な水産資源の維持・管理の推進	29.7% (29.6%)
5	瀬戸内海に面した府県などとの連携の強化	27.5% (28.2%)
6	水質などの監視測定や調査研究	21.8% (22.2%)
7	健全な物質（栄養塩※など）の循環機能の維持・回復	17.1% (17.3%)
8	環境学習の推進	9.3% ( 9.0%)
9	情報提供、広報の充実	4.9% ( 4.9%)
10	その他	1.2% ( 1.0%)
	（無回答）	2.1% ( 2.0%)

※ **栄養塩**：植物が育つための栄養分として必要な窒素やリンなどの物質のこと

瀬戸内海の環境の保全に関する取り組みについて、「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）」66.9%が最も高く、次いで「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」50.1%、「自然景観・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など）」44.9%、「持続可能な水産資源の維持・管理の推進」29.7%となっている。

図表 2-(9)-1 瀬戸内海の環境の保全に関する取り組みについて

		回答数
全 体	100.0	1,369 人
(1) 水質の保全・管理(産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など)	66.9	916 人
(2) 沿岸域の環境(藻場・干潟・自然海浜など)の保全・再生・創出	50.1	686 人
(3) 自然景観・文化的景観の保全(自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など)	44.9	615 人
(4) 持続可能な水産資源の維持・管理の推進	29.7	406 人
(5) 瀬戸内海に面した府県などとの連携の強化	27.5	376 人
(6) 水質などの監視測定や調査研究	21.8	298 人
(7) 健全な物質(栄養塩など)の循環機能の維持・回復	17.1	234 人
(8) 環境学習の推進	9.3	128 人
(9) 情報提供、広報の充実	4.9	67 人
(10) その他	1.2	17 人
無回答	2.1	29 人

グラフ単位：(%)

瀬戸内海の環境の保全に関する取り組みについて、性別にみると、男女とも「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）」が最も高く、『男性』66.7%、『女性』67.3%で、これに『男性』では「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」55.2%、『女性』では「自然環境・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策対策など）」47.8%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）」が6割～8割台と最も高く、『18～19歳』で88.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）」が5～7割台と最も高く、『農林漁業』で70.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）」が5～7割台と最も高く、『西讃圏域』で77.6%と最も高くなっている。『小豆圏域』では「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」65.2%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）」が6割台と最も高く、『10年以上～20年未満』で68.0%と最も高くなっている。

図表 2-(9)-2 【瀬戸内海の環境の保全に関する取り組みについて】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)		
		全体 (人)	の水質の 整備・保 全・有害 化学物質 の対策等 (%)	の沿岸域 の環境 (藻場・干 潟・自然 海浜など)	自然景観 ・文化的 景観の保 全(自然公 園・緑地 ・史跡の 保全・海 ごみ対策 など)	持続可能 な水産資 源の維持 ・管理の 推進	瀬戸内海 に面した 府県など との連携 の強化	水質など の監視測 定や調査 研究	健全な物 質(栄養塩 など)の循 環機能の 維持・回 復	環境学習 の推進	情報提供 ・広報の 充実	その他	無回答
【表の見方】 単位＝比率(%)													
全体		1,369	66.9	50.1	44.9	29.7	27.5	21.8	17.1	9.3	4.9	1.2	2.1
性別	男性	594	66.7	55.2	41.9	31.0	27.3	22.1	16.5	8.9	5.2	2.0	1.7
	女性	734	67.3	46.2	47.8	28.9	27.4	21.1	17.3	9.8	4.9	0.5	2.3
年齢別	18～19歳	9	88.9	11.1	66.7	22.2	33.3	44.4	22.2	11.1	-	-	-
	20～29歳	79	64.6	44.3	49.4	24.1	27.8	24.1	26.6	7.6	8.9	-	-
	30～39歳	103	68.0	44.7	55.3	35.9	31.1	20.4	13.6	2.9	4.9	1.0	1.0
	40～49歳	172	69.8	51.7	38.4	36.6	27.9	22.7	18.0	8.1	2.9	1.2	0.6
	50～59歳	239	71.1	57.7	42.7	25.5	23.0	22.2	15.9	9.6	4.6	0.8	0.8
	60～69歳	309	64.4	48.9	45.0	33.0	22.0	21.7	19.1	10.0	5.2	2.9	1.9
	70歳以上	425	65.6	49.6	45.2	27.3	32.5	20.7	14.8	11.1	5.4	0.5	3.5
職業別	農林漁業	55	70.9	54.5	38.2	32.7	30.9	29.1	14.5	12.7	1.8	3.6	-
	商工業、サービス業、自由業など	144	59.0	56.3	44.4	22.9	26.4	22.9	16.7	11.1	8.3	1.4	2.1
	会社、商店、官公庁などに勤務	591	68.7	52.6	45.2	33.2	25.4	21.7	17.3	7.4	3.9	1.2	1.0
	主婦・主夫	255	67.5	43.9	48.6	25.1	29.8	21.2	17.6	12.2	5.5	-	3.1
	無職	289	67.1	46.7	43.6	30.1	29.1	20.8	16.6	9.3	5.9	1.7	2.8
圏域別	高松圏域	677	66.9	51.4	43.1	29.5	28.4	21.3	16.7	10.0	4.7	1.5	2.4
	東讃圏域	119	52.9	49.6	45.4	36.1	24.4	19.3	21.0	10.1	4.2	0.8	4.2
	小豆圏域	46	52.2	65.2	60.9	30.4	21.7	13.0	17.4	4.3	6.5	-	-
	中讃圏域	382	68.8	45.8	44.2	27.7	28.5	25.7	18.6	8.9	6.3	1.0	1.6
	西讃圏域	143	77.6	51.0	50.3	28.7	25.2	18.9	11.2	8.4	2.1	1.4	1.4
居住年数別	3年未満	63	66.7	46.0	49.2	34.9	30.2	22.2	25.4	6.3	6.3	1.6	-
	3年以上～10年未満	169	65.7	57.4	50.3	27.8	31.4	23.1	14.2	5.9	5.3	3.0	0.6
	10年以上～20年未満	203	68.0	46.3	39.4	33.0	26.1	28.1	18.7	10.3	3.0	1.0	1.5
	20年以上	899	67.3	50.1	45.2	29.3	26.8	20.1	16.5	10.0	5.3	0.9	2.3

(10)環境保全活動への参加と協働のための取り組みについて

問12 環境保全活動への参加と協働のための取り組みについて、効果が高いと思われるものを次の中から3つまで選んでください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答の多い順に並べ替え

1	学校における環境教育・環境学習の充実	59.9%(60.8%)
2	行政や企業、環境保全活動団体、自治体等の連携強化	51.3%(50.8%)
3	生涯学習における環境教育・環境学習の充実	33.1%(32.4%)
4	環境教育・環境学習の指導者や環境保全活動リーダーの育成	29.7%(28.7%)
5	環境保全活動参加のきっかけとなるような啓発イベントの実施	27.2%(28.1%)
6	環境保全活動に関する情報提供、広報の充実	22.5%(21.6%)
7	環境保全団体や活動リーダーへの支援	19.0%(19.2%)
8	環境保全活動団体や活動リーダー相互の連携の強化	12.7%(12.8%)
9	その他	1.4%( 1.2%)
	(無回答)	3.4%( 3.3%)

環境保全活動への参加と協働のための取り組みについて、「学校における環境教育・環境学習の充実」59.9%が最も高く、次いで「行政や企業、環境保全活動団体、自治体等の連携強化」51.3%、「生涯学習における環境教育・環境学習の充実」33.1%、「環境教育・環境学習の指導者や環境保全活動リーダーの育成」29.7%となっている。

図表 2-(10)-1 環境保全活動への参加と協働のための取り組みについて

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,369 人
(1) 学校における環境教育・環境学習の充実	59.9	820 人
(2) 行政や企業、環境保全活動団体、自治体等の連携強化	51.3	702 人
(3) 生涯学習における環境教育・環境学習の充実	33.1	453 人
(4) 環境教育・環境学習の指導者や環境保全活動リーダーの育成	29.7	406 人
(5) 環境保全活動参加のきっかけとなるような啓発イベントの実施	27.2	373 人
(6) 環境保全活動に関する情報提供、広報の充実	22.5	308 人
(7) 環境保全団体や活動リーダーへの支援	19.0	260 人
(8) 環境保全活動団体や活動リーダー相互の連携の強化	12.7	174 人
(9) その他	1.4	19 人
無回答	3.4	47 人

グラフ単位：(%)

環境保全活動への参加と協働のための取り組みについて、性別にみると、男女とも「学校における環境教育・環境学習の充実」が最も高く、『男性』62.5%、『女性』57.5%で、これに男女とも「行政や企業、環境保全活動団体、自治体等の連携強化」が『男性』51.2%、『女性』52.2%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「学校における環境教育・環境学習の充実」が5～7割台と最も高く、『18～19歳』で77.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、『主婦・主夫』を除くすべての職業で「学校における環境教育・環境学習の充実」が5～6割台と最も高く、『農林漁業』で65.5%と最も高くなっている。『主婦・主夫』では「行政や企業、環境保全活動団体、自治体等の連携強化」が53.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「学校における環境教育・環境学習の充実」が5～6割台と最も高く、『小豆圏域』で63.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「学校における環境教育・環境学習の充実」が5～6割台と最も高く、『3年以上～10年未満』で66.9%と最も高くなっている。

図表 2-(10)-2 【環境保全活動への参加と協働のための取り組みについて】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)		
		全体 (人)	学校における環境教育・環境学習の充実	行政や企業との連携強化	実生涯学習における環境教育・環境学習の充実	環境教育・環境学習の指導者や環境保全活動リーダーの育成	環境保全活動参加のきっかけとなるような啓発イベントの実施	環境保全活動に関する情報提供、広報の充実	環境保全団体や活動リーダーへの支援	環境保全活動団体や活動リーダー相互の連携の強化	その他	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)												
全体		1,369	59.9	51.3	33.1	29.7	27.2	22.5	19.0	12.7	1.4	3.4
性別	男性	594	62.5	51.2	32.8	32.5	25.6	23.9	18.7	12.6	2.2	2.7
	女性	734	57.5	52.2	33.5	27.2	28.6	21.7	19.3	12.7	0.8	3.5
年齢別	18～19歳	9	77.8	44.4	-	22.2	55.6	11.1	33.3	33.3	-	-
	20～29歳	79	62.0	50.6	31.6	20.3	31.6	22.8	13.9	7.6	1.3	1.3
	30～39歳	103	69.9	55.3	27.2	23.3	28.2	15.5	22.3	12.6	-	1.0
	40～49歳	172	66.9	49.4	38.4	22.1	29.7	15.1	20.3	10.5	1.7	1.2
	50～59歳	239	61.5	52.3	31.0	31.4	27.2	22.6	16.7	11.3	2.5	0.8
	60～69歳	309	59.9	57.3	33.7	29.1	25.2	24.9	19.7	12.9	2.3	2.3
	70歳以上	425	53.4	48.2	34.4	35.3	25.6	26.1	18.8	14.6	0.5	6.6
職業別	農林漁業	55	65.5	41.8	45.5	34.5	25.5	25.5	16.4	14.5	1.8	1.8
	商工業、サービス業、自由業など	144	63.9	43.1	32.6	27.8	29.9	21.5	20.1	12.5	2.1	3.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	591	63.1	54.8	31.6	26.6	28.1	20.3	18.6	11.0	1.7	1.9
	主婦・主夫	255	52.5	53.3	37.6	32.9	28.6	25.5	16.9	13.7	0.4	4.3
	無職	289	57.1	50.5	30.4	32.5	22.8	25.3	21.8	14.5	1.4	4.5
圏域別	高松圏域	677	60.6	51.0	32.6	30.9	28.2	21.9	19.1	12.4	1.2	3.1
	東讃圏域	119	52.1	41.2	32.8	28.6	25.2	26.1	24.4	9.2	0.8	7.6
	小豆圏域	46	63.0	52.2	26.1	32.6	28.3	23.9	19.6	13.0	-	4.3
	中讃圏域	382	61.3	52.6	34.6	28.0	26.7	21.7	18.8	13.4	1.0	2.9
	西讃圏域	143	58.0	57.3	33.6	28.7	25.9	24.5	14.7	14.7	4.2	2.8
居住年数別	3年未満	63	66.7	42.9	28.6	30.2	33.3	17.5	27.0	14.3	1.6	-
	3年以上～10年未満	169	66.9	58.0	33.1	20.1	32.0	21.3	18.9	11.2	3.0	1.2
	10年以上～20年未満	203	65.5	53.2	30.5	27.1	26.1	17.2	20.2	10.3	2.5	2.5
	20年以上	899	57.1	51.1	34.1	31.8	26.0	24.6	18.2	13.2	0.9	3.8

### (11) 環境施策に関する要望について

問 13 環境施策に関する要望がありましたら、自由にご記入ください。

※114 件中 5 件の意見を抜粋

- ・不法投棄や企業から出るゴミの量を減らす等、パトロールを強化してもらいたい。機械油や汚水を処理できていない会社を指導してもらいたい。
- ・豊かな自然や希少な動植物は、香川県でも大きな被害を受けていると感じる。一方で、将来の環境を守る子供たちは、スマホ等の普及により、自然にふれあう機会を急速に減らしていると思います。これからの香川県を支える子供たちが自然環境の美しさ・重要性を知ることができるイベントを、県内各地でもっと行ってほしい。
- ・海水のきれいさだけでなく、栄養を与えるように整備してほしい。
- ・農業・林業などの後継者を育てる制度があればと思う。一度人が手を入れた以上、耕作放棄など、手入れを放棄すると、荒れて人にもその他生き物にも良くないと思う。
- ・学生への環境教育は適切な対応だと思う。他に、活動しやすい中間層の年齢が参加できるようなイベントが充実すれば、より身近に感じると思う。

### 3. 食習慣・生活習慣について

#### (1) 健康や食生活について

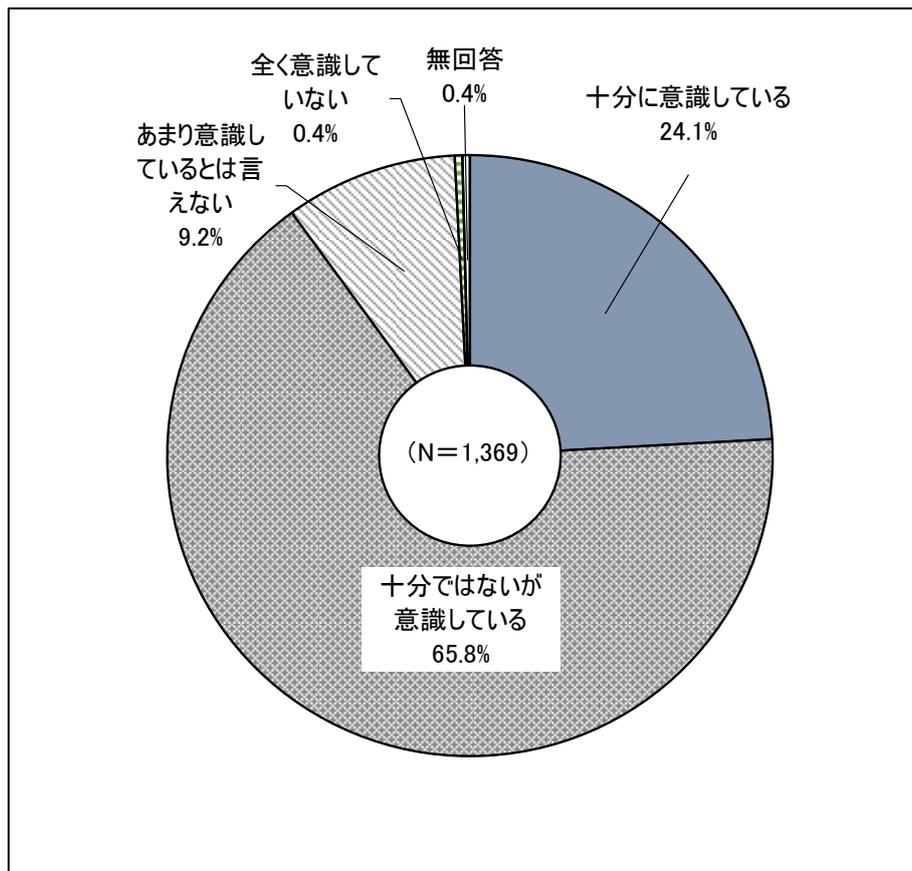
問14 あなたは健康や食生活について、普段から意識していますか。次の中から1つだけ選んでください。  
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 十分に意識している	24.1%(23.5%)
2 十分ではないが意識している	65.8%(65.5%)
3 あまり意識しているとは言えない	9.2%(10.1%)
4 全く意識していない	0.4%(0.5%)
(無回答)	0.4%(0.4%)

健康や食生活について、「十分ではないが意識している」65.8%が最も高く、次いで「十分に意識している」24.1%、「あまり意識しているとは言えない」9.2%、「全く意識していない」0.4%となっている。

図表 3-(1)-1 健康や食生活について



健康や食生活について、性別にみると、「十分に意識している」と「十分ではないが意識している」を合わせた【意識している】の割合は『男性』87.7%、『女性』92.3%で、「あまり意識しているとは言えない」と「全く意識していない」を合わせた【意識していない】の割合は『男性』11.9%、『女性』7.5%となっており、男女とも【意識している】の割合が【意識していない】の割合を上回っている。

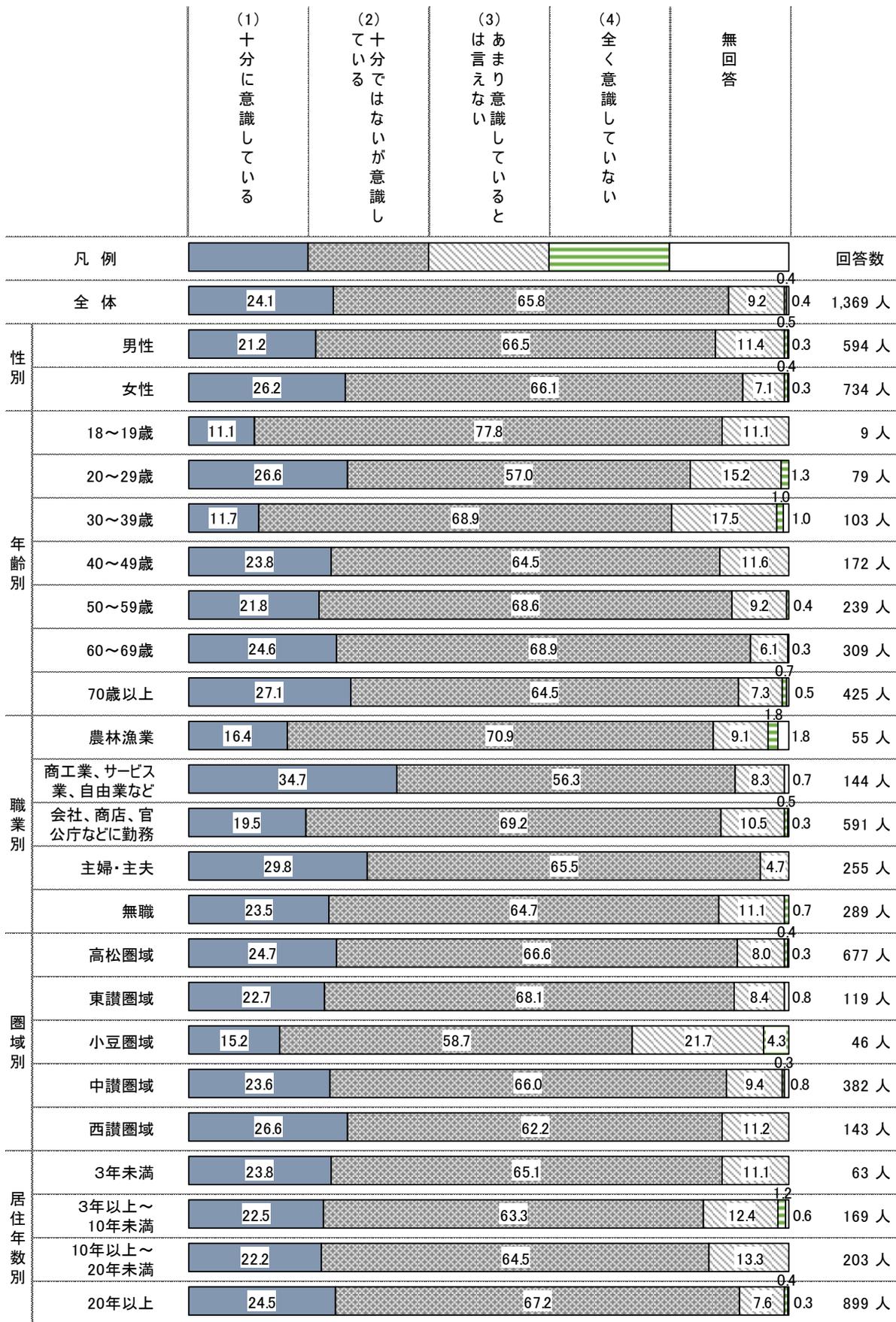
年齢別にみると、【意識している】の割合は、いずれも【意識していない】の割合を上回っており、『60～69歳』で93.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【意識している】の割合は、いずれも【意識していない】の割合を上回っており、『主婦・主夫』で95.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【意識している】の割合は、いずれも【意識していない】の割合を上回っており、『高松圏域』で91.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【意識している】の割合は、いずれも【意識していない】の割合を上回っており、『20年以上』で91.7%と最も高くなっている。

図表 3-(1)-2 【健康や食生活について】



グラフ単位：(%)

(2)食事は家族や友人、知人と一緒に取るかについて

問15 食事は、家族や友人、知人と一緒に取りますか。次の中から1つだけ選んでください。

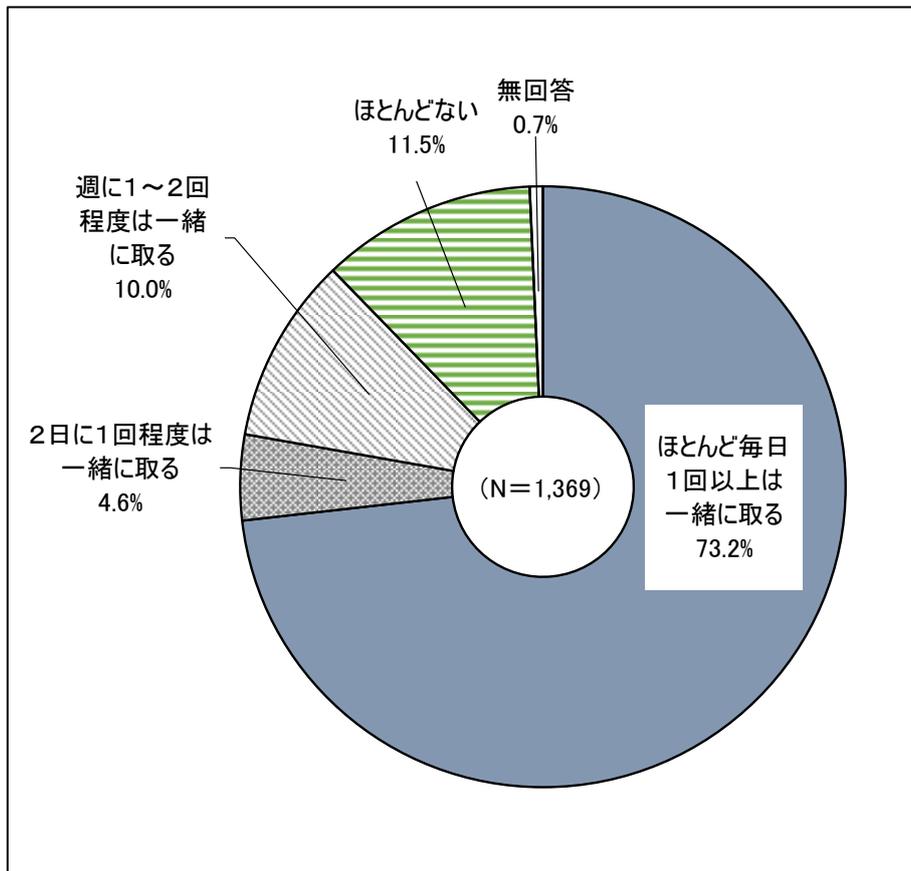
※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 ほとんど毎日1回以上は一緒に取る	73.2%(72.9%)
2 2日に1回程度は一緒に取る	4.6%( 5.2%)
3 週に1～2回程度は一緒に取る	10.0%(10.1%)
4 ほとんどない	11.5%(11.2%)
(無回答)	0.7%( 0.7%)

食事は家族や友人、知人と一緒に取るかについて、「ほとんど毎日1回以上は一緒に取る」73.2%が最も高く、次いで「ほとんどない」11.5%、「週に1～2回程度は一緒に取る」10.0%、「2日に1回程度は一緒に取る」4.6%となっている。

図表 3-(2)-1 食事は家族や友人、知人と一緒に取るかについて



「食事は家族や友人、知人と一緒に取るかについて、性別にみると、男女とも「ほとんど毎日1回以上は一緒に取る」が最も高く、『男性』71.4%、『女性』75.1%で、これに『男性』では「ほとんどない」13.8%、『女性』では「週に1～2回程度は一緒に取る」、「ほとんどない」が同率の9.9%と続いている。

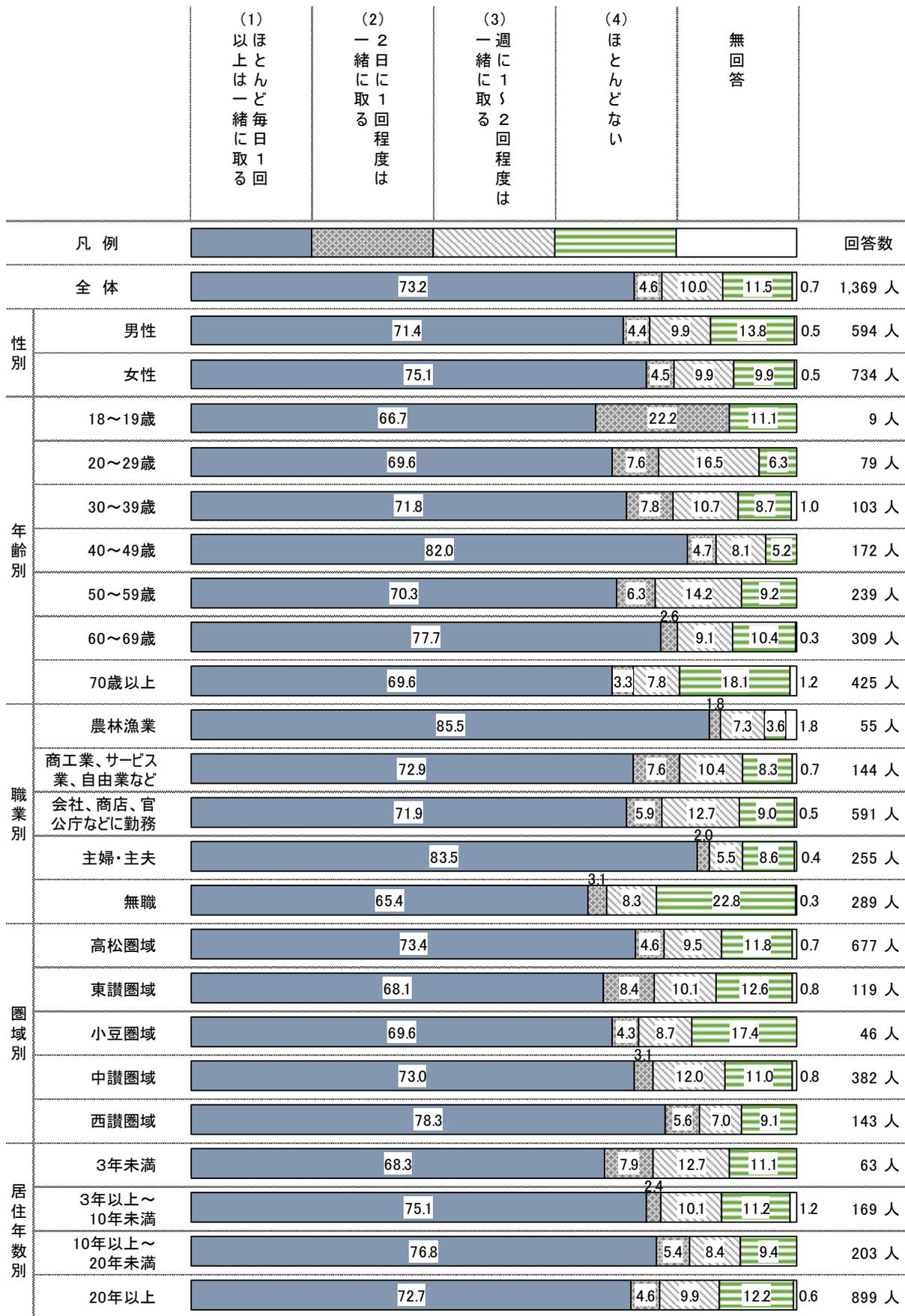
年齢別にみると、いずれも「ほとんど毎日1回以上は一緒に取る」が6～8割台と最も高く、『40～49歳』で82.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「ほとんど毎日1回以上は一緒に取る」が6～8割台と最も高く、『農林漁業』で85.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「ほとんど毎日1回以上は一緒に取る」が6～7割台と最も高く、『西讃圏域』で78.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「ほとんど毎日1回以上は一緒に取る」が6～7割台と最も高く、『10年以上～20年未満』で76.8%と最も高くなっている。

図表 3-(2)-2 【食事は家族や友人、知人と一緒に取るかについて】



グラフ単位：(%)

(3) 食事で主食・主菜・副菜の3種類をそろえて食べるようにしているかについて

問16 食事で主食・主菜・副菜※の3種類をそろえて食べるようにしていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※【主食】：ごはん、パン、うどんなど  
【主菜】：肉、魚、卵、大豆料理など  
【副菜】：野菜、きのこ、いも、海藻料理など

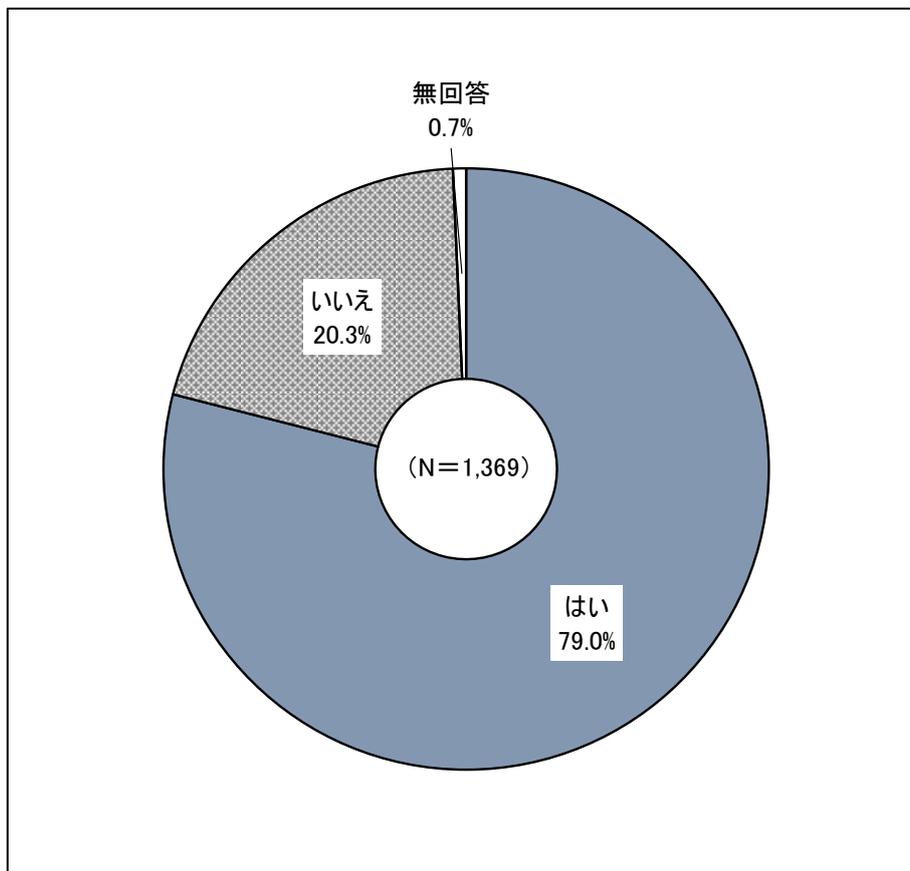
※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 はい	79.0%(78.0%)
2 いいえ	20.3%(21.3%)
(無回答)	0.7%(0.7%)

食事で主食・主菜・副菜の3種類をそろえて食べるようにしているかについて、「はい」79.0%、「いいえ」20.3%となっている。

図表 3-(3)-1 食事で主食・主菜・副菜の3種類をそろえて食べるようにしているかについて



食事で主食・主菜・副菜の3種類をそろえて食べるようにしているかについて、性別にみると、男女とも「はい」が最も高く、『男性』74.1%、『女性』83.8%で、これに男女とも「いいえ」が『男性』25.1%、『女性』15.9%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「はい」が5～8割台と最も高く、『70歳以上』で84.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「はい」が7～9割台と最も高く、『主婦・主夫』で92.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「はい」が7～8割台と最も高く、『中讃圏域』で80.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「はい」が7～8割台と最も高く、『20年以上』で80.3%と最も高くなっている。

図表 3-(3)-2 【食事で主食・主菜・副菜の3種類をそろえて食べるようにしているかについて】

		(1) はい	(2) いいえ	無 回 答	
凡 例					回答数
全 体		79.0	20.3	0.7	1,369 人
性別	男性	74.1	25.1	0.8	594 人
	女性	83.8	15.9	0.3	734 人
年齢別	18～19歳	55.6	44.4		9 人
	20～29歳	72.2	27.8		79 人
	30～39歳	73.8	25.2	1.0	103 人
	40～49歳	79.1	20.9		172 人
	50～59歳	72.4	27.6		239 人
	60～69歳	82.5	17.2	0.3	309 人
	70歳以上	84.2	14.8	0.9	425 人
職業別	農林漁業	81.8	14.5	3.6	55 人
	商工業、サービス業、自由業など	81.3	18.1	0.7	144 人
	会社、商店、官公庁などに勤務	75.3	24.4	0.3	591 人
	主婦・主夫	92.9	7.1		255 人
	無職	74.0	25.3	0.7	289 人
圏域別	高松圏域	79.8	19.6	0.6	677 人
	東讃圏域	73.1	26.1	0.8	119 人
	小豆圏域	76.1	23.9		46 人
	中讃圏域	80.6	18.3	1.0	382 人
	西讃圏域	76.9	23.1		143 人
居住年数別	3年未満	77.8	22.2		63 人
	3年以上～10年未満	77.5	21.9	0.6	169 人
	10年以上～20年未満	76.4	23.6		203 人
	20年以上	80.3	19.0	0.7	899 人

グラフ単位：(%)

**(4) 食事で主食・主菜・副菜の3種類の食事を1日に2回以上食べるのは週に何日あるかについて**

問17 食事で主食・主菜・副菜の3種類をそろえた食事を1日に2回以上食べることは、週に何日ありますか。次の中から1つだけ選んでください。

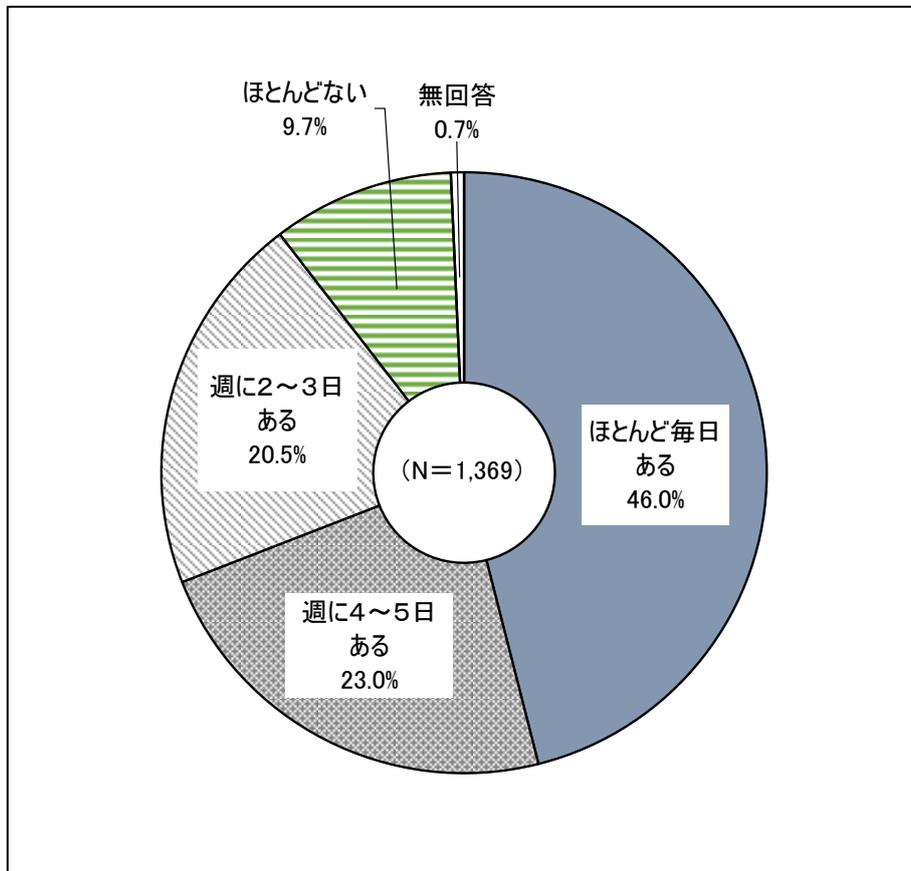
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 ほとんど毎日ある	46.0%(45.4%)
2 週に4～5日ある	23.0%(23.3%)
3 週に2～3日ある	20.5%(20.7%)
4 ほとんどない	9.7%( 9.8%)
(無回答)	0.7%( 0.8%)

食事で主食・主菜・副菜の3種類の食事を1日に2回以上食べるのは週に何日あるかについて、「ほとんど毎日ある」46.0%が最も高く、次いで「週に4～5日ある」23.0%、「週に2～3日ある」20.5%、「ほとんどない」9.7%となっている。

**図表 3-(4)-1 食事で主食・主菜・副菜の3種類の食事を1日に2回以上食べるのは週に何日あるかについて**



食事で主食・主菜・副菜の3種類の食事を1日に2回以上食べるのは週に何日あるかについて、性別にみると、男女とも「ほとんど毎日ある」が『男性』37.7%、『女性』52.9%と最も高くなっている。

年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で「ほとんど毎日ある」が3～5割台と最も高く、『18～19歳』では「週に4～5日ある」55.6%が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「ほとんど毎日ある」が4～5割台と最も高く、『主婦・主夫』で58.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「ほとんど毎日ある」が4割台と最も高く、『東讚圏域』、『中讚圏域』で同率の47.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「ほとんど毎日ある」が3～4割台と最も高く、『20年以上』で48.8%と最も高くなっている。

図表 3-(4)-2 【食事で主食・主菜・副菜の3種類の食事を1日に2回以上食べるのは週に何日あるかについて】

		(1) ほとん ど毎日 ある	(2) 週に 4〜5 日ある	(3) 週に 2〜3 日ある	(4) ほとん どない	無回 答		
凡 例							回答数	
全 体		46.0	23.0	20.5	9.7	0.7	1,369 人	
性別	男性	37.7	24.2	23.7	14.0	0.3	594 人	
	女性	52.9	21.9	18.1	6.4	0.7	734 人	
年齢別	18～19歳	33.3	55.6		11.1		9 人	
	20～29歳	41.8	24.1	20.3	12.7	1.3	79 人	
	30～39歳	38.8	22.3	27.2	10.7	1.0	103 人	
	40～49歳	47.1	18.0	23.3	11.6		172 人	
	50～59歳	40.6	22.2	23.8	13.0	0.4	239 人	
	60～69歳	47.6	23.9	17.5	10.7	0.3	309 人	
	70歳以上	50.4	24.0	18.8	5.9	0.9	425 人	
職業別	農林漁業	49.1	20.0	23.6	5.5	1.8	55 人	
	商工業、サービス業、自由業など	48.6	19.4	18.8	11.8	1.4	144 人	
	会社、商店、官公庁などに勤務	42.1	23.4	23.5	10.7	0.3	591 人	
	主婦・主夫	58.4	22.4	15.7	3.5		255 人	
	無職	41.9	24.2	19.4	13.5	1.0	289 人	
圏域別	高松圏域	45.8	25.3	19.9	8.7	0.3	677 人	
	東讃圏域	47.1	16.8	22.7	12.6	0.8	119 人	
	小豆圏域	41.3	30.4	15.2	10.9	2.2	46 人	
	中讃圏域	47.1	19.9	21.2	10.2	1.6	382 人	
	西讃圏域	45.5	22.4	21.7	10.5		143 人	
居住年数別	3年未満	47.6	25.4	19.0	7.9		63 人	
	3年以上～10年未満	37.9	24.3	25.4	11.8	0.6	169 人	
	10年以上～20年未満	40.9	26.6	21.7	10.8		203 人	
	20年以上	48.8	21.6	19.5	9.3	0.8	899 人	

グラフ単位: (%)

(5)うどんを食べるときは副食を一緒に取るようにしているかについて

問18 うどんを食べるときは副食\*を一緒に取るようにしていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※【副食】：小鉢や天ぷらなどのおかず（寿司やおにぎりなどのご飯類、パン類は除く。）

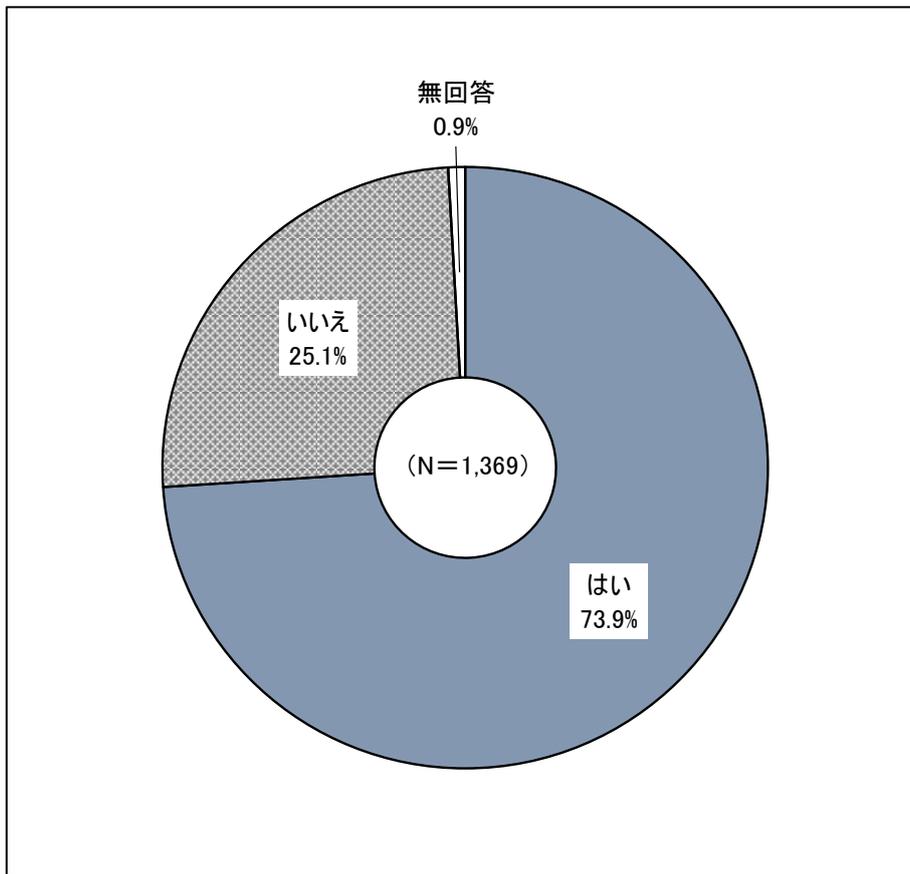
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 はい	73.9%(73.4%)
2 いいえ	25.1%(25.7%)
(無回答)	0.9%(0.9%)

うどんを食べるときは副食を一緒に取るようにしているかについて、「はい」73.9%、「いいえ」25.1%となっている。

図表 3-(5)-1 うどんを食べるときは副食を一緒に取るようにしているかについて



うどんを食べるときは副食を一緒に取るようにしているかについて、性別にみると、男女とも「はい」が最も高く、『男性』71.9%、『女性』76.0%で、これに男女とも「いいえ」が『男性』27.1%、『女性』23.3%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「はい」が6～8割台と最も高く、『18～19歳』で88.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「はい」が6～8割台と最も高く、『主婦・主夫』で83.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「はい」が6～7割台と最も高く、『東讃圏域』で75.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「はい」が6～7割台と最も高く、『20年以上』で74.9%と最も高くなっている。

図表 3-(5)-2 【うどんを食べるときは副食を一緒に取るようにしているかについて】

		(1) はい	(2) いいえ	無 回 答	
凡 例					回答数
全 体		73.9	25.1	0.9	1,369 人
性別	男性	71.9	27.1	1.0	594 人
	女性	76.0	23.3	0.7	734 人
年齢別	18～19歳	88.9	11.1		9 人
	20～29歳	60.8	39.2		79 人
	30～39歳	73.8	25.2	1.0	103 人
	40～49歳	73.3	25.6	1.2	172 人
	50～59歳	70.7	29.3		239 人
	60～69歳	78.0	21.4	0.6	309 人
	70歳以上	75.5	23.1	1.4	425 人
職業別	農林漁業	74.5	23.6	1.8	55 人
	商工業、サービス業、自由業など	75.0	22.2	2.8	144 人
	会社、商店、官公庁などに勤務	73.6	25.7	0.7	591 人
	主婦・主夫	83.5	16.5		255 人
	無職	66.4	32.9	0.7	289 人
圏域別	高松圏域	75.5	23.9	0.6	677 人
	東讃圏域	75.6	23.5	0.8	119 人
	小豆圏域	63.0	37.0		46 人
	中讃圏域	73.8	24.6	1.6	382 人
	西讃圏域	69.2	29.4	1.4	143 人
居住年数別	3年未満	74.6	25.4		63 人
	3年以上～10年未満	69.8	28.4	1.8	169 人
	10年以上～20年未満	73.9	25.1	1.0	203 人
	20年以上	74.9	24.5	0.7	899 人

グラフ単位：(%)

(6)朝食を食べる回数について

問19 朝食を食べる回数について、次の中から1つだけ選んでください。

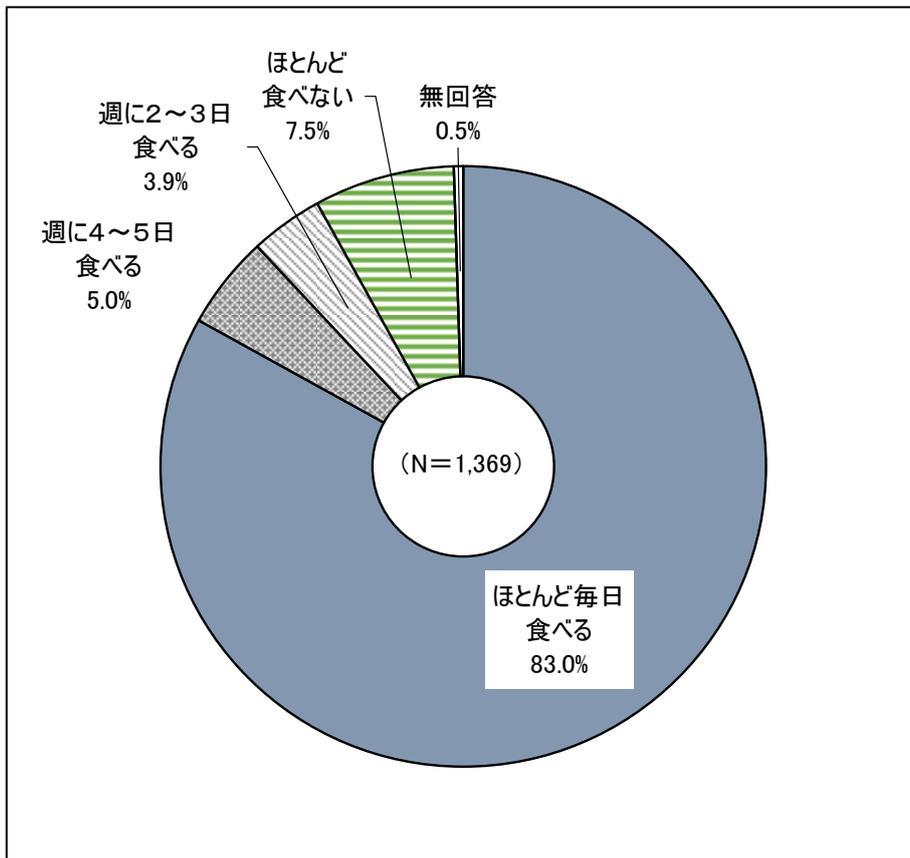
※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 ほとんど毎日食べる	83.0%(81.6%)
2 週に4～5回食べる	5.0%( 5.5%)
3 週に2～3回食べる	3.9%( 4.3%)
4 ほとんど食べない	7.5%( 8.0%)
(無回答)	0.5%( 0.5%)

朝食を食べる回数について、「ほとんど毎日食べる」83.0%が最も高く、次いで「ほとんど食べない」7.5%、「週に4～5回食べる」5.0%、「週に2～3回食べる」3.9%となっている。

図表 3-(6)-1 朝食を食べる回数について



朝食を食べる回数について、性別にみると、男女とも「ほとんど毎日食べる」が最も高く、『男性』79.1%、『女性』86.4%で、これに男女とも「ほとんど食べない」が『男性』10.3%、『女性』5.6%と続いている。

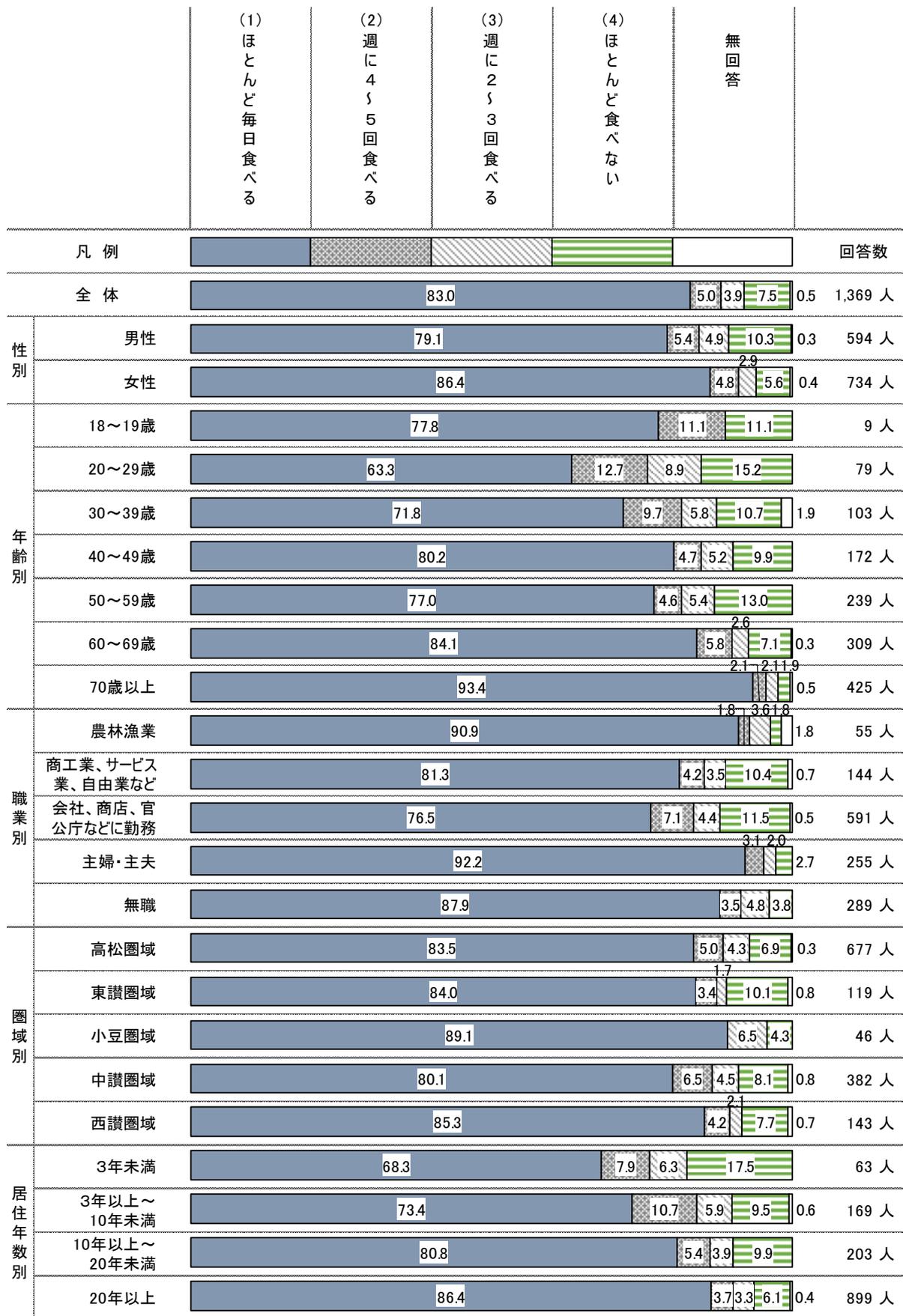
年齢別にみると、いずれも「ほとんど毎日食べる」が6～9割台と最も高く、『70歳以上』で93.4%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「ほとんど毎日食べる」が7～9割台と最も高く、『主婦・主夫』で92.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「ほとんど毎日食べる」が8割台と最も高く、『小豆圏域』で89.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「ほとんど毎日食べる」が6～8割台と最も高く、『20年以上』で86.4%と最も高くなっている。

図表 3-(6)-2 【朝食を食べる回数について】



グラフ単位：(%)

(7) 身長・体重について

問20 あなたの身長・体重をご記入ください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

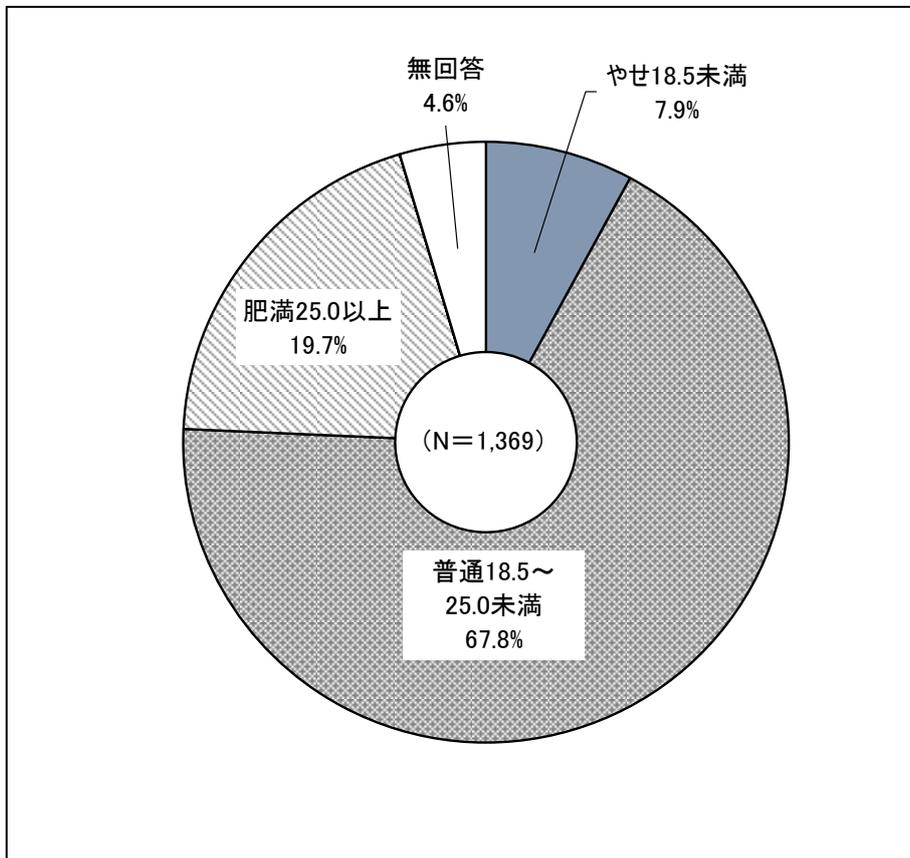
【回答者数=1,369】

- 1 身長 (平均 162cm)
- 2 体重 (平均 59kg)

身長と体重からのBMI 算出方法 体重(kg) ÷ (身長(m) × 身長(m))	
やせ 18.5 未満	7.9% ( 8.2%)
普通 18.5~25.0 未満	67.8% (67.7%)
肥満 25.0 以上	19.7% (18.9%)

身長・体重により BMI を算出したところ、「18.5 以上 25.0 未満 (普通)」67.8%が最も高く、次いで「25.0 以上 (肥満)」19.7%、「18.5 未満 (やせ)」7.9%となっている。

図表 3-(7)-1 BMI



身長・体重により BMI を算出したところ、性別にみると、「25.0 以上（肥満）」の割合は、『男性』28.3%が『女性』12.8%を上回っており、「18.5 未満（やせ）」の割合は、『女性』10.9%が『男性』4.4%を上回っている。

年齢別にみると、「25.0 以上（肥満）」の割合は、『60～69 歳』25.2%が最も高く、「18.5 未満（やせ）」の割合は、『20～29 歳』13.9%が最も高くなっている。

職業別にみると、「25.0 以上（肥満）」の割合は、『会社、商店、官公庁などに勤務』21.7%が最も高く、「18.5 未満（やせ）」の割合は、『主婦・主夫』10.2%が最も高くなっている。

圏域別にみると、「25.0 以上（肥満）」の割合は、『西讃圏域』22.4%が最も高く、「18.5 未満（やせ）」の割合は、『小豆圏域』8.7%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、「25.0 以上（肥満）」の割合は、『3 年未満』27.0%が最も高く、「18.5 未満（やせ）」の割合も、『3 年未満』14.3%が最も高くなっている。

図表 3-(7)-2 BMI

		(1) 1 や 8 せ ・ 5 未 満	(2) 2 1 普 5 8 通 ・ 0 5 未 満	(3) 2 肥 5 満 ・ 0 以 上	無 回 答	
凡 例						回答数
全 体		7.9	67.8	19.7	4.6	1,369 人
性 別	男 性	4.4	65.0	28.3	2.4	594 人
	女 性	10.9	70.6	12.8	5.7	734 人
年 齢 別	18～19歳	11.1	77.8		11.1	9 人
	20～29歳	13.9	64.6	12.7	8.9	79 人
	30～39歳	7.8	66.0	19.4	6.8	103 人
	40～49歳	6.4	62.2	23.8	7.6	172 人
	50～59歳	6.7	67.4	19.2	6.7	239 人
	60～69歳	6.8	66.3	25.2	1.6	309 人
	70歳以上	8.9	72.9	16.5	1.6	425 人
	職 業 別	農林漁業	9.1	67.3	20.0	3.6
商工業、サービス業、自由業など		7.6	68.1	19.4	4.9	144 人
会社、商店、官公庁などに勤務		6.4	66.2	21.7	5.8	591 人
主婦・主夫		10.2	73.7	14.5	1.6	255 人
無職		9.0	67.5	20.8	2.8	289 人
圏 域 別	高松圏域	8.1	67.2	19.9	4.7	677 人
	東讃圏域	8.4	68.1	21.0	2.5	119 人
	小豆圏域	8.7	67.4	21.7	2.2	46 人
	中讃圏域	7.6	68.6	17.8	6.0	382 人
	西讃圏域	7.0	69.2	22.4	1.4	143 人
居 住 年 数 別	3年未満	14.3	52.4	27.0	6.3	63 人
	3年以上～10年未満	8.3	68.0	18.9	4.7	169 人
	10年以上～20年未満	5.9	65.5	21.2	7.4	203 人
	20年以上	7.9	69.7	19.2	3.1	899 人

グラフ単位：(%)

(8) 県民が健全な食生活を実践するために必要と思うことについて

問21 県民が健全な食生活を実践するために必要と思うことはどれですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答数の多い順に並べ替え

1	家庭における食育の推進	60.8%(61.0%)
2	学校・保育所などにおける食育の推進	54.1%(54.5%)
3	食の安全・安心の推進	52.7%(51.0%)
4	地産地消*の取り組みの推進	48.1%(48.0%)
5	ライフステージ（若年世代、働き盛り世代、高齢者など）に応じた食育の推進	47.1%(46.7%)
6	環境と調和のとれた食と農水産への理解の促進（食品ロスの削減の推進など）	36.4%(35.0%)
7	かがわの食文化の継承	26.4%(26.1%)
8	食育推進のための県民運動（地域のネットワークや各種広報媒体による普及啓発など）	10.4%( 9.9%)
9	食に関するボランティアや関係団体などとの連携・協働による食育の推進	10.1%(10.0%)
10	その他	2.8%( 2.7%)
11	分からない (無回答)	2.9%( 2.6%) 1.2%( 1.1%)

※ **地産地消**：「地域生産－地域消費」の略語で、地域でとれた農林水産物をできるだけ地域で消費しようという意味

県民が健全な食生活を実践するために必要と思うことについて、「家庭における食育の推進」60.8%が最も高く、次いで「学校・保育所などにおける食育の推進」54.1%、「食の安全・安心の推進」52.7%、「地産地消の取り組みの推進」48.1%、「ライフステージ（若年世代、働き盛り世代、高齢者など）に応じた食育の推進」47.1%となっている。

図表 3-(8)-1 県民が健全な食生活を実践するために必要と思うことについて

		回答数
全体	100.0	1,369 人
(1) 家庭における食育の推進	60.8	832 人
(2) 学校・保育所などにおける食育の推進	54.1	740 人
(3) 食の安全・安心の推進	52.7	721 人
(4) 地産地消の取り組みの推進	48.1	658 人
(5) ライフステージ(若年世代、働き盛り世代、高齢者など)に応じた食育の推進	47.1	645 人
(6) 環境と調和のとれた食と農水産への理解の促進(食品ロスの削減の推進など)	36.4	498 人
(7) かがわの食文化の継承	26.4	361 人
(8) 食育推進のための県民運動(地域のネットワークや各種広報媒体による普及啓発など)	10.4	142 人
(9) 食に関するボランティアや関係団体などとの連携・協働による食育の推進	10.1	138 人
(10) その他	2.8	38 人
(11) 分からない	2.9	40 人
無回答	1.2	16 人

グラフ単位: (%)

県民が健全な食生活を実践するために必要と思うことについて、性別にみると、男女とも「家庭における食育の推進」が最も高く、『男性』58.1%、『女性』63.9%で、これに男女とも「学校・保育所などにおける食育の推進」が『男性』53.2%、『女性』55.3%と続いている。

年齢別にみると、『30～39歳』を除くすべての年齢で「家庭における食育の推進」が5～8割台と最も高く、『30～39歳』では「学校・保育所などにおける食育の推進」65.0%が最も高くなっている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』を除くすべての職業で「家庭における食育の推進」が5～7割台と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』では「学校・保育所などにおける食育の推進」58.3%が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「家庭における食育の推進」が5～6割台と最も高く、『高松圏域』で61.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「学校・保育所などにおける食育の推進」最も高く、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では「家庭における食育の推進」が最も高くなっている。

図表 3-(8)-2 【県民が健全な食生活を実践するために必要と思うことについて】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)			
		全体 (人)	家庭における食育の推進	学校・保育所などにおける食育の推進	食の安全・安心の推進	地産地消の取り組みの推進	高齢者など）に応じた食育の推進	ライフステージ（若年世代、働き盛り世代、進（食品ロスの削減の推進など）	環境と調和のとれた食と農水産への理解の促進	かがわの食文化の継承	食育推進のための県民運動（地域のネットワークや各種広報媒体による普及啓発など）	食に関するボランティアや関係団体などの連携・協働による食育の推進	その他	分からない	無回答
【表の見方】 単位＝比率(%)															
全体		1,369	60.8	54.1	52.7	48.1	47.1	36.4	26.4	10.4	10.1	2.8	2.9	1.2	
性別	男性	594	58.1	53.2	50.8	44.3	42.4	34.7	28.3	10.6	7.4	2.4	3.2	0.8	
	女性	734	63.9	55.3	54.5	51.1	51.1	37.7	25.6	10.2	12.1	3.0	2.7	1.0	
年齢別	18～19歳	9	88.9	55.6	22.2	44.4	44.4	22.2	33.3	-	22.2	-	-	-	
	20～29歳	79	54.4	53.2	41.8	48.1	44.3	20.3	24.1	7.6	7.6	2.5	-	-	
	30～39歳	103	57.3	65.0	50.5	47.6	42.7	25.2	24.3	9.7	5.8	3.9	-	-	
	40～49歳	172	63.4	59.9	44.2	47.7	47.7	32.6	22.7	5.8	9.3	2.9	2.3	-	
	50～59歳	239	57.3	51.9	53.6	48.5	41.4	35.6	28.5	12.1	10.9	4.2	3.3	-	
	60～69歳	309	60.5	56.6	58.3	48.2	49.8	36.9	27.5	10.0	9.4	3.2	3.2	1.0	
	70歳以上	425	64.5	49.2	55.5	48.0	50.8	44.0	27.5	12.2	11.5	1.2	4.2	1.6	
職業別	農林漁業	55	65.5	58.2	45.5	49.1	41.8	40.0	25.5	10.9	9.1	1.8	1.8	-	
	商工業、サービス業、自由業など	144	55.6	58.3	52.1	50.7	37.5	33.3	25.0	8.3	6.9	3.5	2.8	0.7	
	会社、商店、官公庁などに勤務	591	59.1	57.2	49.1	47.5	44.8	32.5	25.9	8.8	9.6	3.7	2.5	0.3	
	主婦・主夫	255	72.2	54.9	62.7	54.9	55.7	46.3	32.2	13.3	14.1	1.6	1.6	1.2	
	無職	289	57.1	45.0	54.3	42.2	51.6	36.3	24.9	11.8	9.0	1.4	5.5	1.4	
圏域別	高松圏域	677	61.2	57.5	54.4	47.3	44.8	35.7	25.3	9.2	9.2	3.2	3.4	1.3	
	東讃圏域	119	58.0	45.4	47.9	48.7	52.9	37.8	21.0	9.2	7.6	-	2.5	2.5	
	小豆圏域	46	60.9	41.3	45.7	41.3	47.8	32.6	19.6	8.7	2.2	2.2	4.3	-	
	中讃圏域	382	61.0	53.7	51.6	51.6	49.2	37.7	31.4	12.3	13.1	2.6	2.4	1.0	
	西讃圏域	143	60.1	50.3	53.1	44.1	47.6	35.0	24.5	11.9	10.5	3.5	2.1	-	
居住年数別	3年未満	63	52.4	58.7	41.3	54.0	50.8	25.4	30.2	9.5	7.9	1.6	1.6	-	
	3年以上～10年未満	169	55.0	65.1	49.1	51.5	46.7	34.3	21.9	8.3	11.8	5.9	2.4	0.6	
	10年以上～20年未満	203	60.6	54.7	51.2	46.3	44.3	30.5	25.6	10.8	11.8	2.5	3.9	-	
	20年以上	899	63.0	51.9	54.9	47.6	47.9	38.8	27.7	10.8	9.5	2.2	3.0	1.0	

(9) 今後1年間、健全な食生活を実践するためにどのようなことをしたいかについて

問22 今後1年間、健全な食生活を実践するために、あなたはどのようなことをしたいと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答数の多い順に並べ替え

1 栄養バランスのとれた食生活を実践したい	75.3%(75.3%)
2 食べ残しや食品の廃棄を削減したい	64.4%(64.0%)
3 規則正しい食生活を実践したい	63.3%(62.0%)
4 地場産物を購入したい	45.3%(44.9%)
5 食品の安全性について理解したい	40.5%(38.5%)
6 家族や友人と食卓を囲む機会を増やしたい	37.5%(39.0%)
7 家庭で調理する機会を増やしたい	28.6%(29.2%)
8 生産から消費までのプロセスを理解したい	10.7%(10.3%)
9 食文化を伝承したい	10.4%(10.3%)
10 その他	2.1%( 1.9%)
11 何もしたいと思わない	1.3%( 1.2%)
(無回答)	0.7%( 0.6%)

今後1年間、健全な食生活を実践するためにどのようなことをしたいかについて、「栄養バランスのとれた食生活を実践したい」75.3%が最も高く、次いで「食べ残しや食品の廃棄を削減したい」64.4%、「規則正しい食生活を実践したい」63.3%、「地場産物を購入したい」45.3%となっている。

図表 3-(9)-1 今後1年間、健全な食生活を実践するためにどのようなことをしたいかについて

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,369人
(1) 栄養バランスのとれた食生活を実践したい	75.3	1,031人
(2) 食べ残しや食品の廃棄を削減したい	64.4	882人
(3) 規則正しい食生活を実践したい	63.3	866人
(4) 地場産物を購入したい	45.3	620人
(5) 食品の安全性について理解したい	40.5	555人
(6) 家族や友人と食卓を囲む機会を増やしたい	37.5	513人
(7) 家庭で調理する機会を増やしたい	28.6	392人
(8) 生産から消費までのプロセスを理解したい	10.7	146人
(9) 食文化を伝承したい	10.4	143人
(10) その他	2.1	29人
(11) 何もしたいと思わない	1.3	18人
無回答	0.7	9人

グラフ単位: (%)

今後1年間、健全な食生活を実践するためにどのようなことをしたいかについて、性別にみると、男女とも「栄養バランスのとれた食生活を実践したい」が最も高く、『男性』70.2%、『女性』79.8%で、これに『男性』は「規則正しい食生活を実践したい」63.5%、『女性』は「食べ残しや食品の廃棄を削減したい」68.7%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「栄養バランスのとれた食生活を実践したい」が6～8割台と最も高く、『18～19歳』で88.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『無職』では「規則正しい食生活を実践したい」が最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「栄養バランスのとれた食生活を実践したい」が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「栄養バランスのとれた食生活を実践したい」が6～7割台と最も高く、『高松圏域』で77.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「栄養バランスのとれた食生活を実践したい」が7～8割台と最も高く、『3年未満』で84.1%と最も高くなっている。

図表 3-(9)-2 【今後1年間、健全な食生活を実践するためにどのようなことをしたいかについて】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)		
		全体 (人)	栄養 バランスのとれた食生活 を実践したい	食べ 残しや食品の廃棄を削減 したい	規則 正しい食生活を実践 したい	地場 産物を購入したい	食品 の安全性について理解 したい	家族 や友人と食卓を囲む機 会を増やしたい	家庭 で調理する機会を増や したい	生産 から消費までのプロセス を理解したい	食文 化を伝承したい	その 他	何も したいと思わない	無 回答
【表の見方】 単位=比率(%)														
全体		1,369	75.3	64.4	63.3	45.3	40.5	37.5	28.6	10.7	10.4	2.1	1.3	0.7
性別	男性	594	70.2	59.1	63.5	36.0	35.4	33.8	23.6	9.8	10.6	2.4	2.4	0.7
	女性	734	79.8	68.7	63.4	52.9	45.0	40.6	32.6	11.4	10.5	1.9	0.5	0.3
年齢別	18～19歳	9	88.9	44.4	77.8	22.2	33.3	66.7	55.6	-	11.1	-	-	-
	20～29歳	79	67.1	55.7	51.9	45.6	19.0	48.1	32.9	8.9	11.4	1.3	1.3	-
	30～39歳	103	77.7	62.1	49.5	40.8	34.0	39.8	28.2	9.7	6.8	1.0	1.0	-
	40～49歳	172	80.2	70.9	52.3	50.0	28.5	42.4	27.9	9.9	11.0	1.2	-	-
	50～59歳	239	74.9	61.1	58.2	45.6	43.1	34.3	25.5	13.0	12.1	1.3	1.3	-
	60～69歳	309	77.0	63.4	67.0	46.0	46.0	31.7	28.8	11.3	10.7	3.9	2.3	1.0
	70歳以上	425	74.1	66.8	73.6	44.2	46.4	38.8	28.5	9.9	9.6	2.1	1.4	0.7
職業別	農林漁業	55	60.0	58.2	74.5	34.5	40.0	25.5	25.5	10.9	18.2	1.8	-	1.8
	商工業、サービス業、自由業など	144	76.4	63.9	56.9	45.8	41.0	35.4	25.7	6.3	10.4	2.1	0.7	0.7
	会社、商店、官公庁などに勤務	591	76.1	62.8	57.4	46.7	35.9	37.7	27.4	10.8	10.0	1.5	1.2	0.3
	主婦・主夫	255	85.1	74.9	69.4	57.6	52.5	42.0	32.9	15.7	14.1	3.1	0.4	-
	無職	289	68.9	59.5	72.0	33.2	40.1	37.0	28.0	8.0	6.9	2.4	3.1	0.7
圏域別	高松圏域	677	77.1	66.9	63.4	42.2	39.6	36.6	28.8	10.3	9.5	2.4	0.7	0.4
	東讃圏域	119	73.1	59.7	63.9	42.0	40.3	41.2	23.5	11.8	10.9	1.7	1.7	1.7
	小豆圏域	46	65.2	50.0	60.9	34.8	54.3	28.3	13.0	6.5	13.0	-	2.2	-
	中讃圏域	382	73.8	63.9	62.3	50.5	39.3	38.7	30.6	11.0	11.8	2.4	2.1	0.8
	西讃圏域	143	75.5	62.2	65.0	51.7	43.4	37.1	30.8	11.2	10.5	1.4	1.4	0.7
居住年数別	3年未満	63	84.1	60.3	60.3	41.3	31.7	50.8	28.6	7.9	7.9	1.6	1.6	-
	3年以上～10年未満	169	76.9	60.4	63.3	45.6	30.8	42.6	30.8	11.2	7.7	3.0	1.2	0.6
	10年以上～20年未満	203	72.4	69.0	53.2	48.3	36.9	35.0	27.1	9.9	13.3	1.0	2.5	-
	20年以上	899	75.4	64.4	66.0	44.9	44.0	36.3	28.1	10.9	10.6	2.2	1.1	0.6

## 4. 人権問題について

### (1) 人権が尊重されている社会であると思うかについて

問23 今の日本は人権が尊重されている社会であると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

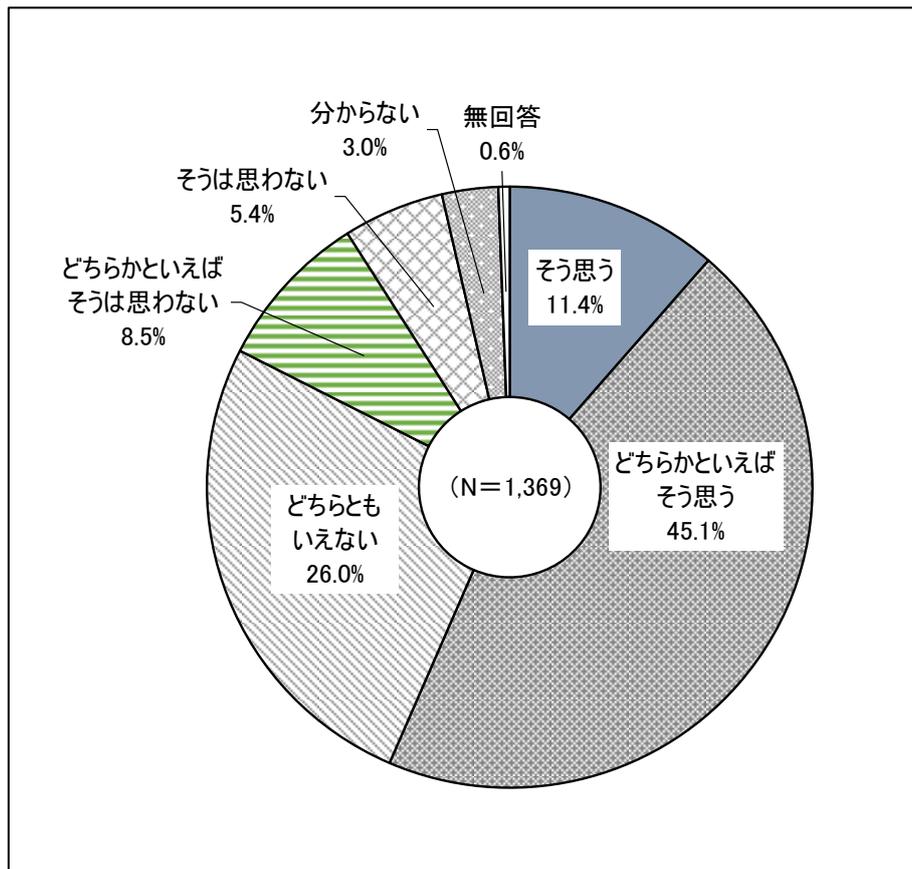
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1	そう思う	11.4%(10.9%)
2	どちらかといえばそう思う	45.1%(45.0%)
3	どちらともいえない	26.0%(26.1%)
4	どちらかといえばそうは思わない	8.5%( 8.7%)
5	そうは思わない	5.4%( 5.9%)
6	分からない	3.0%( 2.9%)
	(無回答)	0.6%( 0.5%)

人権が尊重されている社会であると思うかについて、「どちらかといえばそう思う」45.1%が最も高く、次いで、「どちらともいえない」26.0%、「そう思う」11.4%、「どちらかといえばそうは思わない」8.5%となっている。

図表 4-(1)-1 人権が尊重されている社会であると思うかについて



人権が尊重されている社会であると思うかについて、性別にみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の割合は『男性』61.2%、『女性』53.7%で、「どちらかといえばそうは思わない」と「そうは思わない」を合わせた【そうは思わない】の割合は『男性』14.1%、『女性』13.3%となっており、男女とも【そう思う】の割合が【そうは思わない】の割合を上回っている。

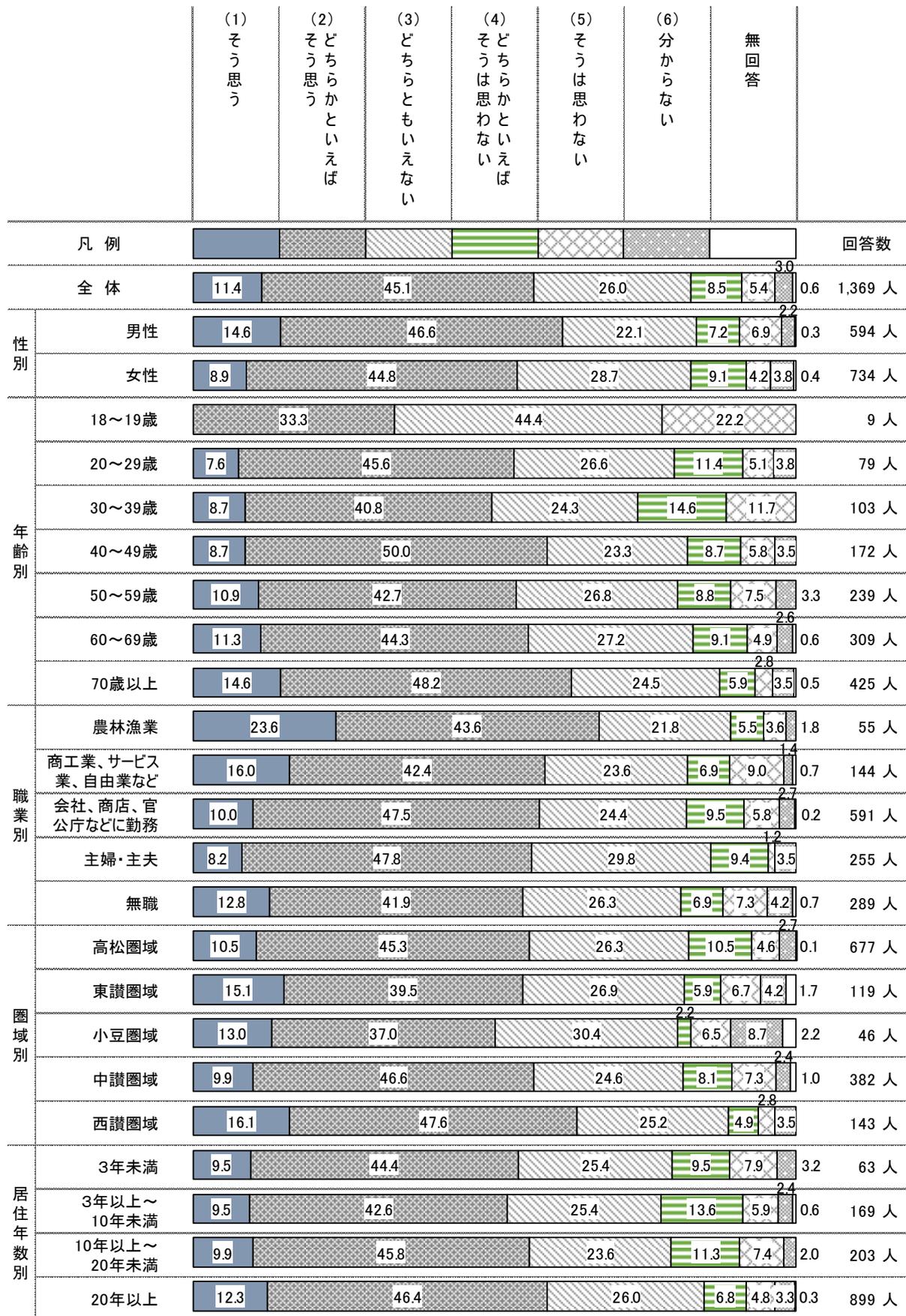
年齢別にみると、【そう思う】の割合は、いずれも【そうは思わない】の割合を上回っており、『70歳以上』で62.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【そう思う】の割合は、いずれも【そうは思わない】の割合を上回っており、『農林漁業』で67.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【そう思う】の割合は、いずれも【そうは思わない】の割合を上回っており、『西讃圏域』で63.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【そう思う】の割合は、いずれも【そうは思わない】の割合を上回っており、『20年以上』で58.7%と最も高くなっている。

図表 4-(1)-2 【人権が尊重されている社会であると思うかについて】



グラフ単位：(%)

(2) 人権侵害について

問24 この5～6年の間に、日本で人権が侵害されるようなことが、少なくなってきたと思いますか、多くなってきたと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

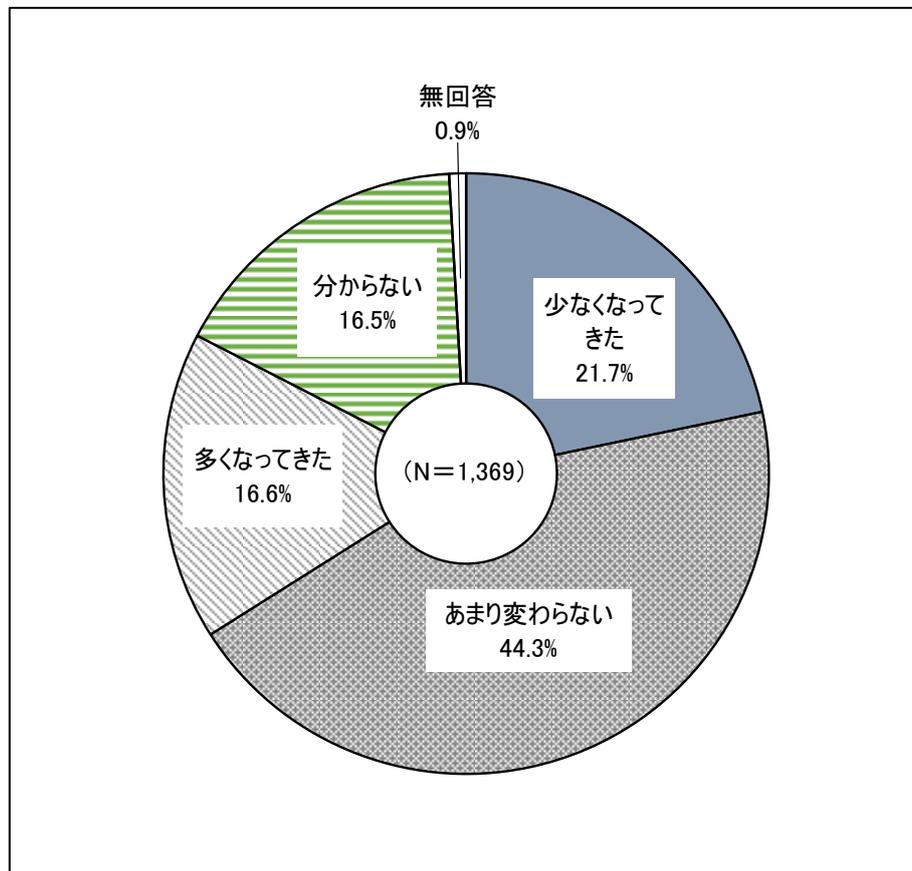
※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 少なくなってきた	21.7% (21.6%)
2 あまり変わらない	44.3% (44.8%)
3 多くなってきた	16.6% (16.5%)
4 分からない	16.5% (16.3%)
(無回答)	0.9% ( 0.7%)

人権侵害について、「あまり変わらない」44.3%が最も高く、次いで「少なくなってきた」21.7%、「多くなってきた」16.6%、「分からない」16.5%となっている。

図表 4-(2)-1 人権侵害について



人権侵害について、性別にみると、男女とも「あまり変わらない」が最も高く、『男性』44.6%、『女性』44.1%で、これに男女とも「少なくなってきた」が『男性』23.1%、『女性』21.0%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「あまり変わらない」が3～5割台と最も高く、『40～49歳』で50.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「あまり変わらない」が4～6割台と最も高く、『農林漁業』で63.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「あまり変わらない」が3～4割台と最も高く、『東讃圏域』で47.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「あまり変わらない」が4割台と最も高く、『3年以上～10年未満』で47.9%と最も高くなっている。

図表 4-(2)-2 【人権侵害について】

	(1) 少 な く な っ て き た	(2) あ ま り 変 わ ら な い	(3) 多 く な っ て き た	(4) 分 か ら な い	無 回 答		
凡 例						回答数	
全 体	21.7	44.3	16.6	16.5	0.9	1,369 人	
性別	男性	23.1	44.6	18.2	13.8	0.3	594 人
	女性	21.0	44.1	14.9	18.9	1.1	734 人
年齢別	18～19歳	33.3	44.4	11.1	11.1		9 人
	20～29歳	16.5	40.5	21.5	21.5		79 人
	30～39歳	21.4	46.6	17.5	14.6		103 人
	40～49歳	20.9	50.0	15.1	14.0		172 人
	50～59歳	22.6	47.3	15.5	14.6		239 人
	60～69歳	21.7	39.2	18.4	19.1	1.6	309 人
	70歳以上	22.8	44.0	15.1	16.9	1.2	425 人
	職業別	農林漁業	14.5	63.6	9.1	12.7	
	商工業、サービス業、自由業など	24.3	42.4	16.0	16.7	0.7	144 人
	会社、商店、官公庁などに勤務	22.0	45.0	17.8	14.9	0.3	591 人
	主婦・主夫	21.2	41.2	14.5	21.2	2.0	255 人
	無職	22.5	42.2	17.3	17.3	0.7	289 人
圏域別	高松圏域	17.6	46.1	18.8	16.8	0.7	677 人
	東讃圏域	24.4	47.1	14.3	13.4	0.8	119 人
	小豆圏域	21.7	39.1	13.0	23.9	2.2	46 人
	中讃圏域	26.7	41.1	14.9	16.2	1.0	382 人
	西讃圏域	25.2	44.1	14.0	16.1	0.7	143 人
居住年数別	3年未満	31.7	41.3	14.3	12.7		63 人
	3年以上～10年未満	20.1	47.9	17.8	13.6	0.6	169 人
	10年以上～20年未満	20.7	44.3	17.7	17.2		203 人
	20年以上	21.8	43.7	16.1	17.4	1.0	899 人

グラフ単位：(%)

### (3) 人権を侵害されたと思ったことについて

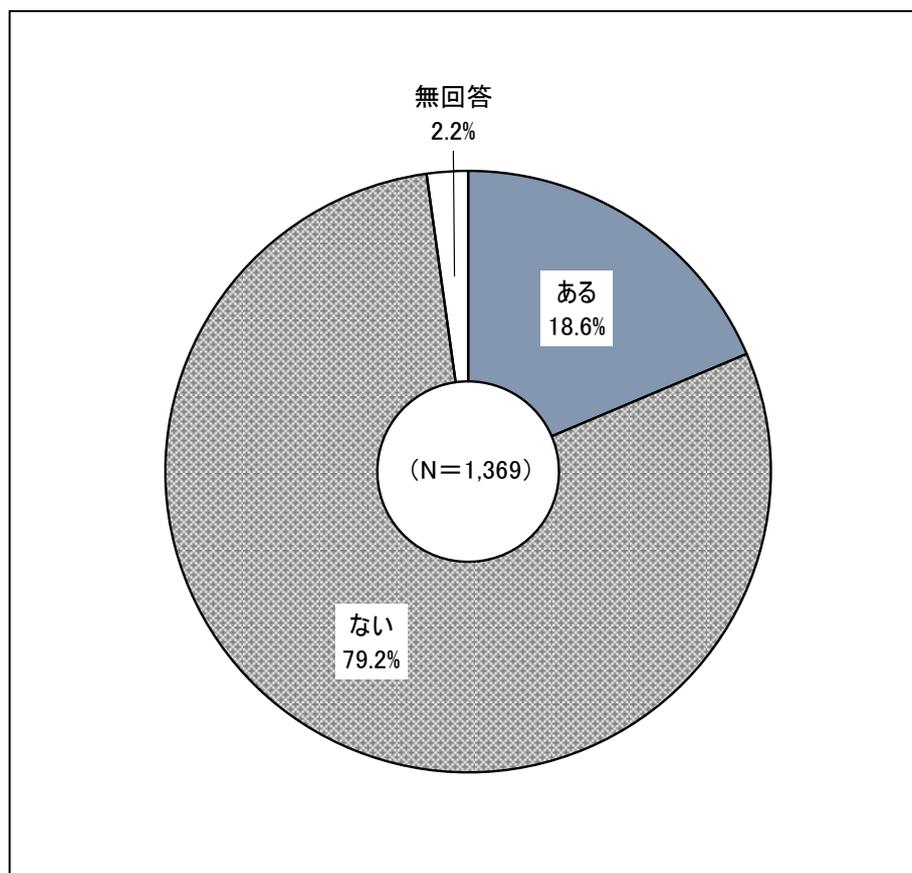
問25 あなた、または、あなたの家族が、今までに人権を侵害されたと思ったことがありますか。どちらか1つだけ選んでください。

【回答者数=1,369】

- 1 ある 18.6%(18.5%) ⇒ **それはいつですか。直近の時期を1つだけ選んでください。**
- (1) 1年以内
  - (2) 1年を超えて5年以内
  - (3) 5年を超えて10年以内
  - (4) 10年を超えて20年以内
  - (5) 20年を超えて前
  - (無回答)
- ⇒ 14ページ 付問7~8  
にお進みください
- 2 ない 79.2%(79.4%) ⇒ **14ページ 問26にお進みください**  
(無回答) 2.2%(2.1%)

人権を侵害されたと思ったことについて、「ある」18.6%、「ない」79.2%となっている。

図表 4-(3)-1 人権を侵害されたと思ったことについて



人権を侵害されたと思ったことについて、性別にみると、男女とも「ない」が最も高く、『男性』82.7%、『女性』76.8%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、いずれも「ない」が7～8割台と最も高く、『18～19歳』で88.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「ない」が7～8割台と最も高く、『農林漁業』で85.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「ない」が7～8割台と最も高く、『中讃圏域』で80.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「ない」が7～8割台と最も高く、『3年未満』で81.0%と最も高くなっている。

図表 4-(3)-2 【人権を侵害されたと思ったことについて】

		(1) ある	(2) ない	無 回 答	回答数
凡 例					
全 体		18.6	79.2	2.2	1,369 人
性別	男性	15.7	82.7	1.7	594 人
	女性	20.8	76.8	2.3	734 人
年齢別	18～19歳	11.1	88.9		9 人
	20～29歳	21.5	77.2	1.3	79 人
	30～39歳	25.2	74.8		103 人
	40～49歳	16.9	82.0	1.2	172 人
	50～59歳	26.8	72.0	1.3	239 人
	60～69歳	21.0	78.0	1.0	309 人
	70歳以上	10.8	85.2	4.0	425 人
職業別	農林漁業	12.7	85.5	1.8	55 人
	商工業、サービス業、自由業など	20.1	77.8	2.1	144 人
	会社、商店、官公庁などに勤務	21.8	77.3	0.8	591 人
	主婦・主夫	18.0	79.2	2.7	255 人
	無職	12.8	83.7	3.5	289 人
圏域別	高松圏域	19.5	79.0	1.5	677 人
	東讃圏域	18.5	79.0	2.5	119 人
	小豆圏域	13.0	80.4	6.5	46 人
	中讃圏域	17.0	80.6	2.4	382 人
	西讃圏域	20.3	76.2	3.5	143 人
居住年数別	3年未満	17.5	81.0	1.6	63 人
	3年以上～10年未満	24.3	75.1	0.6	169 人
	10年以上～20年未満	22.2	77.3	0.5	203 人
	20年以上	16.8	80.6	2.6	899 人

グラフ単位：(%)

#### (4) 人権を侵害されたと思った直近の時期について

問25-1 それはいつですか。直近の時期を1つだけ選んでください。

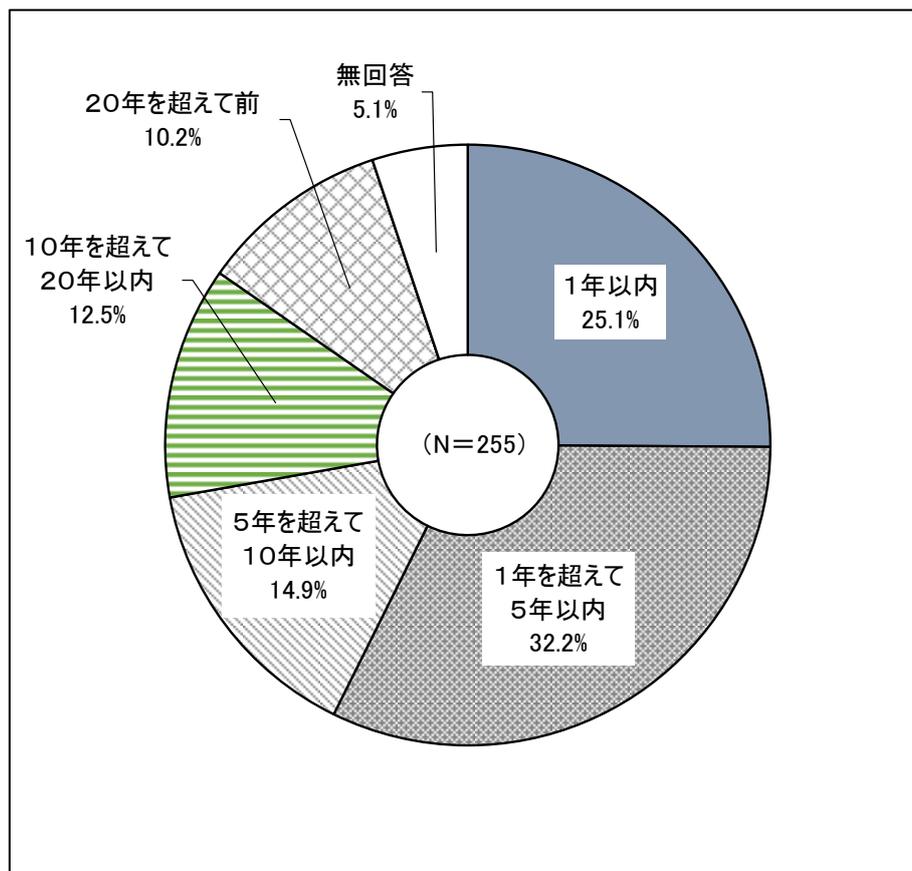
※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=255】

(1) 1年以内	25.1% (26.4%)
(2) 1年を超えて5年以内	32.2% (33.6%)
(3) 5年を超えて10年以内	14.9% (13.9%)
(4) 10年を超えて20年以内	12.5% (12.1%)
(5) 20年を超えて前	10.2% (9.1%)
(無回答)	5.1% (4.9%)

人権を侵害されたと思った直近の時期について、「1年を超えて5年以内」32.2%が最も高く、次いで「1年以内」25.1%、「5年を超えて10年以内」14.9%、「10年を超えて20年以内」12.5%となっている。

図表 4-(4)-1 人権を侵害されたと思った直近の時期について



人権を侵害されたと思った直近の時期について、性別にみると、男女とも「1年を超えて5年以内」が最も高く、『男性』31.2%、『女性』31.4%で、これに男女とも「1年以内」が『男性』19.4%、『女性』30.1%と続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』、『60～69歳』では「1年以内」が最も高く、『18～19歳』、『50～59歳』、『70歳以上』では「1年を超えて5年以内」が最も高くなっている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』を除くすべての職業で「1年を超えて5年以内」が2～4割台と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』では、「1年以内」が41.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』を除くすべての圏域で「1年を超えて5年以内」が3～5割台と最も高く、『高松圏域』では「1年以内」で30.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』を除くすべての年齢で「1年を超えて5年以内」が2～4割台と最も高く、『3年未満』では「1年以内」で45.5%と最も高くなっている。

図表 4-(4)-2 【人権を侵害されたと思った直近の時期について】

		(1) 1 年 以 内	(2) 5 1 年 を 超 え て	(3) 1 5 0 年 を 超 え て	(4) 2 1 0 年 を 超 え て	(5) 2 0 年 を 超 え て 前	無 回 答		
凡 例								回答数	
全 体		25.1	32.2	14.9	12.5	10.2	5.1	255 人	
性別	男性	19.4	31.2	15.1	16.1	11.8	6.5	93 人	
	女性	30.1	31.4	15.0	10.5	8.5	4.6	153 人	
年齢別	18～19歳	1000							1 人
	20～29歳	41.2	29.4	17.6	5.9	5.9		17 人	
	30～39歳	34.6	26.9	11.5	15.4	3.8	7.7	26 人	
	40～49歳	37.9	34.5	6.9	10.3	6.9	3.4	29 人	
	50～59歳	26.6	39.1	12.5	14.1	6.3	1.6	64 人	
	60～69歳	24.6	18.5	21.5	13.8	15.4	6.2	65 人	
	70歳以上	8.7	37.0	15.2	13.0	15.2	10.9	46 人	
職業別	農林漁業	42.9	28.6	14.3	14.3			7 人	
	商工業、サービス業、自由業など	41.4	27.6	3.4	3.4	13.8	10.3	29 人	
	会社、商店、官公庁などに勤務	29.5	31.0	16.3	12.4	8.5	2.3	129 人	
	主婦・主夫	19.6	37.0	10.9	17.4	10.9	4.3	46 人	
	無職	10.8	27.0	21.6	16.2	13.5	10.8	37 人	
圏域別	高松圏域	30.3	27.3	13.6	12.9	11.4	4.5	132 人	
	東讃圏域	13.6	50.0	9.1	18.2	4.5	4.5	22 人	
	小豆圏域	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7		6 人	
	中讃圏域	18.5	33.8	16.9	13.8	10.8	6.2	65 人	
	西讃圏域	27.6	37.9	20.7	3.4	6.9	3.4	29 人	
居住年数別	3年未満	45.5	27.3	18.2	9.1			11 人	
	3年以上～10年未満	29.3	46.3	7.3	9.8	4.9	2.4	41 人	
	10年以上～20年未満	22.2	31.1	17.8	13.3	13.3	2.2	45 人	
	20年以上	23.8	27.8	15.9	14.6	10.6	7.3	151 人	

グラフ単位：(%)

(5)人権侵害の内容について

【付問7と付問8については、問25で「1」と答えた方にお聞きします】

付問7 あなた、または、あなたの家族は、どのようなことで人権が侵害されたと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=255】 ※回答数の多い順に並び替え

1	あらぬうわさ、悪口、かげ口	40.0%(41.1%)
2	職場での不当な待遇	33.3%(32.4%)
3	なかまはずれ、嫌がらせ	32.9%(33.3%)
4	パワー・ハラスメント	31.4%(31.5%)
5	名誉や信用を傷つけられた、侮辱された	28.2%(26.9%)
6	差別待遇（人種・信条・性別・社会的身分などにより、不平等または不利益な取り扱いをされた）	21.6%(22.9%)
7	プライバシーの侵害	14.1%(16.2%)
8	学校での不当な待遇	9.8%(10.0%)
9	セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）	8.2%( 8.7%)
10	インターネットやSNS（スマホ）上での誹謗中傷	4.7%( 6.0%)
11	ストーカー行為	4.7%( 5.1%)
12	家庭内暴力	4.7%( 5.1%)
13	虐待	1.6%( 1.8%)
14	その他	7.8%( 7.8%)
	（無回答）	3.9%( 4.0%)

人権侵害の内容について、「あらぬうわさ、悪口、かげ口」40.0%が最も高く、次いで「職場での不当な待遇」33.3%、「なかまはずれ、嫌がらせ」32.9%、「パワー・ハラスメント」31.4%などとなっている。

図表 4-(5)-1 人権侵害の内容について

		回答数
全体	100.0	255 人
(1) あらぬうわさ、悪口、かげ口	40.0	102 人
(2) 職場での不当な待遇	33.3	85 人
(3) なかまはずれ、嫌がらせ	32.9	84 人
(4) パワー・ハラスメント	31.4	80 人
(5) 名誉や信用を傷つけられた、侮辱された	28.2	72 人
(6) 差別待遇(人種・信条・性別・社会的身分などにより、不平等または不利益な取り扱いをされた)	21.6	55 人
(7) プライバシーの侵害	14.1	36 人
(8) 学校での不当な待遇	9.8	25 人
(9) セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)	8.2	21 人
(10) インターネットやSNS(スマホ)上での誹謗中傷	4.7	12 人
(11) ストーカー行為	4.7	12 人
(12) 家庭内暴力	4.7	12 人
(13) 虐待	1.6	4 人
(14) その他	7.8	20 人
無回答	3.9	10 人

グラフ単位:(%)

人権侵害の内容について、性別にみると、『男性』では「あらぬうわさ、悪口、かげ口」51.6%が最も高く、『女性』では「なかまはずれ、嫌がらせ」37.9%が最も高くなっている。

年齢別にみると、『18～19歳』では「プライバシーの侵害」、「インターネットやSNS（スマホ）上での誹謗中傷」が同率の100.0%と最も高く、『20～29歳』、『40～49歳』、『50～59歳』、『70歳以上』では「あらぬうわさ、悪口、かげ口」が4～5割台と最も高く、『30～39歳』では「パワー・ハラスメント」46.2%が最も高く、『60～69歳』では「職場での不当な待遇」38.5%が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「あらぬうわさ、悪口、かげ口」が3～4割台と最も高く、『主婦・主夫』、『無職』では「なかまはずれ、嫌がらせ」が4割台と最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『西讃圏域』では「あらぬうわさ、悪口、かげ口」が4割台と最も高く、『東讃圏域』では「名誉や信用を傷つけられた、侮辱された」、「職場での不当な待遇」が同率の36.4%と最も高く、『小豆圏域』では「なかまはずれ、嫌がらせ」50.0%が最も高く、『中讃圏域』では「パワー・ハラスメント」38.5%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』を除くすべての居住年数で「あらぬうわさ、悪口、かげ口」が3～4割台と最も高く、『3年以上～10年未満』では「職場での不当な待遇」51.2%が最も高くなっている。

図表 4-(5)-2 【人権侵害の内容について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)		
		全体 (人)	あらゆる うわさ、悪口、 かげ口	職場での 不当な待遇	なかまは ずれ、嫌が らせ	パワー・ ハラスメ ント	名誉や信 用を傷つ けられた、 侮辱され た	差別待遇 (人種・信 条・性別・ 社会的身 分など) により、不 平等また は不利な 取り扱い を	プライバ シーの侵 害	学校での 不当な待 遇	セクシユ アル・ハ ラスメン ト(性的 いやが ら	誹中傷 インターネット やSNS(ス マホ)上 での誹	ストーカ ー行為	家庭内暴 力	虐待	その他	無回 答
【表の見方】 単位=比率(%)																	
全体		255	40.0	33.3	32.9	31.4	28.2	21.6	14.1	9.8	8.2	4.7	4.7	4.7	1.6	7.8	3.9
性別	男性	93	51.6	29.0	22.6	26.9	30.1	23.7	15.1	8.6	4.3	4.3	3.2	2.2	-	7.5	5.4
	女性	153	34.0	35.9	37.9	34.6	28.1	20.9	13.7	10.5	11.1	5.2	5.9	5.9	2.0	8.5	2.6
年齢別	18～19歳	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-
	20～29歳	17	47.1	23.5	35.3	29.4	17.6	29.4	29.4	11.8	11.8	5.9	5.9	-	-	5.9	5.9
	30～39歳	26	38.5	30.8	30.8	46.2	23.1	30.8	15.4	11.5	19.2	11.5	3.8	11.5	3.8	7.7	-
	40～49歳	29	51.7	48.3	37.9	27.6	27.6	31.0	13.8	13.8	3.4	6.9	13.8	6.9	3.4	10.3	3.4
	50～59歳	64	45.3	35.9	37.5	42.2	34.4	10.9	9.4	10.9	10.9	1.6	1.6	6.3	1.6	4.7	1.6
	60～69歳	65	27.7	38.5	26.2	30.8	30.8	18.5	9.2	9.2	7.7	6.2	3.1	1.5	-	7.7	1.5
	70歳以上	46	43.5	19.6	32.6	15.2	23.9	30.4	19.6	6.5	2.2	-	6.5	2.2	-	13.0	10.9
職業別	農林漁業	7	42.9	-	28.6	14.3	14.3	28.6	28.6	14.3	14.3	14.3	-	-	-	14.3	14.3
	商工業、サービス業、自由業など	29	37.9	20.7	10.3	34.5	24.1	27.6	10.3	10.3	13.8	3.4	10.3	3.4	-	10.3	3.4
	会社、商店、官公庁などに勤務	129	41.1	40.3	31.0	36.4	27.9	20.9	11.6	8.5	8.5	3.9	3.9	7.0	2.3	6.2	3.1
	主婦・主夫	46	39.1	32.6	41.3	23.9	28.3	17.4	10.9	10.9	4.3	4.3	2.2	2.2	-	8.7	4.3
	無職	37	40.5	24.3	45.9	24.3	37.8	27.0	24.3	13.5	5.4	8.1	8.1	-	-	10.8	2.7
圏域別	高松圏域	132	42.4	33.3	37.9	31.8	27.3	21.2	14.4	12.1	8.3	6.8	6.1	4.5	1.5	9.1	2.3
	東讃圏域	22	31.8	36.4	4.5	22.7	36.4	22.7	18.2	-	4.5	4.5	-	-	-	4.5	9.1
	小豆圏域	6	16.7	-	50.0	-	33.3	33.3	33.3	33.3	16.7	-	16.7	-	-	-	-
	中讃圏域	65	36.9	33.8	30.8	38.5	29.2	18.5	9.2	7.7	4.6	3.1	4.6	7.7	1.5	9.2	3.1
	西讃圏域	29	44.8	34.5	34.5	24.1	24.1	27.6	13.8	6.9	13.8	-	-	3.4	3.4	3.4	10.3
居住年数別	3年未満	11	36.4	9.1	18.2	27.3	9.1	27.3	18.2	-	18.2	18.2	-	27.3	-	18.2	-
	3年以上～10年未満	41	46.3	51.2	31.7	43.9	26.8	17.1	14.6	7.3	12.2	2.4	7.3	7.3	4.9	9.8	2.4
	10年以上～20年未満	45	44.4	26.7	40.0	24.4	24.4	24.4	11.1	22.2	2.2	11.1	4.4	4.4	-	4.4	-
	20年以上	151	37.7	31.8	31.8	30.5	31.8	22.5	13.9	7.9	7.9	2.6	4.6	2.0	0.7	7.9	5.3

(6)人権侵害があったときの対応について

付問8 人権侵害があったとき、どのような対応をされましたか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。 ※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=255】※回答数の多い順に並び替え

1	何もせず、我慢した・無視した	56.5%(56.7%)
2	家族・親戚に相談した	34.9%(36.7%)
3	友だち・同僚・職場の上司に相談した	30.2%(30.5%)
4	相手に抗議するなどした	23.9%(24.1%)
5	県庁・市役所・町役場・学校・隣保館に相談した	7.5%( 7.4%)
6	警察に相談した	7.1%( 7.7%)
7	民間団体などに相談した	2.4%( 2.5%)
8	弁護士に相談した	2.0%( 1.4%)
9	法務局または人権擁護委員に相談した	0.8%( 0.8%)
10	地域の自治会長や民生委員・児童委員に相談した	0.8%( 0.8%)
11	その他 (無回答)	6.3%( 6.3%) 3.1%( 3.2%)

人権侵害があったときの対応について、「何もせず、我慢した・無視した」56.5%が最も高く、次いで「家族・親戚に相談した」34.9%、「友だち・同僚・職場の上司に相談した」30.2%、「相手に抗議するなどした」23.9%などとなっている。

図表 4-(6)-1 人権侵害があったときの対応について

		回答数
全体	100.0	255 人
(1) 何もせず、我慢した・無視した	56.5	144 人
(2) 家族・親戚に相談した	34.9	89 人
(3) 友だち・同僚・職場の上司に相談した	30.2	77 人
(4) 相手に抗議するなどした	23.9	61 人
(5) 県庁・市役所・町役場・学校・隣保館に相談した	7.5	19 人
(6) 警察に相談した	7.1	18 人
(7) 民間団体などに相談した	2.4	6 人
(8) 弁護士に相談した	2.0	5 人
(9) 法務局または人権擁護委員に相談した	0.8	2 人
(10) 地域の自治会長や民生委員・児童委員に相談した	0.8	2 人
(11) その他	6.3	16 人
無回答	3.1	8 人

グラフ単位：(%)

人権侵害があったときの対応について、性別にみると、男女とも「何もせず、我慢した・無視した」が最も高く、『男性』62.4%、『女性』54.2%で、これに『男性』では「相手に抗議するなどした」25.8%、『女性』では「家族・親戚に相談した」41.8%が続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』では「家族・親戚に相談した」が最も高く、『20～29歳』、『30～39歳』、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「何もせず、我慢した・無視した」が5～7割台と最も高く、『40～49歳』では「友だち・同僚・職場の上司に相談した」48.3%が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「何もせず、我慢した・無視した」が4～6割台と最も高く、『無職』で62.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で「何もせず、我慢した・無視した」が4～6割台と最も高く、『小豆圏域』では「相手に抗議するなどした」50.0%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』を除くすべての居住年数では「何もせず、我慢した・無視した」が5割台と最も高く、『3年未満』では「何もせず、我慢した・無視した」、「相手に抗議するなどした」、「家族・親戚に相談した」が同率の45.5%と最も高くなっている。

図表 4-(6)-2 【人権侵害があったときの対応について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)		
		全体 (人)	何もせず、我慢した・無視した	家族・親戚に相談した	友だち・同僚・職場の上司に相談した	相手に抗議するなどした	県庁・市役所・町役場・学校・隣保館に相談した	警察に相談した	民間団体などに相談した	弁護士に相談した	法務局または人権擁護委員に相談した	地域の自治会長や民生委員・児童委員に相談した	その他	無回答
【表の見方】 単位＝比率(%)														
全体		255	56.5	34.9	30.2	23.9	7.5	7.1	2.4	2.0	0.8	0.8	6.3	3.1
性別	男性	93	62.4	22.6	21.5	25.8	7.5	5.4	3.2	3.2	1.1	1.1	3.2	3.2
	女性	153	54.2	41.8	34.6	23.5	7.2	8.5	1.3	1.3	0.7	0.7	8.5	2.6
年齢別	18～19歳	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20～29歳	17	70.6	58.8	23.5	17.6	5.9	5.9	-	-	-	-	-	5.9
	30～39歳	26	61.5	38.5	38.5	23.1	11.5	15.4	-	-	-	-	7.7	-
	40～49歳	29	41.4	31.0	48.3	34.5	6.9	6.9	10.3	-	3.4	-	6.9	3.4
	50～59歳	64	59.4	40.6	23.4	28.1	9.4	7.8	-	-	1.6	-	7.8	3.1
	60～69歳	65	52.3	32.3	32.3	18.5	7.7	3.1	1.5	6.2	-	-	3.1	1.5
	70歳以上	46	63.0	19.6	23.9	23.9	4.3	6.5	2.2	-	-	4.3	10.9	4.3
職業別	農林漁業	7	57.1	14.3	14.3	28.6	14.3	-	-	-	-	-	28.6	14.3
	商工業、サービス業、自由業など	29	44.8	34.5	34.5	20.7	3.4	3.4	3.4	6.9	-	-	13.8	3.4
	会社、商店、官公庁などに勤務	129	58.9	30.2	29.5	26.4	9.3	8.5	2.3	0.8	1.6	-	1.6	3.1
	主婦・主夫	46	52.2	45.7	34.8	17.4	6.5	6.5	-	2.2	-	2.2	8.7	2.2
	無職	37	62.2	37.8	27.0	29.7	5.4	5.4	2.7	2.7	-	2.7	10.8	-
圏域別	高松圏域	132	64.4	35.6	26.5	20.5	7.6	3.8	3.0	2.3	0.8	-	6.1	1.5
	東讃圏域	22	40.9	18.2	22.7	22.7	-	4.5	4.5	4.5	-	4.5	9.1	9.1
	小豆圏域	6	33.3	33.3	33.3	50.0	-	16.7	-	-	-	-	-	-
	中讃圏域	65	49.2	38.5	36.9	29.2	10.8	12.3	-	1.5	-	1.5	7.7	3.1
	西讃圏域	29	51.7	34.5	37.9	24.1	6.9	6.9	3.4	-	3.4	-	3.4	6.9
居住年数別	3年未満	11	45.5	45.5	18.2	45.5	9.1	18.2	-	-	-	-	-	-
	3年以上～10年未満	41	53.7	31.7	34.1	22.0	9.8	12.2	2.4	-	-	-	4.9	4.9
	10年以上～20年未満	45	55.6	37.8	33.3	22.2	11.1	4.4	6.7	2.2	-	-	6.7	-
	20年以上	151	58.3	33.1	29.1	24.5	6.0	5.3	0.7	2.6	1.3	1.3	7.3	3.3

(7) 人権侵害と思う言動を見聞きしたときの行動について

問26 もし人権侵害と思われる差別的な言葉や動作を見聞きしたとき、あなたは、どのようにすると  
 思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

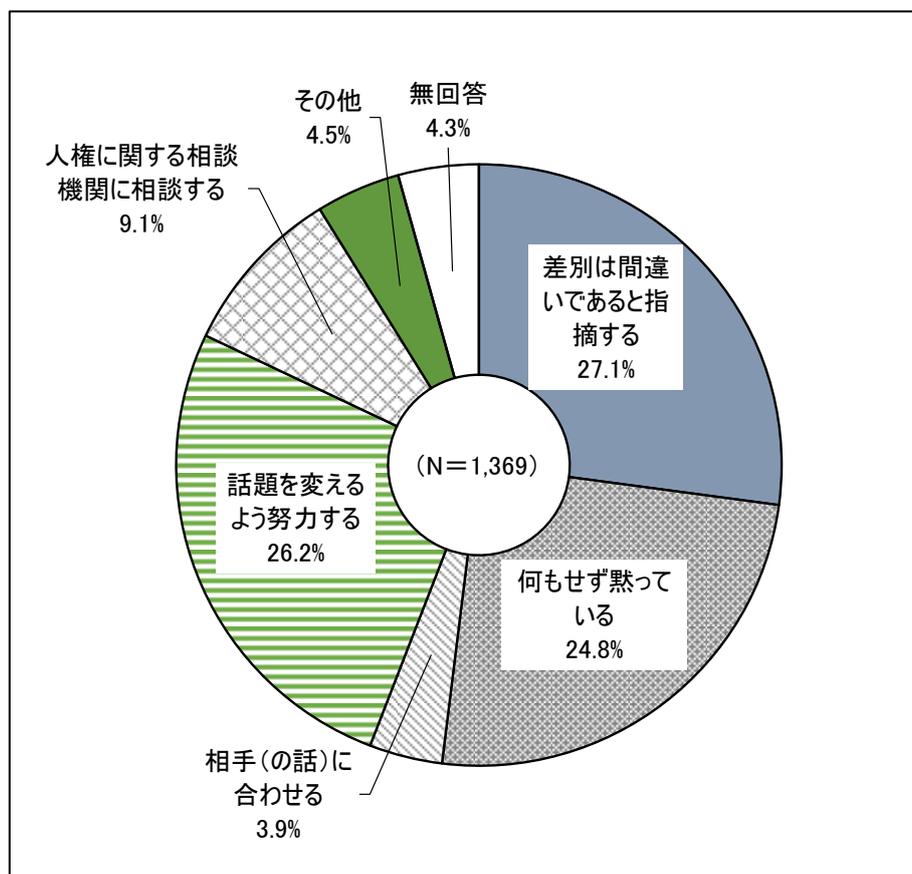
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 差別は間違いであると指摘する	27.1%(27.1%)
2 何もせず黙っている	24.8%(24.3%)
3 相手(の話)に合わせる	3.9%(4.2%)
4 話題を変えるよう努力する	26.2%(27.4%)
5 人権に関する相談機関(行政機関・隣保館・ 民間団体・人権擁護機関など)に相談する	9.1%(8.7%)
6 その他	4.5%(4.4%)
(無回答)	4.3%(3.9%)

人権侵害と思う言動を見聞きしたときの行動について、「差別は間違いであると指摘する」27.1%が最も高く、次いで「話題を変えるよう努力する」26.2%、「何もせず黙っている」24.8%、「人権に関する相談機関(行政機関・隣保館・民間団体・人権擁護機関など)に相談する」9.1%、となっている。

図表 4-(7)-1 人権侵害と思う言動を見聞きしたときの行動について



人権侵害と思う言動を見聞きしたときの行動について、性別にみると、『男性』では「差別は間違いであると指摘する」31.0%が最も高く、『女性』では「話題を変えるよう努力する」30.1%が最も高くなっている。

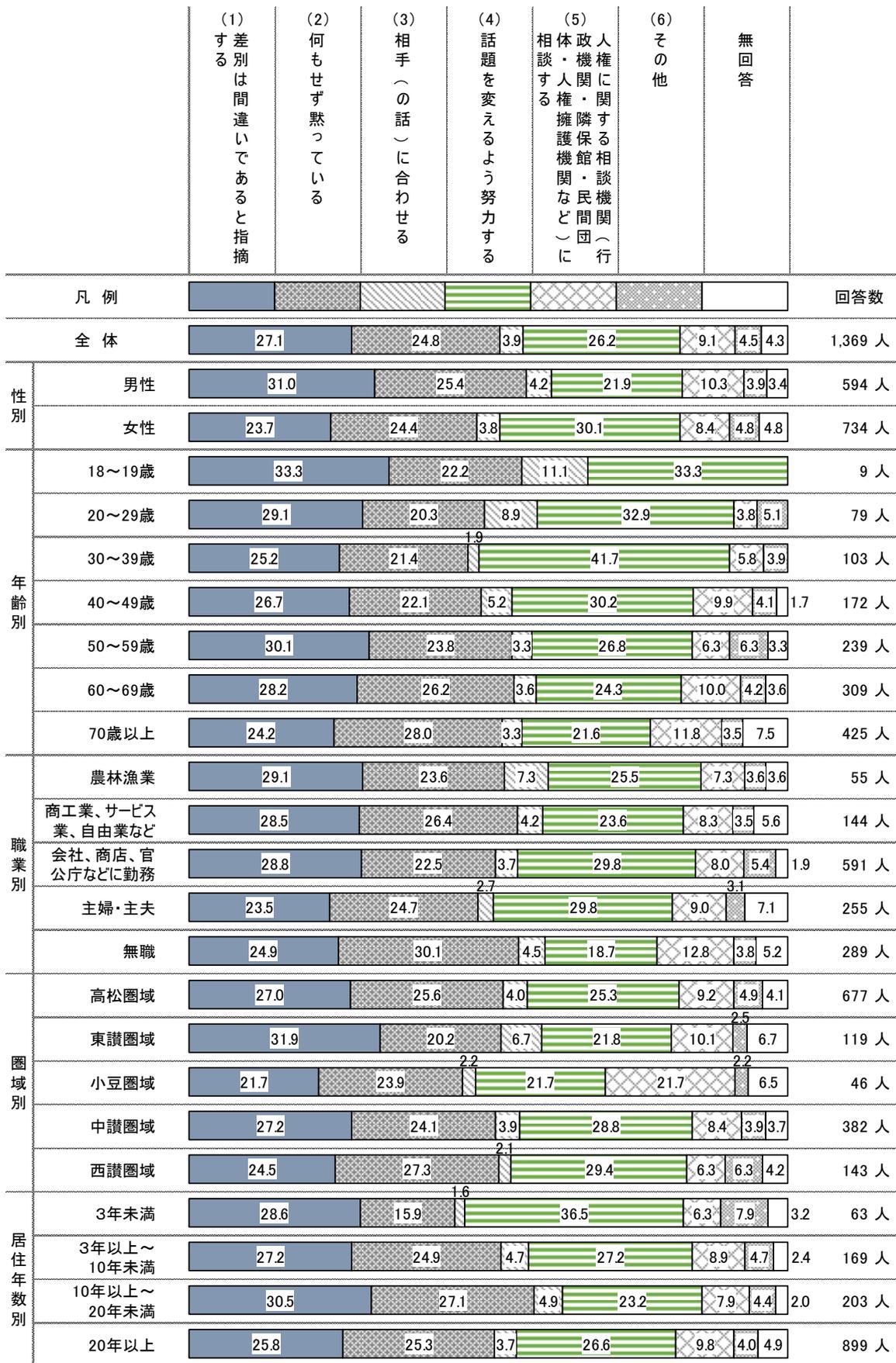
年齢別にみると、『18～19歳』では「差別は間違いであると指摘する」、「話題を変えるよう努力する」が同率の33.3%で最も高く、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では「話題を変えるよう努力する」が最も高く、『50～59歳』、『60～69歳』では「差別は間違いであると指摘する」が最も高く、『70歳以上』では「何もせず黙っている」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』では「差別は間違いであると指摘する」が最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「話題を変えるよう努力する」が最も高く、『無職』では「何もせず黙っている」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『東讃圏域』では、「差別は間違いであると指摘する」が最も高く、『小豆圏域』では「何もせず黙っている」23.9%が最も高く、『中讃圏域』、『西讃圏域』では「話題を変えようと努力する」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『20年以上』では「話題を変えるよう努力する」が最も高く、『3年以上～10年未満』では「差別は間違いであると指摘する」、「話題を変えるよう努力する」が同率の27.2%と最も高く、『10年以上～20年未満』では「差別は間違いであると指摘する」が最も高くなっている。

図表 4-(7)-2 【人権侵害と思う言動を見聞きしたときの行動について】



グラフ単位：(%)

(8) 関心のある人権課題について

問27 日本における人権課題について、あなたの関心があるものはどれですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。 ※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答数の多い順に並び替え

1 障害者	50.5%(50.2%)
2 インターネットによる人権侵害	47.6%(47.7%)
3 女性	36.2%(37.5%)
4 高齢者	33.5%(31.0%)
5 子ども	32.4%(33.1%)
6 同和問題	22.5%(22.3%)
7 北朝鮮当局による拉致問題など	20.0%(18.7%)
8 性的少数者（同性愛や両性愛の人、性別違和の人（LGBT）など）	18.9%(19.6%)
9 外国人	15.0%(15.5%)
10 東日本大震災に伴う放射線被ばくについての風評被害	15.0%(14.5%)
11 新型コロナウイルス感染症	13.4%(13.1%)
12 犯罪被害者など	12.6%(12.9%)
13 ハンセン病回復者、HIV感染者など	10.8%(11.1%)
14 刑を終えて出所した人	9.8%(10.0%)
15 人身取引	9.2%( 9.5%)
16 ホームレス	8.3%( 8.3%)
17 アイヌの人々	5.2%( 5.4%)
18 その他	1.3%( 1.3%)
19 特にない (無回答)	7.5%( 7.4%) 1.8%( 1.6%)

関心のある人権課題について、「障害者」50.5%が最も高く、次いで「インターネットによる人権侵害」47.6%、「女性」36.2%、「高齢者」33.5%などとなっている。

図表 4-(8)-1 関心のある人権課題について

		回答数
全体	100.0	1,369 人
(1) 障害者	50.5	691 人
(2) インターネットによる人権侵害	47.6	652 人
(3) 女性	36.2	495 人
(4) 高齢者	33.5	458 人
(5) 子ども	32.4	443 人
(6) 同和問題	22.5	308 人
(7) 北朝鮮当局による拉致問題など	20.0	274 人
(8) 性的少数者(同性愛や両性愛の人、性別違和の人(LGBT)など)	18.9	259 人
(9) 外国人	15.0	205 人
(10) 東日本大震災に伴う放射線被ばくについての風評被害	15.0	205 人
(11) 新型コロナウイルス感染症	13.4	184 人
(12) 犯罪被害者など	12.6	172 人
(13) ハンセン病回復者、HIV感染者など	10.8	148 人
(14) 刑を終えて出所した人	9.8	134 人
(15) 人身取引	9.2	126 人
(16) ホームレス	8.3	114 人
(17) アイヌの人々	5.2	71 人
(18) その他	1.3	18 人
(19) 特にない	7.5	103 人
無回答	1.8	24 人

グラフ単位：(%)

関心のある人権課題について、性別にみると、『男性』では「インターネットによる人権侵害」48.5%が最も高く、『女性』では「障害者」52.0%が最も高くなっている。

これに『男性』では「障害者」48.1%、『女性』では「インターネットによる人権侵害」47.4%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「障害者」が最も高く、『20～29歳』、『40～49歳』、『50～59歳』では「インターネットによる人権侵害」が最も高く、『30～39歳』では「女性」、「子ども」が同率の52.4%と最も高くなっている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』を除くすべての職業では「障害者」が4～6割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「インターネットによる人権侵害」54.1%が最も高くなっている。

圏域別にみると、高松圏域を除くすべての圏域では「障害者」が4～5割台と最も高く、『高松圏域』では「インターネットによる人権侵害」52.1%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』を除くすべての居住年数では「インターネットによる人権侵害」が5割台と最も高く、『20年以上』では「障害者」50.4%が最も高くなっている。

図表 4-(8)-2 【関心のある人権課題について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	
		全体 (人)	障害者	インターネットによる人権侵害	女性	高齢者	子ども	同和問題	北朝鮮当局による拉致問題など	性的少数者(同性愛や両性愛の人、性別違和の人(LGBT)など)	外国人	東日本大震災に伴う放射線被ばくについて
【表の見方】 単位＝比率(%)												
全体		1,369	50.5	47.6	36.2	33.5	32.4	22.5	20.0	18.9	15.0	15.0
性別	男性	594	48.1	48.5	26.3	32.0	29.0	27.9	20.2	16.3	18.4	15.3
	女性	734	52.0	47.4	45.1	35.3	35.4	17.8	19.8	21.1	12.3	14.2
年齢別	18～19歳	9	66.7	44.4	55.6	33.3	22.2	44.4	11.1	22.2	55.6	11.1
	20～29歳	79	46.8	50.6	44.3	17.7	34.2	13.9	8.9	22.8	15.2	7.6
	30～39歳	103	48.5	51.5	52.4	17.5	52.4	19.4	10.7	28.2	18.4	12.6
	40～49歳	172	46.5	54.1	45.9	19.2	40.1	20.9	10.5	25.6	15.7	12.2
	50～59歳	239	48.1	56.5	40.2	31.0	36.0	20.9	17.2	21.8	15.5	12.6
	60～69歳	309	53.7	50.2	38.2	44.3	34.6	23.3	22.0	19.1	18.1	15.2
	70歳以上	425	51.3	38.4	24.5	40.5	21.4	25.2	28.5	11.8	10.4	18.8
職業別	農林漁業	55	65.5	40.0	23.6	34.5	18.2	25.5	23.6	18.2	12.7	16.4
	商工業、サービス業、自由業など	144	50.0	49.3	43.1	31.9	37.5	23.6	25.0	20.1	18.8	12.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	591	48.4	54.1	40.8	28.6	38.2	23.2	17.1	23.0	17.8	12.9
	主婦・主夫	255	54.1	42.0	37.6	41.2	32.2	18.0	22.7	16.1	9.4	19.6
	無職	289	48.4	42.6	26.6	38.4	21.5	23.9	20.4	12.8	13.1	15.2
圏域別	高松圏域	677	52.0	52.1	37.2	31.9	34.1	21.0	19.6	19.9	16.0	15.1
	東讃圏域	119	43.7	38.7	35.3	33.6	28.6	18.5	19.3	19.3	10.1	13.4
	小豆圏域	46	45.7	32.6	21.7	30.4	17.4	30.4	23.9	13.0	10.9	10.9
	中讃圏域	382	49.5	45.8	36.6	34.6	32.2	25.4	22.3	18.6	18.3	14.7
	西讃圏域	143	52.4	44.1	35.0	38.5	32.2	23.1	15.4	16.8	7.0	18.2
居住年数別	3年未満	63	44.4	52.4	41.3	23.8	34.9	28.6	14.3	33.3	19.0	9.5
	3年以上～10年未満	169	47.9	57.4	46.7	23.1	43.2	21.9	11.8	23.7	18.3	12.4
	10年以上～20年未満	203	53.7	56.7	40.4	23.6	35.0	22.2	15.8	22.2	21.2	14.3
	20年以上	899	50.4	44.2	33.7	38.6	29.9	22.2	22.9	16.5	12.8	15.8

		(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	
		新型コロナウイルス感染症	犯罪被害者など	ハンセン病回復者、HIV感染者など	刑を終えて出所した人	人身取引	ホームレス	アイヌの人々	その他	特にない	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)											
全体		13.4	12.6	10.8	9.8	9.2	8.3	5.2	1.3	7.5	1.8
性別	男性	13.0	11.6	9.8	10.1	9.3	8.9	5.9	1.2	9.6	1.0
	女性	13.9	13.4	10.9	9.0	9.5	7.8	4.4	1.5	5.6	2.2
年齢別	18～19歳	33.3	33.3	33.3	22.2	11.1	22.2	22.2	-	-	-
	20～29歳	7.6	11.4	8.9	8.9	10.1	10.1	1.3	-	10.1	-
	30～39歳	13.6	11.7	7.8	14.6	9.7	3.9	6.8	1.9	5.8	-
	40～49歳	8.7	15.7	14.0	6.4	10.5	7.6	7.0	2.9	6.4	-
	50～59歳	13.0	12.6	9.2	6.3	10.5	6.3	4.6	0.8	7.5	0.8
	60～69歳	16.8	13.3	11.3	10.4	6.8	9.7	5.5	1.6	7.1	1.0
	70歳以上	13.9	10.8	9.4	10.6	9.9	8.9	4.0	0.9	7.8	3.8
職業別	農林漁業	9.1	10.9	10.9	9.1	7.3	5.5	3.6	1.8	5.5	1.8
	商工業、サービス業、自由業など	13.9	16.0	13.9	11.1	10.4	9.7	6.3	1.4	6.9	2.1
	会社、商店、官公庁などに勤務	12.7	13.4	11.3	9.3	10.0	7.4	5.9	1.5	7.4	0.5
	主婦・主夫	18.0	11.8	9.0	9.8	7.1	9.0	3.1	0.4	5.1	3.1
	無職	11.8	10.4	8.0	9.0	9.7	9.0	4.5	1.7	9.3	2.1
圏域別	高松圏域	12.1	13.0	11.5	8.7	9.9	9.3	5.9	1.8	7.2	0.9
	東讃圏域	19.3	5.9	4.2	11.8	7.6	8.4	3.4	-	6.7	5.0
	小豆圏域	19.6	10.9	8.7	6.5	4.3	4.3	4.3	-	8.7	6.5
	中讃圏域	12.6	15.4	10.7	12.0	9.7	8.4	5.0	0.8	8.4	1.3
	西讃圏域	15.4	9.1	13.3	7.7	7.7	4.2	3.5	2.1	7.0	2.8
居住年数別	3年未満	11.1	19.0	15.9	9.5	7.9	9.5	4.8	1.6	4.8	-
	3年以上～10年未満	13.6	11.2	7.7	10.7	10.1	8.9	5.3	3.6	7.1	1.2
	10年以上～20年未満	10.3	14.8	15.3	10.8	11.3	6.9	6.4	1.0	3.9	-
	20年以上	14.3	11.9	9.5	9.0	8.9	8.3	4.7	1.0	8.2	2.1

(9)人権に関わる宣言、法律、条例、計画、啓発行事のうち知っている項目について

問28 人権に関わる宣言、法律、条例、計画、啓発行事のうち、あなたが知っている項目はありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答数の多い順に並び替え

1	世界人権宣言	35.2%(36.3%)
2	人権週間（12月4日～10日）	32.9%(33.5%)
3	憲法週間（5月1日～7日）	22.4%(21.0%)
4	同和問題啓発強調月間（8月）	20.5%(20.1%)
5	部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）	19.4%(19.3%)
6	香川県部落差別事象の発生の防止に関する条例	17.1%(17.1%)
7	性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律	13.1%(13.1%)
8	本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律（ヘイトスピーチ解消法）	9.8%(9.8%)
9	香川県人権教育・啓発に関する基本計画	9.5%(9.7%)
10	人権教育及び人権啓発の推進に関する法律	8.3%(8.4%)
11	特になし (無回答)	31.2%(30.7%) 5.6%(5.1%)

人権に関わる宣言、法律、条例、計画、啓発行事のうち知っている項目について、「世界人権宣言」35.2%が最も高く、次いで「人権週間（12月4日～10日）」32.9%、「憲法週間（5月1日～7日）」22.4%、「同和問題啓発強調月間（8月）」20.5%などとなっている。

図表 4-(9)-1 人権に関わる宣言、法律、条例、計画、啓発行事のうち知っている項目について

		回答数
全体	100.0	1,369 人
(1) 世界人権宣言	35.2	482 人
(2) 人権週間(12月4日～10日)	32.9	451 人
(3) 憲法週間(5月1日～7日)	22.4	307 人
(4) 同和問題啓発強調月間(8月)	20.5	281 人
(5) 部落差別の解消の推進に関する法律(部落差別 解消推進法)	19.4	265 人
(6) 香川県部落差別事象の発生の防止に関する条例	17.1	234 人
(7) 性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に 関する国民の理解の増進に関する法律	13.1	179 人
(8) 本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消 に向けた取組の推進に関する法律(ヘイトスピーチ解 消法)	9.8	134 人
(9) 香川県人権教育・啓発に関する基本計画	9.5	130 人
(10) 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律	8.3	114 人
(11) 特にない	31.2	427 人
無回答	5.6	76 人

グラフ単位:(%)

人権に関わる宣言、法律、条例、計画、啓発行事のうち知っている項目について、性別にみると、『男性』では「特にない」34.5%が最も高く、『女性』では「世界人権宣言」37.3%が最も高く、これに『男性』では「世界人権宣言」32.5%が、『女性』では「人権週間（12月4日～10日）」34.5%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』、『60～69歳』では「世界人権宣言」が最も高く、『50～59歳』では「人権週間（12月4日～10日）」が最も高く、『70歳以上』では「特にない」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『無職』では「特にない」が最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』では「人権週間（12月4日～10日）」が最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「世界人権宣言」が最も高く、『主婦・主夫』では「人権週間（12月4日～10日）」と「特にない」が同率の30.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』では「世界人権宣言」が最も高く、『東讃圏域』では「特にない」が最も高く、『小豆圏域』では「世界人権宣言」と「人権週間（12月4日～10日）」が同率の32.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「世界人権宣言」が3～4割台と最も高く、『3年未満』で42.9%と最も高くなっている。

図表 4-(9)-2 【人権に関わる宣言、法律、条例、計画、啓発行事のうち知っている項目について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)		
	全体（人）	世界人権宣言	人権週間（12月4日～10日）	憲法週間（5月1日～7日）	同和問題啓発強調月間（8月）	部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）	香川県部落差別事象の発生防止に関する条例	性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律	本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律（ヘイトスピーチ解消法）	香川県人権教育・啓発に関する基本計画	人権教育及び人権啓発の推進に関する法律	特になし	無回答	
	【表の見方】 単位＝比率(%)													
	全体	1,369	35.2	32.9	22.4	20.5	19.4	17.1	13.1	9.8	9.5	8.3	31.2	5.6
性別	男性	594	32.5	30.8	22.7	20.4	20.2	19.7	12.6	12.8	11.1	10.1	34.5	4.0
	女性	734	37.3	34.5	22.1	20.7	18.8	15.0	13.1	7.2	8.2	7.1	28.7	6.4
年齢別	18～19歳	9	66.7	55.6	-	33.3	33.3	22.2	11.1	-	11.1	-	11.1	-
	20～29歳	79	40.5	34.2	11.4	13.9	19.0	13.9	13.9	8.9	8.9	8.9	35.4	1.3
	30～39歳	103	40.8	38.8	15.5	17.5	18.4	19.4	14.6	15.5	15.5	14.6	30.1	1.0
	40～49歳	172	41.3	39.5	18.0	19.2	15.1	13.4	14.5	8.7	11.0	9.3	30.2	0.6
	50～59歳	239	43.9	44.8	27.6	25.5	16.3	13.8	13.0	9.6	8.8	7.9	31.8	1.7
	60～69歳	309	34.3	34.0	24.9	22.3	21.7	17.2	13.9	9.4	10.7	9.7	34.0	4.9
	70歳以上	425	25.6	20.9	23.8	18.6	21.2	20.2	11.5	9.4	6.6	5.9	29.6	11.3
職業別	農林漁業	55	21.8	16.4	21.8	18.2	18.2	25.5	5.5	5.5	10.9	7.3	32.7	9.1
	商工業、サービス業、自由業など	144	36.1	36.8	22.2	20.1	20.8	11.8	8.3	7.6	6.3	6.3	29.9	4.9
	会社、商店、官公庁などに勤務	591	41.8	38.6	22.7	23.9	19.3	18.3	15.4	11.7	11.3	10.3	31.1	2.4
	主婦・主夫	255	28.6	30.6	22.7	18.4	18.4	16.1	12.9	5.9	7.8	5.9	30.6	9.0
	無職	289	29.8	24.9	22.1	15.9	20.1	16.6	12.1	11.1	8.3	8.0	33.2	7.3
圏域別	高松圏域	677	35.2	32.1	23.6	17.4	17.6	15.2	12.9	10.5	8.0	7.4	31.8	5.5
	東讃圏域	119	28.6	29.4	16.8	13.4	19.3	16.0	10.9	8.4	10.1	7.6	31.1	12.6
	小豆圏域	46	32.6	32.6	19.6	26.1	19.6	15.2	8.7	8.7	8.7	13.0	28.3	10.9
	中讃圏域	382	36.6	35.9	23.6	26.4	22.0	21.5	14.9	9.2	11.0	10.7	31.4	3.4
	西讃圏域	143	38.5	32.2	19.6	23.1	21.0	16.1	12.6	9.8	12.6	5.6	28.7	4.2
居住年数別	3年未満	63	42.9	39.7	19.0	15.9	22.2	20.6	11.1	12.7	9.5	11.1	33.3	1.6
	3年以上～10年未満	169	40.8	40.2	20.7	19.5	15.4	12.4	17.8	15.4	5.9	8.9	34.9	1.2
	10年以上～20年未満	203	39.4	37.4	14.8	22.7	17.7	12.3	13.8	6.4	11.8	6.4	30.0	1.5
	20年以上	899	32.7	30.1	24.8	20.5	20.4	18.8	12.2	9.2	9.6	8.6	30.9	7.1

(10)「同和問題」、「部落差別」について

問29 多くの人権課題がある中で、日本の社会に「同和問題」、「部落差別」などと言われる問題があることを知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

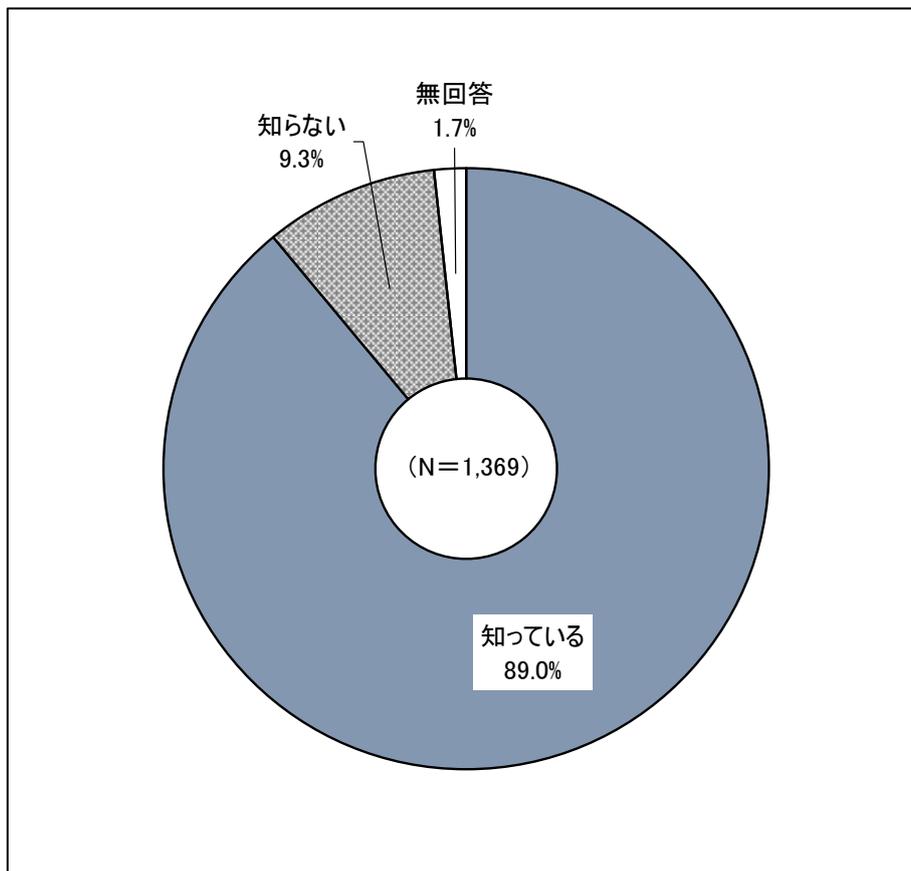
※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

- |                 |              |                        |
|-----------------|--------------|------------------------|
| 1 知っている         | 89.0%(88.5%) | ⇒ 16ページ 付問9～12にお進みください |
| 2 知らない<br>(無回答) | 9.3%(9.9%)   | ⇒ 17ページ 問30にお進みください    |
|                 | 1.7%(1.6%)   |                        |

「同和問題」、「部落差別」について、「知っている」89.0%、「知らない」9.3%となっている。

図表 4-(10)-1 「同和問題」、「部落差別」について



「同和問題」、「部落差別」について、性別にみると、男女とも「知っている」が最も高く、『男性』89.7%、『女性』88.7%となっている。

年齢別にみると、いずれも「知っている」が7割を超え、『18～19歳』で100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「知っている」が8～9割台と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』で93.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「知っている」が8～9割台と最も高く、『中讃圏域』で90.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「知っている」が8～9割台と最も高く、『3年以上～10年未満』で90.5%と最も高くなっている。

図表 4-(10)-2 【「同和問題」、「部落差別」について】

		(1) 知っている	(2) 知らない	無回答		
凡例					回答数	
全体		89.0	9.3	1.7	1,369人	
性別	男性	89.7	8.9	1.3	594人	
	女性	88.7	9.5	1.8	734人	
年齢別	18～19歳	100.0			9人	
	20～29歳	79.7	20.3		79人	
	30～39歳	84.5	14.6	1.0	103人	
	40～49歳	93.0	7.0		172人	
	50～59歳	92.1	7.1	0.8	239人	
	60～69歳	92.2	7.4	0.3	309人	
	70歳以上	86.6	9.6	3.8	425人	
職業別	農林漁業	92.7	5.5	1.8	55人	
	商工業、サービス業、自由業など	93.8	4.9	1.4	144人	
	会社、商店、官公庁などに勤務	90.0	9.1	0.8	591人	
	主婦・主夫	87.1	10.6	2.4	255人	
	無職	86.2	11.8	2.1	289人	
圏域別	高松圏域	89.7	8.9	1.5	677人	
	東讃圏域	85.7	10.9	3.4	119人	
	小豆圏域	80.4	15.2	4.3	46人	
	中讃圏域	90.1	8.4	1.6	382人	
	西讃圏域	88.1	11.2	0.7	143人	
居住年数別	3年未満	85.7	14.3		63人	
	3年以上～10年未満	90.5	8.3	1.2	169人	
	10年以上～20年未満	88.7	9.9	1.5	203人	
	20年以上	89.2	9.1	1.7	899人	

グラフ単位：(%)

(11) 同和問題を初めて知ったきっかけについて

【付問9から付問12までについては、問29で「1」と答えた方にお聞きします】

付問9 同和問題について、あなたが初めて知ったきっかけは何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,218】

1 家族から聞いた	34.6%(31.5%)
2 近所の人から聞いた	6.0%( 5.6%)
3 職場の人から聞いた	5.1%( 4.9%)
4 講演会・研修会など	6.2%( 5.6%)
5 学校の授業	34.6%(39.6%)
6 テレビ、新聞など	6.4%( 6.1%)
7 インターネットやSNS (スマホ)	0.3%( 0.4%)
8 その他	2.8%( 2.6%)
9 分からない	3.1%( 2.8%)
(無回答)	0.9%( 0.8%)

同和問題を初めて知ったきっかけについて、「家族から聞いた」、「学校の授業」が同率の34.6%で最も高く、次いで「テレビ、新聞など」6.4%、「講演会・研修会など」6.2%、「近所の人から聞いた」6.0%などとなっている。

図表 4-(11)-1 同和問題を初めて知ったきっかけについて

		回答数
全体	100.0	1,218 人
(1) 家族から聞いた	34.6	421 人
(2) 近所の人から聞いた	6.0	73 人
(3) 職場の人から聞いた	5.1	62 人
(4) 講演会・研修会など	6.2	76 人
(5) 学校の授業	34.6	421 人
(6) テレビ、新聞など	6.4	78 人
(7) インターネットやSNS(スマホ)	0.3	4 人
(8) その他	2.8	34 人
(9) 分からない	3.1	38 人
無回答	0.9	11 人

グラフ単位：(%)

同和問題を初めて知ったきっかけについて、性別にみると、『男性』では「家族から聞いた」32.5%が最も高く、『女性』では「学校の授業」37.5%が最も高く、これに『男性』では「学校の授業」31.5%、『女性』では「家族から聞いた」36.1%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』では「学校の授業」が5～8割台と最も高く、『60～69歳』、『70歳以上』では「家族から聞いた」が4割台と最も高くなっている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』を除くすべての職業で「家族から聞いた」が、3～4割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「学校の授業」49.1%が最も高くなっている。

圏域別にみると、『中讃圏域』を除くすべての圏域で「家族から聞いた」が3～4割台と最も高く、『中讃圏域』では「学校の授業」37.5%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』を除くすべての居住年数で「学校の授業」が4～6割台と最も高く、『20年以上』では「家族から聞いた」37.5%が最も高くなっている。

図表 4-(11)-2 【同和問題を初めて知ったきっかけについて】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)		
		全体 (人)	家族から聞いた	近所の人から聞いた	職場の人から聞いた	講演会・研修会など	学校の授業	テレビ、新聞など	インターネットやSNS(スマホ)	その他	分からない	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)												
全体		1,218	34.6	6.0	5.1	6.2	34.6	6.4	0.3	2.8	3.1	0.9
性別	男性	533	32.5	7.3	6.4	6.4	31.5	8.8	0.8	3.0	2.6	0.8
	女性	651	36.1	4.8	4.0	6.3	37.5	4.5	-	2.6	3.4	0.9
年齢別	18～19歳	9	11.1	-	-	-	88.9	-	-	-	-	-
	20～29歳	63	15.9	1.6	4.8	1.6	74.6	-	-	1.6	-	-
	30～39歳	87	11.5	3.4	5.7	4.6	60.9	8.0	3.4	1.1	1.1	-
	40～49歳	160	22.5	3.1	1.9	3.1	63.1	2.5	-	1.9	1.9	-
	50～59歳	220	29.1	2.3	2.7	3.2	53.6	4.5	0.5	1.4	1.8	0.9
	60～69歳	285	45.6	5.6	5.6	9.1	20.4	5.6	-	3.5	3.5	1.1
	70歳以上	368	43.2	10.9	7.3	8.7	8.7	10.6	-	4.1	4.9	1.6
職業別	農林漁業	51	37.3	15.7	7.8	7.8	17.6	5.9	-	5.9	-	2.0
	商工業、サービス業、自由業など	135	41.5	5.2	0.7	2.2	36.3	6.7	-	4.4	2.2	0.7
	会社、商店、官公庁などに勤務	532	26.9	3.6	5.3	5.1	49.1	4.9	0.8	1.9	2.1	0.6
	主婦・主夫	222	47.3	6.3	3.2	8.6	20.7	4.5	-	2.3	5.4	1.8
	無職	249	34.5	8.8	8.0	8.8	20.1	11.2	-	3.6	4.0	0.8
圏域別	高松圏域	607	35.7	5.1	5.1	4.4	35.3	6.6	0.2	2.6	3.6	1.3
	東讃圏域	102	41.2	5.9	3.9	8.8	29.4	6.9	-	2.9	1.0	-
	小豆圏域	37	35.1	16.2	5.4	10.8	16.2	2.7	2.7	2.7	5.4	2.7
	中讃圏域	344	30.5	6.1	5.2	7.3	37.5	7.0	0.6	2.9	2.3	0.6
	西讃圏域	126	34.9	7.1	5.6	8.7	32.5	4.0	-	3.2	4.0	-
居住年数別	3年未満	54	18.5	3.7	5.6	1.9	61.1	5.6	-	1.9	1.9	-
	3年以上～10年未満	153	27.5	5.9	3.9	3.9	49.0	4.6	1.3	1.3	2.6	-
	10年以上～20年未満	180	31.7	3.3	2.2	2.8	48.9	4.4	0.6	4.4	1.1	0.6
	20年以上	802	37.5	6.6	5.9	7.9	27.2	7.2	0.1	2.7	3.6	1.2

(12) 同和問題に関して見聞きしたことがある差別の内容について

付問10 同和問題に関して、あなたはこれまで、どのような差別を見聞きしたことがありますか。次の中から3つまで選んでください。 ※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,218】※回答数の多い順に並べ替え

1	結婚問題での周囲の反対	51.4%(48.9%)
2	差別的な言動	42.4%(43.8%)
3	身元調査を実施すること	30.8%(29.0%)
4	就職・職場での差別・不利な扱い	15.2%(15.8%)
5	地域の活動や付き合いでの差別・不利な扱い	15.2%(15.4%)
6	土地差別調査（土地や建物の取引に関連して、同和地区の有無などの差別的な調査をすること）の実施	13.3%(13.1%)
7	インターネットやSNS（スマホ）を悪用した差別的な情報の掲載	11.7%(14.1%)
8	差別的な落書き	5.3%( 5.4%)
9	その他	2.1%( 2.0%)
10	特になし	14.4%(14.3%)
11	分からない (無回答)	4.1%( 3.9%) 1.3%( 1.2%)

同和問題に関して見聞きしたことがある差別の内容について、「結婚問題での周囲の反対」51.4%が最も高く、次いで「差別的な言動」42.4%、「身元調査を実施すること」30.8%、「就職・職場での差別・不利な扱い」、「地域の活動や付き合いでの差別・不利な扱い」が同率の15.2%となっている。

図表 4-(12)-1 同和問題に関して見聞きしたことがある差別の内容について

		回答数
全体	100.0	1,218 人
(1) 結婚問題での周囲の反対	51.4	626 人
(2) 差別的な言動	42.4	516 人
(3) 身元調査を実施すること	30.8	375 人
(4) 就職・職場での差別・不利な扱い	15.2	185 人
(5) 地域の活動や付き合いでの差別・不利な扱い	15.2	185 人
(6) 土地差別調査(土地や建物の取引に関連して、同和地区の有無などの差別的な調査をすること)の実施	13.3	162 人
(7) インターネットやSNS(スマホ)を悪用した差別的な情報の掲載	11.7	143 人
(8) 差別的な落書き	5.3	64 人
(9) その他	2.1	25 人
(10) 特になし	14.4	175 人
(11) 分からない	4.1	50 人
無回答	1.3	16 人

グラフ単位：(%)

同和問題に関して見聞きしたことがある差別の内容について、性別にみると、『男性』では「差別的な言動」45.0%が最も高く、『女性』では「結婚問題での周囲の反対」56.7%が最も高く、これに『男性』は「結婚問題での周囲の反対」44.7%、『女性』は「差別的な言動」39.9%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では「差別的な言動」が4～7割台と最も高く、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「結婚問題での周囲の反対」が4～6割台と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「結婚問題での周囲の反対」が4～6割台と最も高く、『主婦・主夫』で63.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「結婚問題での周囲の反対」が4～7割台と最も高く、『小豆圏域』で73.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』を除くすべての居住年数で「差別的な言動」が4～5割台と最も高く、『20年以上』では「結婚問題での周囲の反対」55.2%が最も高くなっている。

図表 4-(12)-2 【同和問題に関して見聞きしたことがある差別の内容について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)		
		全体（人）	結婚問題での周囲の反対	差別的な言動	身元調査を実施すること	就職・職場での差別・不利な扱い	地域の活動や付き合いでの差別・不利な扱い	土地差別調査（土地や建物の取引に関連する、同和地区の有無などの差別的な調査をすること）の実施	インターネットやSNS（スマホ）を悪用した差別的な情報の掲載	差別的な落書き	その他	特にない	分からない	無回答
【表の見方】 単位＝比率(%)														
全体		1,218	51.4	42.4	30.8	15.2	15.2	13.3	11.7	5.3	2.1	14.4	4.1	1.3
性別	男性	533	44.7	45.0	29.5	15.9	18.8	11.1	13.3	5.8	1.9	14.6	4.5	1.5
	女性	651	56.7	39.9	32.3	14.7	12.3	14.6	10.6	4.9	1.8	14.4	3.8	0.9
年齢別	18～19歳	9	44.4	77.8	22.2	22.2	11.1	11.1	55.6	-	-	-	-	-
	20～29歳	63	25.4	46.0	17.5	22.2	15.9	6.3	25.4	9.5	4.8	19.0	3.2	1.6
	30～39歳	87	34.5	55.2	14.9	14.9	17.2	14.9	33.3	9.2	-	17.2	1.1	-
	40～49歳	160	41.3	45.0	25.0	20.0	15.6	12.5	14.4	3.1	2.5	14.4	3.8	-
	50～59歳	220	46.4	44.1	32.7	11.8	17.3	10.0	15.9	7.3	0.9	15.5	3.6	-
	60～69歳	285	59.3	40.7	35.8	14.0	12.6	13.3	7.4	4.6	2.5	14.7	4.2	1.8
	70歳以上	368	60.9	36.7	35.1	14.9	15.5	16.0	3.3	4.1	1.9	12.5	5.7	2.2
職業別	農林漁業	51	56.9	39.2	35.3	11.8	9.8	15.7	9.8	2.0	2.0	9.8	3.9	2.0
	商工業、サービス業、自由業など	135	54.1	41.5	27.4	14.8	14.1	14.8	11.9	3.0	3.7	14.1	3.7	1.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	532	44.4	44.0	29.3	15.0	17.7	11.5	16.4	7.0	1.7	16.2	3.4	0.6
	主婦・主夫	222	63.5	35.6	35.6	17.1	12.6	13.1	7.2	3.6	1.4	12.2	3.6	2.3
	無職	249	52.6	46.2	31.7	15.3	14.5	15.7	6.8	5.2	2.0	13.3	6.8	1.2
圏域別	高松圏域	607	49.4	41.8	29.5	15.0	17.6	14.2	12.5	4.0	2.1	15.2	4.0	1.2
	東讃圏域	102	59.8	37.3	41.2	11.8	9.8	13.7	7.8	2.9	1.0	11.8	4.9	2.0
	小豆圏域	37	73.0	64.9	21.6	18.9	16.2	10.8	8.1	-	-	5.4	-	2.7
	中讃圏域	344	48.8	42.7	30.8	16.3	13.4	13.4	13.1	7.3	2.3	15.4	4.7	1.2
	西讃圏域	126	55.6	41.3	31.7	15.1	12.7	9.5	7.9	8.7	2.4	11.9	4.0	1.6
居住年数別	3年未満	54	38.9	51.9	25.9	22.2	14.8	11.1	27.8	5.6	1.9	11.1	1.9	-
	3年以上～10年未満	153	43.8	45.1	30.1	19.0	15.7	15.0	20.3	5.2	1.3	13.1	2.6	0.7
	10年以上～20年未満	180	44.4	47.2	20.6	15.6	17.2	10.0	19.4	8.9	2.8	15.0	6.1	0.6
	20年以上	802	55.2	40.0	33.9	14.1	14.8	13.7	7.5	4.4	1.9	14.6	4.2	1.5

(13) 同和問題を解決するために必要と思われることについて

付問11 同和問題を解決するために必要と思われることは何ですか。次の中からあてはまるものを  
すべて選んでください。 ※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,218】※回答数の多い順に並び替え

1	人権全般にわたっての意識を高める	49.7%(48.7%)
2	家庭で子どもに差別しないように教える	37.4%(37.6%)
3	えせ同和行為(差別を利用した不当要求行為)を排除する	26.8%(26.4%)
4	啓発・広報活動を推進する	23.9%(22.7%)
5	どのようにしても差別はなくなる	20.1%(20.7%)
6	人権が侵害された被害者の救済制度を充実する	17.9%(18.7%)
7	相談活動を充実する	14.0%(13.9%)
8	そっとしておけば差別は自然になくなる	13.0%(12.5%)
9	差別に関わることを見聞きしたときは、その場で注意する	12.6%(12.7%)
10	相互の理解を深める交流会を開催する	10.9%(11.8%)
11	その他	5.9%( 6.2%)
12	分からない	9.7%( 9.1%)
	(無回答)	1.2%( 1.1%)

同和問題を解決するために必要と思われることについて、「人権全般にわたっての意識を高める」49.7%が最も高く、次いで「家庭で子どもに差別しないように教える」37.4%、「えせ同和行為(差別を利用した不当要求行為)を排除する」26.8%、「啓発・広報活動を推進する」23.9%などとなっている。

図表 4-(13)-1 同和問題を解決するために必要と思われることについて

		回答数
全体	100.0	1,218 人
(1) 人権全般にわたっての意識を高める	49.7	605 人
(2) 家庭で子どもに差別しないように教える	37.4	456 人
(3) えせ同和行為(差別を利用した不当要求行為)を排除する	26.8	327 人
(4) 啓発・広報活動を推進する	23.9	291 人
(5) どのようにしても差別はなくなる	20.1	245 人
(6) 人権が侵害された被害者の救済制度を充実する	17.9	218 人
(7) 相談活動を充実する	14.0	171 人
(8) そっとしておけば差別は自然になくなる	13.0	158 人
(9) 差別に関わることを見聞きしたときは、その場で注意する	12.6	154 人
(10) 相互の理解を深める交流会を開催する	10.9	133 人
(11) その他	5.9	72 人
(12) 分からない	9.7	118 人
無回答	1.2	15 人

グラフ単位：(%)

同和問題を解決するために必要と思われることについて、性別にみると、男女とも「人権全般にわたっての意識を高める」が最も高く、『男性』49.9%、『女性』50.2%で、これに男女とも「家庭で子どもに差別しないように教える」が『男性』35.1%、『女性』38.7%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「人権全般にわたっての意識を高める」が3～5割台と最も高く、『70歳以上』で55.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「人権全般にわたっての意識を高める」が4～5割台と最も高く、『主婦・主夫』で55.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「人権全般にわたっての意識を高める」が4～5割台と最も高く、『小豆圏域』で54.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「人権全般にわたっての意識を高める」が4～5割台と最も高く、『20年以上』で51.2%と最も高くなっている。

図表 4-(13)-2 【同和問題を解決するために必要と思われることについて】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)		
		全体 (人)	人権全般にわたっての意識を高める	家庭で子どもに差別しないように教える	えせ同和行為(差別を利用した不当要求行為)を排除する	啓発・広報活動を推進する	どのようにしても差別はなくなる	人権が侵害された被害者の救済制度を充実する	相談活動を充実する	そっとしておけば差別は自然になくなる	差別に関わることを見聞きしたときは、その場で注意する	相互の理解を深める交流会を開催する	その他	分からない	無回答
【表の見方】 単位＝比率(%)															
全体		1,218	49.7	37.4	26.8	23.9	20.1	17.9	14.0	13.0	12.6	10.9	5.9	9.7	1.2
性別	男性	533	49.9	35.1	32.6	25.9	21.8	19.3	12.2	12.9	13.7	10.3	5.6	8.4	1.1
	女性	651	50.2	38.7	21.7	22.4	18.3	16.6	15.1	12.4	11.1	11.2	5.8	11.1	1.2
年齢別	18～19歳	9	44.4	33.3	22.2	-	22.2	22.2	22.2	-	11.1	33.3	22.2	-	-
	20～29歳	63	39.7	36.5	22.2	19.0	17.5	25.4	11.1	7.9	9.5	17.5	6.3	4.8	1.6
	30～39歳	87	43.7	32.2	20.7	20.7	27.6	25.3	19.5	9.2	14.9	13.8	3.4	9.2	-
	40～49歳	160	43.8	38.1	31.3	18.8	23.8	18.1	13.1	5.6	10.0	10.6	8.8	6.3	-
	50～59歳	220	50.0	41.4	29.5	20.5	23.6	15.0	13.6	8.6	12.7	9.1	5.9	9.5	-
	60～69歳	285	51.2	31.6	27.7	28.8	16.5	15.8	18.2	10.5	10.9	8.8	5.6	10.9	1.8
	70歳以上	368	55.2	39.9	24.2	26.4	17.4	17.4	9.8	21.7	14.1	11.1	4.9	12.0	2.4
職業別	農林漁業	51	52.9	33.3	13.7	31.4	19.6	9.8	5.9	23.5	7.8	9.8	5.9	9.8	-
	商工業、サービス業、自由業など	135	44.4	36.3	33.3	14.1	24.4	19.3	17.0	12.6	11.9	9.6	3.7	11.9	1.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	532	49.2	36.1	28.8	25.0	21.2	17.7	14.5	7.5	12.4	11.3	6.8	7.7	0.4
	主婦・主夫	222	55.0	42.3	23.0	23.0	15.8	17.1	14.0	16.2	10.8	11.7	4.5	10.4	2.7
	無職	249	50.2	36.1	24.1	25.7	18.9	19.3	12.4	18.5	14.9	10.0	6.0	12.9	2.0
圏域別	高松圏域	607	49.4	39.0	28.3	22.6	18.9	20.3	16.1	11.4	12.7	10.2	4.9	10.5	1.5
	東讃圏域	102	41.2	29.4	19.6	22.5	16.7	12.7	11.8	18.6	12.7	3.9	4.9	16.7	1.0
	小豆圏域	37	54.1	40.5	24.3	29.7	18.9	18.9	5.4	13.5	10.8	10.8	2.7	-	2.7
	中讃圏域	344	50.9	35.2	25.9	25.0	23.0	16.6	13.4	12.2	10.8	12.5	7.3	8.4	1.2
	西讃圏域	126	53.2	40.5	28.6	26.2	21.4	13.5	9.5	18.3	17.5	15.1	8.7	6.3	-
居住年数別	3年未満	54	50.0	38.9	27.8	20.4	22.2	9.3	9.3	9.3	11.1	14.8	5.6	7.4	-
	3年以上～10年未満	153	47.1	42.5	30.1	20.3	23.5	30.7	16.3	5.2	16.3	11.1	4.6	9.2	-
	10年以上～20年未満	180	47.8	42.2	23.9	21.1	26.1	18.9	15.0	9.4	13.3	15.0	6.7	6.7	1.1
	20年以上	802	51.2	34.9	26.6	25.4	17.8	15.6	13.3	15.1	11.5	9.6	5.9	10.8	1.6

(14) 子どもの結婚相手が同和地区出身だった場合の対応について

付問12 あなたのお子さんの結婚しようとする相手が、同和地区の人であると分かった場合、あなたはどうすると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

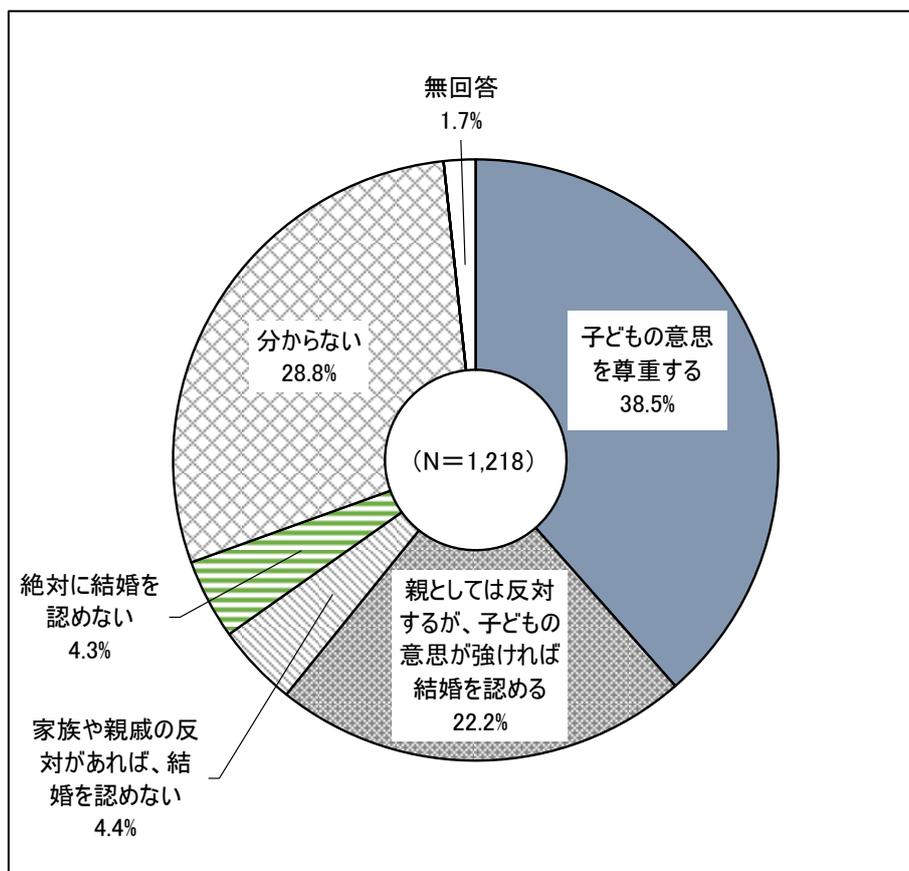
※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,218】

1 子どもの意思を尊重する	38.5%(40.3%)
2 親としては反対するが、子どもの意思が強ければ結婚を認める	22.2%(21.3%)
3 家族や親戚の反対があれば、結婚を認めない	4.4%( 4.4%)
4 絶対に結婚を認めない	4.3%( 4.0%)
5 分からない	28.8%(28.3%)
(無回答)	1.7%( 1.7%)

子どもの結婚相手が同和地区出身だった場合の対応について、「子どもの意思を尊重する」38.5%が最も高く、次いで「分からない」28.8%、「親としては反対するが、子どもの意思が強ければ結婚を認める」22.2%、「家族や親戚の反対があれば、結婚を認めない」4.4%となっている。

図表 4-(14)-1 子どもの結婚相手が同和地区出身だった場合の対応について



子どもの結婚相手が同和地区出身だった場合の対応について、性別にみると、男女とも「子どもの意思を尊重する」が最も高く、『男性』39.8%、『女性』37.9%で、これに男女とも「分からない」が『男性』25.1%、『女性』32.6%と続いている。

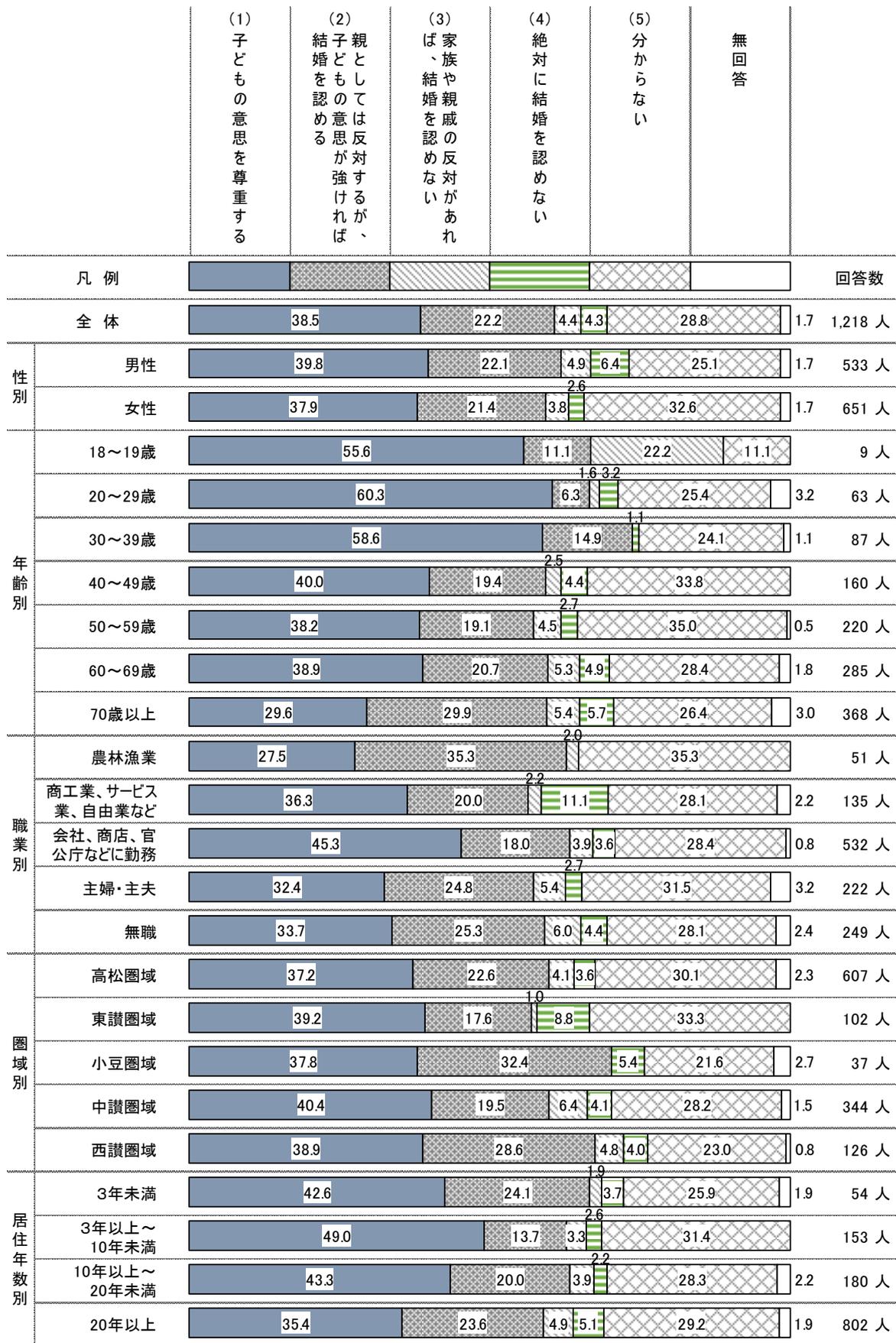
年齢別にみると、『70歳以上』を除くすべての年齢で「子どもの意思を尊重する」が3～6割台と最も高く、『70歳以上』では「親としては反対するが、子どもの意思が強ければ結婚を認める」29.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で「子どもの意思を尊重する」が最も高く、『農林漁業』では「親としては反対するが、子どもの意思が強ければ結婚を認める」、「分からない」が同率の35.3%となっている。

圏域別にみると、いずれも「子どもの意思を尊重する」が3～4割台と最も高く、『中讃圏域』で40.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「子どもの意思を尊重する」が3～4割台と最も高く、『3年以上～10年未満』で49.0%と最も高くなっている。

図表 4-(14)-2 【子どもの結婚相手が同和地区出身だった場合の対応について】



グラフ単位：(%)

(15)効果的であると思われる人権啓発広報活動について

問30 あなたは、人権啓発を推進するためには、県民に対してどのような啓発広報活動が効果的であると思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答数の多い順に並び替え

1	テレビ・ラジオを活用した啓発	42.7%(43.0%)
2	県・市町の広報誌	35.3%(34.6%)
3	インターネットやSNS（スマホ）	27.7%(31.4%)
4	新聞・雑誌・週刊誌	19.9%(19.7%)
5	高齢者・障害者などの擬似体験	18.7%(18.6%)
6	講演会や研修会、座談会	17.8%(16.7%)
7	映画・ビデオを活用した啓発	15.6%(16.2%)
8	人権問題をテーマとした行事（じんけんフェスティバル、ポスターパネル展など）	14.2%(14.1%)
9	パンフレット・ポスター	13.3%(13.5%)
10	相互の理解を深めるための交流会	12.3%(12.2%)
11	その他	4.7%( 4.7%)
	（無回答）	10.7%(10.1%)

効果的であると思われる人権啓発広報活動について、「テレビ・ラジオを活用した啓発」42.7%が最も高く、次いで「県・市町の広報誌」35.3%、「インターネットやSNS（スマホ）」27.7%、「新聞・雑誌・週刊誌」19.9%などとなっている。

図表 4-(15)-1 効果的であると思われる人権啓発広報活動について

		回答数
全体	100.0	1,369 人
(1) テレビ・ラジオを活用した啓発	42.7	585 人
(2) 県・市町の広報誌	35.3	483 人
(3) インターネットやSNS(スマホ)	27.7	379 人
(4) 新聞・雑誌・週刊誌	19.9	273 人
(5) 高齢者・障害者などの擬似体験	18.7	256 人
(6) 講演会や研修会、座談会	17.8	244 人
(7) 映画・ビデオを活用した啓発	15.6	214 人
(8) 人権問題をテーマとした行事(じんけんフェスティバル、ポスターパネル展など)	14.2	194 人
(9) パンフレット・ポスター	13.3	182 人
(10) 相互の理解を深めるための交流会	12.3	169 人
(11) その他	4.7	65 人
無回答	10.7	147 人

グラフ単位：(%)

効果的であると思われる人権啓発広報活動について、性別にみると、男女とも「テレビ・ラジオを活用した啓発」が最も高く、『男性』44.1%、『女性』42.0%で、これに男女とも「県・市町の広報誌」が『男性』36.5%、『女性』34.7%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では「インターネットやSNS（スマホ）」が4～6割台と最も高く、『50～59歳』、『60～69歳』では「テレビ・ラジオを活用した啓発」が4割台と最も高く、『70歳以上』では「県・市町の広報誌」が44.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『主婦・主夫』では「県・市町の広報誌」が4割台と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『無職』では「テレビ・ラジオを活用した啓発」が3～4割台と最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『東讃圏域』、『西讃圏域』では「テレビ・ラジオを活用した啓発」が4割台と最も高く、『小豆圏域』では「テレビ・ラジオを活用した啓発」、「県・市町の広報誌」が同率の47.8%と最も高く、『中讃圏域』では「県・市町の広報誌」41.1%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「インターネットやSNS（スマホ）」が最も高く、『3年以上～10年未満』では「テレビ・ラジオを活用した啓発」、「インターネットやSNS（スマホ）」が同率の45.0%と最も高く、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では「テレビ・ラジオを活用した啓発」が4割台と最も高くなっている。

図表 4-(15)-2 【効果的であると思われる人権啓発広報活動について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)		
		全体 (人)	テレビ・ラジオを活用した啓発	県・市町の広報誌	インターネットやSNS（スマホ）	新聞・雑誌・週刊誌	高齢者・障害者などの疑似体験	講演会や研修会、座談会	映画・ビデオを活用した啓発	人権問題をテーマとした行事（じんけんフェスティバル、ポスターパネル展など）	パンフレット・ポスター	相互の理解を深めるための交流会	その他	無回答
【表の見方】 単位＝比率(%)														
全体		1,369	42.7	35.3	27.7	19.9	18.7	17.8	15.6	14.2	13.3	12.3	4.7	10.7
性別	男性	594	44.1	36.5	26.4	23.2	14.6	18.7	14.5	13.8	13.8	10.4	5.4	9.9
	女性	734	42.0	34.7	28.7	17.4	21.9	16.9	16.5	14.7	12.7	13.8	4.5	10.6
年齢別	18～19歳	9	55.6	55.6	66.7	22.2	11.1	11.1	33.3	33.3	22.2	22.2	-	-
	20～29歳	79	45.6	19.0	54.4	15.2	11.4	8.9	21.5	6.3	13.9	3.8	5.1	6.3
	30～39歳	103	49.5	28.2	61.2	24.3	27.2	13.6	18.4	17.5	13.6	13.6	4.9	2.9
	40～49歳	172	39.0	27.9	40.7	12.2	20.9	12.2	14.5	16.9	11.6	13.4	7.6	2.9
	50～59歳	239	46.9	34.7	35.1	21.3	17.2	19.2	18.8	13.0	12.1	8.4	4.2	7.1
	60～69歳	309	43.7	34.3	21.4	19.4	20.7	22.0	14.9	17.8	12.9	14.2	5.2	9.1
	70歳以上	425	39.3	44.2	9.6	23.1	16.5	18.6	12.9	11.8	14.6	13.6	4.0	18.6
職業別	農林漁業	55	25.5	45.5	5.5	10.9	14.5	14.5	14.5	14.5	10.9	10.9	5.5	14.5
	商工業、サービス業、自由業など	144	36.1	26.4	24.3	15.3	18.1	15.3	13.9	11.1	9.7	11.1	6.9	11.8
	会社、商店、官公庁などに勤務	591	45.5	31.6	40.8	19.1	18.6	18.6	17.4	16.1	11.5	11.3	5.4	6.3
	主婦・主夫	255	40.8	43.1	14.9	20.0	24.3	16.5	14.5	13.7	14.9	15.7	2.4	12.9
	無職	289	46.4	39.8	18.7	26.6	14.9	18.3	14.2	12.8	18.3	12.5	4.8	14.2
圏域別	高松圏域	677	43.9	33.1	32.2	20.4	18.9	17.3	17.3	14.3	12.9	11.1	4.6	9.7
	東讃圏域	119	42.0	32.8	17.6	16.0	13.4	16.0	13.4	10.1	11.8	11.8	5.0	13.4
	小豆圏域	46	47.8	47.8	8.7	21.7	13.0	19.6	8.7	13.0	19.6	8.7	6.5	13.0
	中讃圏域	382	40.6	41.1	25.7	21.5	17.8	19.9	14.1	13.6	14.7	14.4	3.4	11.8
	西讃圏域	143	42.0	28.7	25.2	16.1	26.6	15.4	15.4	18.9	11.2	14.7	8.4	9.8
居住年数別	3年未満	63	41.3	28.6	44.4	11.1	9.5	12.7	17.5	12.7	14.3	9.5	7.9	3.2
	3年以上～10年未満	169	45.0	31.4	45.0	18.9	24.9	15.4	22.5	17.8	13.6	14.8	6.5	4.1
	10年以上～20年未満	203	44.8	31.5	36.9	23.2	19.7	15.3	15.8	15.3	12.8	12.8	3.9	5.9
	20年以上	899	42.3	37.8	21.4	20.4	17.8	18.8	14.2	13.6	13.5	12.0	4.6	12.9

(16) 人権啓発活動への印象や感想について

問31 あなたは、過去1年間で、人権に関わる啓発を見聞きしたり参加したりして、どのような印象や感想を持ちましたか。次の中から1つだけ選んでください。

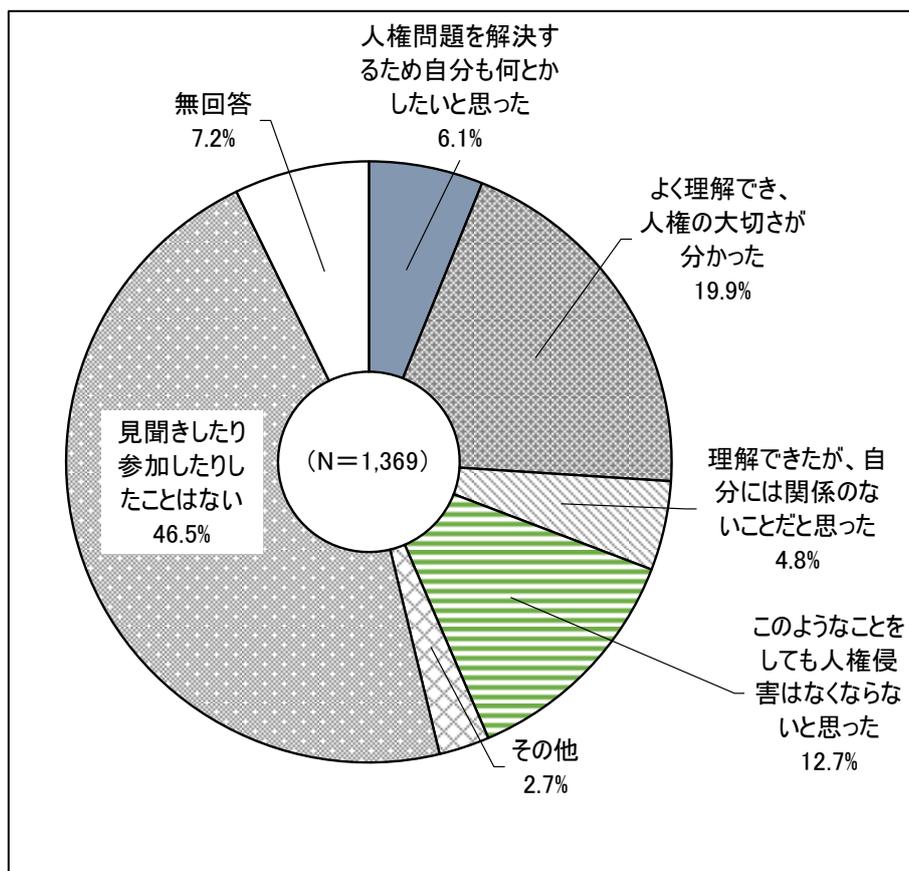
※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 人権問題を解決するため自分も何とかしたいと思った	6.1%( 6.7%)
2 よく理解でき、人権の大切さが分かった	19.9%(20.5%)
3 理解できたが、自分には関係のないことだと思った	4.8%( 4.8%)
4 このようなことをしても人権侵害はなくならないと思った	12.7%(12.9%)
5 その他	2.7%( 2.6%)
6 見聞きしたり参加したりしたことはない (無回答)	46.5%(45.8%) 7.2%( 6.6%)

人権啓発活動への印象や感想について、「見聞きしたり参加したりしたことはない」46.5%が最も高く、次いで、「よく理解でき、人権の大切さが分かった」19.9%、「このようなことをしても人権侵害はなくならないと思った」12.7%、「人権問題を解決するため自分も何とかしたいと思った」6.1%となっている。

図表 4-(16)-1 人権啓発活動への印象や感想について



人権啓発活動への印象や感想について、男女とも「見聞きしたり参加したりしたことはない」が最も高く、『男性』44.4%、『女性』48.4%で、これに男女とも「よく理解でき、人権の大切さが分かった」が『男性』19.4%、『女性』20.7%と続いている。

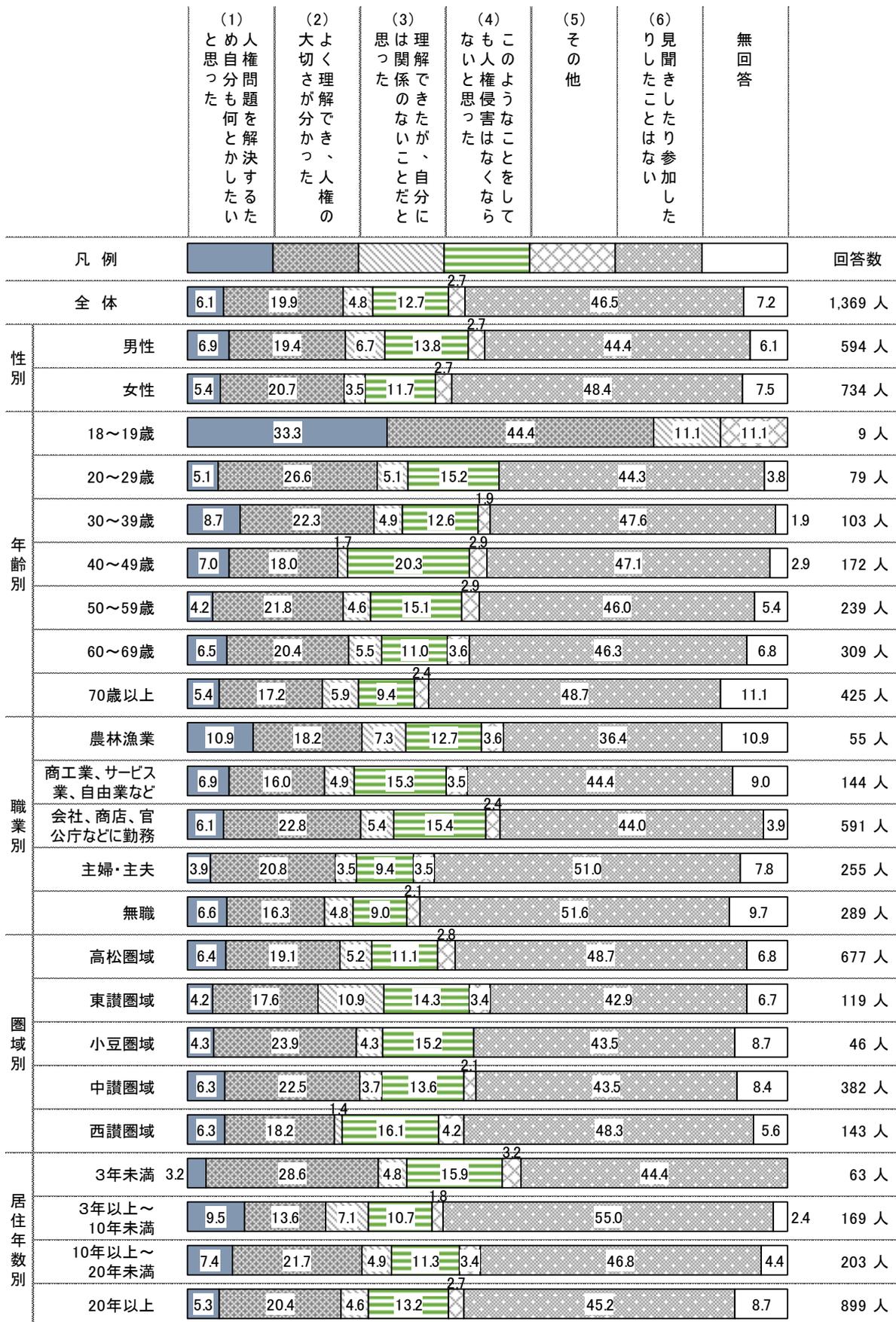
年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で「見聞きしたり参加したりしたことはない」が4割台と最も高く、『18～19歳』では「よく理解でき、人権の大切さが分かった」44.4%が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「見聞きしたり参加したりしたことはない」が3～5割台と最も高く、『無職』で51.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「見聞きしたり参加したりしたことはない」が4割台と最も高く、『高松圏域』で48.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「見聞きしたり参加したりしたことはない」が4～5割台と最も高く、『3年以上～10年未満』で55.0%と最も高くなっている。

図表 4-(16)-2 【人権啓発活動への印象や感想について】



グラフ単位：(%)

## 5. 県政の重要度と満足度について

県では、令和3年度からの新たな香川づくりの指針として、『人生100年時代のフロンティア県・香川』実現計画」※を策定しています。

この計画を着実に推進し、県民の皆さまのニーズ（要望）に対応した県政を進めるために、この計画で示している26の分野を対象に、皆さまが考える重要度と満足度についてお伺いします。以下の質問にお答えください。

### ※「人生100年時代のフロンティア県・香川」実現計画

本県のめざす基本的方向とそれを実現するための方策を明らかにした県政運営の基本指針となる総合計画で、計画期間は令和3年度から令和7年度の5年間です。

【香川県ホームページ】<https://www.pref.kagawa.lg.jp/seisaku/sogo/sogokeikaku/minaoshi/keikakuminaoshi.html>

(1)安全・安心で住みたくなる香川をつくる『県民100万人計画』(重要度)

問32 計画の基本方針「安全・安心で住みたくなる香川をつくる『県民100万人計画』」の実現に向けて展開している[1]～[13]の分野について、あなたの＜重要度＞と＜満足度＞を、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

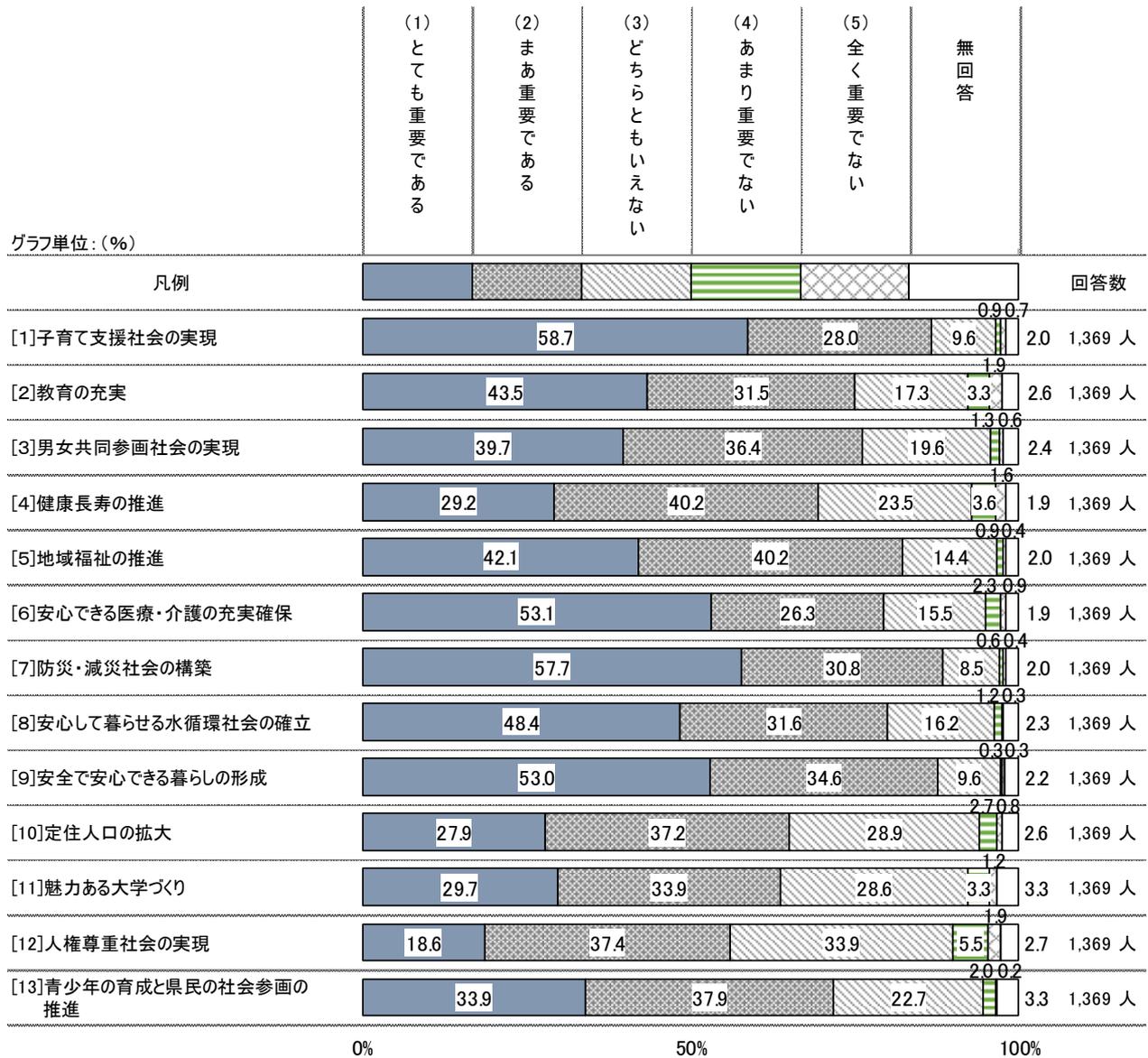
【回答者数=1,369】

(単位：%)

分野	重要度					無回答
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	
[1] 子育て支援社会の実現	58.7 (61.3)	28.0 (26.3)	9.6 (9.0)	0.9 (0.9)	0.7 (0.6)	2.0 (2.0)
[2] 教育の充実	43.5 (42.7)	31.5 (30.8)	17.3 (17.8)	3.3 (4.0)	1.9 (2.2)	2.6 (2.4)
[3] 男女共同参画社会の実現	39.7 (42.1)	36.4 (35.3)	19.6 (18.4)	1.3 (1.3)	0.6 (0.6)	2.4 (2.3)
[4] 健康長寿の推進	29.2 (28.2)	40.2 (39.6)	23.5 (24.6)	3.6 (4.1)	1.6 (1.8)	1.9 (1.8)
[5] 地域福祉の推進	42.1 (42.9)	40.2 (39.1)	14.4 (14.7)	0.9 (0.9)	0.4 (0.4)	2.0 (2.0)
[6] 安心できる医療・介護の充実確保	53.1 (51.5)	26.3 (26.3)	15.5 (16.7)	2.3 (2.5)	0.9 (1.1)	1.9 (1.8)
[7] 防災・減災社会の構築	57.7 (57.2)	30.8 (30.9)	8.5 (8.9)	0.6 (0.6)	0.4 (0.5)	2.0 (2.0)
[8] 安心して暮らせる水循環社会の確立	48.4 (46.7)	31.6 (31.7)	16.2 (17.8)	1.2 (1.3)	0.3 (0.3)	2.3 (2.2)
[9] 安全で安心できる暮らしの形成	53.0 (53.4)	34.6 (33.7)	9.6 (10.1)	0.3 (0.3)	0.3 (0.4)	2.2 (2.1)
[10] 定住人口の拡大	27.9 (28.0)	37.2 (35.8)	28.9 (30.0)	2.7 (3.0)	0.8 (0.8)	2.6 (2.4)
[11] 魅力ある大学づくり	29.7 (31.9)	33.9 (33.6)	28.6 (26.7)	3.3 (3.3)	1.2 (1.2)	3.3 (3.2)
[12] 人権尊重社会の実現	18.6 (18.9)	37.4 (36.3)	33.9 (34.5)	5.5 (5.7)	1.9 (2.0)	2.7 (2.6)
[13] 青少年の育成と県民の社会参画の推進	33.9 (36.0)	37.9 (36.3)	22.7 (22.2)	2.0 (2.1)	0.2 (0.3)	3.3 (3.2)

「安全・安心で住みたくなる香川をつくる『県民100万人計画』」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「防災・減災社会の構築」88.5%が最も高く、次いで「安全で安心できる暮らしの形成」87.6%、「子育て支援社会の実現」86.7%などとなっている。

図表 5-(1) 安全・安心で住みたくなる香川をつくる『県民100万人計画』(重要度)



P381～P393 数表参照

(2)安全・安心で住みたくなる香川をつくる『県民100万人計画』(満足度)

問32 計画の基本方針「安全・安心で住みたくなる香川をつくる『県民100万人計画』」の実現に向けて展開している[1]～[13]の分野について、あなたの＜重要度＞と＜満足度＞を、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

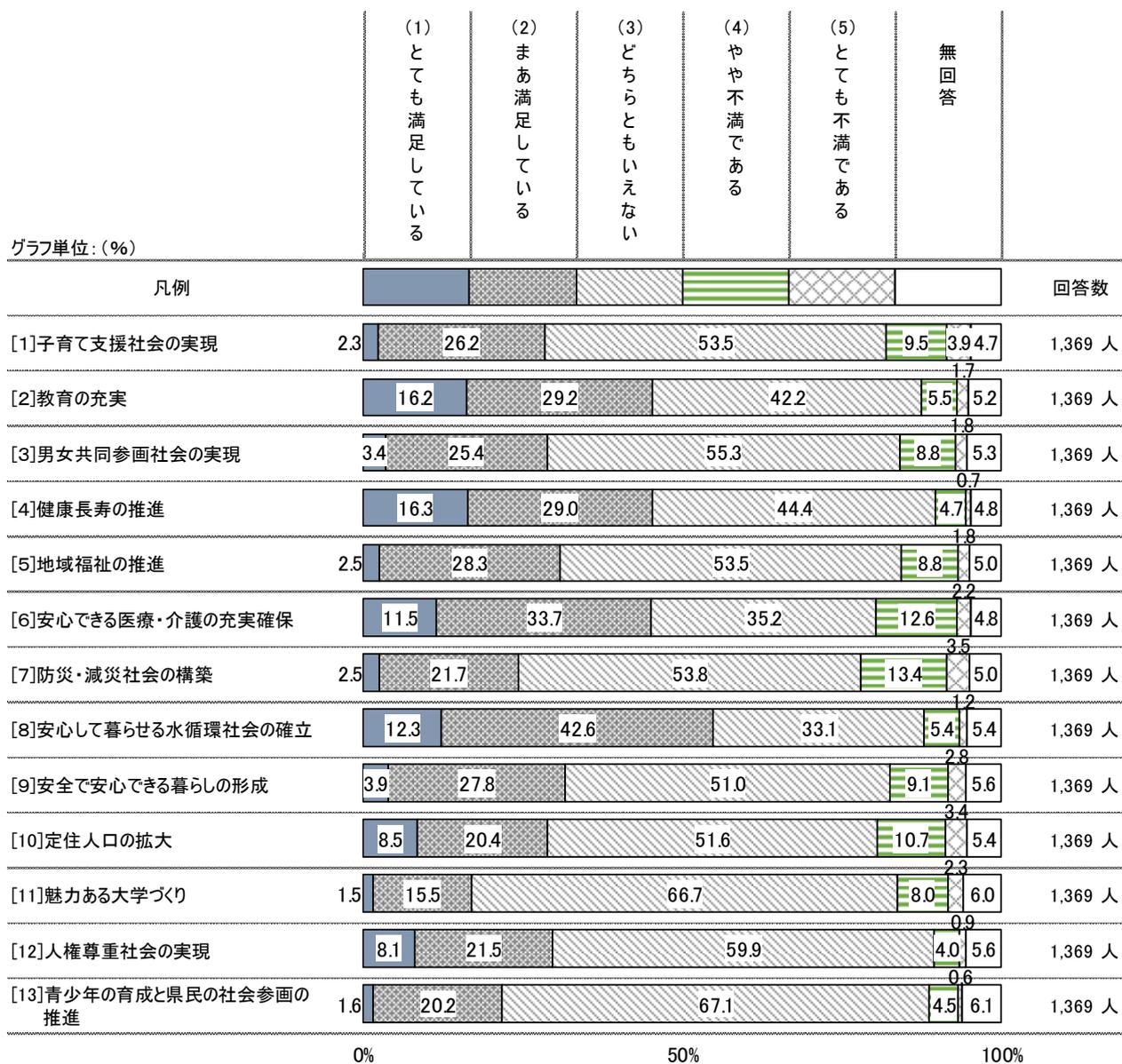
【回答者数=1,369】

(単位：%)

分野	満足度					
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答
[1] 子育て支援社会の実現	2.3 (2.8)	26.2 (25.5)	53.5 (53.2)	9.5 (10.1)	3.9 (4.0)	4.7 (4.4)
[2] 教育の充実	16.2 (18.3)	29.2 (29.1)	42.2 (40.3)	5.5 (5.8)	1.7 (1.5)	5.2 (4.9)
[3] 男女共同参画社会の実現	3.4 (4.3)	25.4 (25.8)	55.3 (54.0)	8.8 (8.9)	1.8 (2.0)	5.3 (5.0)
[4] 健康長寿の推進	16.3 (18.9)	29.0 (28.4)	44.4 (43.1)	4.7 (4.3)	0.7 (0.7)	4.8 (4.6)
[5] 地域福祉の推進	2.5 (2.9)	28.3 (28.5)	53.5 (53.1)	8.8 (8.9)	1.8 (1.8)	5.0 (4.8)
[6] 安心できる医療・介護の充実確保	11.5 (13.4)	33.7 (33.6)	35.2 (33.8)	12.6 (12.3)	2.2 (2.3)	4.8 (4.5)
[7] 防災・減災社会の構築	2.5 (3.3)	21.7 (22.0)	53.8 (52.4)	13.4 (13.9)	3.5 (3.6)	5.0 (4.8)
[8] 安心して暮らせる水循環社会の確立	12.3 (13.7)	42.6 (42.1)	33.1 (32.1)	5.4 (5.6)	1.2 (1.2)	5.4 (5.2)
[9] 安全で安心できる暮らしの形成	3.9 (4.4)	27.8 (26.9)	51.0 (51.1)	9.1 (9.4)	2.8 (3.0)	5.6 (5.3)
[10] 定住人口の拡大	8.5 (10.5)	20.4 (21.2)	51.6 (49.0)	10.7 (10.7)	3.4 (3.5)	5.4 (5.1)
[11] 魅力ある大学づくり	1.5 (2.0)	15.5 (15.7)	66.7 (65.5)	8.0 (8.5)	2.3 (2.7)	6.0 (5.6)
[12] 人権尊重社会の実現	8.1 (9.7)	21.5 (22.4)	59.9 (57.7)	4.0 (3.8)	0.9 (1.1)	5.6 (5.3)
[13] 青少年の育成と県民の社会参画の推進	1.6 (2.4)	20.2 (20.9)	67.1 (66.2)	4.5 (4.2)	0.6 (0.6)	6.1 (5.8)

「安全・安心で住みたくなる香川をつくる『県民100万人計画』」の満足度について、すべての分野で「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っており、特に「安心して暮らせる水循環社会の確立」の満足度が高くなっている。

図表 5-(2) 安全・安心で住みたくなる香川をつくる『県民100万人計画』(満足度)



P381～P393 数表参照

(3) 活気に満ち挑戦できる香川をつくる『デジタル田園都市100計画』(重要度)

問33 計画の基本方針「活気に満ち挑戦できる香川をつくる『デジタル田園都市100計画』」の実現に向けて展開している[14]～[23]の分野について、あなたの＜重要度＞と＜満足度＞を、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

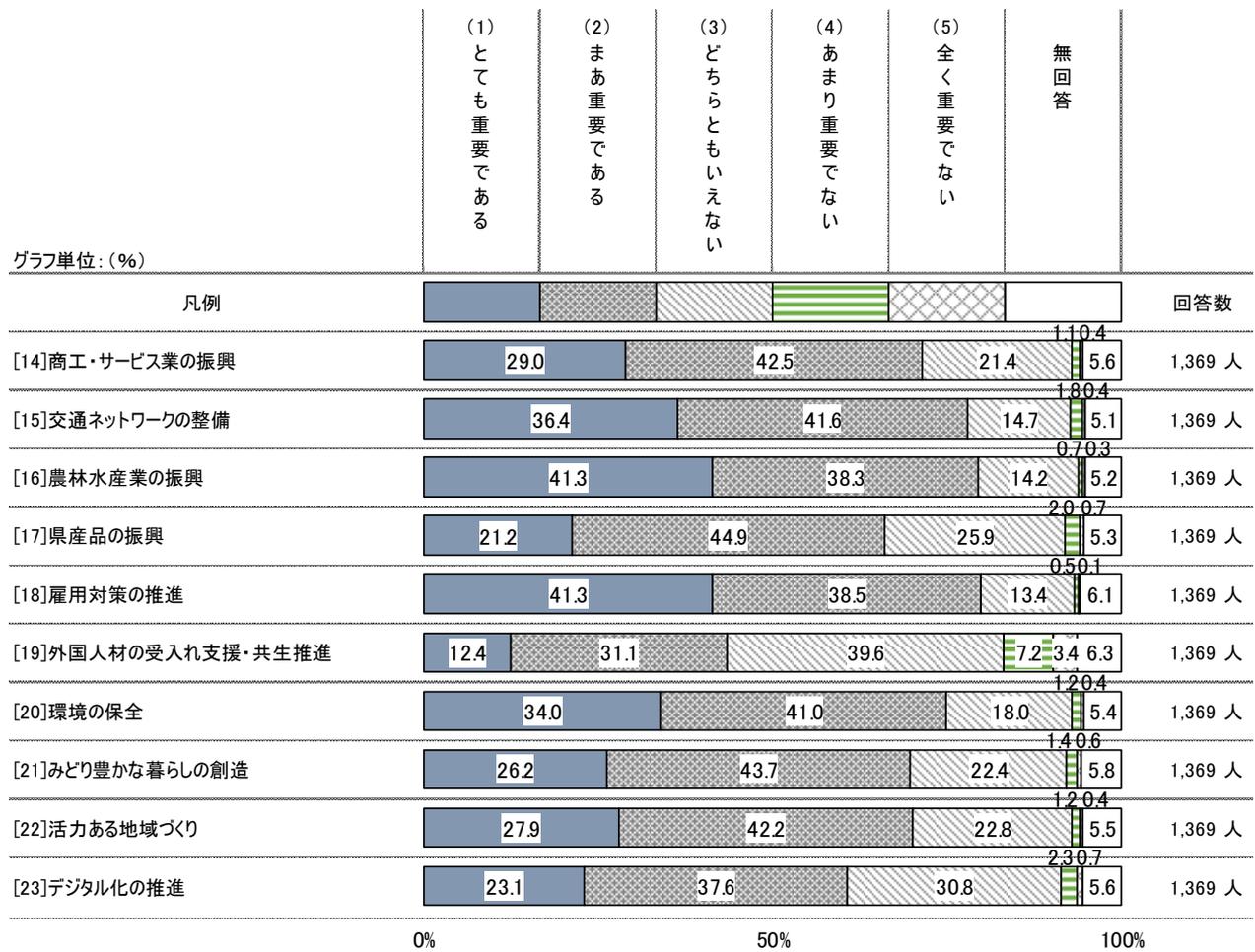
【回答者数=1,369】

(単位：%)

分野	重要度					
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答
[14] 商工・サービス業の振興	29.0 (30.1)	42.5 (42.5)	21.4 (20.7)	1.1 (1.1)	0.4 (0.4)	5.6 (5.3)
[15] 交通ネットワークの整備	36.4 (36.7)	41.6 (41.4)	14.7 (14.8)	1.8 (1.9)	0.4 (0.4)	5.1 (4.8)
[16] 農林水産業の振興	41.3 (41.5)	38.3 (38.6)	14.2 (14.0)	0.7 (0.7)	0.3 (0.2)	5.2 (4.9)
[17] 県産品の振興	21.2 (22.1)	44.9 (44.6)	25.9 (25.4)	2.0 (2.3)	0.7 (0.6)	5.3 (5.0)
[18] 雇用対策の推進	41.3 (42.7)	38.5 (38.4)	13.4 (12.7)	0.5 (0.4)	0.1 (0.1)	6.1 (5.7)
[19] 外国人材の受入れ支援・共生推進	12.4 (13.9)	31.1 (30.7)	39.6 (38.4)	7.2 (7.3)	3.4 (3.7)	6.3 (5.9)
[20] 環境の保全	34.0 (34.4)	41.0 (41.3)	18.0 (17.6)	1.2 (1.1)	0.4 (0.5)	5.4 (5.1)
[21] みどり豊かな暮らしの創造	26.2 (26.8)	43.7 (44.0)	22.4 (21.9)	1.4 (1.3)	0.6 (0.5)	5.8 (5.5)
[22] 活力ある地域づくり	27.9 (28.2)	42.2 (42.5)	22.8 (22.5)	1.2 (1.2)	0.4 (0.4)	5.5 (5.2)
[23] デジタル化の推進	23.1 (24.4)	37.6 (37.6)	30.8 (29.9)	2.3 (2.2)	0.7 (0.6)	5.6 (5.3)

「活気に満ち挑戦できる香川をつくる『デジタル田園都市100計画』」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「雇用対策の推進」79.8%が最も高く、次いで「農林水産業の振興」79.6%、「交通ネットワークの整備」78.0%などとなっている。

図表 5-(3) 活気に満ち挑戦できる香川をつくる『デジタル田園都市100計画』(重要度)



P394～P403 数表参照

(4) 活気に満ち挑戦できる香川をつくる『デジタル田園都市100計画』(満足度)

問33 計画の基本方針「活気に満ち挑戦できる香川をつくる『デジタル田園都市100計画』」の実現に向けて展開している[14]～[23]の分野について、あなたの＜重要度＞と＜満足度＞を、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

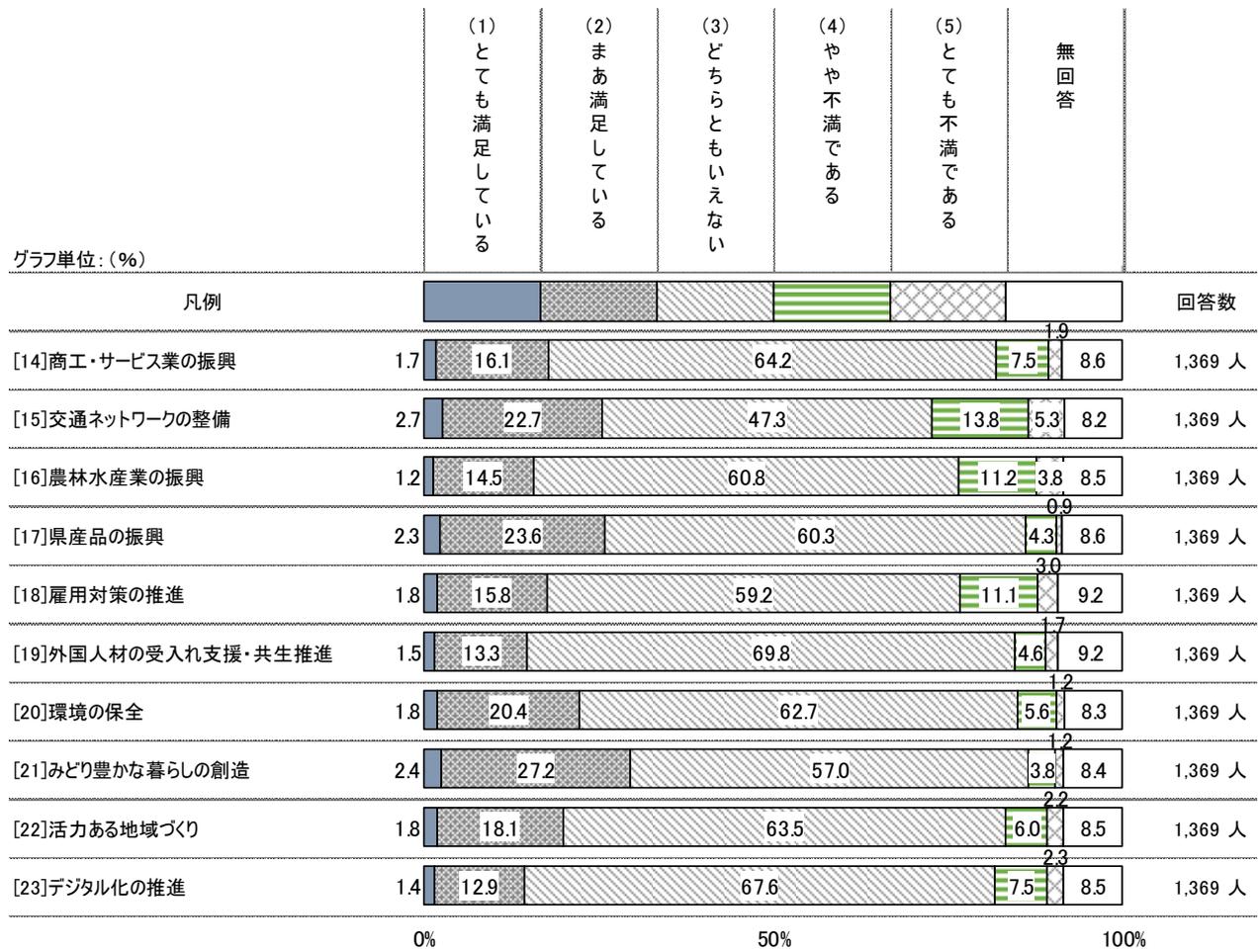
【回答者数=1,369】

(単位：%)

分野	満足度					
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答
[14] 商工・サービス業の振興	1.7 (2.4)	16.1 (17.1)	64.2 (62.7)	7.5 (7.7)	1.9 (2.0)	8.6 (8.2)
[15] 交通ネットワークの整備	2.7 (3.4)	22.7 (24.0)	47.3 (46.5)	13.8 (13.3)	5.3 (5.2)	8.2 (7.7)
[16] 農林水産業の振興	1.2 (1.3)	14.5 (15.1)	60.8 (61.2)	11.2 (10.7)	3.8 (3.7)	8.5 (8.0)
[17] 県産品の振興	2.3 (2.7)	23.6 (24.7)	60.3 (59.4)	4.3 (4.2)	0.9 (0.9)	8.6 (8.1)
[18] 雇用対策の推進	1.8 (1.9)	15.8 (16.9)	59.2 (57.5)	11.1 (11.7)	3.0 (3.2)	9.2 (8.7)
[19] 外国人材の受入れ支援・共生推進	1.5 (2.1)	13.3 (14.6)	69.8 (68.2)	4.6 (4.7)	1.7 (1.8)	9.2 (8.6)
[20] 環境の保全	1.8 (2.4)	20.4 (21.7)	62.7 (61.6)	5.6 (5.2)	1.2 (1.2)	8.3 (7.9)
[21] みどり豊かな暮らしの創造	2.4 (2.9)	27.2 (28.7)	57.0 (55.6)	3.8 (3.9)	1.2 (1.1)	8.4 (7.9)
[22] 活力ある地域づくり	1.8 (1.9)	18.1 (20.0)	63.5 (62.2)	6.0 (5.8)	2.2 (2.1)	8.5 (7.9)
[23] デジタル化の推進	1.4 (1.5)	12.9 (14.5)	67.6 (66.3)	7.5 (7.3)	2.3 (2.4)	8.5 (7.9)

「活気に満ち挑戦できる香川をつくる『デジタル田園都市100計画』」の満足度について、すべての分野で「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っており、特に「みどり豊かな暮らしの創造」の満足度が高くなっている。

図表 5-(4) 活気に満ち挑戦できる香川をつくる『デジタル田園都市100計画』(満足度)



P394～P403 数表参照

(5) 多くの人が行き交い訪れたい香川をつくる『にぎわい100計画』(重要度)

問34 計画の基本方針「多くの人が行き交い訪れたい香川をつくる『にぎわい100計画』」の実現に向けて展開している[24]～[26]の分野について、あなたの＜重要度＞と＜満足度＞を、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

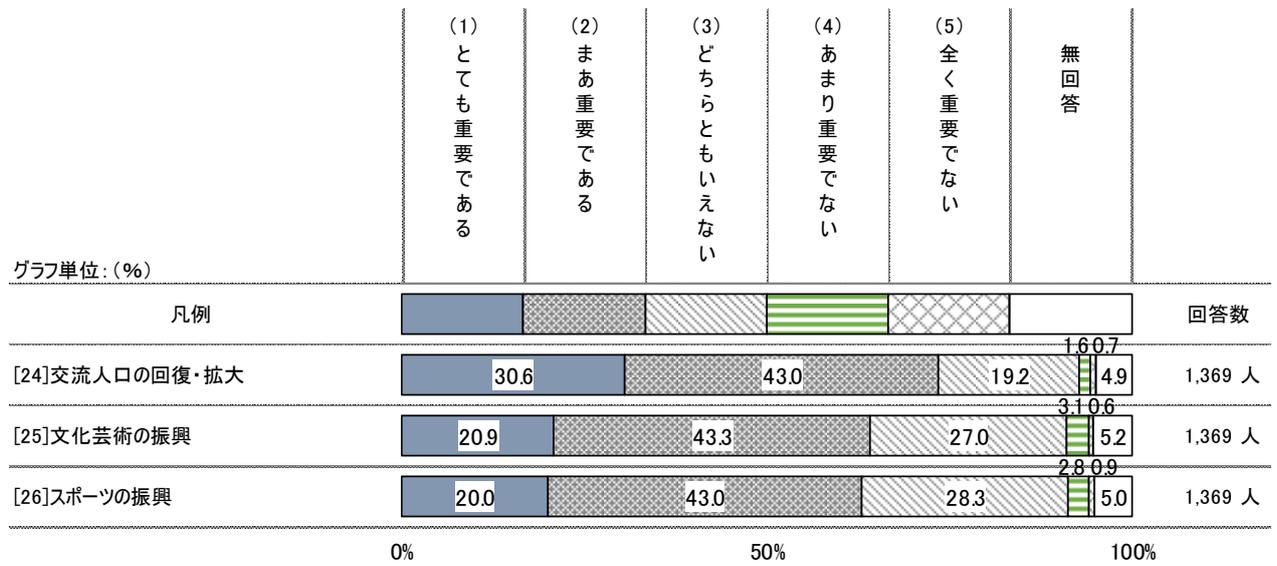
【回答者数=1,369】

(単位：%)

分野	重要度					
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答
[24] 交流人口の回復・拡大	30.6 (32.0)	43.0 (42.4)	19.2 (18.8)	1.6 (1.6)	0.7 (0.7)	4.9 (4.6)
[25] 文化芸術の振興	20.9 (22.3)	43.3 (42.1)	27.0 (27.2)	3.1 (2.9)	0.6 (0.6)	5.2 (4.8)
[26] スポーツの振興	20.0 (21.3)	43.0 (42.2)	28.3 (27.8)	2.8 (2.9)	0.9 (1.0)	5.0 (4.7)

「多くの人が行き交い訪れたい香川をつくる『にぎわい100計画』」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「交流人口の回復・拡大」73.6%が最も高く、次いで「文化芸術の振興」64.2%、「スポーツの振興」63.0%などとなっている。

図表 5-(5) 多くの人が行き交い訪れたい香川をつくる『にぎわい100計画』(重要度)



P404～P406 数表参照

(6) 多くの人が行き交い訪れたくなる香川をつくる『にぎわい100計画』(満足度)

問34 計画の基本方針「多くの人が行き交い訪れたくなる香川をつくる『にぎわい100計画』」の実現に向けて展開している[24]～[26]の分野について、あなたの＜重要度＞と＜満足度＞を、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

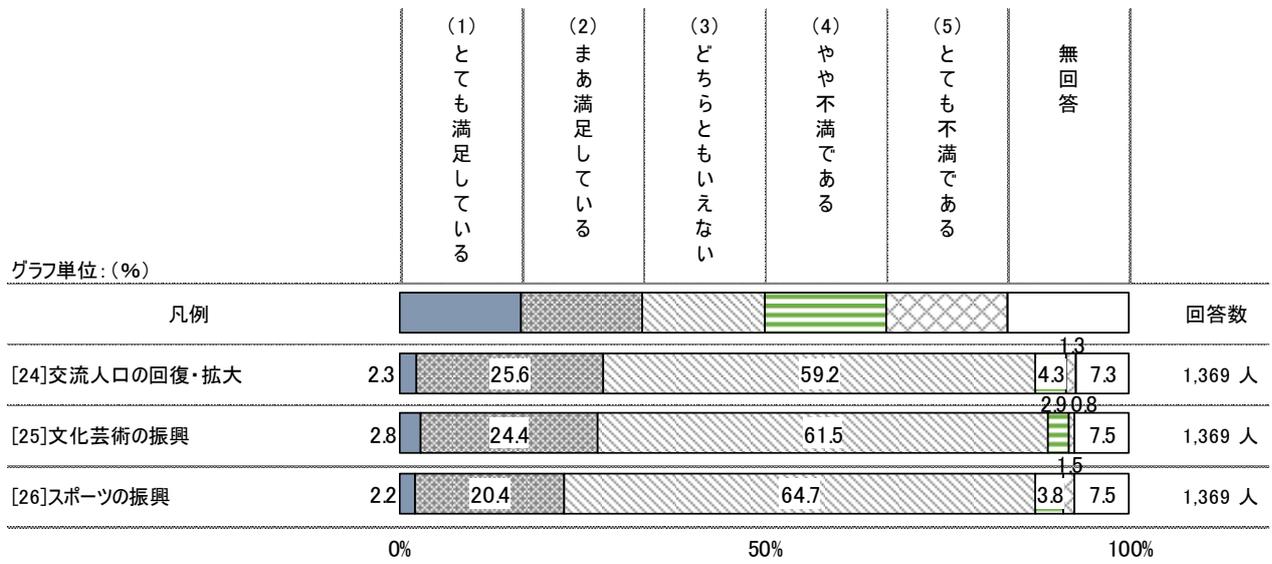
【回答者数=1,369】

(単位：%)

分 野	満足度					
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答
[24] 交流人口の回復・拡大	2.3 (2.6)	25.6 (26.4)	59.2 (58.1)	4.3 (4.7)	1.3 (1.2)	7.3 (6.9)
[25] 文化芸術の振興	2.8 (3.5)	24.4 (24.8)	61.5 (61.1)	2.9 (2.7)	0.8 (0.8)	7.5 (7.1)
[26] スポーツの振興	2.2 (3.0)	20.4 (20.6)	64.7 (63.3)	3.8 (4.5)	1.5 (1.6)	7.5 (7.0)

「多くの人が行き交い訪れたくなる香川をつくる『にぎわい100計画』」の満足度について、すべての分野で「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っており、特に「交流人口の回復・拡大」の満足度が高くなっている。

図表 5-(6) 多くの人が行き交い訪れたい香川をつくる『にぎわい100計画』(満足度)



P404～P406 数表参照

子育て支援社会の実現の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』87.7%、『女性』86.9%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において88.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『中讃圏域』において88.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年未満』において92.1%と最も高くなっている。

子育て支援社会の実現の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』25.1%、『女性』30.7%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』14.9%、『女性』12.4%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

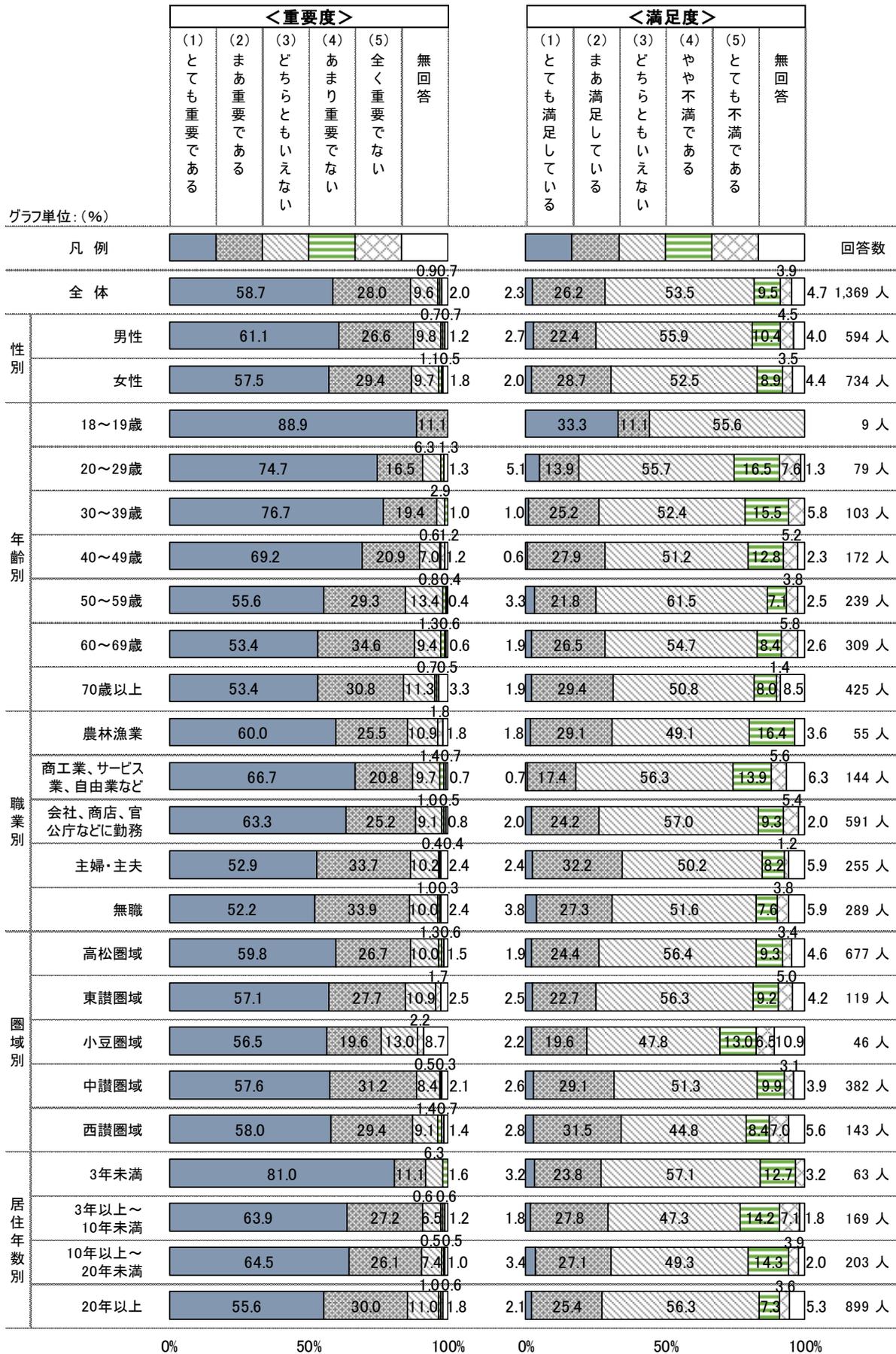
年齢別にみると、『20～29歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『20～29歳』では【不満である】の割合24.1%が【満足している】の割合19.0%を上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『商工業、サービス業、自由業など』では【不満である】の割合19.5%が【満足している】の割合18.1%を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(1) 【子育て支援社会の実現】



教育の充実の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』72.7%、『女性』77.2%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『70歳以上』において81.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『農林漁業』において89.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『西讃圏域』において81.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『20年以上』において78.7%と最も高くなっている。

教育の充実の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』48.1%、『女性』43.6%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』8.1%、『女性』6.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

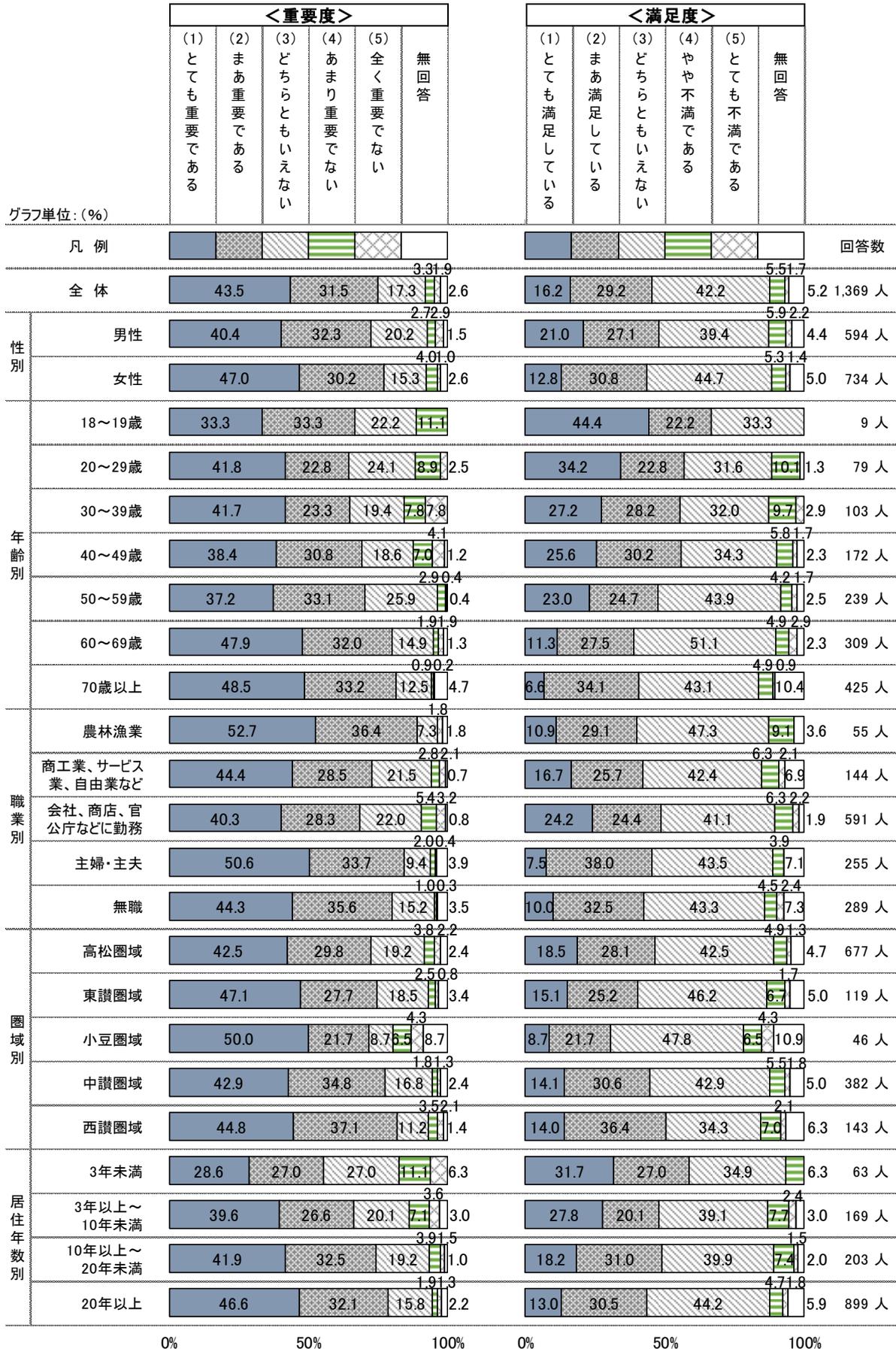
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(2) 【教育の充実】



男女共同参画社会の実現の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』75.4%、『女性』77.2%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において77.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『中讃圏域』において77.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年未満』において77.8%と最も高くなっている。

男女共同参画社会の実現の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』28.9%、『女性』29.3%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』9.4%、『女性』11.5%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

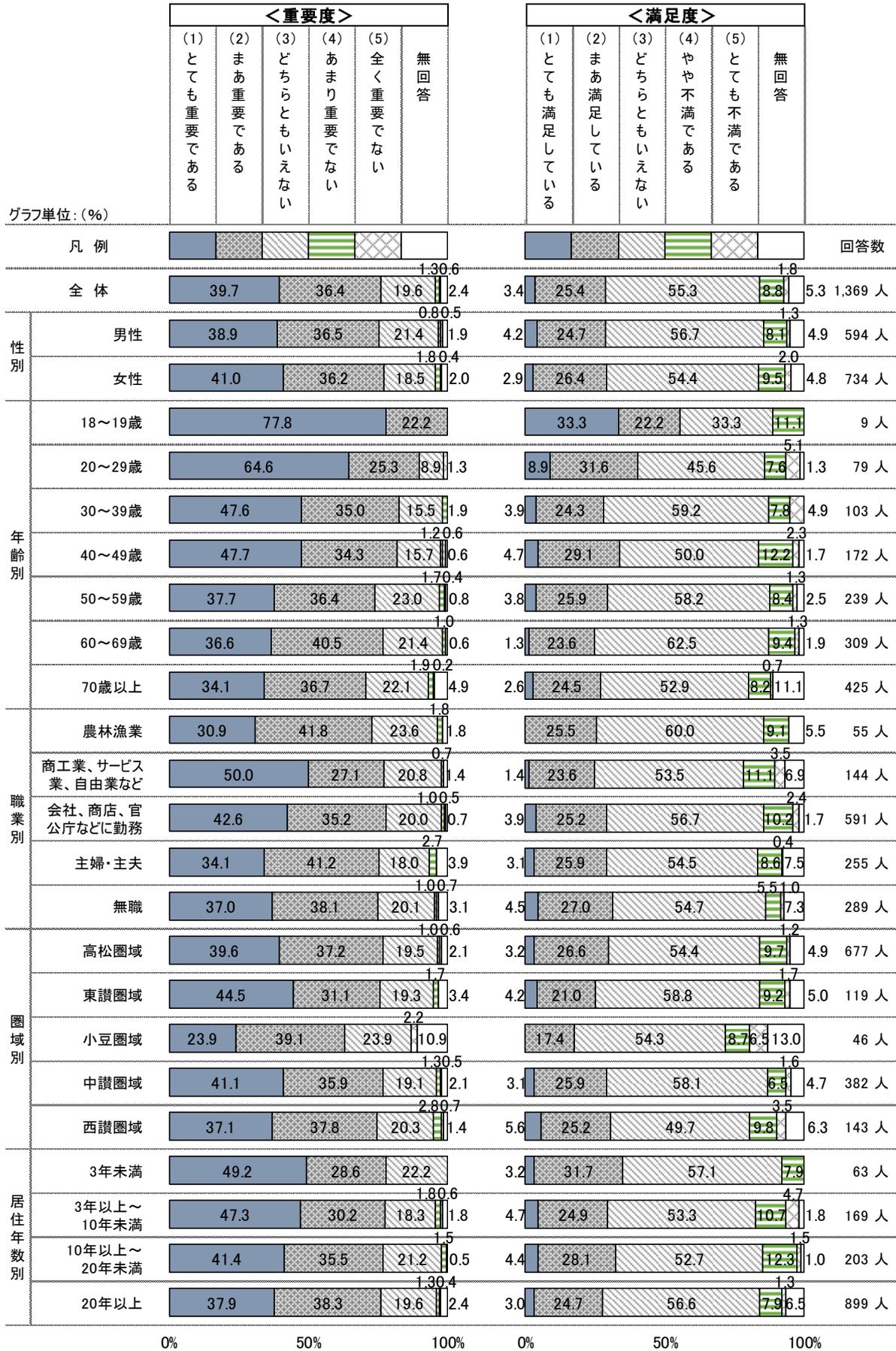
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(3) 【男女共同参画社会の実現】



健康長寿の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』62.7%、『女性』75.8%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『60～69歳』において77.4%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『主婦・主夫』において83.1%最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『西讃圏域』において72.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『20年以上』において73.1%と最も高くなっている。

健康長寿の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』45.5%、『女性』45.9%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』5.5%、『女性』5.4%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

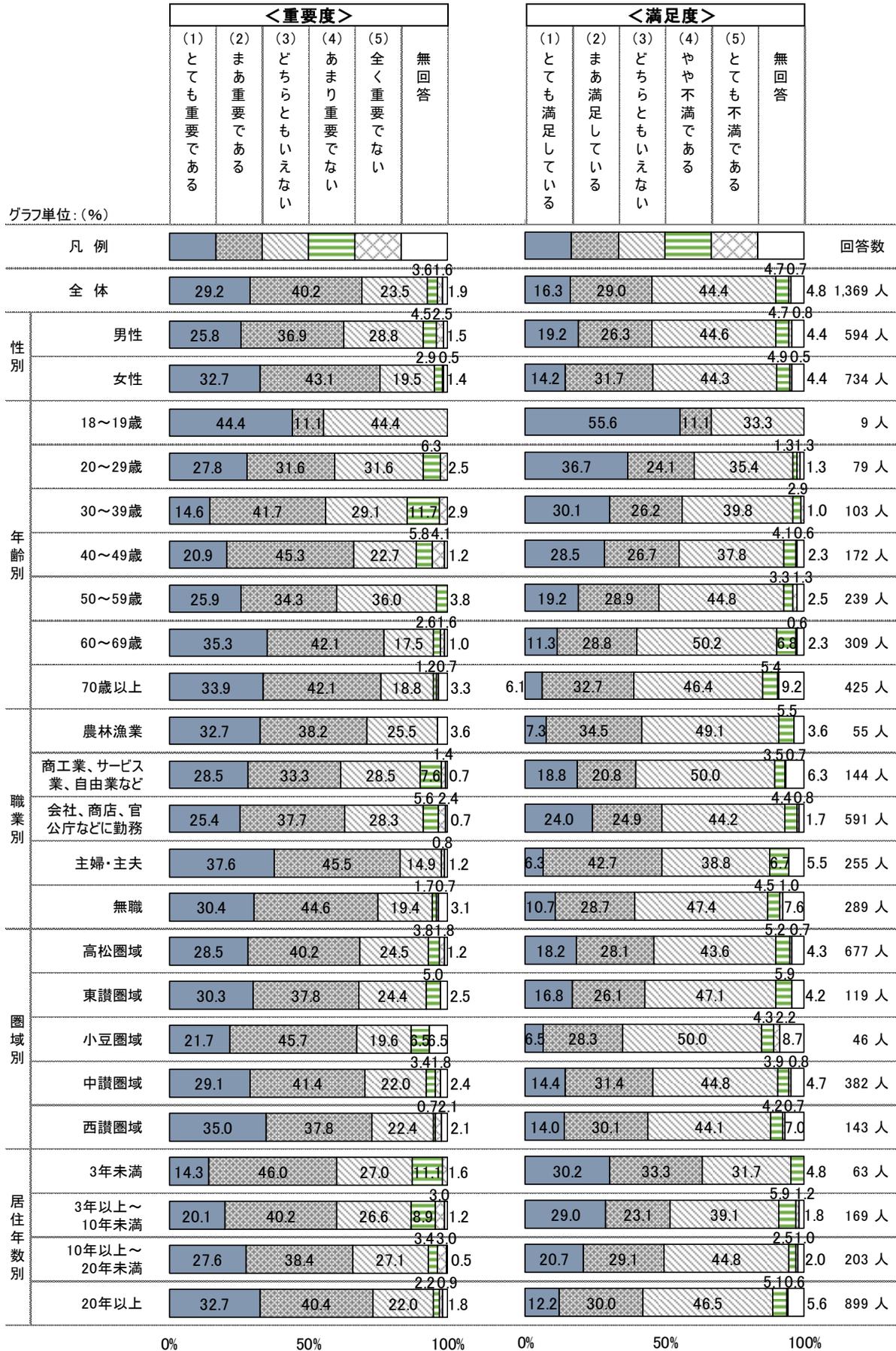
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(4) 【健康長寿の推進】



地域福祉の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』78.9%、『女性』85.5%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『20～29歳』において86.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『主婦・主夫』において86.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『東讃圏域』において84.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『20年以上』において83.6%と最も高くなっている。

地域福祉の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』27.9%、『女性』33.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』10.6%、『女性』10.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

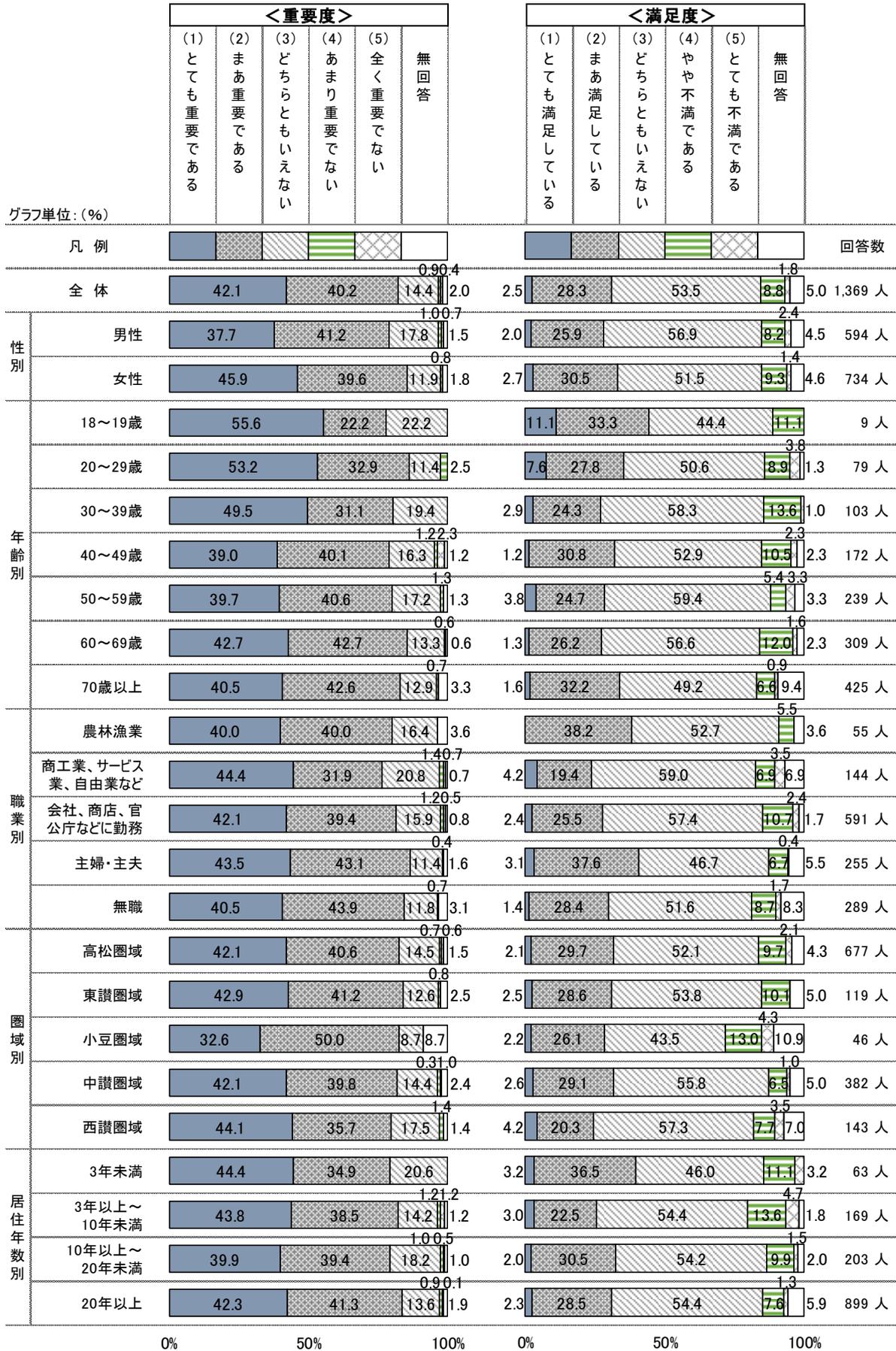
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(5) 【地域福祉の推進】



安心できる医療・介護の充実確保の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』75.9%、『女性』82.9%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『70歳以上』において89.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『主婦・主夫』において92.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『西讃圏域』において83.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『20年以上』において83.8%と最も高くなっている。

安心できる医療・介護の充実確保の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』47.5%、『女性』43.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』14.7%、『女性』15.3%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

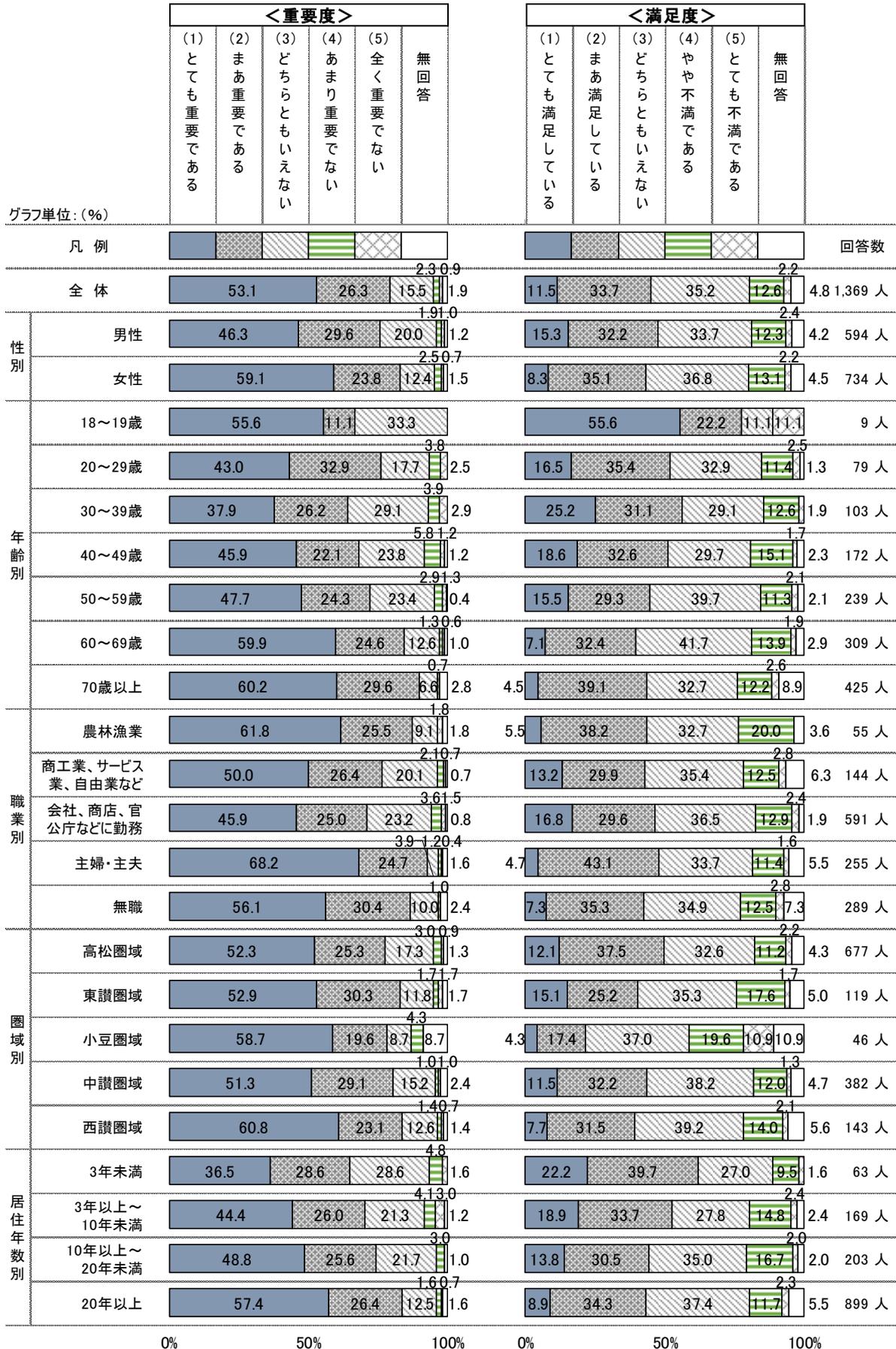
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『小豆圏域』では【不満である】の割合30.5%が【満足している】の割合21.7%を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(6) 【安心できる医療・介護の充実確保】



防災・減災社会の構築の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』86.5%、『女性』91.0%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『60～69歳』において90.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『主婦・主夫』において92.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『東讃圏域』において89.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年以上～10年未満』において90.5%と最も高くなっている。

防災・減災社会の構築の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』21.9%、『女性』26.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』19.5%、『女性』14.9%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

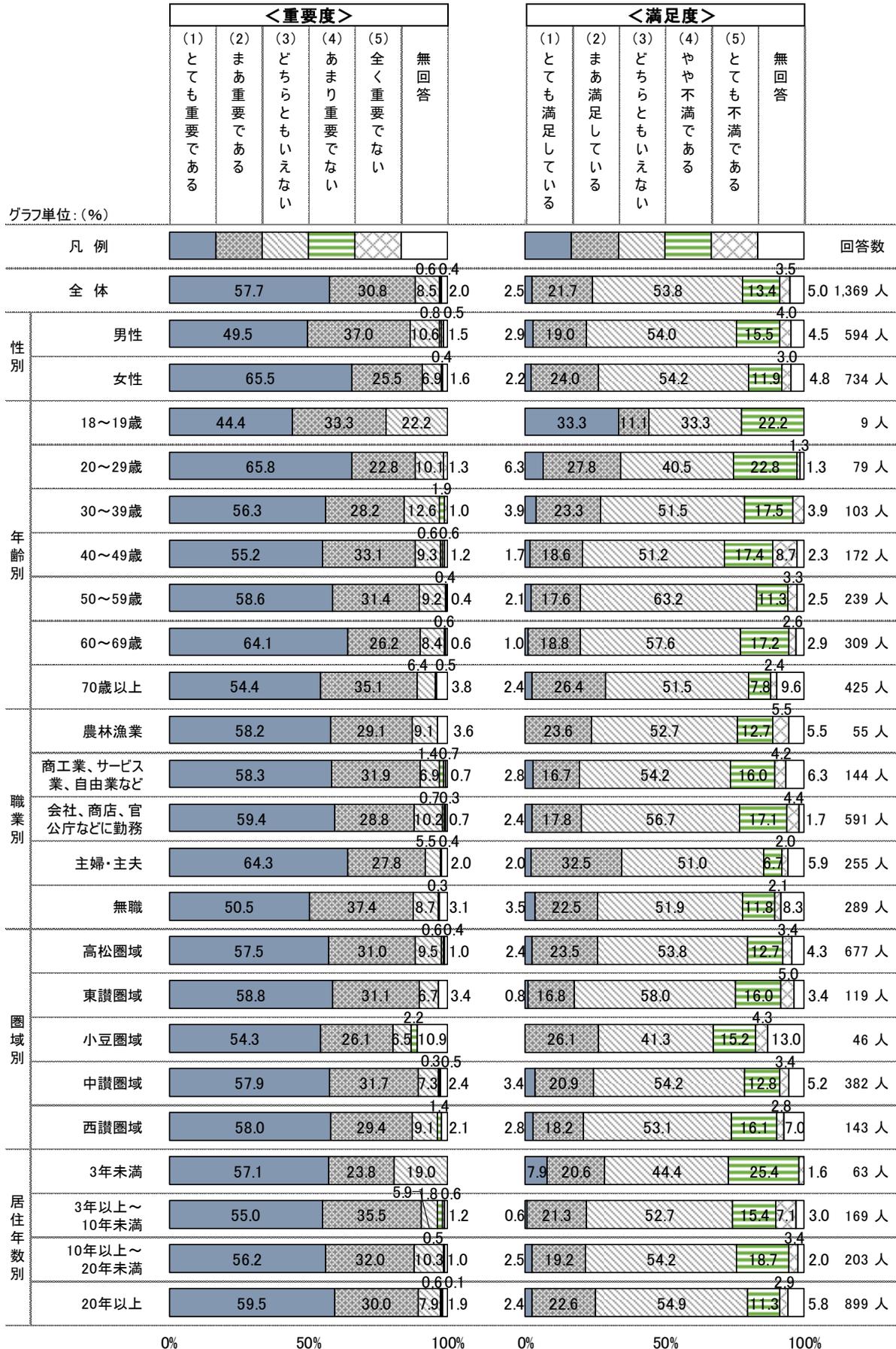
年齢別にみると、『40～49歳』において、【不満である】の割合26.1%が【満足している】の割合20.3%を上回り、『60～69歳』では【満足している】と【不満である】の割合が同率の19.8%となり、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』を除くすべての職業で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『東讃圏域』では【不満である】の割合21.0%が【満足している】の割合17.6%を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』、『10年以上～20年未満』を除くすべての居住年数では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『3年以上～10年未満』、『10年以上～20年未満』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 6-(7) 【防災・減災社会の構築】



安心して暮らせる水循環社会の確立の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』76.1%、『女性』83.6%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『70歳以上』において89.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『主婦・主夫』において90.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『西讃圏域』において86.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『20年以上』において83.6%と最も高くなっている。

安心して暮らせる水循環社会の確立の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』52.9%、『女性』57.0%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』7.7%、『女性』5.9%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

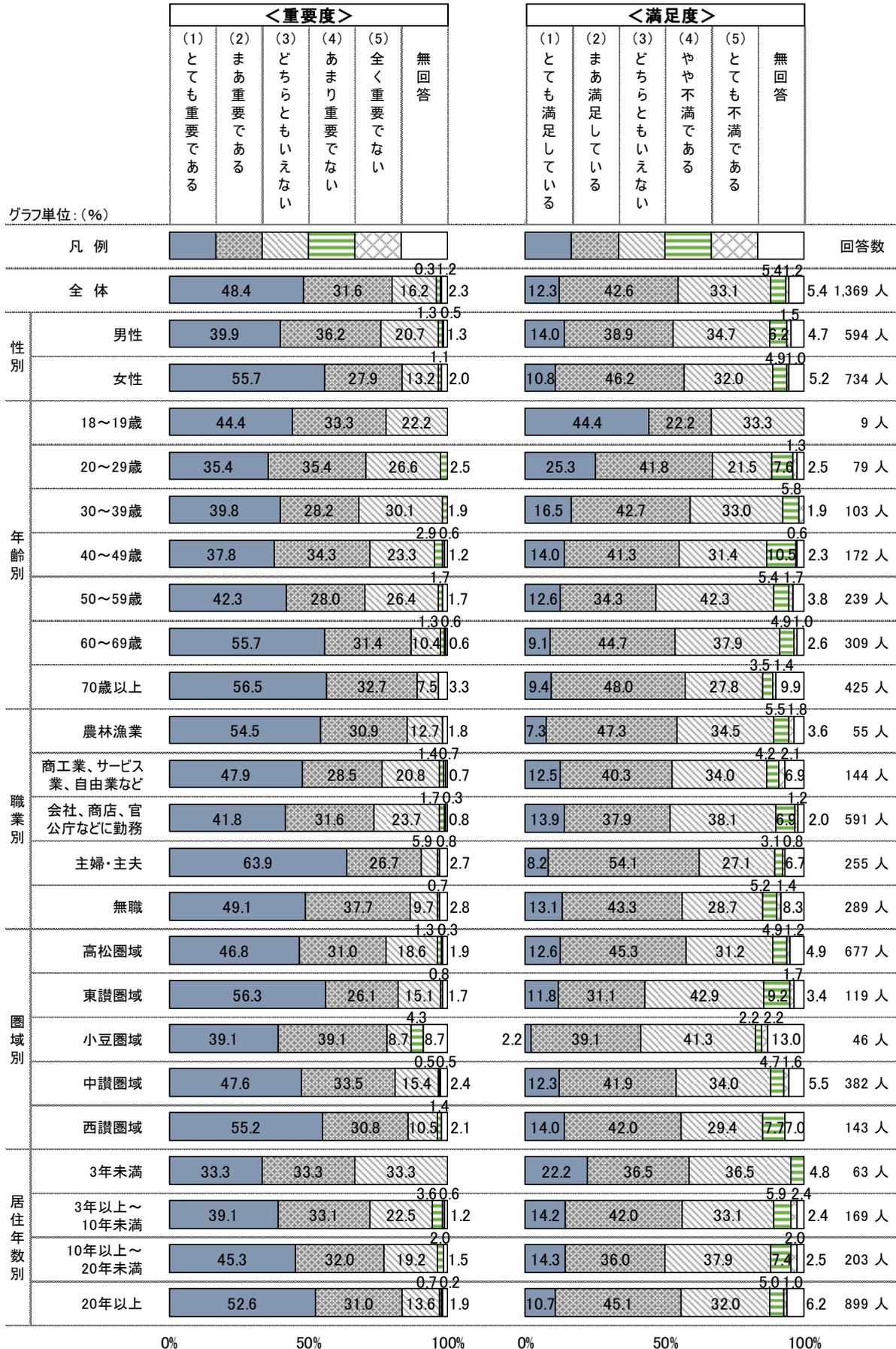
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(8) 【安心して暮らせる水循環社会の確立】



安全で安心できる暮らしの形成の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』85.9%、『女性』90.0%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『60～69歳』において91.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『主婦・主夫』において92.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『東讚圏域』において89.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年以上～10年未満』、『20年以上』において同率の88.8%と最も高くなっている。

安全で安心できる暮らしの形成の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』29.1%、『女性』33.8%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、男女ともに12.0%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

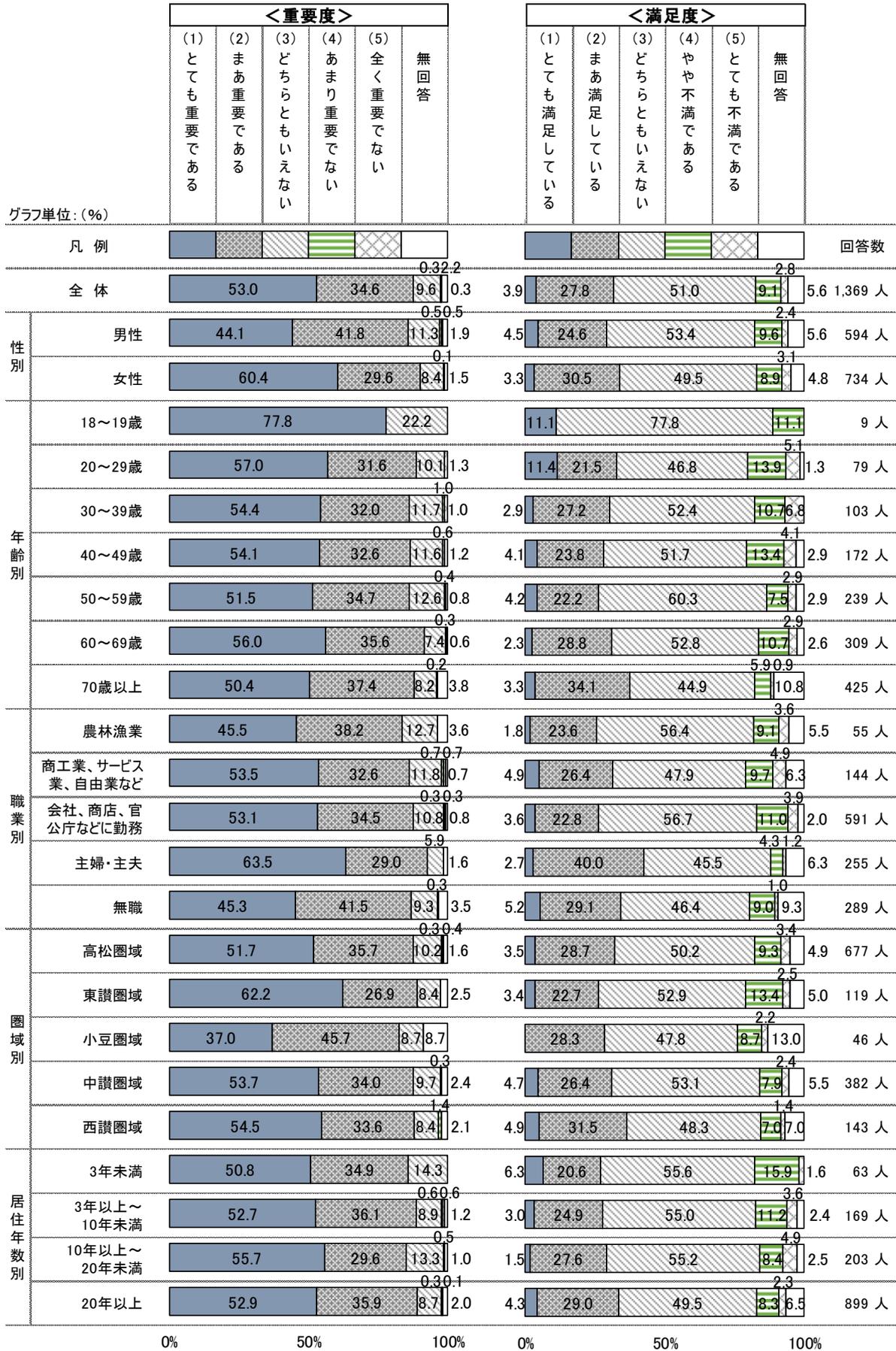
年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『18～19歳』では【満足している】と【不満である】の割合が同率の11.1%となっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(9) 【安全で安心できる暮らしの形成】



定住人口の拡大の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』62.8%、『女性』67.4%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『18～19歳』において77.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『農林漁業』において76.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『西讃圏域』において74.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『20年以上』において69.2%と最も高くなっている。

定住人口の拡大の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』30.8%、『女性』27.7%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』16.0%、『女性』12.6%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

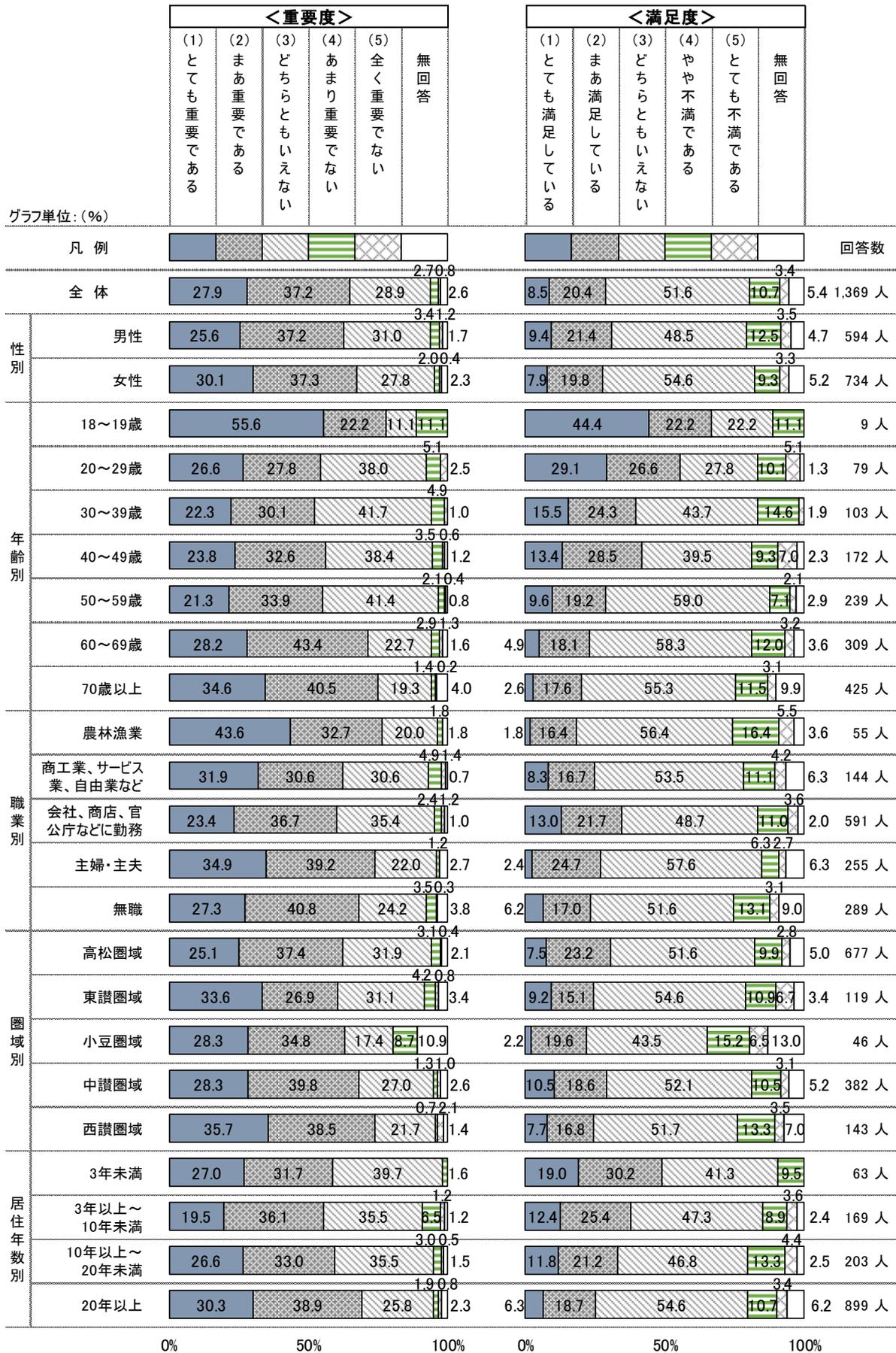
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『農林漁業』では【不満である】の割合21.9%が【満足している】の割合18.2%を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(10) 【定住人口の拡大】



魅力ある大学づくりの【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』62.5%、『女性』65.3%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において66.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『小豆圏域』において65.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年未満』において79.4%と最も高くなっている。

魅力ある大学づくりの【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』17.8%、『女性』16.6%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』10.8%、『女性』9.6%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

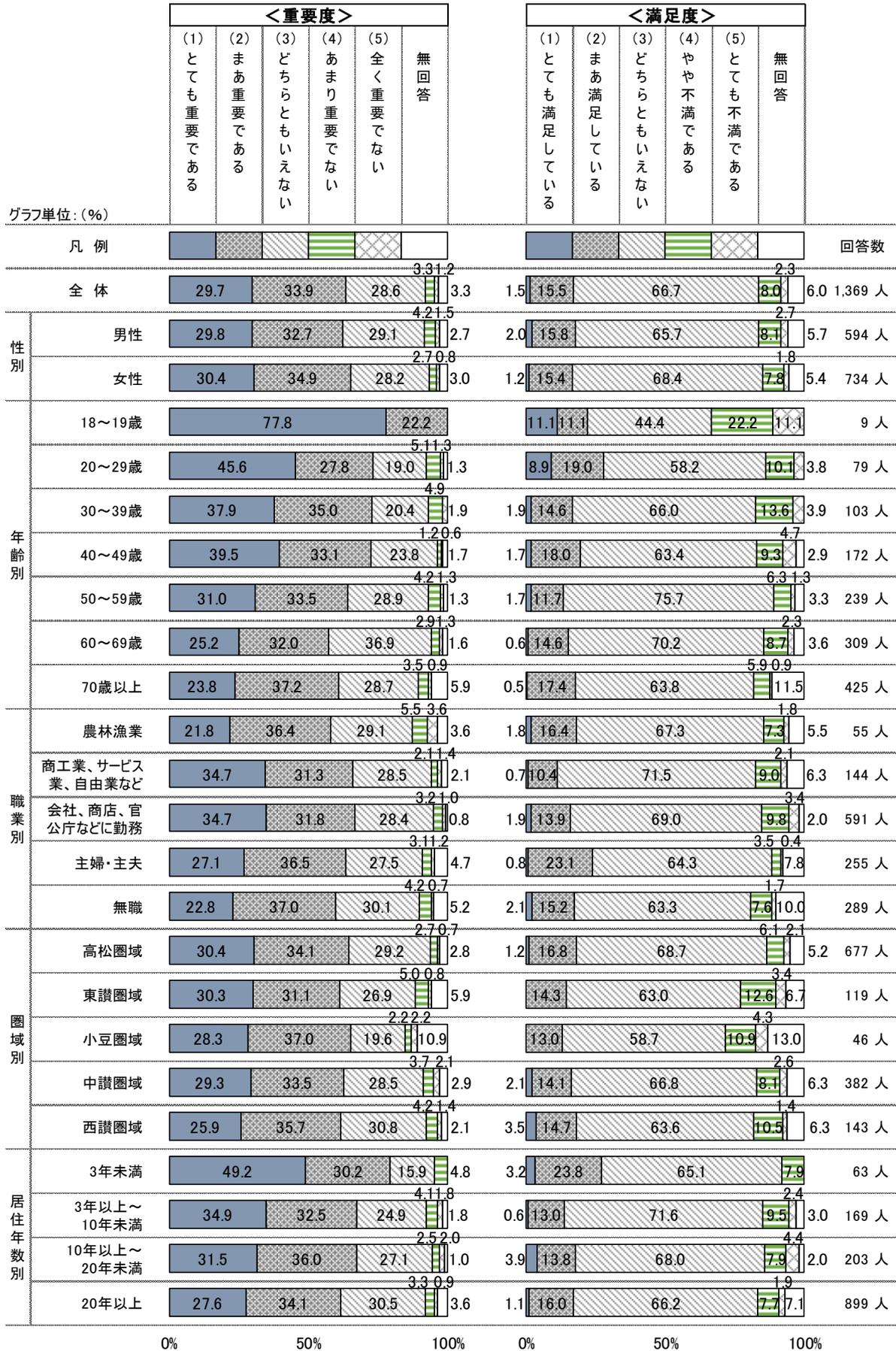
年齢別にみると、『18～19歳』、『30～39歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『18～19歳』、『30～39歳』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』を除くすべての職業で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『商工業、サービス業、自由業など』では【満足している】と【不満である】の割合が同率の11.1%となっている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『小豆圏域』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『東讃圏域』、『小豆圏域』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(11) 【魅力ある大学づくり】



人権尊重社会の実現の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』53.4%、『女性』58.6%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『18～19歳』において66.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『主婦・主夫』において64.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『西讃圏域』において58.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『20年以上』において59.5%と最も高くなっている。

人権尊重社会の実現の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』32.0%、『女性』28.3%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』6.1%、『女性』4.1%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

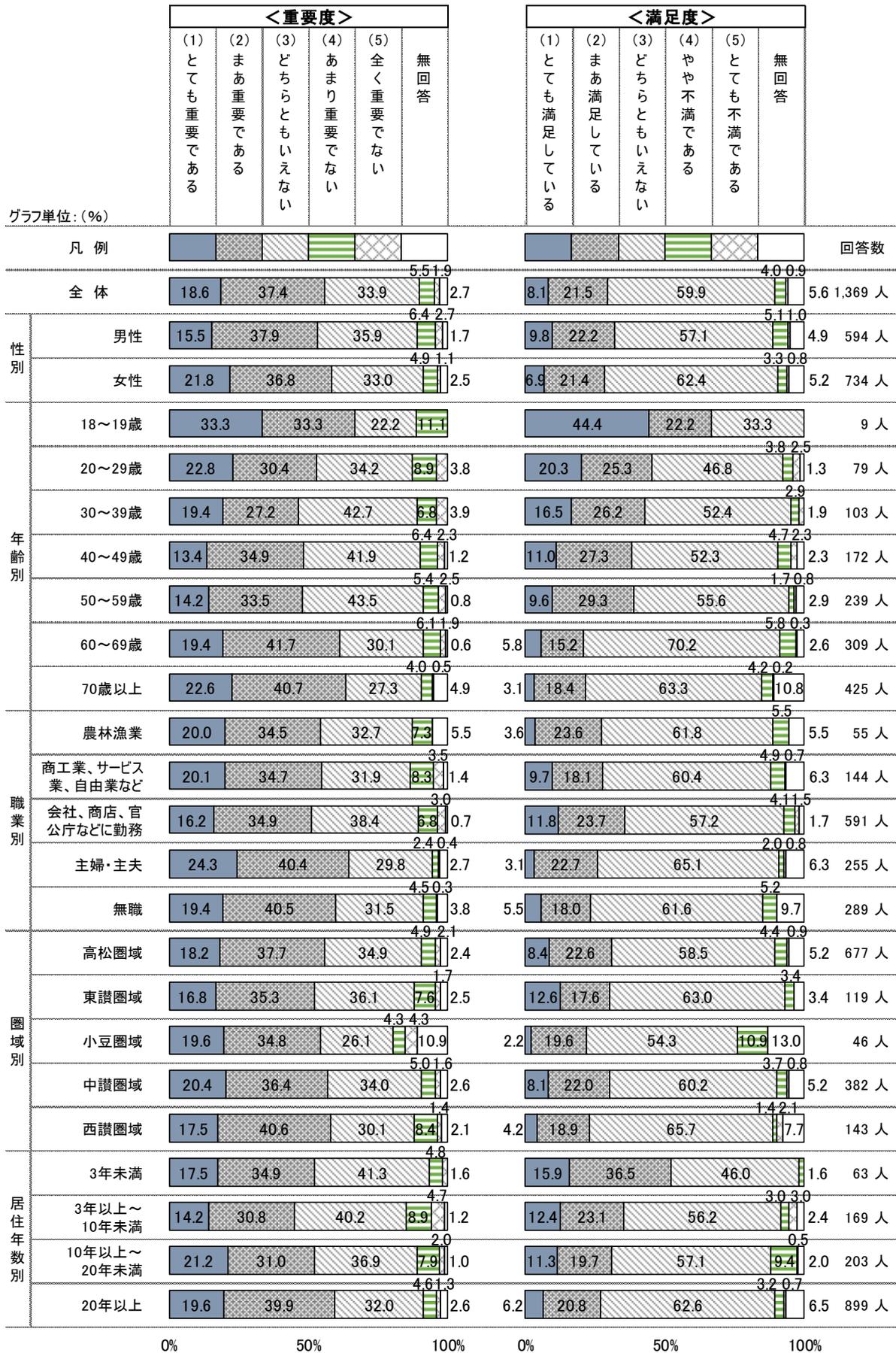
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(12) 【人権尊重社会の実現】



青少年の育成と県民の社会参画の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』71.1%、『女性』73.3%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『18～19歳』において77.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『主婦・主夫』において75.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『高松圏域』において72.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『10年以上～20年未満』において74.4%と最も高くなっている。

青少年の育成と県民の社会参画の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』20.4%、『女性』23.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』6.0%、『女性』4.1%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

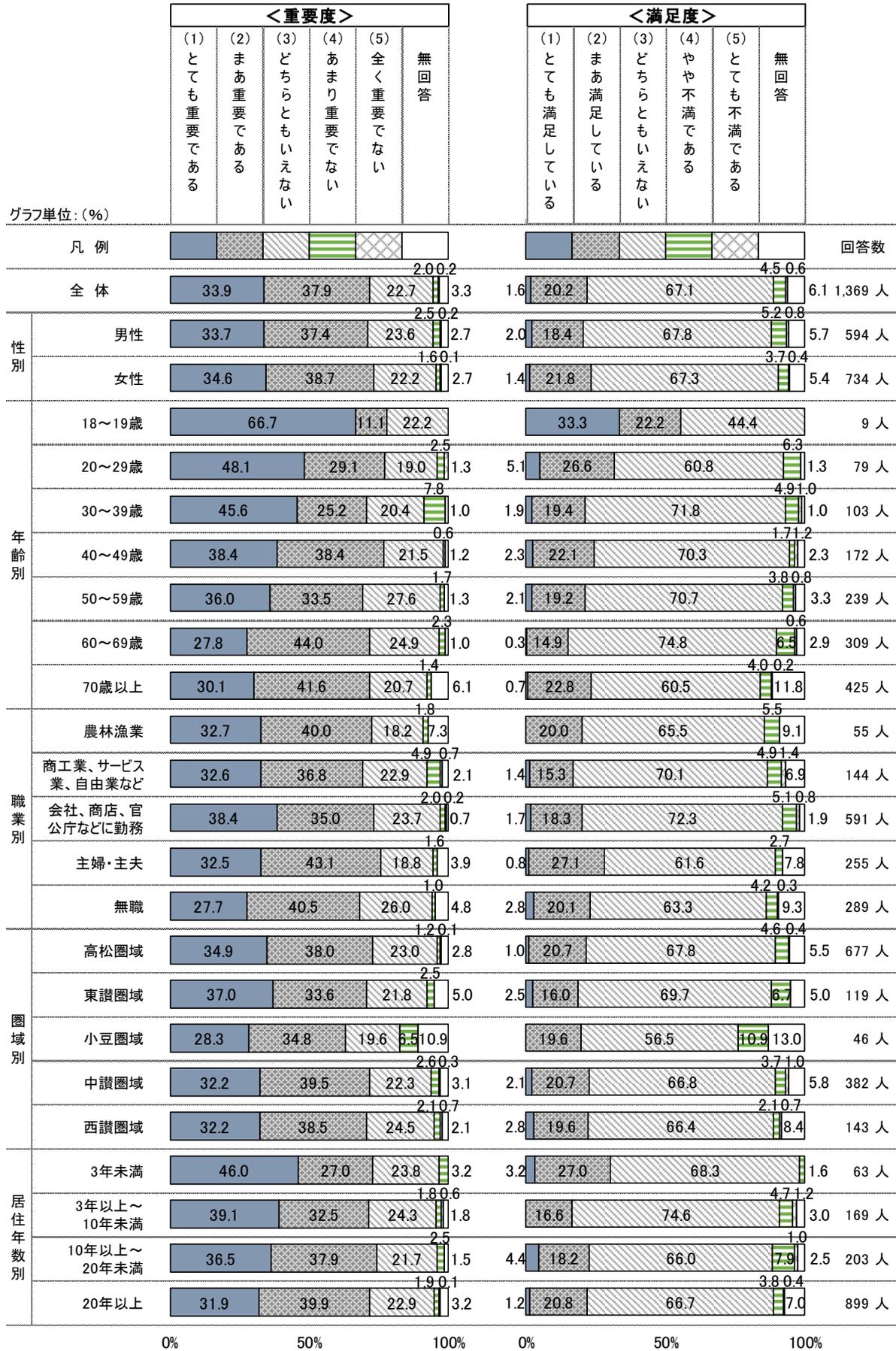
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(13) 【青少年の育成と県民の社会参画の推進】



商工・サービス業の振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』75.9%、『女性』68.9%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『農林漁業』において78.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『中讃圏域』において73.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年以上～10未満』において76.9%と最も高くなっている。

商工・サービス業の振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』17.4%、『女性』18.5%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』13.7%、『女性』6.3%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

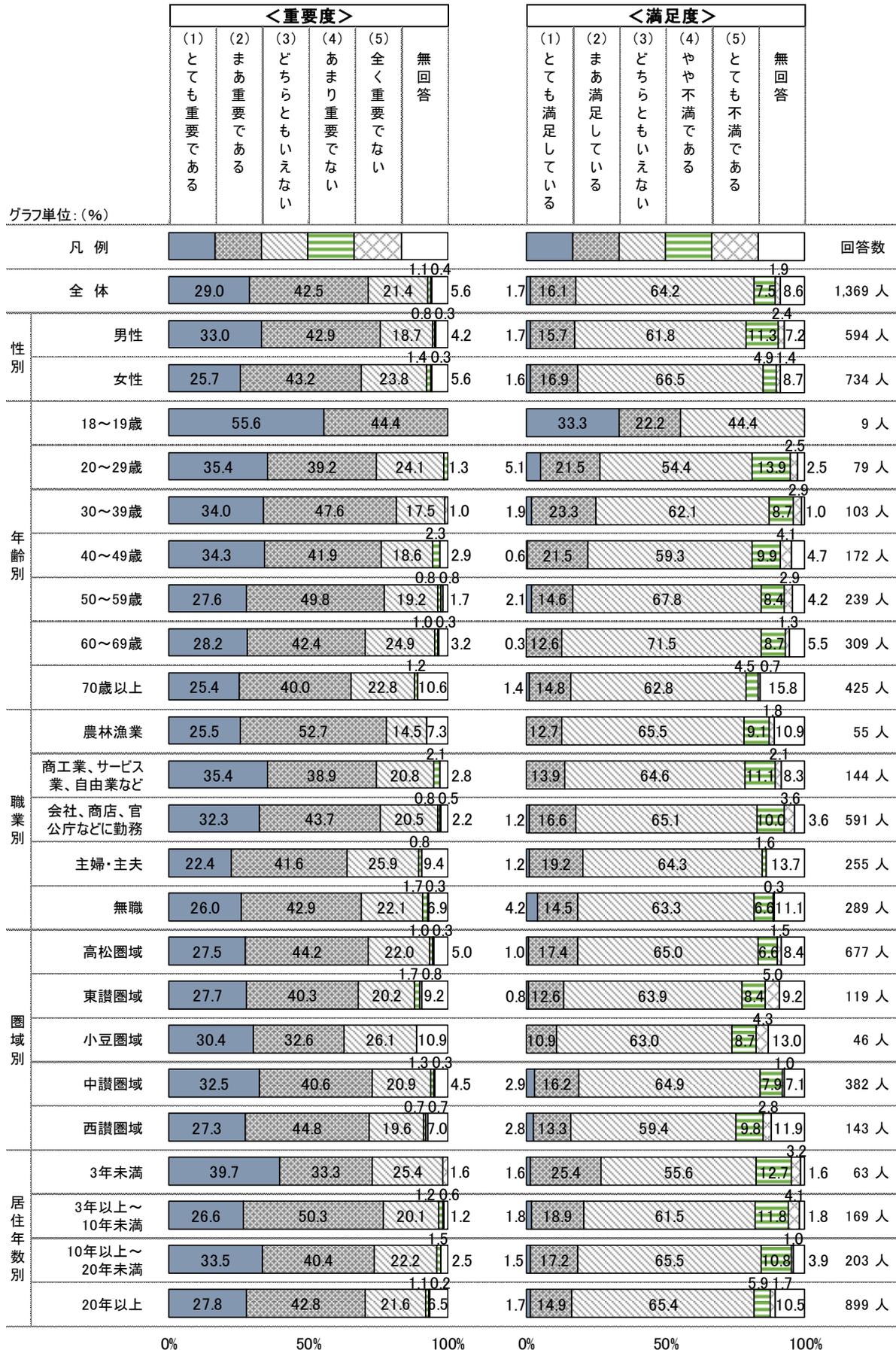
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『小豆圏域』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『東讃圏域』では【満足している】と【不満である】が同率の13.4%となり、『小豆圏域』では【不満である】の割合13.0%が【満足している】の割合10.9%を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】割合を上回っている。

図表 6-(14) 【商工・サービス業の振興】



交通ネットワークの整備の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』78.8%、『女性』78.5%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において80.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『高松圏域』において78.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年未満』において80.9%と最も高くなっている。

交通ネットワークの整備の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』26.7%、『女性』24.3%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』20.0%、『女性』18.6%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

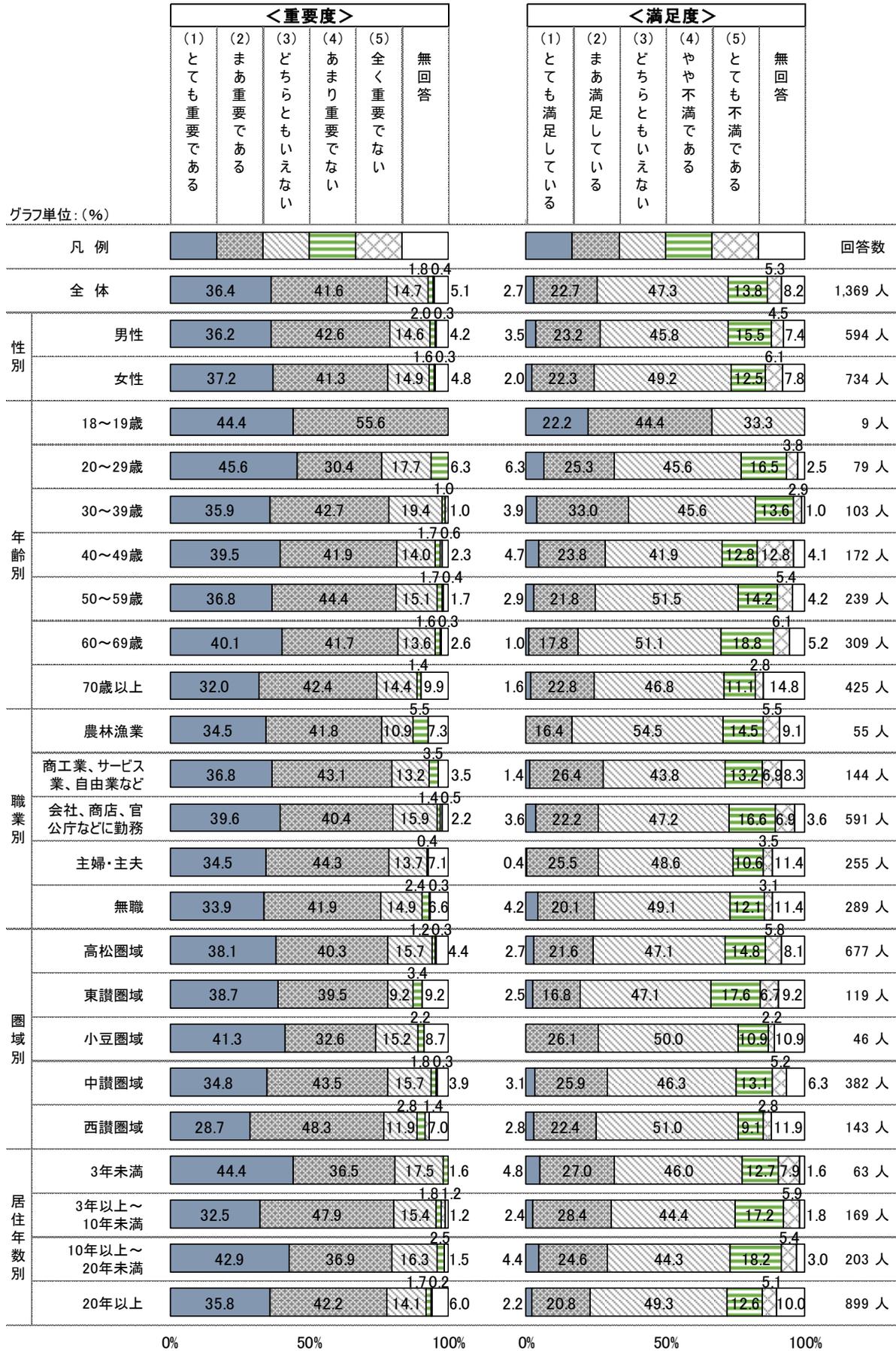
年齢別にみると、『60～69歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『60～69歳』では【不満である】の割合24.9%が【満足している】の割合18.8%を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『農林漁業』では【不満である】の割合20.0%が【満足している】の割合16.4%を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『東讃圏域』では【不満である】の割合24.3%が【満足している】の割合19.3%を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(15) 【交通ネットワークの整備】



農林水産業の振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』79.0%、『女性』81.9%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において88.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『農林漁業』において83.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『西讃圏域』において83.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年以上～10年未満』において85.2%と最も高くなっている。

農林水産業の振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』16.2%、『女性』15.8%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』17.6%、『女性』13.5%となっており、『男性』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、『女性』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

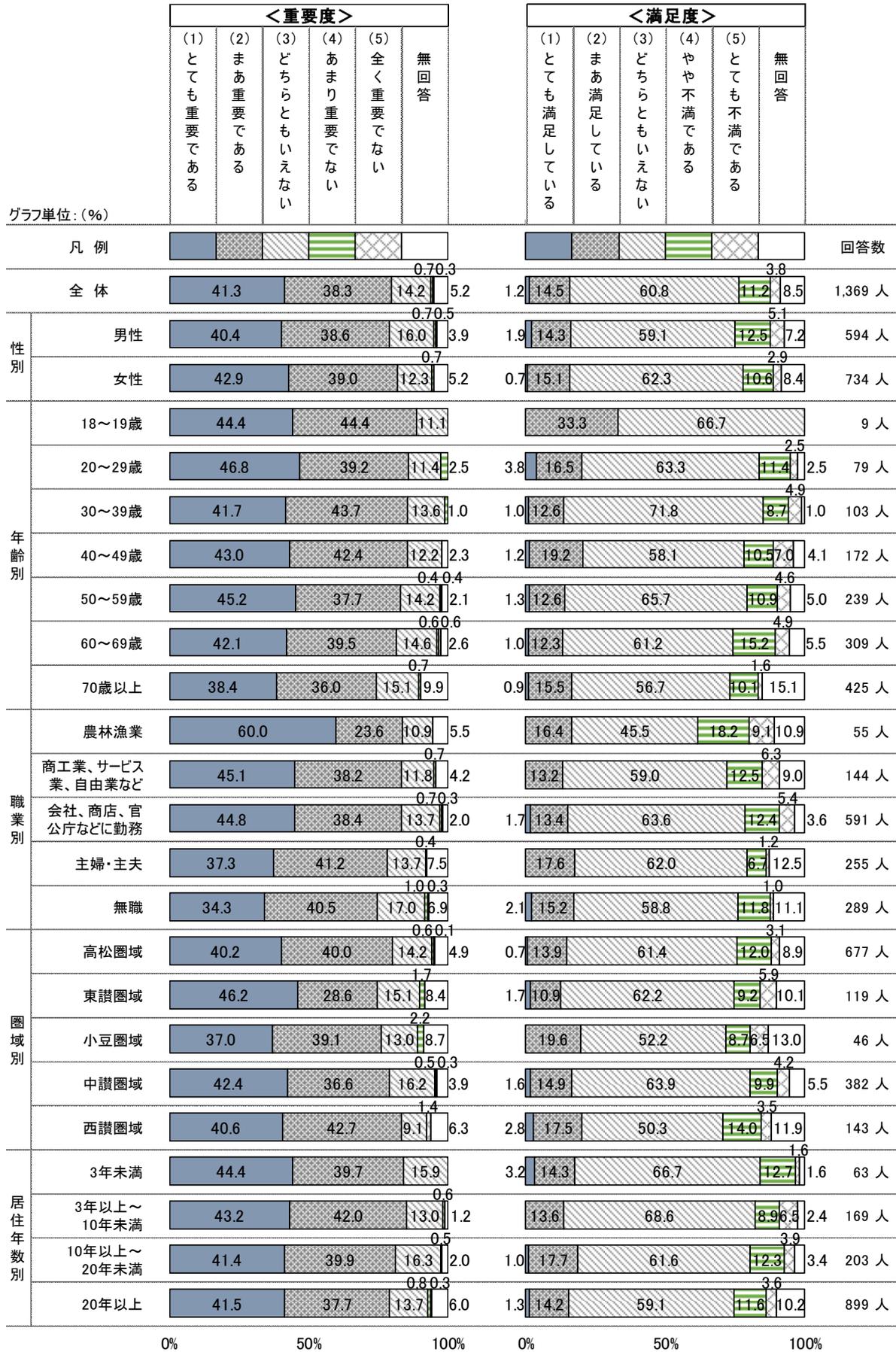
年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』、『40～49歳』、『70歳以上』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『30～39歳』では【満足している】と【不満である】の割合が同率の13.6%となっており、『50～59歳』、『60～69歳』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、『主婦・主夫』、『無職』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『東讃圏域』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『高松圏域』、『東讃圏域』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『3年以上～10年未満』では【不満である】の割合15.4%が【満足している】の割合13.6%を上回っている。

図表 6-(16) 【農林水産業の振興】



県産品の振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』62.6%、『女性』70.3%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『18～19歳』において77.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『農林漁業』において78.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『中讃圏域』において70.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年未満』において79.4%と最も高くなっている。

県産品の振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』23.1%、『女性』29.3%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』6.1%、『女性』4.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

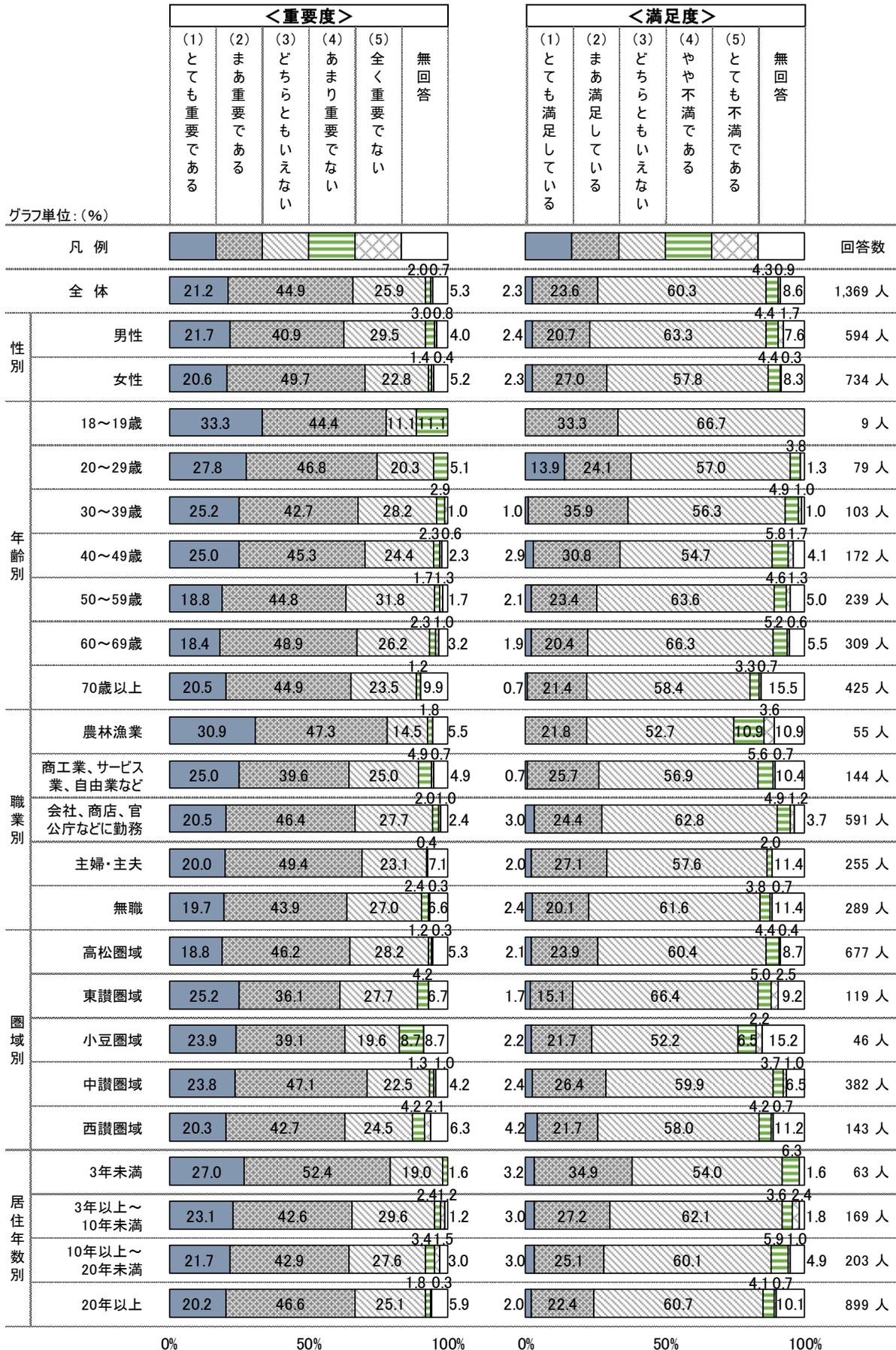
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(17) 【県産品の振興】



雇用対策の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』79.4%、『女性』81.7%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において86.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『高松圏域』、『中讃圏域』において同率の80.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年未満』において90.5%と最も高くなっている。

雇用対策の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』18.4%、『女性』17.6%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』15.9%、『女性』13.1%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

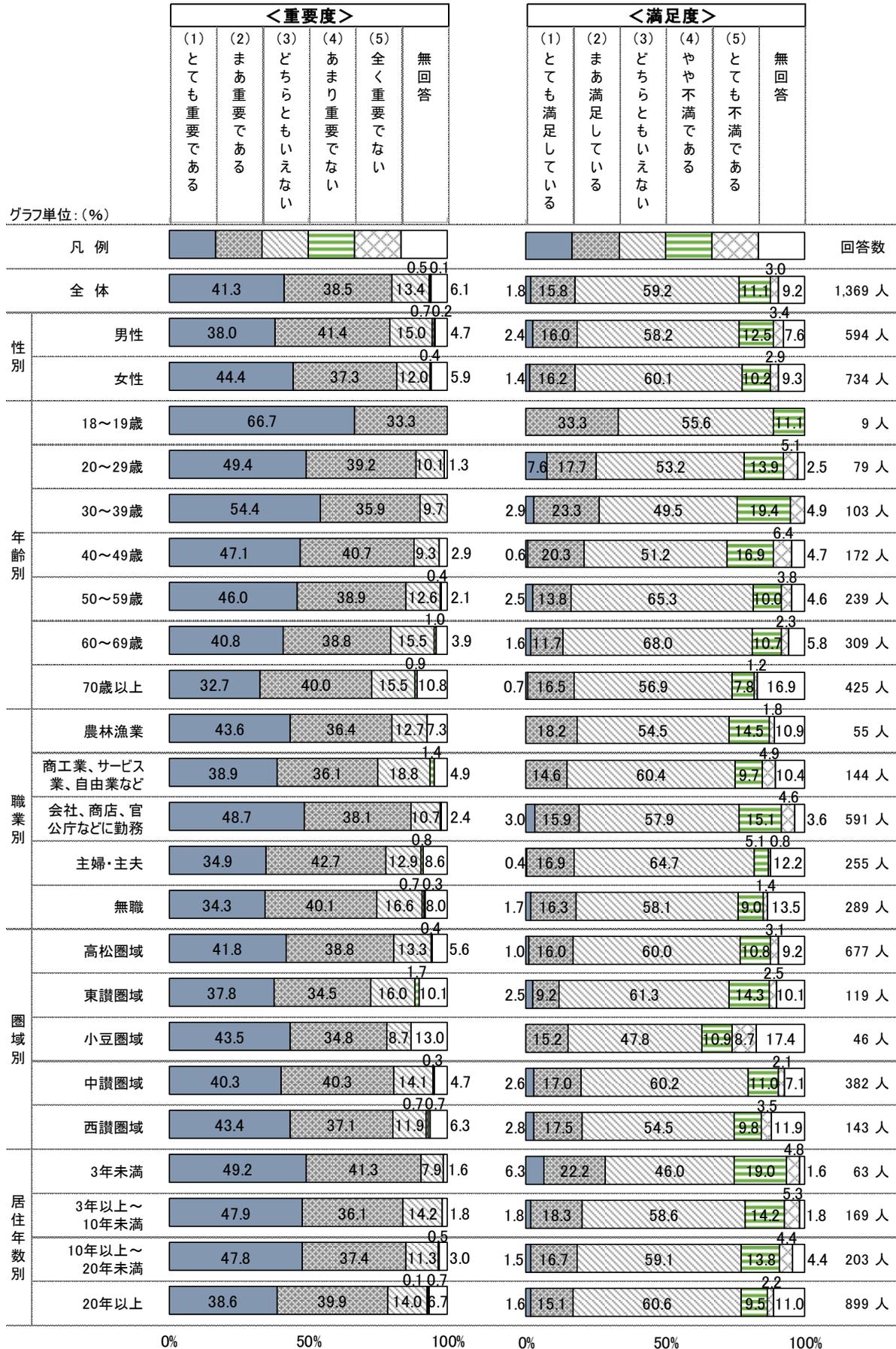
年齢別にみると、『40～49歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『40～49歳』では【不満である】の割合23.3%が【満足している】の割合20.9%を上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』を除くすべての職業で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『商工業、サービス業、自由業など』では【満足している】と【不満である】の割合が同率の14.6%となっており、『会社、商店、官公庁などに勤務』では【不満である】の割合19.7%が【満足している】の割合18.9%を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『小豆圏域』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『東讃圏域』、『小豆圏域』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『10年以上～20年未満』を除くすべての居住年数で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『10年以上～20年未満』では【満足している】と【不満である】の割合が同率の18.2%となっている。

図表 6-(18) 【雇用対策の推進】



外国人材の受入れ支援・共生推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』40.0%、『女性』47.0%と、いずれも4割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも3割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において45.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも3割を超え、『中讃圏域』において46.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『3年以上～10年未満』において50.3%と最も高くなっている。

外国人材の受入れ支援・共生推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』14.4%、『女性』15.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』9.1%、『女性』4.1%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

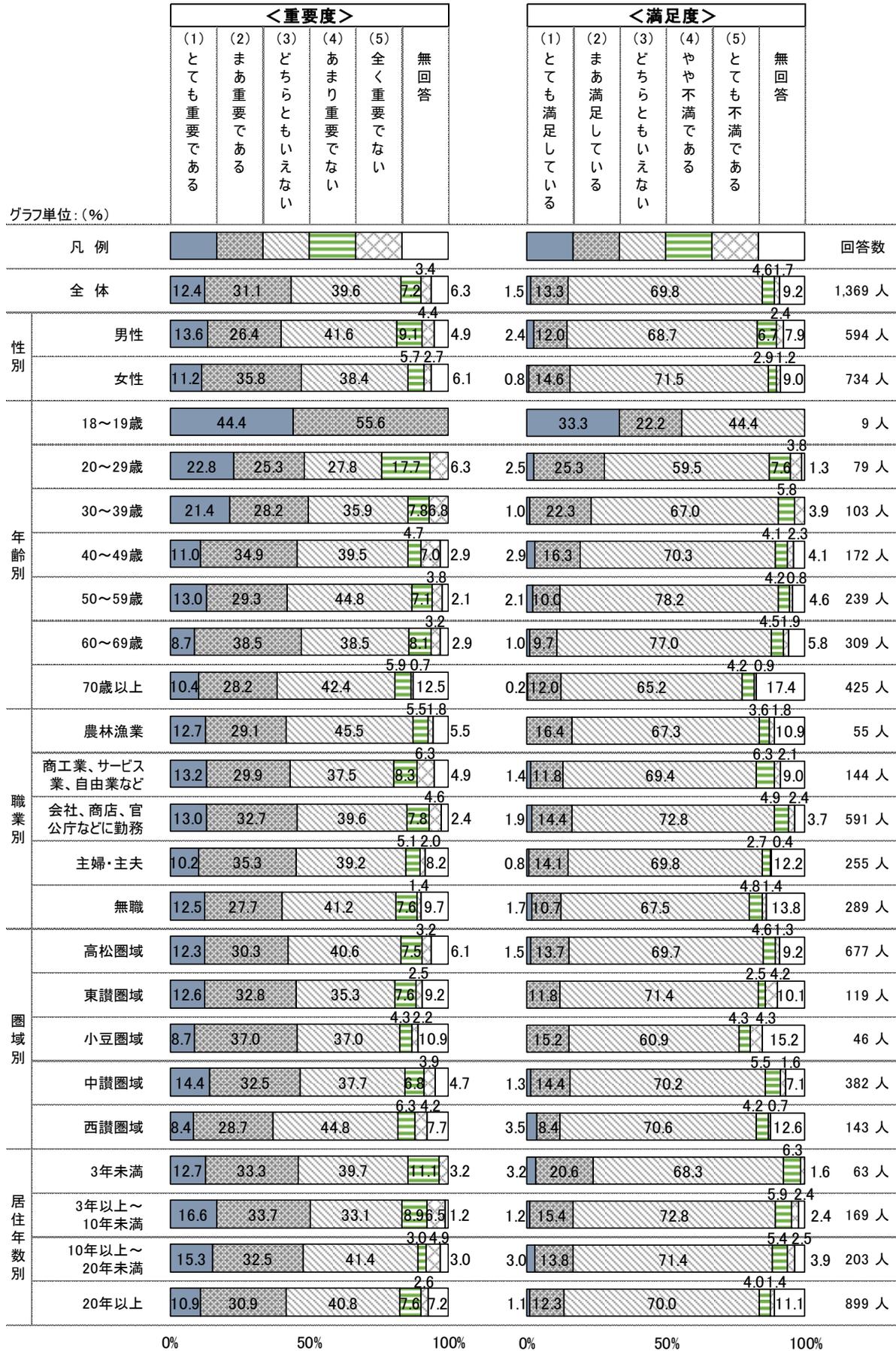
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(19) 【外国人材の受入れ支援・共生推進】



環境の保全の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』72.5%、『女性』78.1%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において88.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』78.5%が最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『中讃圏域』において77.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年以上～10年未満』において80.5%と最も高くなっている。

環境の保全の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』21.7%、『女性』23.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』6.9%、『女性』6.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

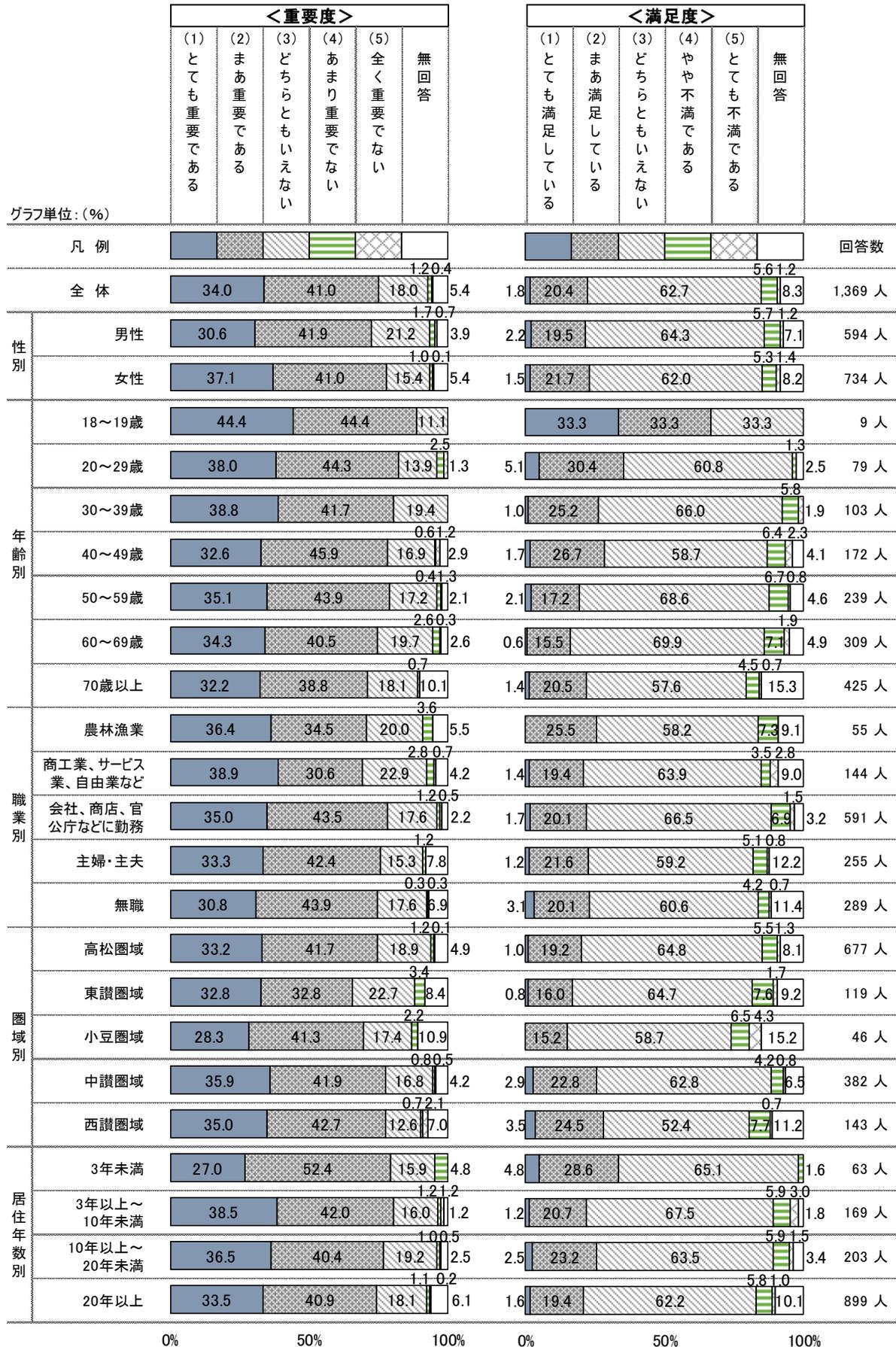
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(20) 【環境の保全】



みどり豊かな暮らしの創造の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』68.5%、『女性』71.9%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『18～19歳』において88.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『農林漁業』において76.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『中讃圏域』において73.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年以上～10年未満』において76.3%と最も高くなっている。

みどり豊かな暮らしの創造の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』27.6%、『女性』31.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』6.5%、『女性』3.8%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

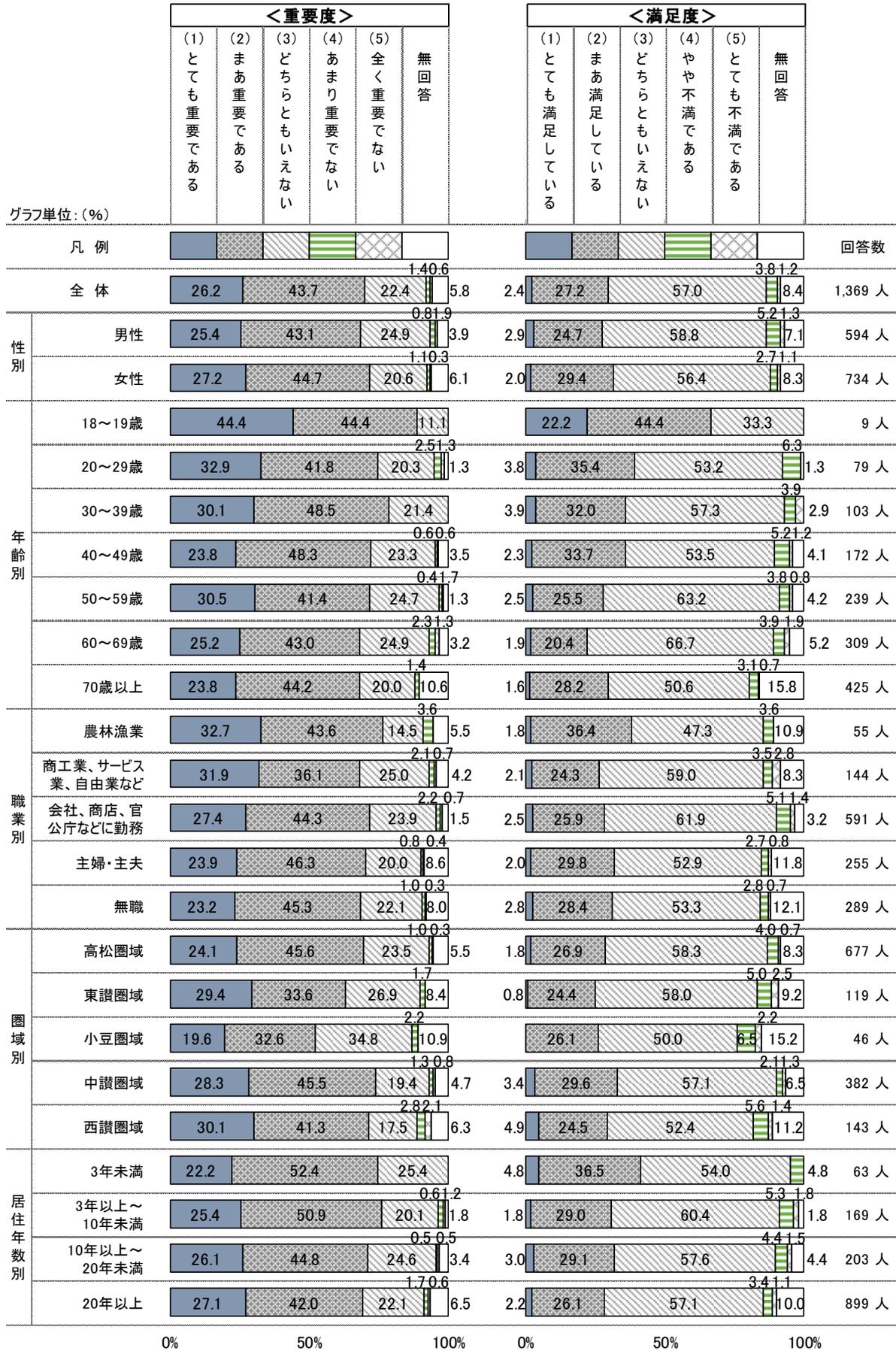
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(21) 【みどり豊かな暮らしの創造】



活力ある地域づくりの【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』71.1%、『女性』70.5%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『18～19歳』において88.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『農林漁業』において80.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『中讃圏域』において74.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年以上～10年未満』において73.3%と最も高くなっている。

活力ある地域づくりの【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』19.3%、『女性』21.0%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』9.8%、『女性』7.1%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

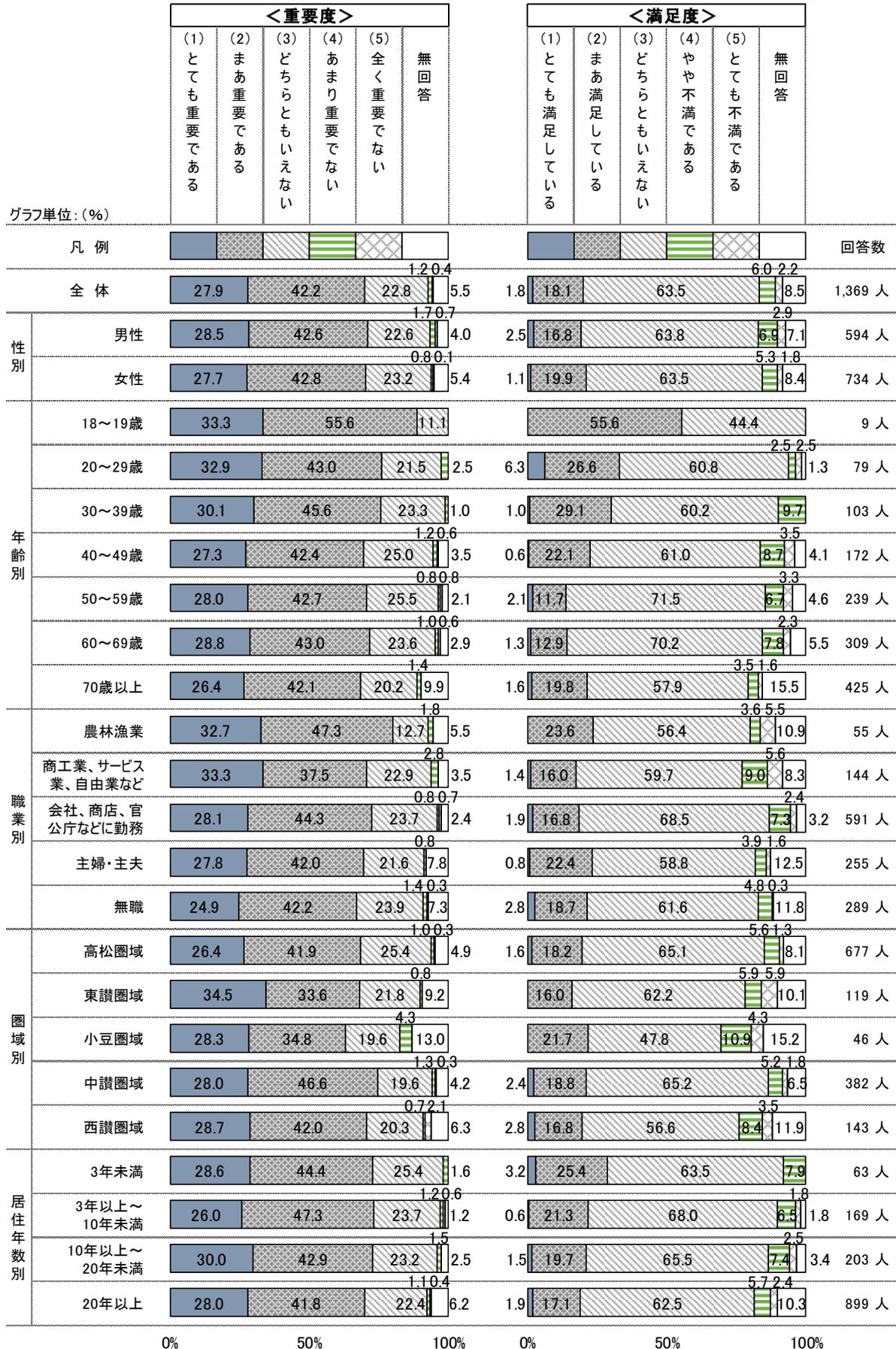
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(22) 【活力ある地域づくり】



デジタル化の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』64.5%、『女性』59.0%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において66.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『西讃圏域』において63.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『3年以上～10年未満』において69.2%と最も高くなっている。

デジタル化の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』14.6%、『女性』14.3%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』14.2%、『女性』6.3%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

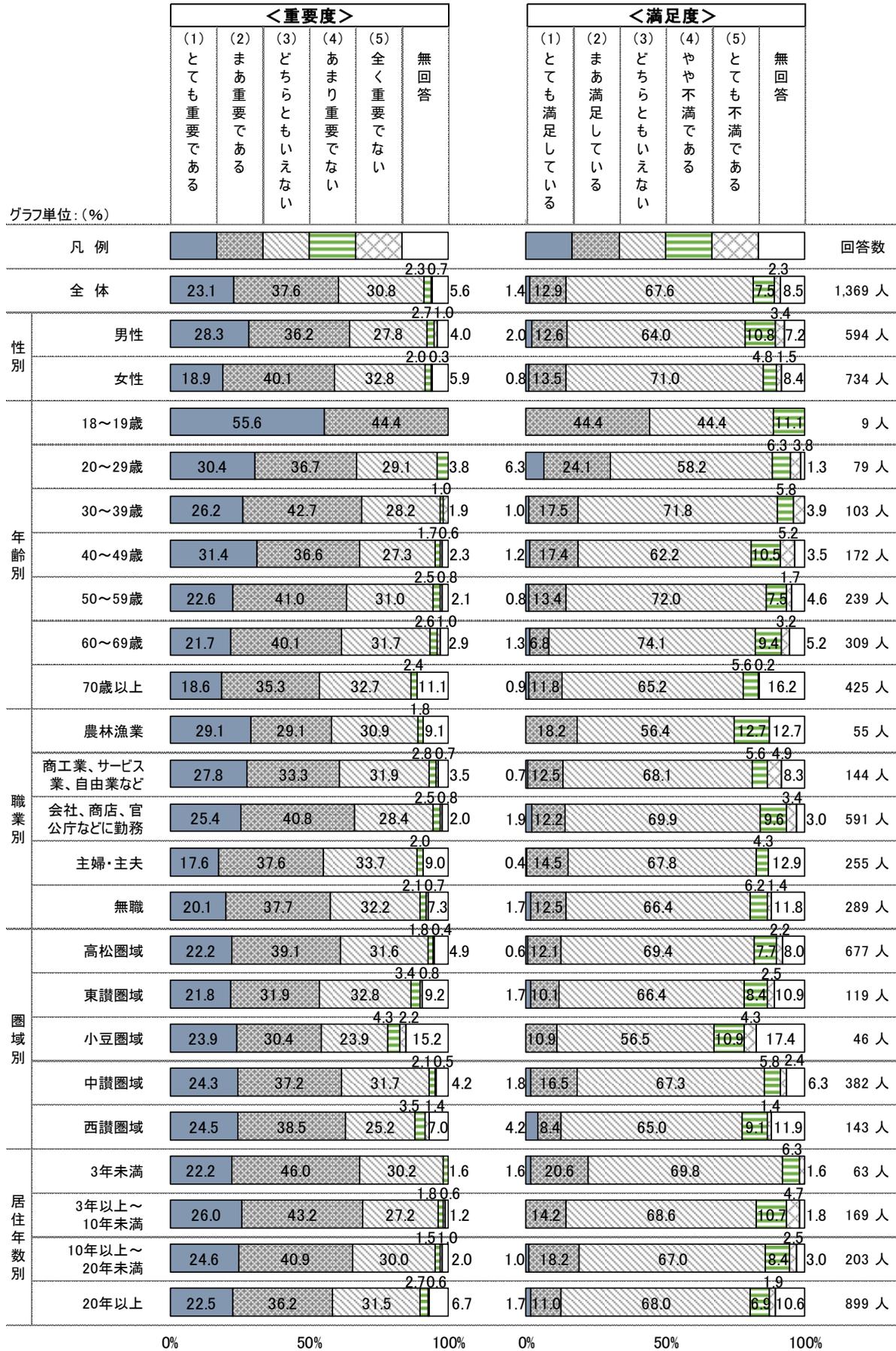
年齢別にみると、『60～69歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『60～69歳』では【不満である】の割合12.6%が【満足している】の割合8.1%を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『小豆圏域』では【不満である】の割合15.2%が【満足している】の割合10.9%を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』を除くすべての居住年数で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『3年以上～10年未満』では、【不満である】が【満足している】の割合を上回っている。

図表 6-(23) 【デジタル化の推進】



交流人口の回復・拡大の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』72.5%、『女性』75.3%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において88.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『主婦・主夫』において76.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『中讃圏域』において74.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年未満』において81.0%と最も高くなっている。

交流人口の回復・拡大の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』34.7%、『女性』31.5%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』12.8%、『女性』10.2%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

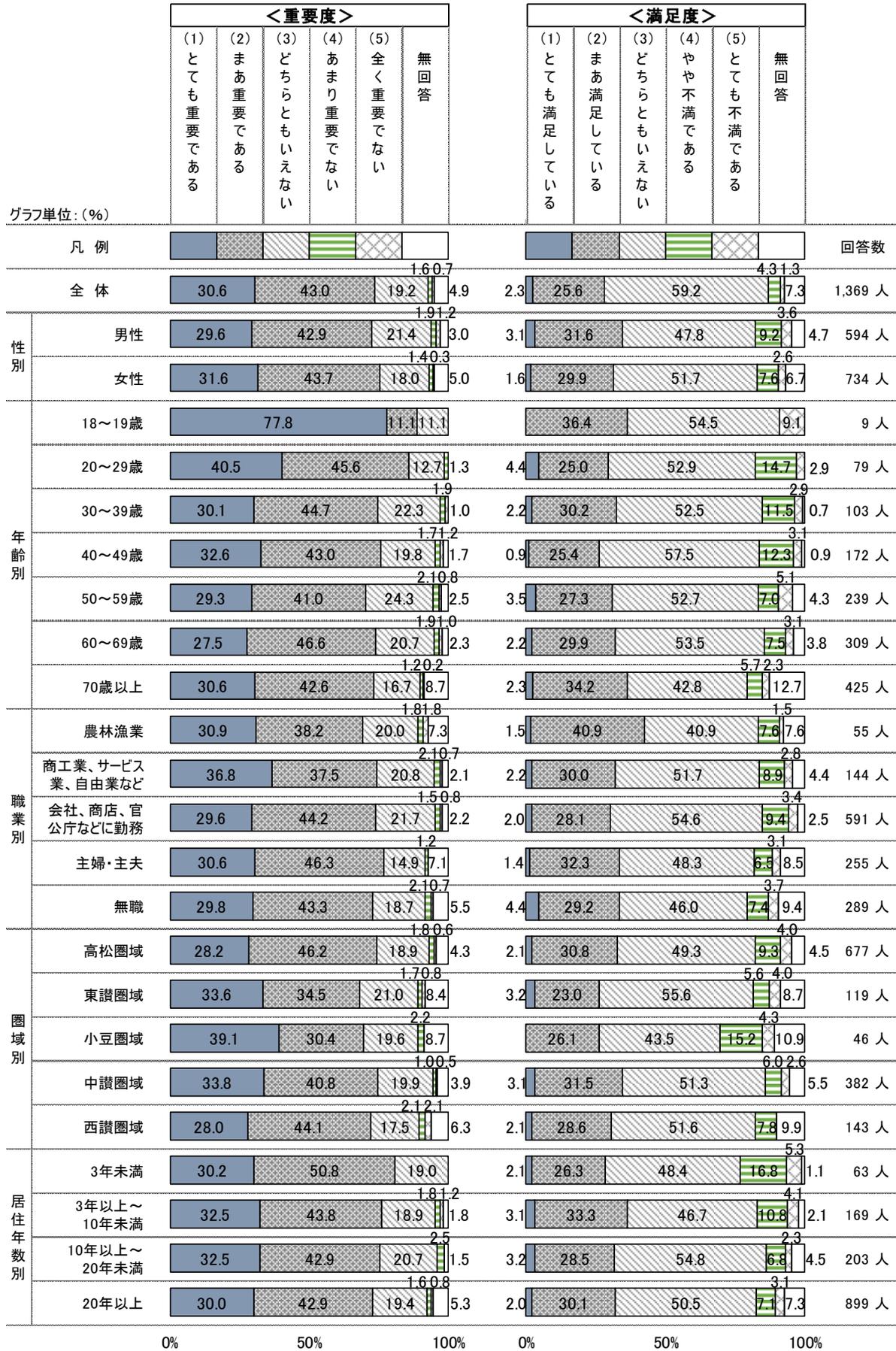
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(24) 【交流人口の回復・拡大】



文化芸術の振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』59.8%、『女性』68.8%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『18～19歳』において88.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『主婦・主夫』において71.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『中讃圏域』において69.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年未満』において69.9%と最も高くなっている。

文化芸術の振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』27.2%、『女性』27.6%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』4.2%、『女性』3.6%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

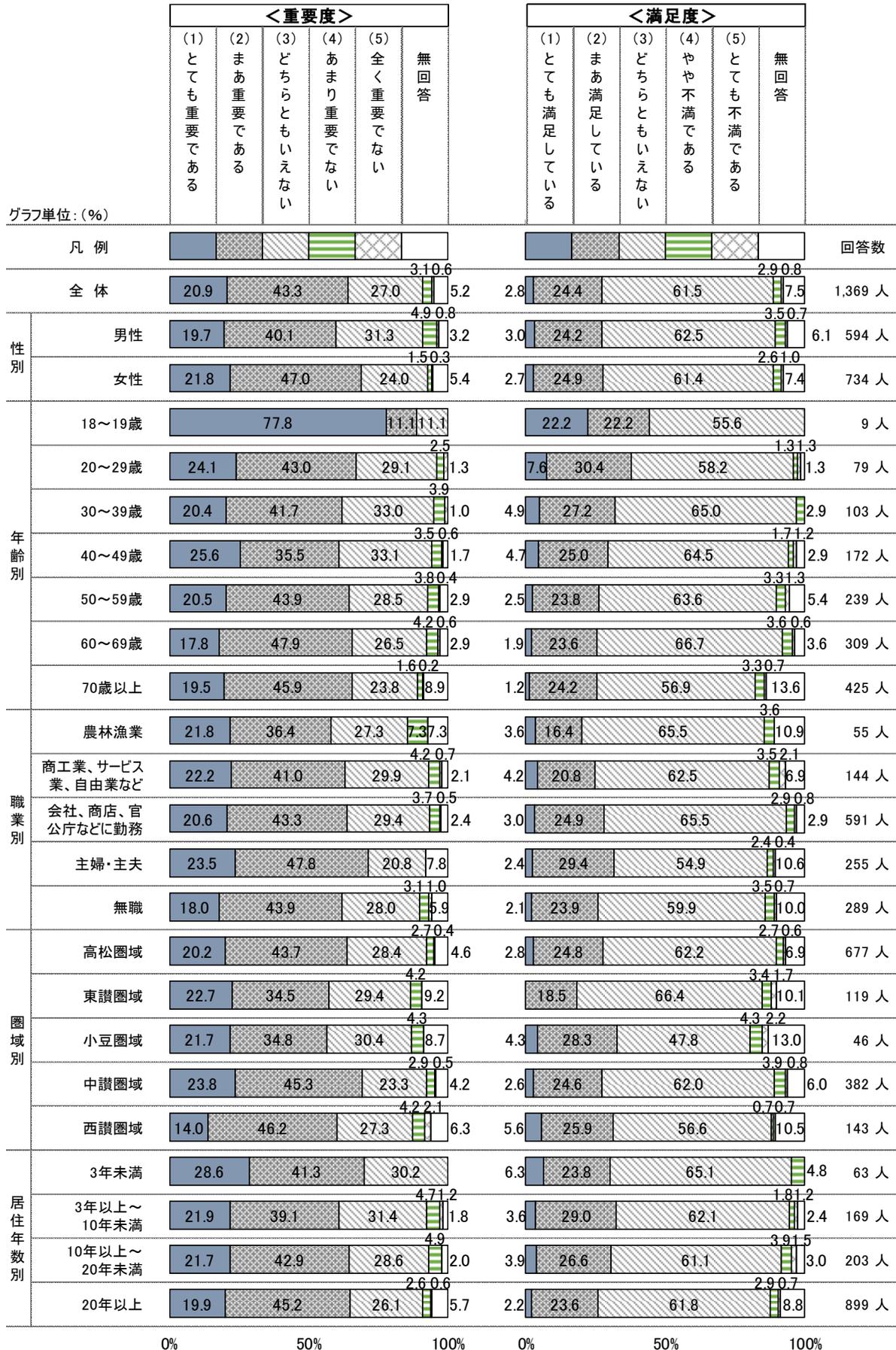
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(25) 【文化芸術の振興】



スポーツの振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』61.1%、『女性』65.3%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『18～19歳』において88.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『主婦・主夫』において70.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『中讃圏域』において68.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『10年以上～20年未満』において66.5%と最も高くなっている。

スポーツの振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』22.2%、『女性』23.1%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』7.6%、『女性』3.3%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

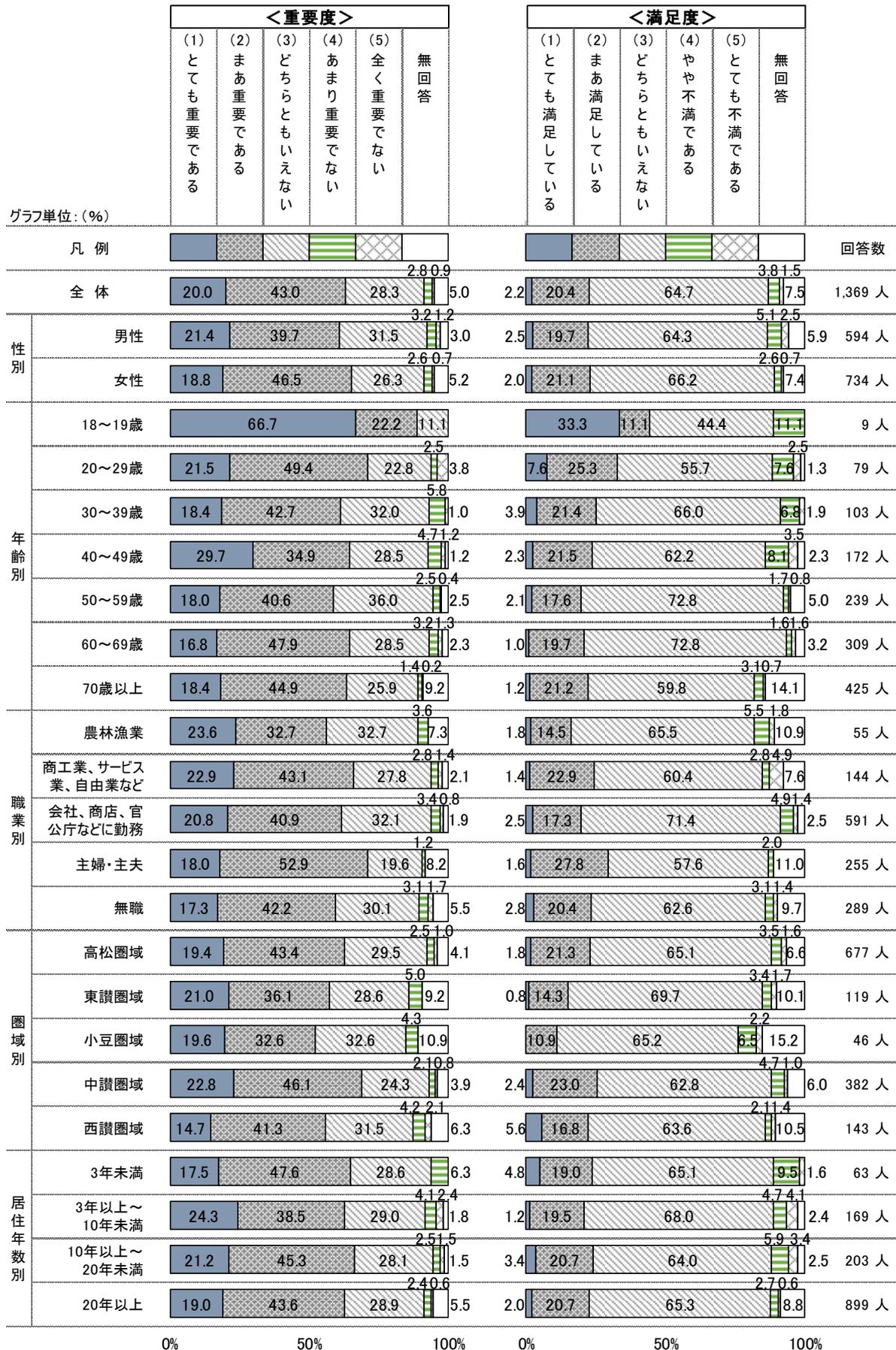
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(26) 【スポーツの振興】



**(7) 不満とと思っている具体的な内容**

付問 13～15 問 32～34 で＜満足度＞が「やや不満である」または「とても不満である」と答えた方は、よろしければ、不満とと思っている具体的な内容と、どのような改善が必要であるとお考えかをお答えください。

※記載いただいた内容は、『『人生 100 年時代のフロンティア県・香川』実現計画』で定めた施策体系（26 分野）に沿った形に整理し、要約・抜粋した意見を記載しています。

**【1. 子育て支援社会の実現】**（66 件中意見を抜粋）

昔のような地域のコミュニティがほぼ消滅していることが全ての根源。子どもの虐待も老人の孤独死も空き家問題も犯罪の低年齢化も振り込め詐欺も、全て昔のようなコミュニティが無くなったためである。いくら予算を投じてこの部分を何とかしないと駄目で、共同社会を復活させるべき。
平等で子育てしやすい社会にしてほしい。
子育てに必要な労力や経済的負担、時間に対してもっと支援があればいいと思う。教育費・給食費の無料化、オムツやミルクの支援、保育料の無料化など、経済的負担の軽減や病児保育、半日・1 日など短期、短時間の預かり保育、産休育休を充実させてほしい。また、支援や給付の手続きをもっと簡単にしてほしい。仕事を休まず、出かけず家にも支援を受けられるようになればいいと思う。
子どもを産み育てていても使える支援が少ない。県内で同じレベルで支援してほしい。
子どもたちが遊ぶ公園が無い。
少子化対策は必要だと思うが過保護すぎる。現金給付には反対である。例えば、母親が働きやすい環境の整備や不妊治療の枠を広げることなどに取り組むべきである。お金を出しても出生数が増えるとは思えない。
明石市をモデルケースとして参考にすればいいと思う。日本国内で成功している都市を手本に香川に足りていないところを補えばさまざまな問題も解決できるのではないかな。
働きながらの子育てができない。子どもが熱を出したり風邪を引いたりすると、結局仕事に支障が出る。また、仕事をしていると子どもの習い事の送迎ができない。幼稚園や保育園で、習い事をオプションで付けたり、送迎システムをもっと充実させてほしい。
保育園に入園できず、待ちの状態になっていることを聞く。育休に入ってしまうと片方の収入が無くなったり、減給してしまうので生活できるか不安。
何かを支援されていると感じられない。何を支援しているのか子育て世代に分かるようにしてもらえれば理解できるかもしれない。
支援施策をわかりやすく教えてほしい。
国の支援もそうだが、すべて自助。身体的負担も金銭的負担も増える一方。
職場での女性差別・経済的な問題から、結婚・出産を諦める若い方を増やさないと強い意志を持って、制度を作っていただきたい。
自治体によって取り組みに差があるのは良くない。
金銭の支給ではなく、子どもに行き届く内容に取り組んでほしいと思う。

**【2. 教育の充実】**（32 件中意見を抜粋）

共働き家庭への負担軽減。PTA 活動の負担軽減、預かりの充実化。
教員の質が不十分。
表立った教育ばかりに力を入れ、人間の心の教育がなっていない。
子どもたちが体験を通して主体的に学ぶ環境を整備してほしい。そのために教員の質・労働環境の改善、人員増を進めてほしい。
教員への負担押し付けではなく、退職後の人員を活用するなど、分担を細分化するべき。

教員不足と教員の負担が大きいと感じる。
給食費の全額無償化を目指しているようだが、減額してくれる程度でとても助かるので、その予算で他のことを計画してほしい。
人から教わるのではなく、自分で考えて行動できるような教え方へ。
学校はよく頑張ってくれているが地域での塾などの選択肢が少ない。少子化のため、やむを得ないところではあるが、人口の多い市町などに比べて環境が整っていない。
日本は教育にける金額が先進国の中で突出して少ない。国が積極財政に転換してもっとお金を出すべき。

**【3. 男女共同参画社会の実現】** (29 件中意見を抜粋)

男女平等は他の県に比べ遅れていると思う。
男女間の所得の格差、活躍の場の差。
女性の管理職比率は低い。
女性の割合だけを増やすのでは無く、質の向上を考えるべき。
男女平等という割に女性ばかりなにかと優遇されているように感じている。レディース Day とか最近特に多い。
子どもがいると活躍の推進は無理。保育の充実が足りない。
女性だけでなく男女同じという自然としての見方が大事だと思う。
女性議員の増加が必要。
女性はこうだ、男性はこうだという考えが未だにある。
誰しものが活躍したいと思っていない。活躍したい人で能力の高い人が活躍できる多様性が必要である。
女性に働けという割に全然働きやすい環境になっていない。
学童保育が 18 時までしかみてくれないことで迎えが難しいことが多く働けない。
若い人は男女共同参画社会について前向きだが、年配の人たちには全く理解や知識がない人が多いので、そういった人に対して理解が得られると実現しやすいと思う。

**【4. 健康長寿の推進】** (25 件中意見を抜粋)

一人暮らしの老人が増えている。地域のコミュニティ参加を増やせないか。
歯科検診の補助制度もあれば受診しやすい。
特に高齢者に対し健康づくりのための取り組みがない。
結局、車社会で都会ほどの便利さもないので、気軽に健康のためにジムに行ったりすることがない。車移動のために歩くことも少ない。
体力づくりができるところを充実させてほしい。
健康を維持するため高齢者の雇用対策が必要。

**【5. 地域福祉の推進】** (22 件中意見を抜粋)

車中心の道路のため歩行者の安全に不安がある。
障害者の就労支援が不十分である。就労先をもっと増やしたほうがいい。
駅がいまだに階段のみである。
高齢になって安心して住めるか不安。
地域の支え合い活動が必要。

**【6. 安心できる医療・介護の充実確保】** (79 件中意見を抜粋)

休日、時間外などの急病で受け入れが困難。
運転免許を返納しているので病院に行くための交通手段がない。
医者に対して不満や意見がしづらく医者の評価をするところがない。薬の出しすぎである。
人手不足で待ち時間が長くバタバタ感がある。
地域包括支援センターの役割が不十分だと思う。
地元で質の高い医療が受けられない。
島の医療をもっと考えてほしい。大きな建物ができても島民にはいいと思えない。
家の近くに病院がないし、バスがないので通えない。
介護を必要としている人は増えているが、介護する人は不足気味。
今住んでいる地域に病院（個人も含む）が少ない。病院難民である。
過疎地域での医師、看護職員の確保。
住んでいる地域の近くに十分な医療を受けられる医療機関や医師が少ない。
医療費をもう少し安くしてほしい。
夜中に子どものことで受診したくても診てもらえるところがなかった。受け入れてほしい。
介護サービスが以前に比べ高額で、必要になった時に利用できるか不安である。
離島の産婦人科医師が足りない。
障害者、高齢者が実質的に使えるサービスがない。難しいのは分かるが、求めるものが個々で違うのだから画一的な支援では使えない。
医療従事者および介護士の不足。
安全で質の高い医療の確保、医療従事者の人員確保・育成などが必要。
医療スタッフに無理なく働いてもらえば利用者へのサービスも向上するのではないか。
病院・育児・介護スタッフへの支援不足により人員確保が困難となり、待機児童や病院の閉院、介護待機などが見受けられる。互いに安心できる環境であってほしい。

**【7. 防災・減災社会の構築】** (44 件中意見を抜粋)

地震等の初期対応から長期間対応のおおよその道筋を立てられる体制の構築や周知をしているのか。
南海トラフ地震に関する対策について、現状報告、達成率の発表、今後の対策項目の具体的な説明を行ってほしい。
復興政策への取り組み。
企業、地域との連携強化。避難訓練や防災意識の啓発などが不十分！
大きな地震等災害時の対策について情報を充実させてほしい。
一級河川でさえ、中・上流部の護岸が荒れ放題である。
耐震補強の遅れ。啓発の推進。
各家庭に住んでいる地域の防災・減災情報を提供してほしい。
防災について、ハザードマップの作成以外、県や自治体が何をしているのか知らないし、聞いたことがない。
職場・教育機関、在宅の方を含んでの避難訓練が必要。
地震発生時に家屋倒壊などで避難路が確保できるのか不安。
何かを強く発信しているとは思えない。
地震・風水害の時の避難場所がわからない。避難場所の水・食料品の確保をしているのか。
耐震診断の補助制度が周知されていない。

河川の護岸工事（かさ上げ）をしてほしい。集落より道路が高いため、川が氾濫した場合は道路で堰き止められて池のような状態になり危険。毎年台風が来るたびに避難等をしている。
防災意識の向上に関心が薄いと思われる。
川の堤防の整備が不十分。
津波防止のための堤防強化。
消防団等、街ぐるみでのコミュニティーによる助け合いを強化していただきたい。

**【8. 安心して暮らせる水循環社会の確立】**（20件中意見を抜粋）

高松砂漠（渇水）の後、水不足が改善されたのかどうか分からない。改善内容を示してほしい。
毎年水不足といわれており根本的な対策・将来設計を示し実行すべき。
水源ダムに水が十分溜まってほしい。
水道料金が高い。
水道管の古いところがある。

**【9. 安全で安心できる暮らしの形成】**（40件中意見を抜粋）

犯罪が増加し、見知らぬ訪問者を疑ってしまう。
夜間の暴走行為が絶えない。騒音がひどい。
車、自転車、徒歩全てにおいて、ルールを守らない人が多すぎるので、外に出ると危険だらけ。子どもより大人の教育が必要。きちんとルールを守る、知識をつけることが必要。
交通違反をしている人が多い。道路は良い所が多いが危険に感じる運転が多い。
交通マナーが悪すぎる。

**【10. 定住人口の拡大】**（78件中意見を抜粋）

若者が働く職場がないので若者が流出している。
若者が増加するような社会にしてほしい。もっと移住者増加が望ましい。
大卒者が地元に戻って職に就こうと思っても場がなく困っている。
定住人口を拡大するような施策を他県より行っているようには感じない。
人口減少もあり、しかたないと思う。
人口減に対してもっと重点的に対策をするべき。
人口減少が不満であるが、子どもに家に帰ることについて無理を言いたくない。
東京一点集中の見直し。
若者たちが定住してもまともな就職先がないのを改善する動きがない。
移住したい魅力がない。地域活動、子ども会活動が乏しい。
移住の促進や若者の定住促進の活動が少ないのではないかな。
どのような活動をしているか不透明。若者が増えたという実感もない。
主に過疎地域の若者の定住を重視すべき。
東京からの移住促進。
若者が減っている。香川の魅力を上げれば移住者も増えると思う。
各地区での働き場所の確保、魅力アップ。
大きな商業施設がない。移住の支援金が少ない。働き口が少ない。
消滅可能性都市への対策。

**【11. 魅力ある大学づくり】** (46 件中意見を抜粋)

大学の数が少なく、学べる内容も少ないので学生の学びの選択肢が制限されてしまう。大学を増やす、学部・学科を増やすなどの対策を希望する。
県内大学の個々の魅力が伝わってこない。他県の大学へ進学しがちのような気がする。
特色ある教育の実現（学科など）。
大学が地域に貢献しているとは思えない。それなら必要ない。
地元の大学の数が少ない、地元の大学の良さのPRが足りない。
香川にある良い素材や食品などをもっと県外に広める活動を大学でも積極的に取り組んでほしい。それが大学の魅力にもつながると思う。
私大、国公立大学も県の中央市へ誘致すべきである。
国内で自慢できる分野がほしい。
地域との交流を深めてほしい。
優秀な人は県外の有名大学等へ流出するのは致し方ないが、地元企業が積極的に大学と連携し人材育成することで地元企業への就業率を高めることが必要ではないか。

**【12. 人権尊重社会の実現】** (17 件中意見を抜粋)

同和問題ばかり聞いても仕方ない。改善できる問題でしょうか。ネット社会に問題がある。もっと厳しくすべき。
今の若い人たちは、こんな問題さえ気にしておらず、高齢者の意識改革の方が大事だと思う。
何が人権侵害なのか明確でない。人に人権侵害をしたくないし自分にされたくない。

**【13. 青少年の育成と県民の社会参画の推進】** (8 件中意見を抜粋)

若い世代の非行、特に深夜徘徊や薬物乱用について抜本的な対策が必要。
一部でしか浸透しておらず意味がない。

**【14. 商工・サービス業の振興】** (25 件中意見を抜粋)

企業誘致が不十分である。近年、首都圏の企業の誘致に成功しているが、若者の大都市圏への流出に歯止めをかけるためにも、より一層、企業誘致に努める必要がある。
デジタル化とその人材の育成。
雇用の安定に向け、大企業の誘致が必要である。
大企業には真似できない地域の強みを生かすことができる中小事業者は、資本力が無いため、できることが限られている。中小事業者へのサポートが少ないと思うので、サポートを増やしたり、官民一体となった取り組みを増やしてほしい。
大規模な商業施設がない。働き口が少ない。
人手不足への対応。

**【15. 交通ネットワークの整備】** (113 件中意見を抜粋)

公共交通機関の利便性の低下。
地域に交通手段はない。
車に乗る人はよいが、免許を返納した人等は外出するのに移動手段がない人が多い。循環バス等を充実させてほしい。
現時点では自家用車しか交通手段がないので将来的に不安である。
過疎地域の高齢者の移動手段が限られており、無料タクシーチケットを配布するなど改善が必要。

県立高校行きの路線バスが減便や経路変更で通学が不便になっているので、見直しをお願いしたい。
地区によっては、他の地区に比べて道路整備が非常に遅れている。
新しい道路を造るより、今ある道路が子どもや高齢者に安全なのか再チェックしてほしい。
人口減少による交通ネットワークの縮小。
車に乗らなくても移動が可能な体制ができていない。
高松空港からの国内路線の拡大。北海道、名古屋、東北など。公共バス路線の充実、運行地域や本数の増加。民間バスだけでは無理である。高齢化社会で必要。
高齢者の免許返納後の交通手段の確保。
高齢者の通院や買い物に利用できるような乗合バスなどを増やしてほしい。
人が減るのにこれ以上道路が必要か。高速道路を地域住民が安く使えれば渋滞解消できるのではないか。
高齢者にはバスは使いにくい。広告の車体ではなく、簡略な地図と行き先が分かるように全国に先駆けて工夫してほしい。

**【16. 農林水産業の振興】** (64 件中意見を抜粋)

一次産業就業者が生活できるようにしてほしい。
若い力を集結できる施策をするべきで、後継者問題を真剣に考えてほしい。
農林水産業に携わる若い人を支援してほしい。
農業の担い手不足、天候によって左右される農作物の量。
漁業の担い手がいなくなっている。海の環境が悪くなり、魚や海苔がとれなくなっている。森林の保全を求める。
今、農業に取り組んでいるが、10年後、20年後の農業を行う人材は何人いるのか心配。いくら働いても赤字というのではなく、農地を守っていくために30年～50年後も農業経営を続けられるよう支援して欲しい。
農業・漁業の魅力の発信不足。
耕作放棄田畑や里山の放置による地域環境の悪化。
少子高齢化でますます担い手不足。資金援助が必要。
後継者、担い手不足、JAと協力して新しい人材の開拓、発掘。
儲からないから第一次産業が廃れる。価値観の勉強をし直すべき。
気候変動に左右されない安定した生産、供給体制づくり。魅力ある農業のPR推進。
農林水産業への担い手確保、育成が不足している。
重労働なので従事したがない。
山や田畑が荒れている。
第一次産業の人手不足の解消に努める。
農作物価格の低迷。基盤の劣化。
農地の宅地転用が進んでいる。後継者が減少している。魅力がない。
農林水産業への関心を生み出す活動、雇用の安定化。
円安の昨今、県内産が充実していればさほど問題ないはず。
県内の食料自給率100%を目標にすること。
生活圏で取り組み効果が見えない。

**【17. 県産品の振興】**（8件中意見を抜粋）

まとめて県産品を扱っている場所が少ないので増やしてもよい。
東京でアンテナショップがどこにあるのか香川県民にも知らせてほしい。東京に住んでいてもどこにあったのか未だに分からない。もったいない。
バリエーションがとにかく少ない。あるようで、ない。お土産はいつもうどんになる。
県内産のプロモーション活動。

**【18. 雇用対策の推進】**（43件中意見を抜粋）

子育て中の人々の勤務状況についてもっと柔軟に対応してほしい（時短、早退への理解）。
若者の正社員化及び教育などが必要。
土・日仕事をしている職業では、今の若い人を中心に働き手がいない。募集してもエントリーされない。このままでは土・日休みの企業だけしか生き残れない。
人材の不足。
子どもがいると働き口が少ない。
非正規雇用をなくす。
離職率の多さ。雇用側にも研修等が必要な時代。
若い人材が少なく働き方が大変になったと感じる。
地元で働こうにも、選択肢が少なすぎる。

**【19. 外国人材の受入れ支援・共生推進】**（37件中意見を抜粋）

コミュニケーションがとりにくいと思う。
不法滞在者をなくす。
外国人材についてもっと研究・勉強することが人口減少の歯止めになると思います。
色々教えて継承、定住してほしいのに数年でいなくなるのが残念。
県が活動している支援策などが見えない。

**【20. 環境の保全】**（20件中意見を抜粋）

水・山等の整備。
山間部や水面の太陽光発電は環境破壊行為である。太陽光発電は建築物などの人工物に施工されるべきである。太陽光パネルの処分方法や、100年後の姿を検討するべき。
生活をしていて推進されていると感じる変化が分からないから。
電動化に気を取られているが、いずれバッテリーの廃棄が社会問題になると思う。

**【21. みどり豊かな暮らしの創造】**（14件中意見を抜粋）

重要な項目と考えるが具体的な成果が見えてこない。活動内容・成果をもっとPRすべきと考える。
働いている人も参加できるよう企業と連携して取り組んでほしい。
放置された木々が増加している。整備には費用がかかる。
子供が遊べる緑豊かな公園がないので、作れないか。

**【22. 活力ある地域づくり】** (19 件中意見を抜粋)

幼、小、中学校の合併や、地方の過疎化の進展など、改善は難しいと思われる。
バス停までの距離が家から遠すぎてバスの利用が高齢者にはものすごく大変。定額タクシーみたいなものがないと高齢者は移動手段がない。そのため、子どもや高齢者が集まることができない。そういう場があれば地域みんなで子育てに協力してもらえりし、高齢者も元気でいられるし、働きながら若い人も住める町になると思う。
地域集落に活力がない。集会でも特に話すことがなく、どうすればいいかもわからない。
各分野の施策においても、そこに住む人（定住者）が必要である。人口減少に伴い、その確保が根本的なものであり、人が少ないのにそこに投資してもリターンがあるのか、見極めないといけないと思う。

**【23. デジタル化の推進】** (43 件中意見を抜粋)

DX 推進化の方向性、達成度が明確に示されていない。
デジタル化によって取り残される人がいる。
マイナンバーなど不要である。
デジタル化弱者への支援。
デジタル化を進める必要はあるが、高齢者も扱いやすいシステムをもっと考えたほうが良いと思う。

**【24. 交流人口の回復・拡大】** (31 件中意見を抜粋)

全項目に共通して、「香川県だから」「あれがあるから」というような強みのようなものを感じない。住民が魅力を紹介できないくらいぱっとしない県。「〇〇があるから香川県においてよ」と言えるくらいシンボルがほしい。
今のままで十分。県外のように、観光客のために地域住民が被害を被ることもある。
どのような観光資源があるかわからない。
観光、文化、スポーツはきれい事。日々の仕事を一流にすること。

**【25. 文化芸術の振興】** (26 件中意見を抜粋)

「瀬戸芸」を大事にするより、地元で老人達の芸術活動の後押しをしてほしい。生き甲斐を取り上げないでほしい。年1～2回の展示場所の閉鎖など耳にしたことがある。
文化施設の老朽化がひどく、他県の人に恥ずかしい。
文化芸術を教える人が少ないのではないか。そのような体験をどこでしているのか知らない。文化のことは小・中学校を回ってぜひ教えてあげてほしい。
日本自体がもうすでに貴重な文化を失っている。手仕事で作っていた昔からのものなどはどんどん失われて、見向きもされないのが現状だと思う。
もっともっと香川の歴史・文化を深く掘り起こすべきである。

**【26. スポーツの振興】** (28 件中意見を抜粋)

競技力の前に体力の向上が必要だと思う。体育の授業の質をあげて、多くの子ができるを体験できるようにすれば人口も増えると思う。そして競技力の向上にもつながると思う。
県出身のプロ選手が少ないので、育成の強化が必要。
地域で気軽に参加できるスポーツイベントなどの開催をしてほしい。
幅広い年齢層、それぞれのステージで活躍できる競技、またはその競技環境の充実が必要である。

(8)「子育て費用の社会的支援」について

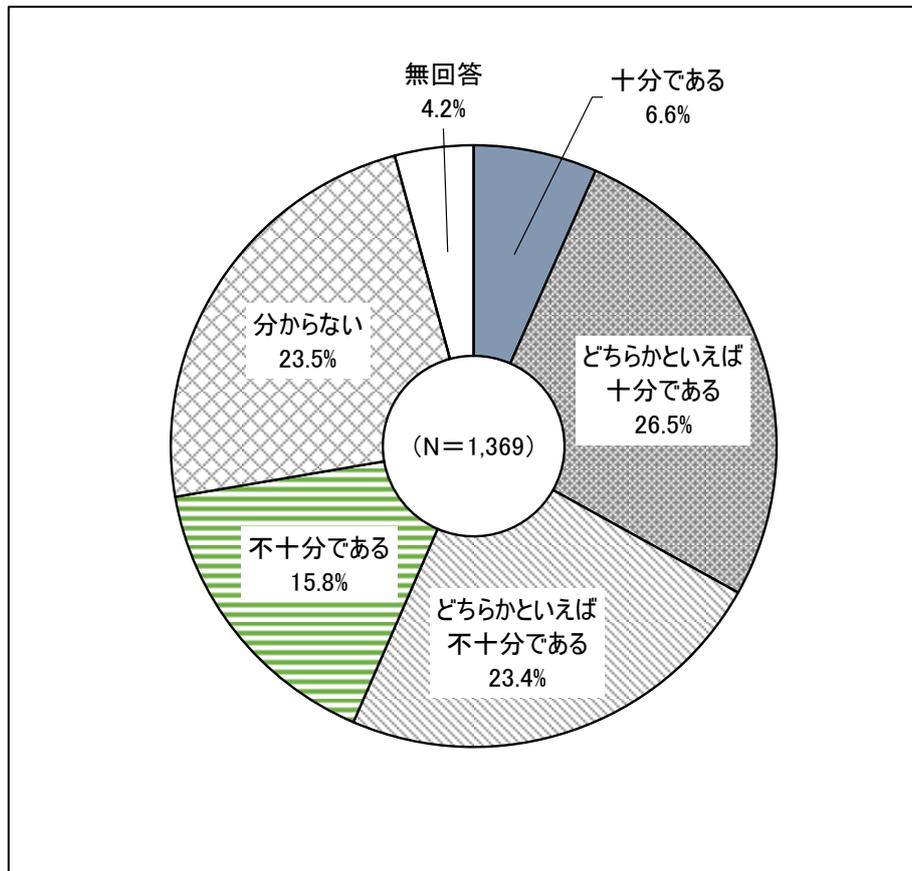
問35 あなたは、子育てにかかる費用について、社会的支援がなされていると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。 ※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 十分である	6.6%( 6.4%)
2 どちらかといえば十分である	26.5%(25.7%)
3 どちらかといえば不十分である	23.4%(23.6%)
4 不十分である	15.8%(17.3%)
5 分からない	23.5%(23.0%)
(無回答)	4.2%( 4.0%)

「子育て費用の社会的支援」について、「どちらかといえば十分である」26.5%が最も高く、次いで「分からない」23.5%、「どちらかといえば不十分である」23.4%、「不十分である」15.8%となっている。

図表 7-(1)-1 「子育て費用の社会的支援」について



「子育て費用の社会的支援」について、性別にみると、「十分である」と「どちらかといえば十分である」を合わせた【十分である】の割合は『男性』31.2%、『女性』36.0%で、「どちらかといえば不十分である」と「不十分」を合わせた【不十分である】の割合は『男性』44.8%『女性』36.1%となっており、男女とも【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、【不十分である】の割合は『50～59歳』、『70歳以上』を除くすべての年齢で【十分である】の割合を上回っており、『50～59歳』、『70歳以上』では【十分である】の割合が【不十分である】の割合を上回っている。

職業別にみると、【不十分である】の割合は『主婦・主夫』、『無職』を除くすべての職業で【十分である】の割合を上回っており、『主婦・主夫』、『無職』では【十分である】の割合が【不十分である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、【不十分である】の割合は『小豆圏域』を除くすべての圏域で【十分である】の割合を上回っており『小豆圏域』では【十分である】の割合が【不十分である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、【不十分である】の割合は『20年以上』を除くすべての居住年数で【十分である】の割合を上回っており『20年以上』では【十分である】の割合が【不十分である】の割合を上回っている。

図表 7-(1)-2 【「子育て費用の社会的支援」について】

		(1) 十分である	(2) どちらかといえば十分である	(3) どちらかといえば不十分である	(4) 不十分である	(5) 分からない	無回答	
凡例								回答数
全体		6.6	26.5	23.4	15.8	23.5	4.2	1,369人
性別	男性	5.9	25.3	26.1	18.7	23.1	1.0	594人
	女性	7.5	28.5	22.1	14.0	24.9	3.0	734人
年齢別	18～19歳	33.3	11.1	33.3	22.2			9人
	20～29歳	1.3	15.2	27.8	27.8	27.8		79人
	30～39歳	3.9	21.4	22.3	34.0	18.4		103人
	40～49歳	4.7	22.1	32.6	23.8	16.3	0.6	172人
	50～59歳	8.4	30.1	24.3	13.8	22.6	0.8	239人
	60～69歳	9.7	22.7	28.5	15.5	22.3	1.3	309人
	70歳以上	5.6	34.1	16.7	8.2	30.6	4.7	425人
職業別	農林漁業	5.5	23.6	14.5	20.0	34.5	1.8	55人
	商工業、サービス業、自由業など	4.9	29.9	27.1	13.2	22.9	2.1	144人
	会社、商店、官公庁などに勤務	6.6	23.2	28.8	21.5	19.1	0.8	591人
	主婦・主夫	8.2	34.1	16.5	9.8	28.6	2.7	255人
	無職	6.9	27.7	21.1	11.4	29.1	3.8	289人
圏域別	高松圏域	5.9	25.6	23.8	17.4	23.2	4.1	677人
	東讃圏域	10.1	22.7	25.2	11.8	26.9	3.4	119人
	小豆圏域	6.5	37.0	15.2	13.0	19.6	8.7	46人
	中讃圏域	5.5	28.3	22.8	14.7	24.3	4.5	382人
	西讃圏域	9.8	25.9	25.2	14.7	21.7	2.8	143人
	居住年数別	3年未満	23.8	30.2	22.2	23.8		
3年以上～10年未満	3.0	23.7	26.6	26.6	19.5	0.6	169人	
10年以上～20年未満	9.9	22.2	26.1	19.7	20.7	1.5	203人	
20年以上	7.2	28.9	22.6	12.9	25.8	2.6	899人	

グラフ単位：(%)

(9)「男女共同参画」について

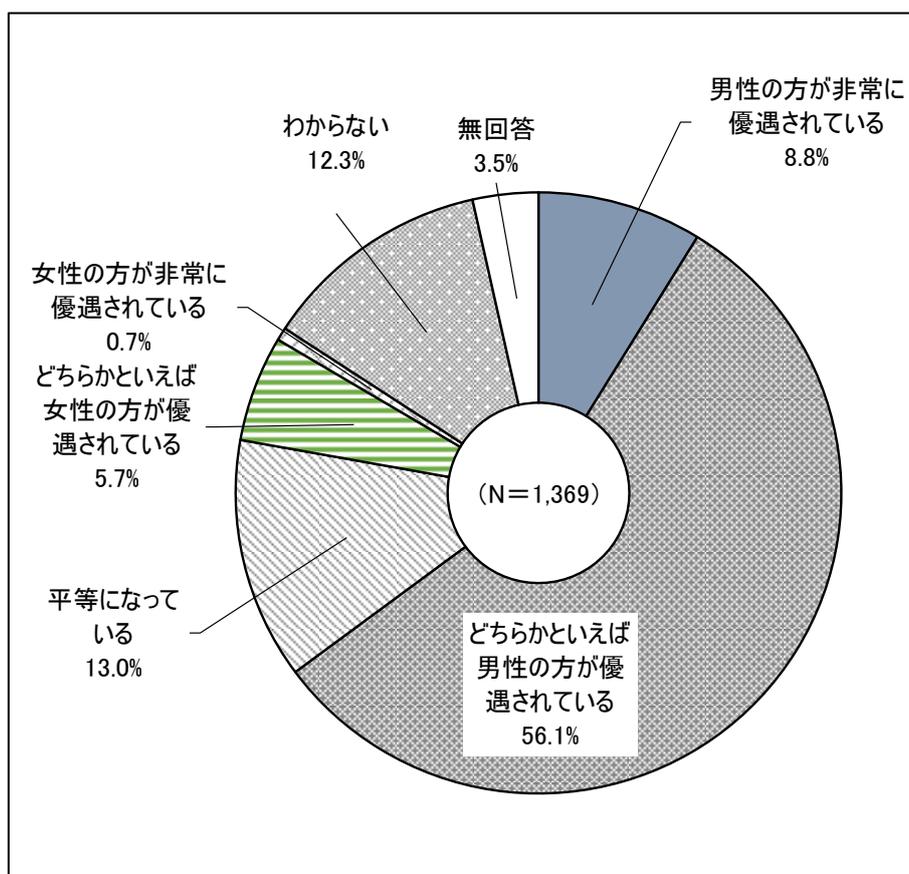
問36 あなたは、社会全体における男女の地位について、平等になっていると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。 ※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 男性の方が非常に優遇されている	8.8%( 9.4%)
2 どちらかといえば男性の方が優遇されている	56.1%(54.4%)
3 平等になっている	13.0%(13.5%)
4 どちらかといえば女性の方が優遇されている	5.7%( 5.9%)
5 女性の方が非常に優遇されている	0.7%( 0.8%)
6 分からない	12.3%(12.5%)
(無回答)	3.5%( 3.4%)

「男女共同参画」について、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」56.1%が最も高く、次いで「平等になっている」13.0%、「わからない」12.3%、「男性の方が非常に優遇されている」8.8%などとなっている。

図表 7-(2)-1 「男女共同参画」について



「男女共同参画」について、性別にみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた【男性の方が優遇されている】の割合は『男性』59.5%、『女性』72.0%で、「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が非常に優遇されている」を合わせた【女性の方が優遇されている】の割合は『男性』10.8%『女性』3.0%となっており、男女とも【男性の方が優遇されている】の割合が【女性の方が優遇されている】の割合を上回っている。

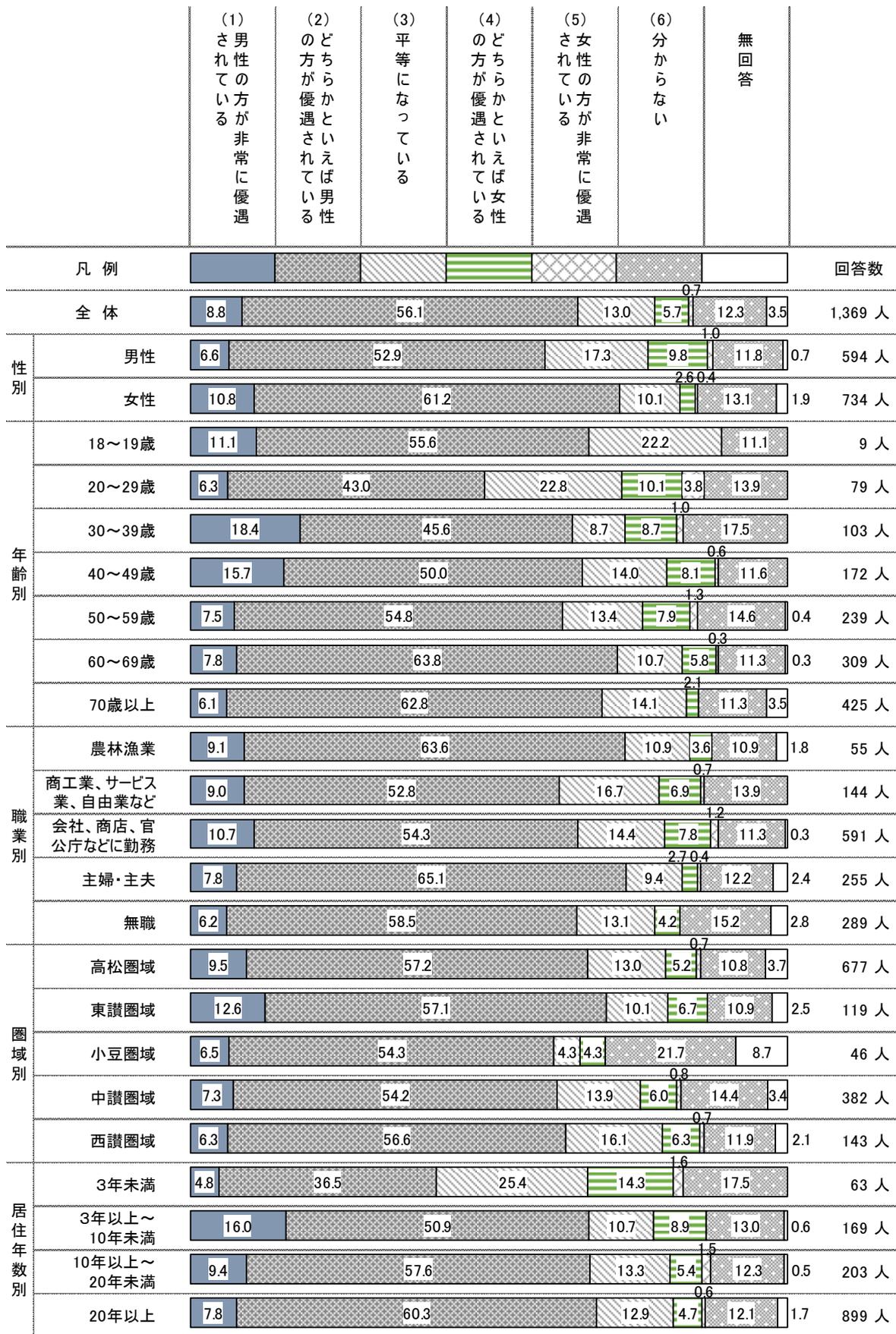
年齢別にみると、【男性の方が優遇されている】の割合は、いずれも【女性の方が優遇されている】の割合を上回っており、『60～69歳』で71.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【男性の方が優遇されている】の割合は、いずれも【女性の方が優遇されている】の割合を上回っており、『主婦・主夫』で72.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【男性の方が優遇されている】の割合は、いずれも【女性の方が優遇されている】の割合を上回っており、『東讚圏域』で69.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【男性の方が優遇されている】の割合は、いずれも【女性の方が優遇されている】の割合を上回っており、『20年以上』で68.1%と最も高くなっている。

図表 7-(2)-2 【「男女共同参画」について】



グラフ単位：(%)

(10)「配偶者等からの暴力」について

【事実婚や別居中の夫婦、生活の本拠を共にしている交際相手などを含む配偶者等からの暴力(身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、生活費を渡さないなど経済的暴力)を受けた経験のある方にお聞きします】

問37 あなたは、あなたの配偶者等から暴力を受けたとき、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答数の多い順に並び替え

1 身近な人に相談した	6.9%(7.0%)
2 どこ(だれ)にも相談しなかった	6.6%(6.4%)
3 公的な相談機関等に相談した	2.1%(2.3%)
4 民間の専門家や専門機関に相談した	1.0%(1.2%)
5 医療関係者に相談した	0.7%(0.7%)
6 学校関係者に相談した	0.7%(0.8%)
7 その他	1.2%(1.0%)
(無回答)	83.1%(83.0%)

「配偶者等からの暴力」について、「身近な人に相談した(家族、友人、知人、職場の同僚など)」6.9%が最も高く、次いで「どこ(だれ)にも相談しなかった」6.6%、「公的な相談機関等に相談した」2.1%、「民間の専門家や専門機関に相談した」1.0%などとなっている。

図表 7-(3)-1 「配偶者等からの暴力」について

		回答数
全体	100.0	1,369 人
(1) 身近な人に相談した	6.9	95 人
(2) どこ(だれ)にも相談しなかった	6.6	90 人
(3) 公的な相談機関等に相談した	2.1	29 人
(4) 民間の専門家や専門機関に相談した	1.0	14 人
(5) 医療関係者に相談した	0.7	10 人
(6) 学校関係者に相談した	0.7	9 人
(7) その他	1.2	16 人
無回答	83.1	1,137 人

グラフ単位:(%)

「配偶者等からの暴力」について、性別にみると、『男性』では「どこ（だれ）にも相談しなかった」8.4%が最も高く、『女性』では「身近な人に相談した」7.9%が最も高くなっている。これに『男性』では「身近な人に相談した」5.9%、『女性』では「どこ（だれ）にも相談しなかった」5.3%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『50～59歳』、『70歳以上』では「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高く、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』、『60～69歳』では「身近な人に相談した」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『無職』では「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』、『主婦・主夫』では「身近な人に相談した」が最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「身近な人に相談した」、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が同率の7.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『西讃圏域』を除くすべての圏域で「身近な人に相談した」が最も高く、『高松圏域』、『西讃圏域』では「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『10年以上～20年未満』では「身近な人に相談した」が最も高く、『3年以上～10年未満』、『20年以上』では「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高くなっている。

図表 7-(3)-2 【「配偶者等からの暴力」について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)		
		全体 (人)	身近な人に相談した	どこ(だれ)にも相談しなかった	公的な相談機関等に相談した	民間の専門家や専門機関に相談した	医療関係者に相談した	学校関係者に相談した	その他	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)										
全体		1,369	6.9	6.6	2.1	1.0	0.7	0.7	1.2	83.1
性別	男性	594	5.9	8.4	1.7	1.2	0.7	0.2	1.5	81.8
	女性	734	7.9	5.3	2.6	1.0	0.8	1.0	1.0	83.5
年齢別	18～19歳	9	-	11.1	-	-	-	-	-	88.9
	20～29歳	79	7.6	1.3	2.5	2.5	-	2.5	-	86.1
	30～39歳	103	9.7	5.8	4.9	3.9	1.9	1.9	1.9	77.7
	40～49歳	172	9.3	5.8	4.7	1.2	1.2	1.2	1.2	79.7
	50～59歳	239	5.9	7.1	2.5	0.8	0.8	-	0.4	84.1
	60～69歳	309	7.4	6.8	1.6	1.0	1.3	0.3	2.6	81.9
	70歳以上	425	5.9	8.0	0.7	0.2	-	0.2	0.7	84.2
職業別	農林漁業	55	1.8	10.9	-	1.8	-	-	-	85.5
	商工業、サービス業、自由業など	144	5.6	4.9	3.5	-	1.4	-	2.1	84.7
	会社、商店、官公庁などに勤務	591	7.3	7.3	2.7	1.7	1.0	0.8	1.7	81.0
	主婦・主夫	255	9.0	5.5	1.6	0.8	0.4	0.4	0.8	83.5
	無職	289	6.6	6.9	1.4	0.3	0.3	0.7	0.3	83.7
圏域別	高松圏域	677	5.3	6.4	1.8	0.6	0.3	0.4	1.2	85.2
	東讃圏域	119	10.1	6.7	0.8	0.8	1.7	-	3.4	78.2
	小豆圏域	46	15.2	2.2	4.3	2.2	-	-	-	76.1
	中讃圏域	382	7.9	7.1	2.4	1.8	1.6	1.0	1.0	81.4
	西讃圏域	143	6.3	7.7	3.5	0.7	-	0.7	-	83.9
居住年数別	3年未満	63	11.1	3.2	3.2	6.3	1.6	-	4.8	73.0
	3年以上～10年未満	169	6.5	8.3	4.7	1.2	0.6	0.6	1.2	79.3
	10年以上～20年未満	203	10.3	4.9	3.9	1.5	1.0	2.5	0.5	81.3
	20年以上	899	6.1	7.1	1.1	0.4	0.7	0.2	1.1	84.4

(11)「節水」について

問38 あなたは、普段の生活で節水をしていますか。次の中から1つだけ選んでください。

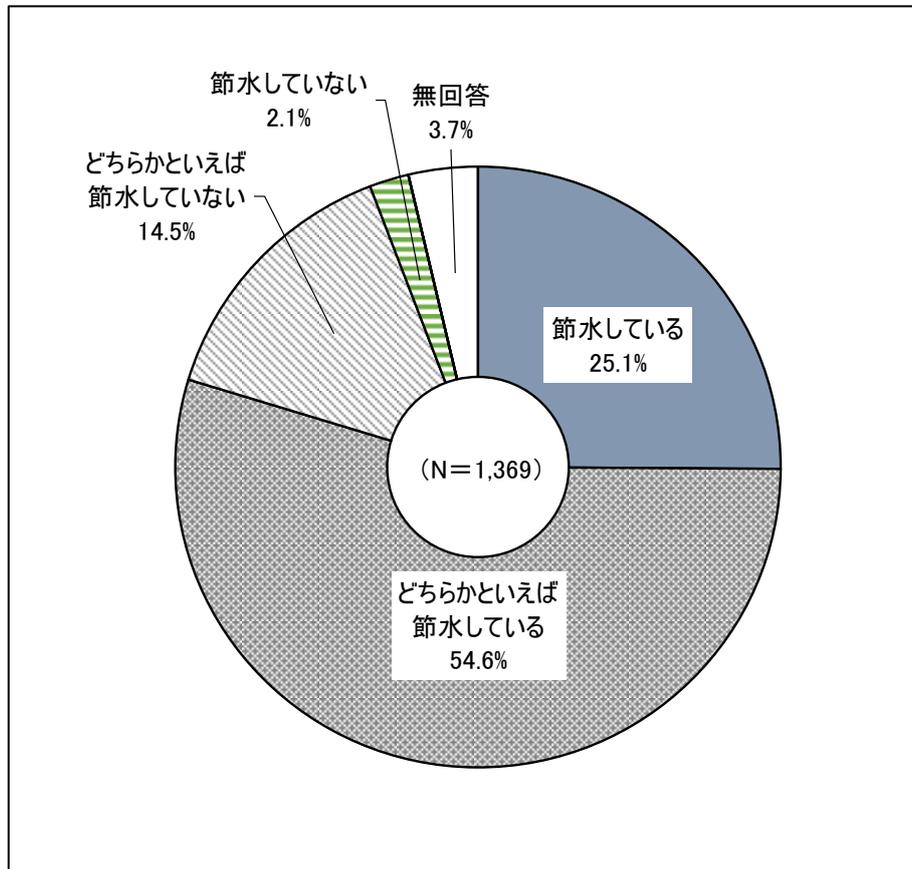
※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 節水している	25.1%(23.6%)
2 どちらかといえば節水している	54.6%(54.6%)
3 どちらかといえば節水していない	14.5%(15.4%)
4 節水していない	2.1%( 2.6%)
(無回答)	3.7%( 3.7%)

「節水」について、「どちらかといえば節水している」54.6%が最も高く、次いで「節水している」25.1%、「どちらかといえば節水していない」14.5%、「節水していない」2.1%などとなっている。

図表 7-(4)-1 「節水」について



「節水」について、性別にみると、「節水している」と「どちらかといえば節水している」を合わせた【節水している】の割合は『男性』80.1%、『女性』82.4%で、「どちらかといえば節水していない」と「節水していない」を合わせた【節水していない】の割合は『男性』18.7%『女性』15.4%となっており、男女とも【節水している】の割合が【節水していない】の割合を上回っている。

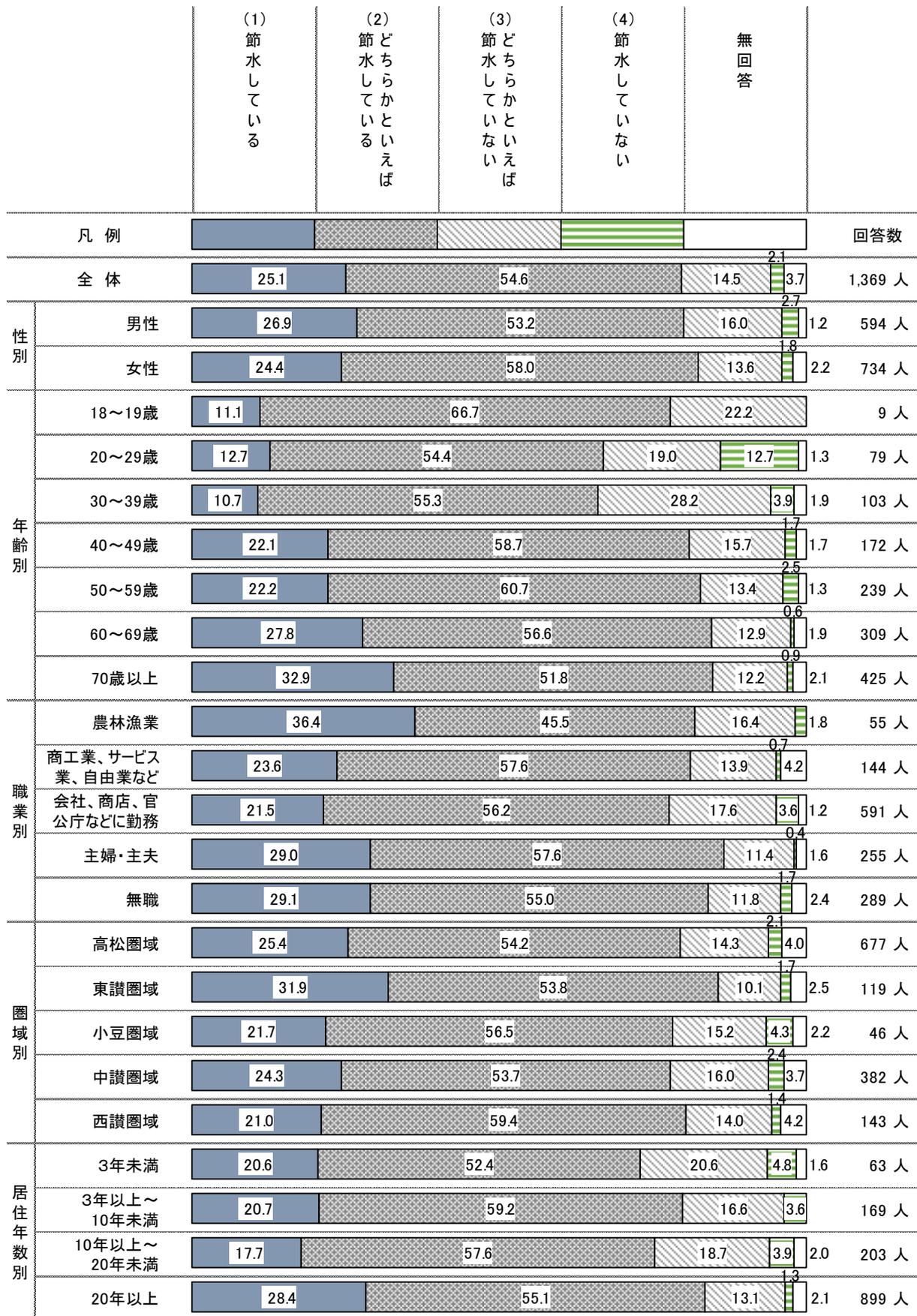
年齢別にみると、【節水している】の割合は、いずれも【節水していない】の割合を上回っており、『70歳以上』で84.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【節水している】の割合は、いずれも【節水していない】の割合を上回っており、『主婦・主夫』で86.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【節水している】の割合は、いずれも【節水していない】の割合を上回っており、『東讃圏域』で85.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【節水している】の割合は、いずれも【節水していない】の割合を上回っており、『20年以上』で83.5%と最も高くなっている。

図表 7-(4)-2 【「節水」について】



グラフ単位：(%)

(12)「運動・スポーツ」について

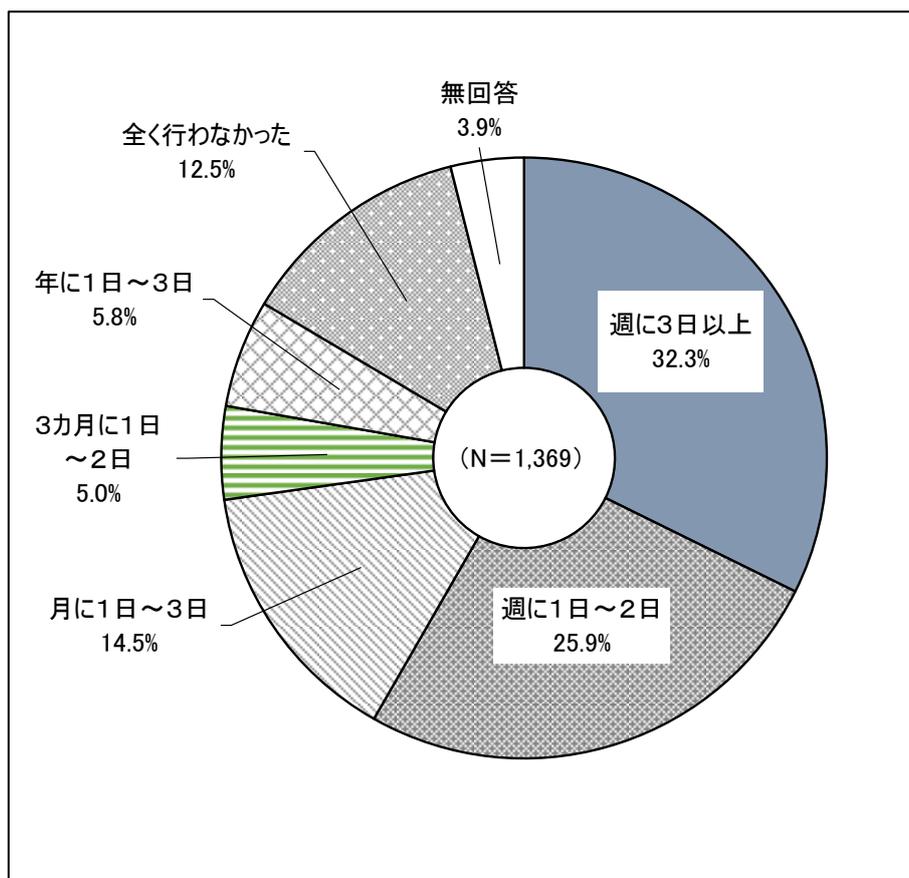
問39 過去1年間に、運動やスポーツ（ウォーキング（例：散歩・ぶらぶら歩き・一駅歩き）、階段昇降、軽い体操（例：ラジオ体操・職場体操・美容体操）、野外活動（例：登山・キャンプ・釣り）などを含む。）を行った日数はどのくらいありますか。次の中から1つだけ選んでください。  
 ※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 週に3日以上	32.3%(31.9%)
2 週に1日～2日	25.9%(26.4%)
3 月に1日～3日	14.5%(15.3%)
4 3カ月に1日～2日	5.0%( 5.2%)
5 年に1日～3日	5.8%( 5.8%)
6 全く行わなかった (無回答)	12.5%(11.6%) 3.9%( 3.8%)

「運動・スポーツ」について、「週に3日以上」32.3%が最も高く、次いで「週に1日～2日」25.9%、「月に1日～3日」14.5%、「全く行わなかった」12.5%などとなっている。

図表 7-(5)-1 「運動・スポーツ」について



「運動・スポーツ」について、性別にみると、男女とも「週に3日以上」が最も高く、『男性』35.5%、『女性』30.5%で、これに男女とも「週に1日～2日」が『男性』24.7%、『女性』28.1%と続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』を除くすべての年齢で「週に3日以上」が2～5割台と最も高く、『20～29歳』、『30～39歳』では「週に1日～2日」が最も高くなっている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』を除くすべての職業で「週に3日以上」が2～4割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「週に1日～2日」27.1%が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「週に3日以上」が2～3割台と最も高く、『東讃圏域』で35.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「週に1日～2日」、「月に1日～2日」が同率の28.6%と最も高く、『3年以上～10年未満』では「週に1日～2日」28.4%と最も高く、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では「週に3日以上」が最も高くなっている。

図表 7-(5)-2 【「運動・スポーツ」について】

		(1) 週に 3日 以上	(2) 週に 1日 ～ 2日	(3) 月に 1日 ～ 3日	(4) 3カ 月に 1日 ～ 2日	(5) 年に 1日 ～ 3日	(6) 全 く 行 わ な か っ た	無 回 答		
凡例									回答数	
全体		32.3	25.9	14.5	5.0	5.8	12.5	3.9	1,369人	
性別	男性	35.5	24.7	15.3	5.6	5.4	12.0	1.5	594人	
	女性	30.5	28.1	14.4	4.9	6.5	13.4	2.2	734人	
年齢別	18～19歳	55.6		22.2		22.2		9人		
	20～29歳	27.8	32.9	16.5	3.8	5.1	12.7	1.3	79人	
	30～39歳	21.4	33.0	20.4	7.8	6.8	8.7	1.9	103人	
	40～49歳	26.7	25.6	23.3	8.7	5.8	7.6	2.3	172人	
	50～59歳	28.0	23.0	15.5	9.6	7.5	15.1	1.3	239人	
	60～69歳	32.0	26.2	13.6	3.9	5.5	16.8	1.9	309人	
	70歳以上	41.6	26.6	10.1	1.9	5.6	12.0	2.1	425人	
職業別	農林漁業	25.5	23.6	16.4	5.5	9.1	18.2	1.8	55人	
	商工業、サービス業、自由業など	34.7	24.3	13.9	6.9	4.2	12.5	3.5	144人	
	会社、商店、官公庁などに勤務	26.9	27.1	16.8	7.3	8.1	12.5	1.4	591人	
	主婦・主夫	37.6	32.5	10.2	3.1	5.5	9.4	1.6	255人	
	無職	41.5	21.5	14.9	1.7	2.4	15.6	2.4	289人	
圏域別	高松圏域	34.3	26.7	14.3	4.0	5.5	11.2	4.0	677人	
	東讃圏域	35.3	21.0	10.9	5.0	5.9	18.5	3.4	119人	
	小豆圏域	32.6	23.9	8.7	4.3	8.7	17.4	4.3	46人	
	中讃圏域	28.8	26.2	17.0	5.8	6.3	12.6	3.4	382人	
	西讃圏域	29.4	25.9	14.0	8.4	5.6	11.9	4.9	143人	
居住年数別	3年未満	22.2	28.6	28.6	4.8	4.8	9.5	1.6	63人	
	3年以上～10年未満	27.8	28.4	16.0	8.3	6.5	13.0	169人		
	10年以上～20年未満	32.0	24.6	15.3	5.9	4.9	14.8	2.5	203人	
	20年以上	34.8	26.4	13.5	4.4	6.2	12.6	2.1	899人	

グラフ単位：(%)